

# 第 10 回

## 学生生活実態調査報告書



Tokyo University of Agriculture and Technology

令和 3 年度

東京農工大学

## まえがき

東京農工大学では平成 6 年度以来、3 年に 1 回、「学生生活実態調査」を実施し、学生の学業、課外活動、生活全般に亘るデータを収集し、教育内容・教育環境の整備や改善、および、大学運営に生かすための基礎資料としてきています。今回は 10 回目の調査になります。ちょうどコロナ禍で、遠隔で実施される授業がある、サークル活動を満足にできない、友人等とのコミュニケーションが取りづらい、など大変不自由な大学生活の中でご回答いただきました。このほど、本調査の集計結果がまとめ、分析結果と併せて報告書として取りまとめました。

本調査での回収率は 55.0%で、第 9 回調査の 69.4%に比べて低くなりました。これは、コロナ禍で、調査に回答いただくようお願いする機会が減ったことなどが理由であると思われます。そのような状況の中、調査の趣旨を理解し、積極的にアンケートに参加してくれた学生の皆様に感謝するとともに、調査の周知や回答数増加にご尽力いただいた教職員各位にもお礼申し上げます。

今回の調査では、本学への満足度が 92.9%、カリキュラムへの満足度が 87.7%と非常に高いのが特徴でした。また、授業外学習時間が週 6 時間以上であった回答者が 60.8%と前回調査の 48.9%から大幅に増加しました。これらはコロナに対応した遠隔あるいはハイブリッド講義が増えた影響のようです。一方で、図書館の利用や海外活動経験のある学生の割合はかなり低下しました。この他の項目の詳細の分析は本文をご参照ください。

学生の皆様からは、教室の Wifi やコンセントの増設、図書館の開館時間の延長や座席数増、電子ジャーナルの充実などのご要望を多くいただきました。この他にも本調査結果に集約された貴重なご意見、ご希望を、可能な限り大学運営に活かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、アンケート項目の策定や集計結果の分析等に関わっていただいた、学生生活実態調査ワーキンググループの委員および学務部の事務職員の皆様に感謝申し上げます。

理事(教育担当)・副学長 有江力

# 目 次

序 章 調査の概要	1
第 I 章 基本的事項	
1～4. 調査対象人数、回収率、生活形態	5
4. 生活形態	6
5～6. 留学生及びその経費区分	7
第 II 章 経済的状況	
7. 収入	8
8. 収入源	9
9. 支出	10
10. 支出項目	11
11. 授業料の主たる支払い者	12
12～13. アルバイト	13
14～15. 経済的困難学生とその解決策	15
第 III 章 住居	
16. 現在の住居・生活形態	17
17. 学生寮の満足度	18
18. 学生寮への入居希望	19
19. 学生寮への入居を希望しない理由	20
20. 国際交流会館への入居希望	21
21. 国際交流会館の満足度	22
22. 国際交流会館への入居を希望しない理由	22
第 IV 章 通学	
23. 主な通学手段・方法	23
24. 通学所要時間	24
第 V 章 学業、学習環境	
25. 本学への満足度	25
26. カリキュラムへの満足度	26
27. カリキュラムや授業への希望	27
28. 一週間の平均授業外学習時間	28
29. 授業時間外学習を行うのに必要な施設・設備や対策	30
30. 授業における疑問についての対処方法	31
31. 講義室、実験室への満足度	32
32. 講義室、実験室への改善希望	33
33. 実験・実習における危険体験	34
34. 図書館の利用頻度	35

35. 図書館の主な用途	36
36. 図書館への満足度	38
37. 図書館への不満	39
38. 在学中の海外活動経験	40
39. 海外活動の内容	41
40. 海外での活動希望の有無	42
41. 希望する海外活動の内容	44
42. 海外活動を妨げる要因	45
<b>第VI章 課外活動</b>	
43. サークル加入の有無	46
44. 加入しているサークル団体の種類	47
45. 一週間の平均活動時間	48
46. 課外活動の不満の有無	49
47. 課外活動の不満の内容	50
48. 課外活動施設等の満足度	51
49. 課外活動施設等の不満点	52
<b>第VII章 ボランティア活動</b>	
50. ボランティア経験の有無	53
51. ボランティア活動の内容	54
52. ボランティア活動の頻度	55
53. ボランティア活動への支援希望の有無	56
54. ボランティア活動への支援希望内容	57
55. ボランティア参加希望の有無	58
56. ボランティア参加を希望しない理由	59
<b>第VIII章 学生生活</b>	
57. 学生生活の悩み	60
58. 対人関係の悩みの相手	63
59. 大学生活で困ったことの有無	66
60. 相談相手	67
61. 教員との対話	69
62. 学生同士の交流	70
63. 学生相談室の認知度	71
64. 保健管理センター カウンセラーの認知度	72
65. 飲み会・コンパにおける経験	73
66. ハラスメント相談室の認知度	75
67. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験	76
68. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手	77
69. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験	79
70. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手	80
71. 喫煙の有無	82
72. キャンパス内マナーの満足度	83
73. キャンパス内マナーで不満に思う点	84

74.	生協食堂の利用状況	85
75.	140周年記念会館エリプス（小金井）の利用状況	85
76.	喫茶室オリザ（府中）の利用状況	85
77.	生協購買部（売店）の利用状況	85
78.	食堂・エリプス・喫茶室の満足度	88
79.	食堂・エリプス・喫茶室で不満に思う点	88
80.	生協購買部（売店）の満足度	88
81.	生協購買部（売店）で不満に思う点	88
82.	キャンパスの施設・設備環境改善希望（講義室・実験室を除く）	91
83.	本年11月に行われる大学祭への参加	92
84.	大学祭で改善を望むこと	93
85.	生活情報の入手先（外国人留学生）	94
<b>第Ⅸ章 進路（就職・進学）</b>		
86.	将来の希望進路	95
87.	進路に関する情報入手手段	96
88.	将来の希望職種	96
89.	希望する就職支援	97
90.	インターンシップの経験	98
91.	インターンシップ先	99
92.	インターンシップ満足度	100
<b>第Ⅹ章 要望・意見等</b>		
		101
<b>巻末資料</b>		
1.	委員会の構成メンバー	105
2.	調査票	106

# 東京農工大学教育組織概説図

学部	大学院	
<b>農学部 (4年)</b>	<b>農学府 (修士課程 2年)</b>	<b>連合農学研究科 (博士課程 3年)</b>
生物生産学科	生物生産科学プログラム	生物生産科学専攻
応用生物科学科	生物制御科学プログラム	応用生命科学専攻
環境資源科学科	応用生命化学プログラム	環境資源共生科学専攻
地域生態システム学科	環境資源物質科学プログラム	農業環境工学専攻
	物質循環環境科学プログラム	農林共生社会科学専攻
	自然環境保全学プログラム	
<b>農学部 (6年)</b>	食農情報工学プログラム	<b>農学府 (博士課程 4年)</b>
共同獣医学科	地球社会学プログラム	共同獣医学専攻
	国際イノベーション農学プログラム	
	(2018年度までの入学)	
	環境資源物質科学専攻	
	物質循環環境科学専攻	
	国際環境農学専攻	
<b>工学部 (4年)</b>	<b>工学府</b>	
生命工学科	<b>博士前期課程 (2年)</b>	<b>博士後期課程 (3年)</b>
応用分子化学科	生命工学専攻	生命工学専攻
有機材料化学科	応用化学専攻	応用化学専攻
化学システム工学科	機械システム工学専攻	機械システム工学専攻
機械システム工学科	物理システム工学専攻	電子情報工学専攻
物理システム工学科	電気電子工学専攻	
電気電子工学科	情報工学専攻	<b>博士課程 (3年)</b>
情報工学科	専門職 (2年) 産業技術専攻	共同サステナビリティ研究専攻
(以下 2019年度以降入学)		
生命工学科	<b>生物システム応用化学府 (BASE)</b>	
生体医用システム工学科	<b>博士前期課程 (2年)</b>	<b>博士後期課程 (3年)</b>
応用化学科	生物機能システム科学専攻	生物機能システム科学専攻
化学物理工学科		共同先進健康科学専攻
機械システム工学科		
知能情報システム工学科	一貫制博士課程 (5年) 食料エネルギーシステム科学専攻	

# 序章 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、東京農工大学の学生の生活実態を把握し、今後の学生のための厚生施策の充実、教育・研究環境の改善及びサービスの向上等に役立たせるための資料を得ることを目的として実施した。

## 2. 調査の実施及び組織

学生へのより良いサービス向上等に資するため教育・学生生活委員会において、第10回学生生活実態調査を実施することが承認され、ワーキンググループが設置された。ワーキンググループでは、過去の実態調査の反省点を精査しつつ、調査内容の企画立案、調査票の作成、調査結果の分析を実施し、ここに報告書を作成した。

## 3. 調査の対象

令和3年10月1日現在で本学に在籍している全学生（連合農学研究科、共同獣医学専攻、共同先進健康科学専攻、共同サステナビリティ研究専攻で本学配置の学生を含む）を対象とした。

ただし、休学者、渡日前の留学生、研究生、科目等履修生及び海外留学中の学生は除いた。

## 4. 調査の時期

令和3年10月1日（金）～10月15日（金）

## 5. 調査の方法

Google フォームからの回答方式とした。

## 6. 調査の内容（ ）は担当教員名

I. 基本的事項（斎藤広隆） II. 経済的状況（斎藤広隆） III. 住居（生嶋健司） IV. 通学（生嶋健司）  
V. 学業、学習環境（本郷智子、安村友紀） VI. 課外活動（清水昭伸） VII. ボランティア活動（清水昭伸）  
VIII. 学生生活（馬淵麻由子、江上奈美子） IX. 進路（長澤和夫） X. 要望・意見等（北野克和、藤井恒人、片桐浩司）

## 7. 発行年月日

令和4年3月31日（木）

# 調査の要旨

## 1 経済的状況 (P5~P16)

- ① 1ヶ月の平均収入は61.9千円であり、前回と比較して微減した。前回と同様に、平均収入が20千円以下の割合が最も大きい。経済的に困難な学生は全体の12.9%であり、アルバイトに加えて奨学金や授業料免除などで対応している。
- ② 支出額は調査開始以来過去最低額となり、TA、RAなどの学内のアルバイトによる支援も充実しつつあるが、食費や学習・研究以外の支出が困難な学生が多いことから、学内支援のさらなる充実が求められている。

## 2 住居環境および通学状況 (P17~P24)

- ① 単身生活者の割合は38.6%で、過去5回の調査を通して微減少している。住居形態は、自宅生(親戚宅等含む)57.9%、単身アパート等33.2%、学生寮等8.3%。単身生活者はアパート等に満足しており、学生寮への入寮を希望する者の割合は6.0%と前回調査からやや減少した。
- ② 留学生の29.6%、26.6%がそれぞれ学生寮、国際交流会館への入居を希望しており、留学生の住居環境の充実が必要。通学手段・所用時間に大きな変動はなく、全体の3分の2弱の学生が1時間以内で通学している。

## 3 学業、学習環境 (P25~P45)

- ① 本学への満足度とカリキュラムへの満足度について、「満足」または「やや満足」と回答した回答者の割合はそれぞれ92.9%、87.7%となり、平成12年度の調査開始以降最も高い満足度が示された。令和元年度には工学部、農学府、学部教養教育においてカリキュラム改正があり、令和2、3年度には全学的なオンライン授業の導入があったが、いずれも学生の満足度の維持向上に貢献したとみられる。
- ② 授業外学習時間については、週6時間以上とする回答者は60.8%となり、前回調査の48.9%から増加した。授業外学習に必要な施設・設備としては、図書館、校舎内の学習スペース、無線LAN、コンセントへの回答が多く集まり、希望する回答者の割合も全ての学年で前回調査から増加した。
- ③ 講義室・実験室の満足度は85.2%と高い満足度が示された。一方で、実験設備や空調、机や椅子、そして新型コロナウイルス感染症対策に関連すると見られる教室スペースや椅子の間隔に関する改善を希望する回答が増加した。
- ④ 図書館の利用頻度に大幅な低下が見られた。「ほとんど利用しない」学生の割合が、前回調査の26.9%から43.1%と増加し、「学習や研究に必要な文献を閲覧・借用」とした回答者の割合が前回の68.2%から59.9%に減少した。一方で、「自習室として使用」とした回答者の割合は64.9%と、自習室としての需要は高い。満足度も87.3%と高く、座席数の増加、開館時間の延長や土日の開館への希望が多くよせられた。
- ⑤ 海外活動経験がある学生の割合は前回まで増加傾向にあったが、今回調査では10年前の水準まで減少し、89.4%の回答者が海外経験がないと回答した。海外活動の経験がない学生で海外活動を希望する学生の割合は前回の42.8%から37.6%に減少し、海外留学を妨げる要因としては経済的理由や語学・海外生活への不安に加え、新型コロナウイルス感染症や海外の社会情勢への不安、手続の煩雑さを指摘する記述もあった。



#### 4 課外活動、ボランティア活動 (P46~P59)

- ① 前回までは課外活動に対しては年々積極的になってきたが、今回は前回に比べて 8.6pt 低下した。半数以上が体育系サークルに所属している点についてはほぼ変わりが無い。活動時間は週 1 時間~5 時間未満が最も多いが、1 時間未満も含めると合計 22.7pt 増加しており、活動時間が大幅に短くなったことがうかがえる。課外活動に対する不満は 12.8pt 減少しているが、その中でも活動時間の制限への不満が増加しており、上述の活動時間の短縮とも関連している。課外活動については、全体的に新型コロナの感染症拡大の影響が強く表れていると推測される。
- ② 課外活動施設等の満足度が大きく改善され、全体で 7 割以上の学生が「満足」か「やや満足」と回答をしていた。今後も高い満足度を維持するためには、ポスト新型コロナ感染症の活動再開に伴う変化も引き続き慎重に評価する必要があると考えられる。
- ③ ボランティアに関しては、参加割合の回復傾向が見られるが、参加している学生の参加回数は減少傾向が見られた。大学側に対する支援希望としては、「情報やプログラムの紹介」や「交通費補助」が挙げられていた。ボランティアに対する参加を希望しない理由の上位はこれまで同様「興味がある活動がない」、「時間がない」という回答であった。

#### 5 学生生活 (P60~P94)

- ① 学生の悩みの二大テーマは、学業・研究 53.6%と進路・就職 52.9%とこれまでの調査と同様の傾向だが、進路・就職の悩みは特に学部生で大幅に増えている。
- ② 悩みの 15.4%は対人関係の悩みで、その相手は友人が 57.7%と最も高い。
- ③ 悩みの相談先が増えている一方で、「誰にも相談しなかった」も 27.9%と増加。
- ④ 学生同士および教職員との交流は減少傾向。積極的な交流を保っている学生がいる一方で、約 1 割の学生が学生同士の交流がほとんどない。
- ⑤ 相談室の認知度は、「学生相談室」、「保健管理センターカウンセラー」がともに約 70%。「ハラスメント相談室」の認知度は 35.7%に増加したが、依然として認知度が低い。周知方法に工夫が必要。
- ⑥ 飲み会・コンパなどで不快・危険な経験は 91.0%が「経験なし」。しかし依然として「飲酒」や「一気飲み」の強要や、「ハラスメントを受けた」との回答もあり、今後も飲酒の危険度やハラスメント防止の啓発活動が必要。
- ⑦ セクハラは 4.0%が経験「ある」と回答。セクハラ以外のハラスメントは 4.6%に減少。ハラスメントの相手としては「アルバイト先の人」が増加。「教職員」からのハラスメントを受けたという回答も依然として多く、ハラスメント防止の教育啓発活動は今後も重要。
- ⑧ キャンパス内マナーの満足度は、満足とやや満足の合計が約 89.5%と高い。不満に思う点は、駐輪場不足が最多で、続いて、自転車の止め方、タバコの吸い方や喫煙場所、ゴミの捨て方・処理、大学内の汚れ、自転車の危険運転、自転車や傘の盗難、タバコの吸い殻の処理の順であった。教職員と学生が一体となった改善への取り組みが必要になる。
- ⑨ 生協食堂等の利用状況をみると、「よく利用する」と「ときどき利用する」の合計が、生協食堂は、府中地区 74.2%、小金井地区 77.5%、エリプスは小金井地区 65.1%と比較的高いが、喫茶室オリザは府中地区で 17.7%と利用率が低かった。また、売店を「よく利用する」割合は、府中地区 19.9%、小金井地区 18.4%。満足度については、食堂等での「満足」の割合は 19.4%、売店では 27.1%であるため、不満に思う点で上位の、営業時間・座席数や混雑・コストパフォーマンスや、売店の品揃えなど、学生の声を参考にサービス内容の工夫、改善が必要である。

- ⑩ キャンパスの施設・設備環境改善希望では、全回答者の 34.8%が無線 LAN について改善を希望しており、大学全体でつながりやすくしてほしいとの要望が多く、インターネット環境の整備が必要である。

## 6 進路（就職・進学）(P95～P100)

- ① 進路に関する情報の入手先としては、過半数の学生が「インターネット」や「先輩・知人から」と回答している。指導教員や就職担当教員からの情報入手は前回より減少しており、情報入手手法がインターネットに集中する傾向が見られる。将来の希望進路の全体的な傾向は、前回と大きな変化は見られない。
- ② 就職支援では、会社説明会の充実や大学推薦の希望が多い。今回新たに「エントリーシートの添削や模擬面接」の項目を加えたところ、20%程度の希望があった。全体的に多様な取り組みが求められており、効果的な方策を考える必要がある。
- ③ インターンシップの経験では、とくに大学院の増加が顕著であり、大学院生の半数がインターンを経験している。就職を希望する企業へのインターンシップの増加傾向も見られる。今後、インターンシップの内容、経験、効果などを把握し、キャリア支援に活かす検討も考えられる。

# 第 I 章 基本的事項

## 1～4. 調査対象人数、回収率、生活形態

対象学生 5,534 人に対して、3,046 人からの回答を得た。回収率は、全体で 55.0%であり、前回は 70%近く、前々回は 80%近くだったのに対し、60%を下回る結果となったが、調査結果は東京農工大学の学生生活の実態を十分に反映しているものと思われる。性別では、男子生徒が 51.4% (1,885 件)、女子生徒が 58.7% (1,096 件)であった。

学部生の回収率は 55.2% (2,037 件) であり、大学院生の 54.7% (1,009 件) と同程度であった。前回は博士後期課程の回収率が低く、学部生の回収率が高くなったが、今回は博士後期課程学生の回収率が高く大学院生全体の回収率が学部生なみとなり、一般の学生の生活調査としては十分に実態を反映しているものと考えられる。学部別では、農学部が 58.9% (798 件)、工学部が 53.1% (1,239 件) と農学部の回答率が若干高かった。

### Q 1～3. 調査対象人数と回収率

学部学科等	対象学生数 (人)			回収数 (人)			回収率 (%)		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
《学部計》	3688	2376	1312	2,037	1,201	786	55.2	50.5	59.9
農学部	1354	656	698	798	346	428	58.9	52.7	61.3
工学部	2334	1720	614	1,239	855	358	53.1	49.7	58.3
《大学院計》	1846	1292	554	1,009	684	310	54.7	52.9	56.0
(農学府計)	488	287	201	262	148	109	53.7	51.6	54.2
農学府修士課程	425	247	178	224	127	95	52.7	51.4	53.4
大学院農学府 共同獣医学専攻	63	40	23	38	21	14	60.3	52.5	60.9
(工学府計)	1112	826	286	579	415	155	52.1	50.2	54.2
工学府博士前期課程	715	542	173	356	271	80	49.8	50.0	46.2
工学府博士後期課程 工学府博士	199	152	47	102	75	24	51.3	49.3	51.1
工学府専門職学位課程	86	67	19	40	26	14	46.5	38.8	73.7
連合農学研究科博士課程 (本学配置学生)	112	65	47	81	43	37	72.3	66.2	78.7
(BASE 計)	246	179	67	168	121	46	68.3	67.6	68.7
BASE 博士前期課程	141	107	34	107	83	23	75.9	77.6	67.6
BASE 博士後期課程	52	44	8	23	18	5	44.2	40.9	62.5
BASE 博士課程	14	8	6	6	2	4	42.9	25.0	66.7
BASE 一貫制博士課程	39	20	19	32	18	14	82.1	90.0	73.7
総計	5534	3688	1866	3046	1885	1096	55.0	51.4	58.7

※性別について、「回答しない」「その他」と回答した者がいるため、性別別回収数の合計と全体回収数は一致しません。

### 回収率の推移 (%)

調査年度	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
回収率	26.3	24.4	21.1	49.8	63.7	53.3	77.9	78.7	69.4	55.0

#### 4. 生活形態

生活形態は、経済状況に大きく影響する。全体の 58.8%、大学院生でも 50%程度が家族・親族と同居しており、前回と同じ傾向となった。

#### Q 4. 生活形態

	単身生活	家族・親族と同居	友人等と同居	他人と同居 (ルームシェア・シェアハウス等)
全体	38.6%	58.8%	1.3%	1.2%
男	41.6%	56.3%	1.1%	1.0%
女	33.7%	63.0%	1.6%	1.6%
その他	33.3%	44.4%	11.1%	11.1%
回答しない	33.9%	64.3%	1.8%	0.0%
留学生	75.9%	12.6%	7.5%	4.0%
国内生	36.0%	62.1%	0.9%	1.1%
単身生活	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家族・親族と同居	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
友人と同居	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
他人と同居	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
学部生	34.8%	63.5%	0.6%	1.1%
大学院生	46.2%	49.5%	2.9%	1.5%
農学部	33.0%	64.8%	1.0%	1.3%
工学部	36.0%	62.6%	0.3%	1.0%
農学府修士課程	52.7%	44.2%	2.2%	0.9%
大学院農学府博士課程	39.5%	52.6%	5.3%	2.6%
工学府博士前期課程	37.1%	60.4%	1.4%	1.1%
工学府博士後期課程	56.9%	35.3%	6.9%	1.0%
工学府専門職学位課程	45.0%	55.0%	0.0%	0.0%
連合農学研究科博士課程	54.3%	42.0%	1.2%	2.5%
B A S E 博士前期課程	44.9%	49.5%	4.7%	0.9%
B A S E 博士後期課程	56.5%	43.5%	0.0%	0.0%
B A S E 博士課程	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%
B A S E 一貫制博士課程	56.3%	21.9%	9.4%	12.5%

## 5～6. 留学生及びその経費区分

回答者に占める留学生の割合は6.5%であった。私費留学生在が68.8%、国費留学生在が25.6%、政府派遣留学生在が5.5%で、前回と比べ私費留学生在が増加した。特に工学府やBASE（博士前期）では、私費留学生在の割合が高く、連合農学研究科やBASE（博士後期課程）では国費留学生在の割合が高い。

### Q6. 留学生の経費区分

	私費留学生	日本政府国費留学生	母国派遣留学生
全体	68.8%	25.6%	5.5%
男	75.2%	19.0%	5.7%
女	61.1%	33.3%	5.6%
その他	50.0%	50.0%	0.0%
回答しない	100.0%	0.0%	0.0%
単身生活	67.5%	25.8%	6.6%
家族・親族と同居	68.0%	28.0%	4.0%
友人と同居	93.3%	6.7%	0.0%
他人と同居	50.0%	50.0%	0.0%
学部生	69.0%	20.7%	10.3%
大学院生	68.8%	26.5%	4.7%
農学部	92.3%	0.0%	7.7%
工学部	50.0%	37.5%	12.5%
農学府修士課程	69.4%	25.0%	5.6%
大学院農学府博士課程	50.0%	33.3%	16.7%
工学府博士前期課程	81.8%	18.2%	0.0%
工学府博士後期課程	84.8%	12.1%	3.0%
工学府専門職学位課程	50.0%	50.0%	0.0%
連合農学研究科博士課程	37.5%	56.3%	6.3%
BASE博士前期課程	91.7%	8.3%	0.0%
BASE博士後期課程	57.1%	28.6%	14.3%
BASE博士課程	50.0%	50.0%	0.0%
BASE一貫制博士課程	91.7%	8.3%	0.0%

### 私費留学生の割合の推移（%）

調査年度	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
私費留学生の割合				50.4	57.8		65.9	54.3	52.5	68.8

## 第Ⅱ章 経済的状况

### 7. 収入

全体の平均収入は61.9千円であり、前回と比較して減少し、過去最低であった前々回並みであった。前回と同様に、平均収入が20.0千円以下の割合が最も大きくなっている。単身生活者が84.1千円、家族・親族と同居では45.7千円であった。留学生の多くは、単身であり、大学院生も多いことから、101.2千円となっている。学部生は52.1千円、大学院生81.6千円（農学府修士学生66.8千円、工学府博士前期学生55.3千円、BASE博士前期学生55.0千円、連合農学研究科博士学生134.7千円、工学府博士後期学生133.7千円、BASE博士後期学生149.1千円）となっており、前回より学部学生の収入は減少したものの、大学院生、特に博士または博士後期学生の収入は大幅に増加した。学部学生と修士学生では家庭及び学外でのアルバイトが主要な収入源となっている。修士学生では、34%程度の学生がTAなど学内アルバイトで収入を得ている。一方、博士学生では、家庭及び学内でのアルバイトが減少し、奨学金（特に返還義務のない奨学金）やTAまたはRAからの収入の割合が多くなっている。

#### 平均収入の推移 [千円]

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
平均収入	97.1	88.3	152.8	84.8	153.8	99.8	83.5	61.8	63.9	61.9

#### Q7. あなたの1か月の平均収入額は、およそいくらですか [人] ( ) 割合(%)

	0~2万円	2~4万円	4~6万円	6~8万円	8~10万円	10~12万円	12~14万円	14~16万円	16~18万円	18~20万円	20万円以上	合計
全体	697 (22.9)	541 (17.8)	556 (18.3)	399 (13.1)	309 (10.1)	157 (5.2)	110 (3.6)	92 (3.0)	37 (1.2)	50 (1.6)	98 (3.2)	3,046
男	449 (23.8)	323 (17.1)	335 (17.8)	231 (12.3)	202 (10.7)	105 (5.6)	68 (3.6)	51 (2.7)	23 (1.2)	28 (1.5)	70 (3.7)	1,885
女	228 (20.8)	202 (18.4)	214 (19.5)	161 (14.7)	101 (9.2)	51 (4.7)	40 (3.6)	39 (3.6)	13 (1.2)	21 (1.9)	26 (2.4)	1,096
その他	2 (22.2)	2 (22.2)	0 (0.0)	2 (22.2)	2 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	9
回答しない	18 (32.1)	14 (25.0)	7 (12.5)	5 (8.9)	4 (7.1)	1 (1.8)	2 (3.6)	2 (3.6)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	56
留学生	25 (12.6)	12 (6.0)	13 (6.5)	17 (8.5)	26 (13.1)	26 (13.1)	23 (11.6)	33 (16.6)	8 (4.0)	9 (4.5)	7 (3.5)	199
国内生	672 (23.6)	529 (18.6)	543 (19.1)	382 (13.4)	283 (9.9)	131 (4.6)	87 (3.1)	59 (2.1)	29 (1.0)	41 (1.4)	91 (3.2)	2,847
単身生活	114 (9.7)	123 (10.5)	177 (15.1)	182 (15.5)	209 (17.8)	113 (9.6)	84 (7.1)	70 (6.0)	29 (2.5)	36 (3.1)	38 (3.2)	1,175
家族・親族と同居	579 (32.3)	413 (23.0)	363 (20.3)	204 (11.4)	91 (5.1)	40 (2.2)	16 (0.9)	15 (0.8)	6 (0.3)	11 (0.6)	54 (3.0)	1,792
友人と同居	2 (4.9)	0 (0.0)	11 (26.8)	6 (14.6)	6 (14.6)	2 (4.9)	7 (17.1)	3 (7.3)	0 (0.0)	1 (2.4)	3 (7.3)	41
他人と同居	2 (5.3)	5 (13.2)	5 (13.2)	7 (18.4)	3 (7.9)	2 (5.3)	3 (7.9)	4 (10.5)	2 (5.3)	2 (5.3)	3 (7.9)	38
学部生	505 (24.8)	403 (19.8)	423 (20.8)	302 (14.8)	189 (9.3)	82 (4.0)	49 (2.4)	40 (2.0)	14 (0.7)	16 (0.8)	14 (0.7)	2,037
大学院生	192 (19.0)	138 (13.7)	133 (13.2)	97 (9.6)	120 (11.9)	75 (7.4)	61 (6.0)	52 (5.2)	23 (2.3)	34 (3.4)	84 (8.3)	1,009
農学部	173 (21.7)	158 (19.8)	171 (21.4)	127 (15.9)	85 (10.7)	33 (4.1)	18 (2.3)	13 (1.6)	6 (0.8)	8 (1.0)	6 (0.8)	798
工学部	332 (26.8)	245 (19.8)	252 (20.3)	175 (14.1)	104 (8.4)	49 (4.0)	31 (2.5)	27 (2.2)	8 (0.6)	8 (0.6)	8 (0.6)	1,239
農学府修士課程	46 (20.5)	34 (15.2)	31 (13.8)	31 (13.8)	30 (13.4)	15 (6.7)	18 (8.0)	13 (5.8)	3 (1.3)	1 (0.4)	2 (0.9)	224
大学院農学府博士課程	2 (5.3)	0 (0.0)	2 (5.3)	4 (10.5)	3 (7.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (13.2)	3 (7.9)	2 (5.3)	17 (44.7)	38
工学府博士前期課程	92 (25.8)	70 (19.7)	57 (16.0)	31 (8.7)	49 (13.8)	29 (8.1)	13 (3.7)	10 (2.8)	4 (1.1)	1 (0.3)	0 (0.0)	356
工学府博士後期課程	12 (11.8)	5 (4.9)	7 (6.9)	1 (1.0)	5 (4.9)	12 (11.8)	8 (7.8)	4 (3.9)	7 (6.9)	13 (12.7)	28 (27.5)	102
工学府専門職学位課程	5 (12.5)	4 (10.0)	3 (7.5)	5 (12.5)	4 (10.0)	3 (7.5)	9 (22.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.0)	5 (12.5)	40
連合農学研究科博士課程	3 (3.7)	6 (7.4)	5 (6.2)	3 (3.7)	6 (7.4)	9 (11.1)	6 (7.4)	14 (17.3)	3 (3.7)	7 (8.6)	19 (23.5)	81
BASE博士前期課程	27 (25.2)	12 (11.2)	25 (23.4)	18 (16.8)	14 (13.1)	5 (4.7)	3 (2.8)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.9)	1 (0.9)	107
BASE博士後期課程	3 (13.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	2 (8.7)	1 (4.3)	2 (8.7)	1 (4.3)	1 (4.3)	2 (8.7)	10 (43.5)	23
BASE博士課程	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	6
BASE一貫制博士課程	2 (6.3)	5 (15.6)	2 (6.3)	3 (9.4)	6 (18.8)	1 (3.1)	1 (3.1)	4 (12.5)	2 (6.3)	4 (12.5)	2 (6.3)	32

## 8. 収入源

Q8. 収入源として該当するものを選んでください（複数選択可）[人]

	家庭 (家計支持者)から	奨学金 (返還義務 なし)	奨学金 (ローン・ 貸与)	学外での アルバイト	学内での アルバイト (TA/RA/研 究補助等)	その他	回答者数
全体	1,557 (51.1)	249 (8.2)	361 (11.9)	1,941 (63.7)	426 (14.0)	99 (3.3)	3,046
男	982 (52.1)	141 (7.5)	242 (12.8)	1,130 (59.9)	267 (14.2)	71 (3.8)	1,885
女	538 (49.1)	101 (9.2)	112 (10.2)	770 (70.3)	152 (13.9)	27 (2.5)	1,096
その他	9 (100.0)	2 (22.2)	1 (11.1)	6 (66.7)	2 (22.2)	0 (0.0)	9
回答しない	28 (50.0)	5 (8.9)	6 (10.7)	35 (62.5)	5 (8.9)	1 (1.8)	56
留学生	80 (40.2)	97 (48.7)	4 (2.0)	44 (22.1)	54 (27.1)	7 (3.5)	199
国内生	1,477 (51.9)	152 (5.3)	357 (12.5)	1,897 (66.6)	372 (13.1)	92 (3.2)	2,847
単身生活	767 (65.3)	154 (13.1)	207 (17.6)	668 (56.9)	173 (14.7)	35 (3.0)	1,175
家族・親族と 同居	750 (41.9)	78 (4.4)	137 (7.6)	1,226 (68.4)	230 (12.8)	62 (3.5)	1,792
友人と同居	19 (46.3)	6 (14.6)	4 (9.8)	24 (58.5)	13 (31.7)	2 (4.9)	41
他人と同居	21 (55.3)	11 (28.9)	13 (34.2)	23 (60.5)	10 (26.3)	0 (0.0)	38
学部生	1,116 (54.8)	127 (6.2)	190 (9.3)	1,450 (71.2)	85 (4.2)	17 (0.8)	2,037
大学院生	441 (43.7)	122 (12.1)	171 (16.9)	491 (48.7)	341 (33.8)	82 (8.1)	1,009
農学部	436 (54.6)	47 (5.9)	63 (7.9)	596 (74.7)	53 (6.6)	4 (0.5)	798
工学部	680 (54.9)	80 (6.5)	127 (10.3)	854 (68.9)	32 (2.6)	13 (1.0)	1,239
農学府修士課 程	127 (56.7)	20 (8.9)	35 (15.6)	138 (61.6)	78 (34.8)	2 (0.9)	224
大学院農学府 博士課程	4 (10.5)	7 (18.4)	6 (15.8)	13 (34.2)	11 (28.9)	13 (34.2)	38
工学府博士前 期課程	179 (50.3)	18 (5.1)	75 (21.1)	213 (59.8)	121 (34.0)	0 (0.0)	356
工学府博士後 期課程	16 (15.7)	25 (24.5)	8 (7.8)	21 (20.6)	41 (40.2)	32 (31.4)	102
工学府専門職 学位課程	25 (62.5)	4 (10.0)	10 (25.0)	20 (50.0)	8 (20.0)	5 (12.5)	40
連合農学研究 科博士課程	21 (25.9)	31 (38.3)	10 (12.3)	11 (13.6)	25 (30.9)	15 (18.5)	81
B A S E博士 前期課程	57 (53.3)	4 (3.7)	17 (15.9)	59 (55.1)	36 (33.6)	1 (0.9)	107
B A S E博士 後期課程	4 (17.4)	5 (21.7)	3 (13.0)	3 (13.0)	1 (4.3)	10 (43.5)	23
B A S E博士 課程	1 (16.7)	2 (33.3)	1 (16.7)	1 (16.7)	3 (50.0)	1 (16.7)	6
B A S E一貫 制博士課程	7 (21.9)	6 (18.8)	6 (18.8)	12 (37.5)	17 (53.1)	3 (9.4)	32

( ) 割合(%)

## 9. 支出

平均支出は52.5千円であった。収入と同様、支出も前回より減少し、過去最低であった前々回を下回り調査開始以降過去最低であった。学部生、大学院生ともに支出が20.0千円以下の割合が最も高くなった。支出項目としては食費が最も多く、研究や勉学の書籍に支出している割合が50%を超え、課外活動費は40%以下であることから、経済的に大学の講義以外への支出が困難な学生が半分以上であることが明らかになった。詳細なデータ解析のためには、各項目の金額を調べる必要がある。

### 平均支出の推移 [千円]

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
平均支出	92.3	83.5	122.9	73.5	94.8	78.3	76.4	53.8	54.9	52.5

### Q9. あなたの1か月の平均支出額は、およそいくらですか [人]

	0~2万円	2~4万円	4~6万円	6~8万円	8~10万円	10~12万円	12~14万円	14~16万円	16~18万円	18~20万円	20万円以上	合計
全体	819 (26.9)	703 (23.1)	477 (15.7)	323 (10.6)	323 (10.6)	174 (5.7)	84 (2.8)	60 (2.0)	23 (0.8)	20 (0.7)	40 (1.3)	3,046
男	483 (25.6)	429 (22.8)	295 (15.6)	216 (11.5)	221 (11.7)	100 (5.3)	42 (2.2)	43 (2.3)	15 (0.8)	13 (0.7)	28 (1.5)	1,885
女	311 (28.4)	258 (23.5)	176 (16.1)	103 (9.4)	96 (8.8)	71 (6.5)	40 (3.6)	17 (1.6)	7 (0.6)	7 (0.6)	10 (0.9)	1,096
その他	1 (11.1)	2 (22.2)	1 (11.1)	2 (22.2)	1 (11.1)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	9
回答しない	24 (42.9)	14 (25.0)	5 (8.9)	2 (3.6)	5 (8.9)	2 (3.6)	2 (3.6)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (1.8)	56
留学生	4 (2.0)	6 (3.0)	9 (4.5)	20 (10.1)	49 (24.6)	49 (24.6)	25 (12.6)	20 (10.1)	7 (3.5)	5 (2.5)	5 (2.5)	199
国内生	815 (28.6)	697 (24.5)	468 (16.4)	303 (10.6)	274 (9.6)	125 (4.4)	59 (2.1)	40 (1.4)	16 (0.6)	15 (0.5)	35 (1.2)	2,847
単身生活	28 (2.4)	161 (13.7)	226 (19.2)	213 (18.1)	250 (21.3)	145 (12.3)	67 (5.7)	44 (3.7)	19 (1.6)	13 (1.1)	9 (0.8)	1,175
家族・親族と同居	789 (44.0)	538 (30.0)	233 (13.0)	102 (5.7)	55 (3.1)	15 (0.8)	12 (0.7)	12 (0.7)	3 (0.2)	6 (0.3)	27 (1.5)	1,792
友人と同居	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (19.5)	7 (17.1)	10 (24.4)	9 (22.0)	3 (7.3)	1 (2.4)	1 (2.4)	0 (0.0)	2 (4.9)	41
他人と同居	2 (5.3)	4 (10.5)	10 (26.3)	1 (2.6)	8 (21.1)	5 (13.2)	2 (5.3)	3 (7.9)	0 (0.0)	1 (2.6)	2 (5.3)	38
学部生	644 (31.6)	540 (26.5)	329 (16.2)	205 (10.1)	177 (8.7)	77 (3.8)	31 (1.5)	18 (0.9)	4 (0.2)	7 (0.3)	5 (0.2)	2,037
大学院生	175 (17.3)	163 (16.2)	148 (14.7)	118 (11.7)	146 (14.5)	97 (9.6)	53 (5.3)	42 (4.2)	19 (1.9)	13 (1.3)	35 (3.5)	1,009
農学部	247 (31.0)	209 (26.2)	121 (15.2)	97 (12.2)	69 (8.6)	32 (4.0)	11 (1.4)	6 (0.8)	2 (0.3)	3 (0.4)	1 (0.1)	798
工学部	397 (32.0)	331 (26.7)	208 (16.8)	108 (8.7)	108 (8.7)	45 (3.6)	20 (1.6)	12 (1.0)	2 (0.2)	4 (0.3)	4 (0.3)	1,239
農学府修士課程	36 (16.1)	43 (19.2)	40 (17.9)	40 (17.9)	29 (12.9)	23 (10.3)	9 (4.0)	3 (1.3)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	224
大学院農学府博士課程	2 (5.3)	2 (5.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	7 (18.4)	3 (7.9)	4 (10.5)	3 (7.9)	1 (2.6)	11 (28.9)	38
工学府博士前期課程	92 (25.8)	82 (23.0)	59 (16.6)	41 (11.5)	43 (12.1)	19 (5.3)	12 (3.4)	5 (1.4)	2 (0.6)	1 (0.3)	0 (0.0)	356
工学府博士後期課程	7 (6.9)	4 (3.9)	7 (6.9)	12 (11.8)	13 (12.7)	15 (14.7)	7 (6.9)	16 (15.7)	5 (4.9)	5 (4.9)	11 (10.8)	102
工学府専門職学位課程	6 (15.0)	5 (12.5)	7 (17.5)	2 (5.0)	9 (22.5)	4 (10.0)	3 (7.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.0)	2 (5.0)	40
連合農学研究科博士課程	3 (3.7)	5 (6.2)	6 (7.4)	3 (3.7)	21 (25.9)	16 (19.8)	11 (13.6)	5 (6.2)	2 (2.5)	2 (2.5)	7 (8.6)	81
B A S E 博士前期課程	26 (24.3)	19 (17.8)	22 (20.6)	14 (13.1)	14 (13.1)	7 (6.5)	2 (1.9)	1 (0.9)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.9)	107
B A S E 博士後期課程	2 (8.7)	1 (4.3)	1 (4.3)	2 (8.7)	1 (4.3)	3 (13.0)	3 (13.0)	3 (13.0)	3 (13.0)	1 (4.3)	3 (13.0)	23
B A S E 博士課程	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	6
B A S E 一貫制博士課程	0 (0.0)	2 (6.3)	4 (12.5)	2 (6.3)	12 (37.5)	3 (9.4)	2 (6.3)	5 (15.6)	1 (3.1)	1 (3.1)	0 (0.0)	32

( ) 割合(%)



## 10. 支出項目

Q10. 支出項目として該当するものを選んで下さい（複数選択可）[人]

	住居費 (駐車場代 を含む)	食費 (自宅通学 者は外食 費)	光熱水費 (通信費を 含まない)	通信費 (携帯電 話, 電話 代, ネット 回線料等)	研究・勉 学費・書 籍費(新聞 購読料を 含む)	課外活動 費(サーク ル活動に かかる費 用など)	交通費・ 通学費 (定期券 代, 駐車 代, ガソリ ン代)	その他	回答者 数
全体	903 (29.6)	2,555 (83.9)	1,028 (33.7)	1,067 (35.0)	1,605 (52.7)	1,125 (36.9)	1,865 (61.2)	60 (2.0)	3,046
男	598 (31.7)	1,610 (85.4)	659 (35.0)	733 (38.9)	977 (51.8)	648 (34.4)	1,111 (58.9)	23 (1.2)	1,885
女	287 (26.2)	896 (81.8)	344 (31.4)	312 (28.5)	589 (53.7)	460 (42.0)	716 (65.3)	32 (2.9)	1,096
その他	4 (44.4)	9 (100.0)	6 (66.7)	4 (44.4)	5 (55.6)	5 (55.6)	6 (66.7)	0 (0.0)	9
回答しない	14 (25.0)	40 (71.4)	19 (33.9)	18 (32.1)	34 (60.7)	12 (21.4)	32 (57.1)	5 (8.9)	56
留学生	196 (98.5)	197 (99.0)	180 (90.5)	185 (93.0)	119 (59.8)	83 (41.7)	147 (73.9)	0 (0.0)	199
国内生	707 (24.8)	2,358 (82.8)	848 (29.8)	882 (31.0)	1,486 (52.2)	1,042 (36.6)	1,718 (60.3)	60 (2.1)	2,847
単身生活	739 (62.9)	1,164 (99.1)	860 (73.2)	683 (58.1)	719 (61.2)	446 (38.0)	703 (59.8)	1 (0.1)	1,175
家族・親族と 同居	107 (6.0)	1,313 (73.3)	108 (6.0)	326 (18.2)	829 (46.3)	651 (36.3)	1,100 (61.4)	59 (3.3)	1,792
友人と同居	36 (87.8)	40 (97.6)	36 (87.8)	35 (85.4)	28 (68.3)	11 (26.8)	33 (80.5)	0 (0.0)	41
他人と同居	21 (55.3)	38 (100.0)	24 (63.2)	23 (60.5)	29 (76.3)	17 (44.7)	29 (76.3)	0 (0.0)	38
学部生	425 (20.9)	1,650 (81.0)	528 (25.9)	521 (25.6)	1,023 (50.2)	895 (43.9)	1,247 (61.2)	49 (2.4)	2,037
大学院生	478 (47.4)	905 (89.7)	500 (49.6)	546 (54.1)	582 (57.7)	230 (22.8)	618 (61.2)	11 (1.1)	1,009
農学部	162 (20.3)	650 (81.5)	212 (26.6)	198 (24.8)	428 (53.6)	387 (48.5)	499 (62.5)	22 (2.8)	798
工学部	263 (21.2)	1,000 (80.7)	316 (25.5)	323 (26.1)	595 (48.0)	508 (41.0)	748 (60.4)	27 (2.2)	1,239
農学府修士課 程	105 (46.9)	198 (88.4)	114 (50.9)	104 (46.4)	148 (66.1)	56 (25.0)	144 (64.3)	0 (0.0)	224
大学院農学府 博士課程	32 (84.2)	35 (92.1)	32 (84.2)	34 (89.5)	27 (71.1)	8 (21.1)	28 (73.7)	0 (0.0)	38
工学府博士前 期課程	101 (28.4)	304 (85.4)	112 (31.5)	140 (39.3)	161 (45.2)	68 (19.1)	187 (52.5)	11 (3.1)	356
工学府博士後 期課程	80 (78.4)	95 (93.1)	75 (73.5)	85 (83.3)	65 (63.7)	21 (20.6)	70 (68.6)	0 (0.0)	102
工学府専門職 学位課程	17 (42.5)	39 (97.5)	18 (45.0)	15 (37.5)	23 (57.5)	10 (25.0)	27 (67.5)	0 (0.0)	40
連合農学研究 科博士課程	57 (70.4)	76 (93.8)	55 (67.9)	62 (76.5)	57 (70.4)	15 (18.5)	53 (65.4)	0 (0.0)	81
B A S E 博士 前期課程	38 (35.5)	100 (93.5)	46 (43.0)	55 (51.4)	55 (51.4)	29 (27.1)	67 (62.6)	0 (0.0)	107
B A S E 博士 後期課程	19 (82.6)	22 (95.7)	19 (82.6)	22 (95.7)	17 (73.9)	10 (43.5)	16 (69.6)	0 (0.0)	23
B A S E 博士 課程	4 (66.7)	6 (100.0)	4 (66.7)	5 (83.3)	4 (66.7)	2 (33.3)	4 (66.7)	0 (0.0)	6
B A S E 一貫 制博士課程	25 (78.1)	30 (93.8)	25 (78.1)	24 (75.0)	25 (78.1)	11 (34.4)	22 (68.8)	0 (0.0)	32

( ) 割合(%)

## 11. 授業料の主たる支払い者

授業料を父母や家族が負担しているものが多く、80%程度であり、学部学生では90%を超える。博士または博士後期学生では、授業料免除の割合が増加し本人が負担しているケースが43%程度と増加する一方で、21%程度が家族に依存している。前回は博士学生の30%程度が家族に依存しており、大きく減少した。留学生では47%程度が授業料免除に依存し、前回の60%程度から大きく減少している。

Q11. 授業料の主たる支払い者 [人]

	父、または母	配偶者	本人	兄弟姉妹	祖父母	知人 (親類を含む)	授業料免除、奨学金の適用	その他	合計
全体	2,465 (80.9)	8 (0.3)	217 (7.1)	0 (0.0)	26 (0.9)	3 (0.1)	302 (9.9)	25 (0.8)	3,046
男	1,531 (81.2)	4 (0.2)	148 (7.9)	0 (0.0)	13 (0.7)	2 (0.1)	170 (9.0)	17 (0.9)	1,885
女	887 (80.9)	3 (0.3)	63 (5.7)	0 (0.0)	13 (1.2)	0 (0.0)	122 (11.1)	8 (0.7)	1,096
その他	6 (66.7)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	9
回答しない	41 (73.2)	0 (0.0)	6 (10.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	8 (14.3)	0 (0.0)	56
留学生	60 (30.2)	3 (1.5)	30 (15.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	94 (47.2)	12 (6.0)	199
国内生	2,405 (84.5)	5 (0.2)	187 (6.6)	0 (0.0)	26 (0.9)	3 (0.1)	208 (7.3)	13 (0.5)	2,847
単身生活	919 (78.2)	1 (0.1)	91 (7.7)	0 (0.0)	7 (0.6)	1 (0.1)	147 (12.5)	9 (0.8)	1,175
家族・親族と同居	1,503 (83.9)	6 (0.3)	114 (6.4)	0 (0.0)	19 (1.1)	2 (0.1)	132 (7.4)	16 (0.9)	1,792
友人と同居	21 (51.2)	0 (0.0)	7 (17.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (31.7)	0 (0.0)	41
他人と同居	22 (57.9)	1 (2.6)	5 (13.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (26.3)	0 (0.0)	38
学部生	1,841 (90.4)	4 (0.2)	49 (2.4)	0 (0.0)	17 (0.8)	3 (0.1)	119 (5.8)	4 (0.2)	2,037
大学院生	624 (61.8)	4 (0.4)	168 (16.7)	0 (0.0)	9 (0.9)	0 (0.0)	183 (18.1)	21 (2.1)	1,009
農学部	718 (90.0)	2 (0.3)	19 (2.4)	0 (0.0)	8 (1.0)	0 (0.0)	48 (6.0)	3 (0.4)	798
工学部	1,123 (90.6)	2 (0.2)	30 (2.4)	0 (0.0)	9 (0.7)	3 (0.2)	71 (5.7)	1 (0.1)	1,239
農学府修士課程	161 (71.9)	1 (0.4)	19 (8.5)	0 (0.0)	2 (0.9)	0 (0.0)	38 (17.0)	3 (1.3)	224
大学院農学府博士課程	5 (13.2)	0 (0.0)	18 (47.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (23.7)	6 (15.8)	38
工学府博士前期課程	287 (80.6)	0 (0.0)	15 (4.2)	0 (0.0)	4 (1.1)	0 (0.0)	49 (13.8)	1 (0.3)	356
工学府博士後期課程	27 (26.5)	2 (2.0)	49 (48.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	21 (20.6)	3 (2.9)	102
工学府専門職学位課程	27 (67.5)	0 (0.0)	9 (22.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (10.0)	0 (0.0)	40
連合農学研究科博士課程	17 (21.0)	1 (1.2)	29 (35.8)	0 (0.0)	1 (1.2)	0 (0.0)	29 (35.8)	4 (4.9)	81
B A S E 博士前期課程	83 (77.6)	0 (0.0)	9 (8.4)	0 (0.0)	2 (1.9)	0 (0.0)	12 (11.2)	1 (0.9)	107
B A S E 博士後期課程	4 (17.4)	0 (0.0)	11 (47.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (21.7)	3 (13.0)	23
B A S E 博士課程	3 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (50.0)	0 (0.0)	6
B A S E 一貫制博士課程	10 (31.3)	0 (0.0)	9 (28.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (40.6)	0 (0.0)	32

( ) 割合(%)

## 12～13. アルバイト

学外でアルバイトを行っている学生は全体の64.0%であった。前回より5%程度減少した。男女比では女性の方が多い。留学生は28.1%であり比較的少ないが、前回よりも4%減少した。これは、大学院生が多いことと、国費留学生が含まれているためである。また、単身生活の学生の方が同居学生よりも8%程度少ないことも特徴的である。学部と大学院では、学部の方が高い。大学院では、TA/RAなどの学内でのアルバイトが多くなることを反映していると考えられる。農学部と工学部を比較すると農学部の方がアルバイトをしている学生の割合が多い。

アルバイトの時間は週15時間以内がほとんどであるが、週20時間以上行っている学生も6.4%おり、前回の5.8%より若干増加している。

### Q12. 現在、学外でアルバイトをしていますか [人]

	している	していない	合計
全体	1,950(64.0)	1,096(36.0)	3,046
男	1,131(60.0)	754(40.0)	1,885
女	779(71.1)	317(28.9)	1,096
その他	5(55.6)	4(44.4)	9
回答しない	35(62.5)	21(37.5)	56
留学生	56(28.1)	143(71.9)	199
国内生	1,894(66.5)	953(33.5)	2,847
単身生活	697(59.3)	478(40.7)	1,175
家族・親族と同居	1,209(67.5)	583(32.5)	1,792
友人と同居	25(61)	16(39)	41
他人と同居	19(50)	19(50)	38
学部生	1,431(70.3)	606(29.7)	2,037
大学院生	519(51.4)	490(48.6)	1,009
農学部	593(74.3)	205(25.7)	798
工学部	838(67.6)	401(32.4)	1,239
農学府修士課程	141(62.9)	83(37.1)	224
大学院農学府博士課程	17(44.7)	21(55.3)	38
工学府博士前期課程	211(59.3)	145(40.7)	356
工学府博士後期課程	30(29.4)	72(70.6)	102
工学府専門職学位課程	20(50)	20(50)	40
連合農学研究科博士課程	19(23.5)	62(76.5)	81
BASE博士前期課程	64(59.8)	43(40.2)	107
BASE博士後期課程	4(17.4)	19(82.6)	23
BASE博士課程	2(33.3)	4(66.7)	6
BASE一貫制博士課程	11(34.4)	21(65.6)	32

( ) 割合(%)

Q13. 12で「している」と答えた方のアルバイトの週あたりの時間 [人]

	5時間未満	5～10時間未満	10～15時間未満	15～20時間未満	20時間以上	合計
全体	358 (18.4)	706 (36.2)	524 (26.9)	237 (12.2)	125 (6.4)	1,950
男	212 (18.7)	404 (35.7)	306 (27.1)	136 (12.0)	73 (6.5)	1,131
女	135 (17.3)	288 (37.0)	209 (26.8)	96 (12.3)	51 (6.5)	779
その他	1 (20.0)	3 (60.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5
回答しない	10 (28.6)	11 (31.4)	8 (22.9)	5 (14.3)	1 (2.9)	35
留学生	9 (16.1)	16 (28.6)	14 (25.0)	11 (19.6)	6 (10.7)	56
国内生	349 (18.4)	690 (36.4)	510 (26.9)	226 (11.9)	119 (6.3)	1,894
単身生活	105 (15.1)	227 (32.6)	221 (31.7)	91 (13.1)	53 (7.6)	697
家族・親族と同居	249 (20.6)	468 (38.7)	290 (24.0)	137 (11.3)	65 (5.4)	1,209
友人と同居	1 (4.0)	5 (20.0)	10 (40.0)	6 (24.0)	3 (12.0)	25
他人と同居	3 (15.8)	6 (31.6)	3 (15.8)	3 (15.8)	4 (21.1)	19
学部生	247 (17.3)	532 (37.2)	394 (27.5)	167 (11.7)	91 (6.4)	1,431
大学院生	111 (21.4)	174 (33.5)	130 (25.0)	70 (13.5)	34 (6.6)	519
農学部	92 (15.5)	222 (37.4)	166 (28.0)	74 (12.5)	39 (6.6)	593
工学部	155 (18.5)	310 (37.0)	228 (27.2)	93 (11.1)	52 (6.2)	838
農学府修士課程	28 (19.9)	46 (32.6)	37 (26.2)	23 (16.3)	7 (5.0)	141
大学院農学府博士課程	2 (10.0)	2 (10.0)	7 (35.0)	0 (0.0)	9 (45.5)	20
工学府博士前期課程	50 (23.7)	75 (35.5)	52 (24.6)	28 (13.3)	6 (2.8)	211
工学府博士後期課程	9 (30.0)	5 (16.7)	6 (20.0)	4 (13.3)	6 (20.0)	30
工学府専門職学位課程	1 (5.0)	14 (70.0)	3 (15.0)	2 (10.0)	0 (0.0)	20
連合農学研究科博士課程	5 (26.3)	5 (26.3)	4 (21.1)	2 (10.5)	3 (15.8)	19
B A S E 博士前期課程	12 (18.8)	23 (35.9)	17 (26.6)	8 (12.5)	4 (6.3)	64
B A S E 博士後期課程	0 (0.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4
B A S E 博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2
B A S E 一貫制博士課程	4 (36.4)	2 (18.2)	3 (27.3)	2 (18.2)	0 (0.0)	11

( ) 割合 (%)

## 14～15. 経済的困難学生とその解決策

経済的に困難な学生は全体の12.9%である。学部学生では8.7%であるが、大学院生は21.4%（うち修士または博士前期学生14.1%、博士または博士後期学生40.0%）と学年が上がるに従って比率が上がっている。留学生では半数ちかくの47.7%が経済的困難を訴えている。

経済的困難の解決策としては50.0%がアルバイトを行い、49.0%が授業料免除を受けている。奨学金を受給している学生も48.2%いる。特に大学院生では65%以上の学生が授業料免除を受けている。また、大学院学生では、TAやRAなどの学内でのアルバイトも約35%と前回の約20%から大幅に増加している。これらの支援制度がある程度充実したことが反映していると考えられる。

### Q14. 経済的理由による学業継続困難の有無 [人]

	ある	ない	合計
全体	394(12.9)	2,652(87.1)	3,046
男	235(12.5)	1,650(87.5)	1,885
女	144(13.1)	952(86.9)	1,096
その他	1(11.1)	8(88.9)	9
回答しない	14(25)	42(75)	56
留学生	95(47.7)	104(52.3)	199
国内生	299(10.5)	2,548(89.5)	2,847
単身生活	213(18.1)	962(81.9)	1,175
家族・親族と同居	155(8.6)	1,637(91.4)	1,792
友人と同居	17(41.5)	24(58.5)	41
他人と同居	9(23.7)	29(76.3)	38
学部生	178(8.7)	1,859(91.3)	2,037
大学院生	216(21.4)	793(78.6)	1,009
農学部	60(7.5)	738(92.5)	798
工学部	118(9.5)	1,121(90.5)	1,239
農学府修士課程	39(17.4)	185(82.6)	224
大学院農学府博士課程	14(36.8)	24(63.2)	38
工学府博士前期課程	45(12.6)	311(87.4)	356
工学府博士後期課程	45(44.1)	57(55.9)	102
工学府専門職学位課程	3(7.5)	37(92.5)	40
連合農学研究科博士課程	29(35.8)	52(64.2)	81
BASE博士前期課程	13(12.1)	94(87.9)	107
BASE博士後期課程	7(30.4)	16(69.6)	23
BASE博士課程	5(83.3)	1(16.7)	6
BASE一貫制博士課程	16(50)	16(50)	32

( ) 割合(%)

Q15. 14で「ある」と答えた方の経済的困難の解決策（複数回答可）[人]

	授業料 免除	入学科 免除	学内に おける アルバイト	学外に おける アルバイト	奨学金	家庭な どから の援助	ローン	節約	その他	回答者 数
全体	193 (49.0)	73 (18.5)	82 (20.8)	197 (50.0)	190 (48.2)	146 (37.1)	16 (4.1)	158 (40.1)	5 (1.3)	394
男	114 (48.5)	45 (19.1)	51 (21.7)	116 (49.4)	119 (50.6)	87 (37.0)	12 (5.1)	93 (39.6)	4 (1.7)	235
女	72 (50.0)	26 (18.1)	30 (20.8)	72 (50.0)	64 (44.4)	51 (35.4)	3 (2.1)	57 (39.6)	1 (0.7)	144
その他	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1
回答しない	6 (42.9)	1 (7.1)	0 (0.0)	8 (57.1)	6 (42.9)	7 (50.0)	0 (0.0)	7 (50.0)	0 (0.0)	14
留学生	78 (82.1)	24 (25.3)	34 (35.8)	32 (33.7)	38 (40.0)	34 (35.8)	5 (5.3)	51 (53.7)	1 (1.1)	95
国内生	115 (38.5)	49 (16.4)	48 (16.1)	165 (55.2)	152 (50.8)	112 (37.5)	11 (3.7)	107 (35.8)	4 (1.3)	299
単身生活	104 (48.8)	41 (19.2)	43 (20.2)	104 (48.8)	106 (49.8)	78 (36.6)	7 (3.3)	95 (44.6)	3 (1.4)	213
家族・親族と 同居	70 (45.2)	27 (17.4)	29 (18.7)	82 (52.9)	72 (46.5)	58 (37.4)	8 (5.2)	49 (31.6)	2 (1.3)	155
友人と同居	12 (70.6)	1 (5.9)	7 (41.2)	6 (35.3)	5 (29.4)	8 (47.1)	0 (0.0)	10 (58.8)	0 (0.0)	17
他人と同居	7 (77.8)	4 (44.4)	3 (33.3)	5 (55.6)	7 (77.8)	2 (22.2)	1 (11.1)	4 (44.4)	0 (0.0)	9
学部生	52 (29.2)	26 (14.6)	6 (3.4)	106 (59.6)	89 (50.0)	74 (41.6)	5 (2.8)	62 (34.8)	2 (1.1)	178
大学院生	141 (65.3)	47 (21.8)	76 (35.2)	91 (42.1)	101 (46.8)	72 (33.3)	11 (5.1)	96 (44.4)	3 (1.4)	216
農学部	14 (23.3)	3 (5.0)	3 (5.0)	35 (58.3)	22 (36.7)	24 (40.0)	1 (1.7)	22 (36.7)	0 (0.0)	60
工学部	38 (32.2)	23 (19.5)	3 (2.5)	71 (60.2)	67 (56.8)	50 (42.4)	4 (3.4)	40 (33.9)	2 (1.7)	118
農学府修士課 程	23 (59.0)	6 (15.4)	14 (35.9)	19 (48.7)	21 (53.8)	17 (43.6)	0 (0.0)	17 (43.6)	0 (0.0)	39
大学院農学府 博士課程	8 (57.1)	3 (21.4)	6 (42.9)	10 (71.4)	5 (35.7)	2 (14.3)	2 (14.3)	6 (42.9)	0 (0.0)	14
工学府博士前 期課程	33 (73.3)	14 (31.1)	12 (26.7)	23 (51.1)	22 (48.9)	17 (37.8)	1 (2.2)	22 (48.9)	1 (2.2)	45
工学府博士後 期課程	32 (71.1)	11 (24.4)	18 (40.0)	15 (33.3)	21 (46.7)	12 (26.7)	3 (6.7)	23 (51.1)	1 (2.2)	45
工学府専門職 学位課程	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3
連合農学研究 科博士課程	19 (65.5)	7 (24.1)	8 (27.6)	12 (41.4)	12 (41.4)	7 (24.1)	2 (6.9)	11 (37.9)	1 (3.4)	29
B A S E博士 前期課程	10 (76.9)	1 (7.7)	3 (23.1)	4 (30.8)	4 (30.8)	6 (46.2)	0 (0.0)	7 (53.8)	0 (0.0)	13
B A S E博士 後期課程	4 (57.1)	2 (28.6)	3 (42.9)	1 (14.3)	3 (42.9)	4 (57.1)	3 (42.9)	2 (28.6)	0 (0.0)	7
B A S E博士 課程	2 (40.0)	0 (0.0)	4 (80.0)	2 (40.0)	3 (60.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5
B A S E一貫 制博士課程	9 (56.3)	2 (12.5)	7 (43.8)	4 (25.0)	8 (50.0)	5 (31.3)	0 (0.0)	5 (31.3)	0 (0.0)	16

( ) 割合(%)

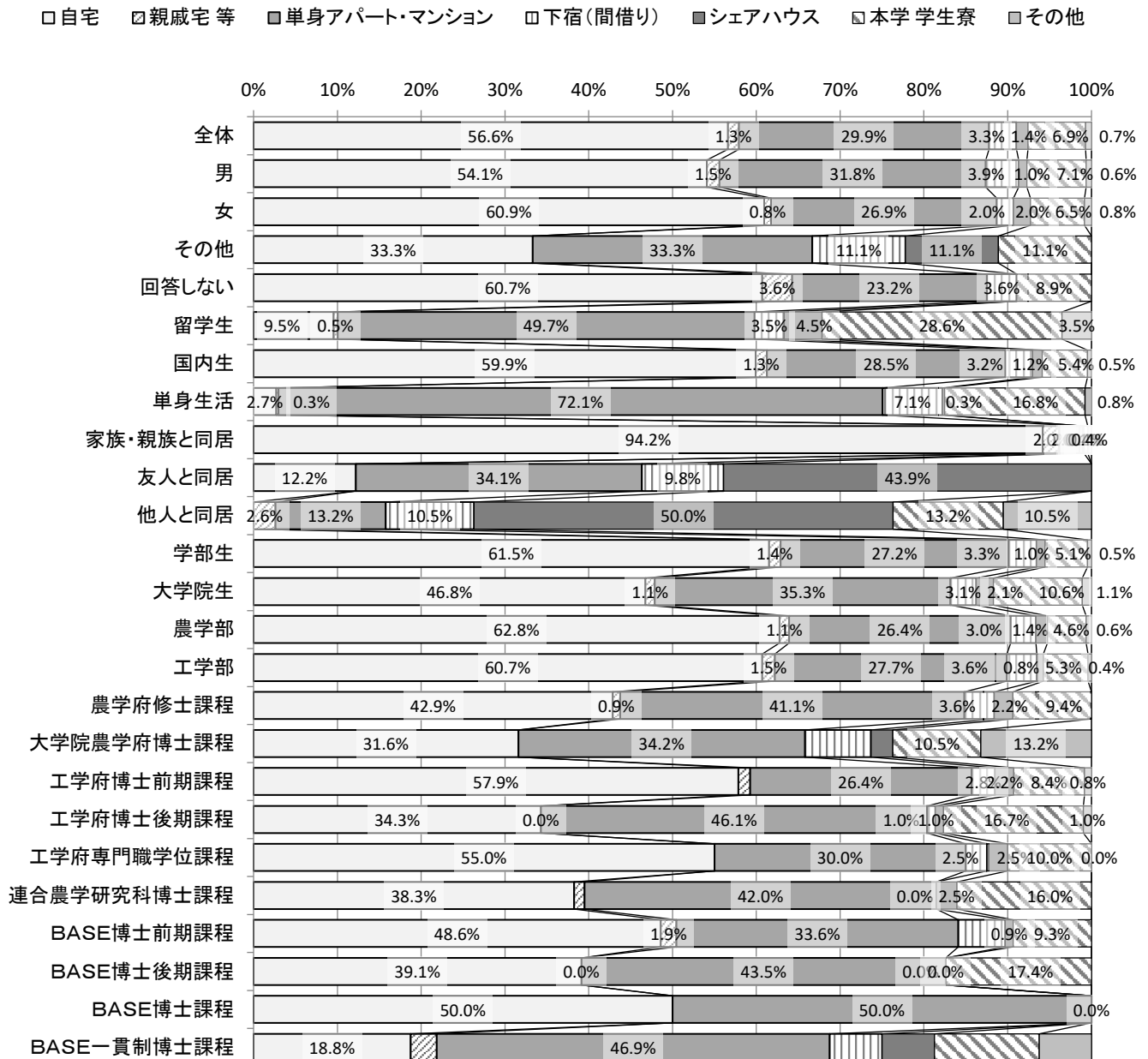
# 第三章 住居

## 16. 現在の住居・生活形態

回答者全体 3,046 名中 1,176 名 (38.6%) が単身で生活している。これまでの調査と比較して、男子学生の単身生活者は、47.2% (第 6 回) →46.1% (第 7 回) →44.3% (第 8 回) →42.5% (第 9 回) →41.6% (第 10 回)、女子学生の単身生活者は、39.2%→35.4%→34.7%→32.7%→33.7%と変遷しており、減少もしくは横ばい傾向が認められる。学年が上がるにつれて単身生活者の比率は増加 (学部生 34.8%、大学院生 46.2%) するが、学部生の数値は前回調査時より低く (それぞれ 37.4%と 43.0%)、減少傾向がうかがえる。経済状況が単身生活者の割合減少に影響していると推察される。回答者全体で 57.9%が自宅生 (親戚宅等含む)、33.2%が単身アパート・下宿、8.3%が寮・学生会館等に居住している (0.7%は不明)。

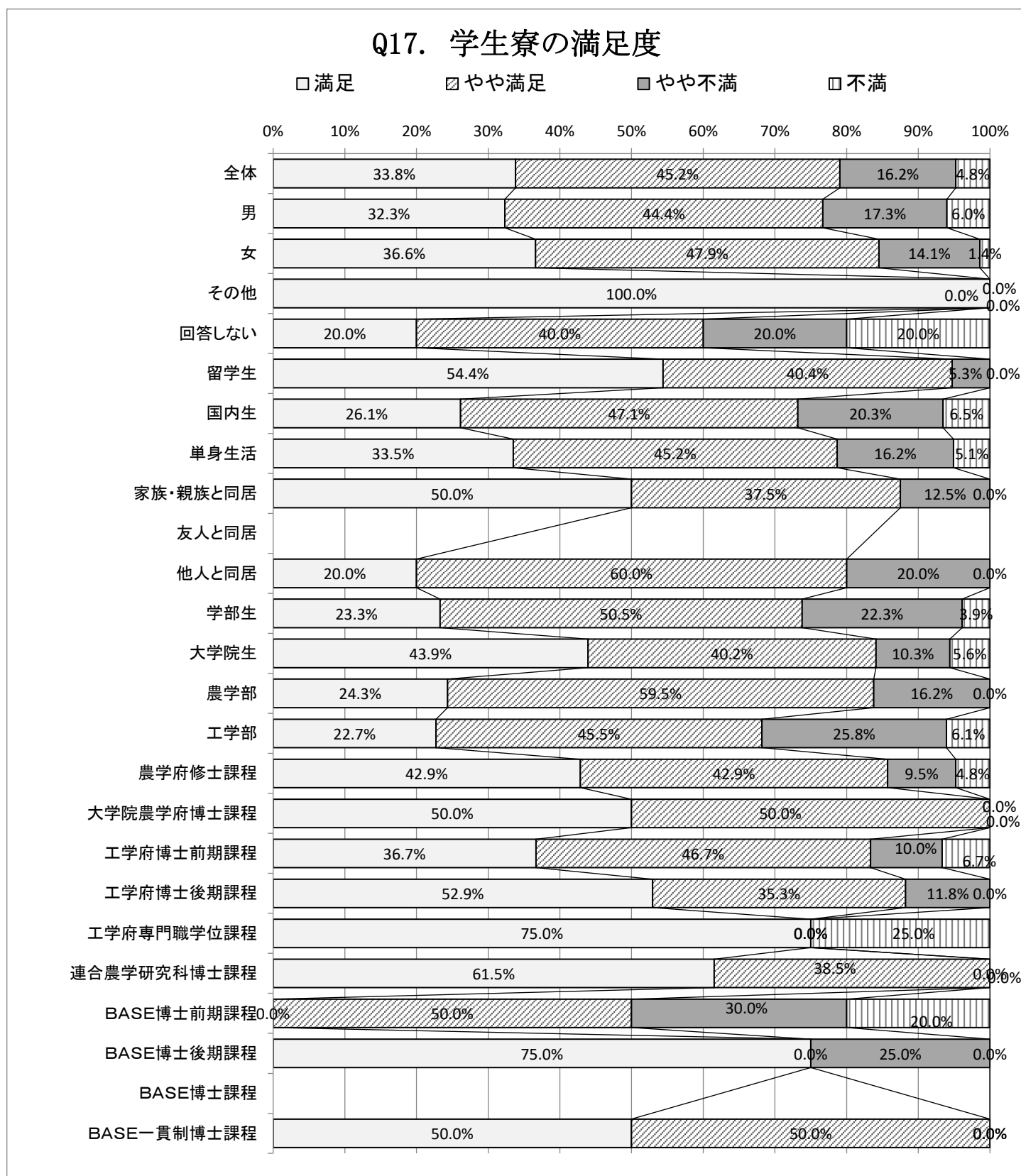
また、留学生の単身生活者の比率は 75.9%で、前回調査時 (72.2%) より微増した。その一方で、留学生の 24.1% は共同生活をしており、特に友人等との共同生活者の比率 (7.5%) が、国内生 (0.9%) と比べて高い。留学生は、53.2%が単身アパート・下宿、28.6%が寮・学生会館等、4.5%がシェアハウスに居住している。

Q16. 住居・生活形態



## 17. 学生寮の満足度

「満足」「やや満足」を合わせると全体で79.0%となり、前回調査時（61.9%）と比べて高い結果となり、おおむね満足されていることがわかる。





## 18. 学生寮への入居希望

本学学生寮に入寮していない者のうち、入居希望者は 171 名（6.0%）と前回の 9.9%からやや減少し、前々回の 11.5%からも減少した。この傾向から、アパートに満足している学生が増えてきていることが伺える。一方、留学生は入居が限られているものの、42 名（29.6%）が入居を希望しており、国内生(5%)よりも需要が高いことが示唆される。

### Q18. <本学学生寮に入寮していない方>に伺います。入居を希望しますか [人]

	希望する	希望しない	合計
全体	171	2,665	2,836
男	88	1,664	1,752
女	81	944	1,025
その他	1	7	8
回答しない	1	50	51
留学生	42	100	142
国内生	129	2,565	2,694
単身生活	70	908	978
家族・親族と同居	91	1,693	1,784
友人と同居	2	39	41
他人と同居	8	25	33
学部生	110	1,824	1,934
大学院生	61	841	902
農学部	41	720	761
工学部	69	1,104	1,173
農学府修士課程	13	190	203
大学院農学府博士課程	5	29	34
工学府博士前期課程	6	320	326
工学府博士後期課程	12	73	85
工学府専門職学位課程	2	34	36
連合農学研究科博士課程	11	57	68
B A S E 博士前期課程	3	94	97
B A S E 博士後期課程	2	17	19
B A S E 博士課程	1	5	6
B A S E 一貫制博士課程	6	22	28

## 19. 学生寮への入居を希望しない理由

学生寮への入居を希望しない理由として、単身生活者の大多数が現状の住居に満足しているからと回答している。留学生についても現状の住居に満足している学生が多い。

### Q19. <Q18で希望しないと答えた方>に伺います。その理由は何ですか [人]

	自宅だから	現状の住居 (アパート等)に 満足している	集団生活が苦手	その他	合計
全体	1,550	875	135	105	2,665
男	932	605	66	61	1,664
女	585	257	65	37	944
その他	3	3	1	0	7
回答しない	30	10	3	7	50
留学生	6	66	16	12	100
国内生	1,544	809	119	93	2,565
単身生活	14	740	96	58	908
家族・親族と同居	1,535	83	34	41	1,693
友人と同居	1	28	4	6	39
他人と同居	0	24	1	0	25
学部生	1,117	558	90	59	1,824
大学院生	433	317	45	46	841
農学部	441	203	48	28	720
工学部	676	355	42	31	1,104
農学府修士課程	88	84	11	7	190
大学院農学府博士課程	12	13	2	2	29
工学府博士前期課程	198	96	13	13	320
工学府博士後期課程	26	37	2	8	73
工学府専門職学位課程	21	12	0	1	34
連合農学研究科博士課程	25	17	6	9	57
B A S E 博士前期課程	47	38	8	1	94
B A S E 博士後期課程	9	7	1	0	17
B A S E 博士課程	2	0	0	3	5
B A S E 一貫制博士課程	5	13	2	2	22

## 20. 国際交流会館への入居希望<外国人留学生対象>

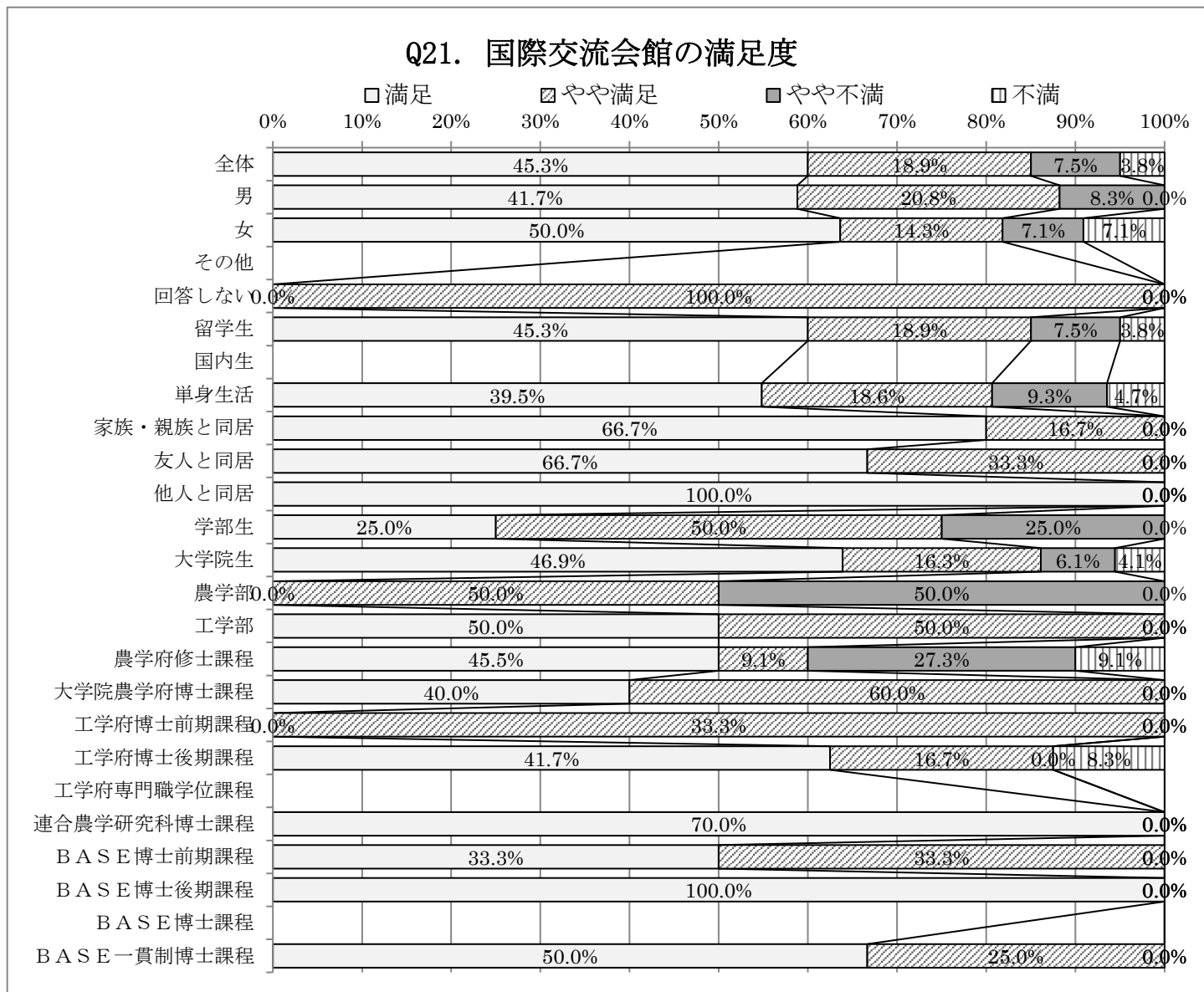
外国人留学生の約 26.6%（199 名中 53 名）が国際交流会館への入居を希望しており、一定の需要があることが分かる。

### Q20. <外国人留学生の方>に伺います。国際交流会館への入居を希望しますか [人]

	希望する	希望しない	既に入居している、または入居していた	外国人留学生ではない	合計
全体	53	93	53	0	199
男	24	57	24	0	105
女	28	34	28	0	90
その他	1	1	0	0	2
回答しない	0	1	1	0	2
留学生	53	93	53	0	199
国内生	0	0	0	0	0
単身生活	43	65	43	0	151
家族・親族と同居	5	14	6	0	25
友人と同居	2	10	3	0	15
他人と同居	3	4	1	0	8
学部生	6	19	4	0	29
大学院生	47	74	49	0	170
農学部	1	10	2	0	13
工学部	5	9	2	0	16
農学府修士課程	10	15	11	0	36
大学院農学府博士課程	1	6	5	0	12
工学府博士前期課程	4	15	3	0	22
工学府博士後期課程	10	11	12	0	33
工学府専門職学位課程	1	1	0	0	2
連合農学研究科博士課程	12	10	10	0	32
B A S E 博士前期課程	2	7	3	0	12
B A S E 博士後期課程	3	3	1	0	7
B A S E 博士課程	1	1	0	0	2
B A S E 一貫制博士課程	3	5	4	0	12

## 2.1. 国際交流会館の満足度

国際交流会館に入居している又は入居したことがある外国人留学生（53名）を対象に調査した結果、「満足」「やや満足」を合わせて64.2%となり、前回調査時（51.2%）と比べて高い。



## 2.2. 国際交流会館への入居を希望しない理由

国際交流会館への入居を希望しない外国人留学生（93名）が挙げた理由としては、回答が多い順に、「部屋が狭い」、「設備が充実していない」、「清潔でない・規則が厳しい（同率）」が挙げられた。

**Q 2 2. 国際交流会館への入居をなぜ希望しないのでしょうか。（複数回答可） [人]**

	入居費が高い	設備が充実していない	清潔でない	部屋が狭い	共有部分が少ない	規則が厳しい	その他	回答者数
全体	14	22	15	26	12	15	31	93

## 第IV章 通学

### 23. 主な通学手段・方法

学生の主な通学手段・方法は全体で、公共交通機関（53.2%）、自転車（30.0%）、徒歩（14.9%）の順に多く、その割合は前回調査時と大きな変化はない。一方、オートバイは、2.1%（第6回）→1.4%（第7回）→1.1%（第8回）→0.6%（第9回）→0.5%（今回）と回を追うごとに下がっており、バイク離れの傾向は顕著である。小金井キャンパス（工学部・工学府）では府中キャンパス（農学部・農学府）より徒歩の割合が高く、自転車の割合はその逆の傾向になっている。

#### Q23. 主な通学手段・方法

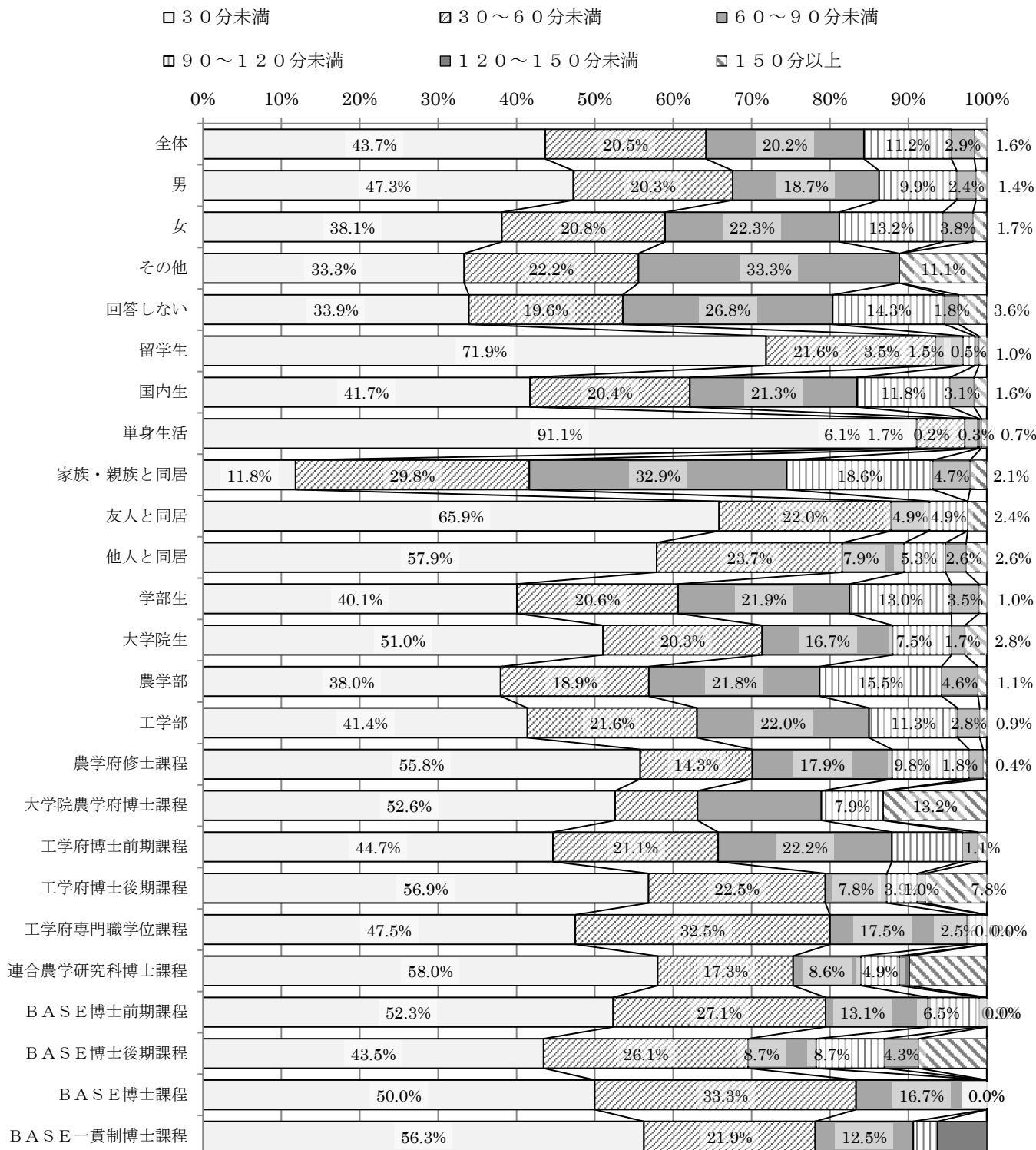
	徒歩	自転車	オートバイ	自動車	公共交通機関（電車、バスなど。自転車併用含む）	不明（※）	合計
全体	14.9%	30.1%	0.5%	1.4%	53.2%	0.0%	100.0%
男	16.6%	32.4%	0.6%	1.5%	48.9%	0.0%	100.0%
女	11.9%	26.8%	0.3%	1.2%	59.9%	0.0%	100.0%
その他	33.3%	0.0%	11.1%	0.0%	55.6%	0.0%	100.0%
回答しない	14.3%	19.6%	0.0%	0.0%	66.1%	0.0%	100.0%
留学生	27.1%	45.2%	1.0%	0.0%	26.6%	0.0%	100.0%
国内生	14.0%	29.0%	0.5%	1.5%	55.0%	0.0%	100.0%
単身生活	35.3%	54.0%	0.6%	0.9%	9.2%	0.0%	100.0%
家族・親族と同居	1.8%	13.3%	0.3%	1.7%	82.8%	0.0%	100.0%
友人と同居	9.8%	56.1%	2.4%	0.0%	31.7%	0.0%	100.0%
他人と同居	5.3%	52.6%	5.3%	0.0%	36.8%	0.0%	100.0%
学部生	13.9%	27.7%	0.3%	0.5%	57.5%	0.0%	100.0%
大学院生	16.8%	34.8%	1.0%	3.1%	44.3%	0.0%	100.0%
農学部	8.8%	32.2%	0.1%	0.5%	58.4%	0.0%	100.0%
工学部	17.2%	24.9%	0.4%	0.6%	57.0%	0.0%	100.0%
農学府修士課程	10.3%	46.4%	0.9%	2.2%	40.2%	0.0%	100.0%
大学院農学府博士課程	13.2%	36.8%	0.0%	5.3%	44.7%	0.0%	100.0%
工学府博士前期課程	18.3%	26.4%	0.8%	1.4%	53.1%	0.0%	100.0%
工学府博士後期課程	23.5%	33.3%	2.9%	4.9%	35.3%	0.0%	100.0%
工学府専門職学位課程	17.5%	35.0%	0.0%	7.5%	40.0%	0.0%	100.0%
連合農学研究科博士課程	12.3%	44.4%	0.0%	9.9%	33.3%	0.0%	100.0%
B A S E 博士前期課程	25.2%	28.0%	1.9%	1.9%	43.0%	0.0%	100.0%
B A S E 博士後期課程	13.0%	30.4%	0.0%	0.0%	56.5%	0.0%	100.0%
B A S E 博士課程	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
B A S E 一貫制博士課程	15.6%	46.9%	0.0%	3.1%	34.4%	0.0%	100.0%

※不明:無回答、重複回答を含む

## 24. 通学所要時間

通学の片道所要時間は「30分未満」が全体の47.5%（第7回）→46.7%（第8回）→44.7%（第9回）→43.7%（今回）と減少傾向にあり、1時間未満で通学している学生の比率も65.9%→64.0%→63.9→64.2%となって、全体のほぼ3分の2の学生が1時間以内で通学している状況に変わりはない。学年が進むにつれて通学所要時間が短くなる傾向にあるが、これは自宅外生の比率が増えるためと考えられる（質問事項16）。自宅生比率が高い女子学生は、男子学生と比較して通学所要時間が長くなる傾向にある。片道2時間を超える学生の比率についてみると、女子学生が若干多いが差は小さい（女子5.5%、男子3.8%）。

### Q24. 通学の片道の所要時間



## 第V章 学業、学習環境

### 2.5. 本学への満足度

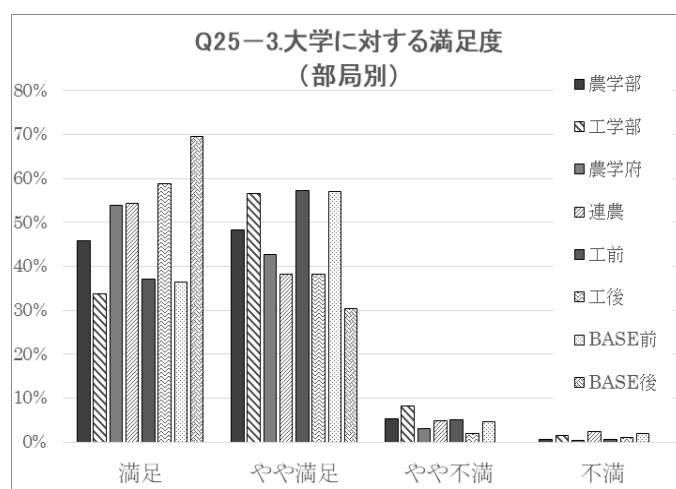
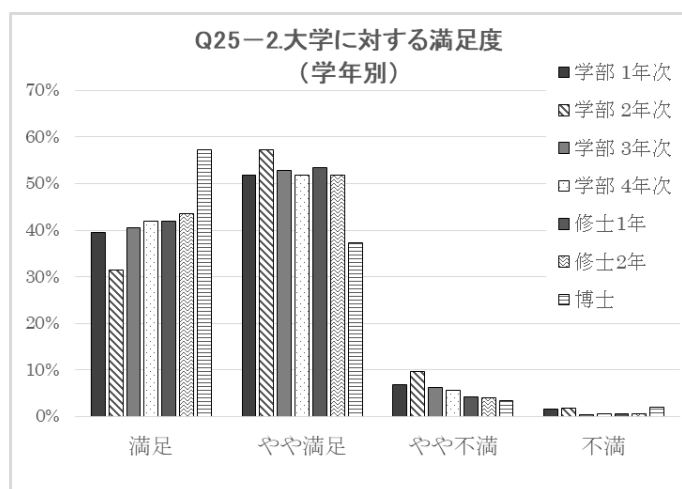
本学に対する満足度は、ここ12年間高い水準で推移している。特に今回の調査では92.9%の回答者が「満足」または「ほぼ満足」と回答し、調査開始以降最も高い満足度が示された。前回調査と比べると全ての学生区分で満足度が向上している。学部大学院別では大学院生、学部別では農学部生、男女別では女子学生の満足度が高く、これは以前からの傾向と同様である。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大のために学習環境や学生対応においても様々な変化があったが、学生の満足度の維持改善は達成されたことが確認できる。

#### Q25-1. 大学に対する満足度の推移

調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
全体	78.6%	79.9%	79.1%	87.6%	89.7%	85.0%	85.0%	92.9%
男	75.8%	77.9%	76.2%	86.2%	88.7%	83.3%	83.0%	91.7%
女	82.3%	84.1%	87.5%	91.4%	91.8%	88.9%	88.8%	95.3%
学部		76.7%	76.8%	85.7%	88.6%	84.2%	83.1%	91.8%
大学院	81.7%	87.4%	85.2%	92.2%	92.4%	86.9%	89.3%	95.2%
農学部	81.4%	83.6%	84.3%	88.6%	89.6%	90.8%	88.2%	94.0%
工学部	68.4%	72.1%	73.9%	84.5%	88.0%	80.7%	80.0%	90.4%
学業困難者				81.9%	85.6%			
留学生				92.8%	96.8%	94.1%	90.1%	94.5%

※大学院生は、農学府・工学府・BASE・連農の合計。空欄は調査項目なし。

学年別に見ると、「満足」と回答した学生の割合は学部2年次で3割、博士学生で6割弱、その他の学年では4割となっている。前回調査と比較すると、学部3~4年次、修士1年、博士の区分でそれぞれ1割ずつ増加しており、今回の調査に見られた満足度の向上は、高学年における満足度の向上によるものとみられる。また、部局別にみると、BASE後期、工学府後期、連農、農学府の「満足」が5割を超えている。



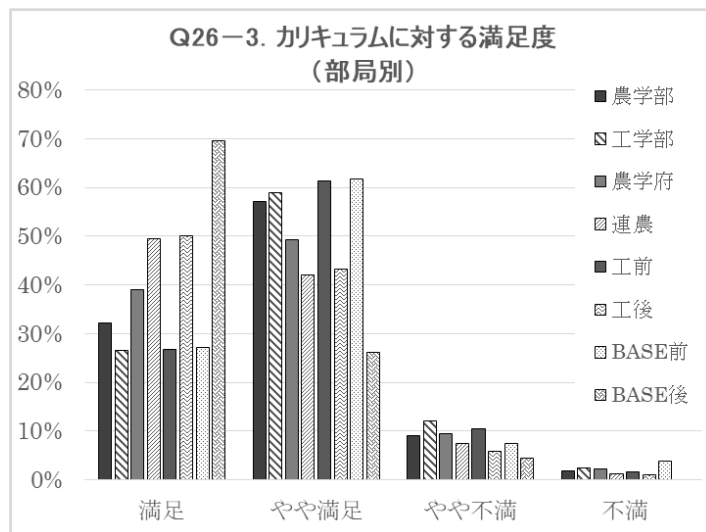
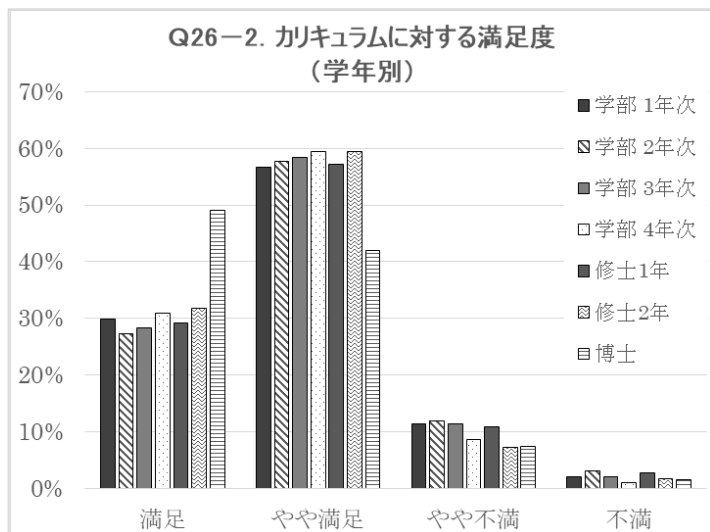
## 26. カリキュラムへの満足度

「満足」または「ほぼ満足」とする回答者が全体の 87.7%と大きく増加し、カリキュラムについても調査開始以降最も高い満足度が示された。全ての学生区分で向上が見られ、特に学部で向上した度合いが大きく、農学部、工学部ともに、「満足」または「ほぼ満足」の合計が前回調査から 2 割程度増加した。令和元年度には工学部、農学部、学部教養教育においてカリキュラム改正が実施され、令和 2、3 年度には全学的なオンライン授業の導入があったが、いずれも学生の満足度の維持向上に貢献したとみられる。

### Q26-1. カリキュラムに対する満足度

調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
全体	41.5%	52.8%	55.4%	79.0%	83.4%	68.6%	70.9%	87.7%
男		50.5%	53.3%	78.3%	83.7%	67.4%	68.1%	86.1%
女		57.7%	61.6%	81.3%	82.9%	71.5%	76.3%	90.6%
学部		50.4%	53.6%	77.9%	77.0%	66.0%	69.0%	86.9%
農学部	39.2%	52.4%	48.6%	71.6%	77.0%	68.0%	70.1%	89.2%
工学部	41.2%	49.2%	55.5%	80.7%	84.9%	64.9%	68.4%	89.1%
大学院	47.9%	58.6%	60.1%	82.0%	87.2%	75.0%	75.3%	85.6%
農学府				79.6%	80.9%	72.7%	78.0%	88.2%
工学府				82.5%	89.8%	76.3%	73.2%	89.4%
連農				80.0%	89.8%	75.4%	83.3%	91.4%
BASE				85.1%	84.6%	72.5%	76.8%	89.3%
留学生				95.7%	90.9%	92.0%	82.1%	92.0%

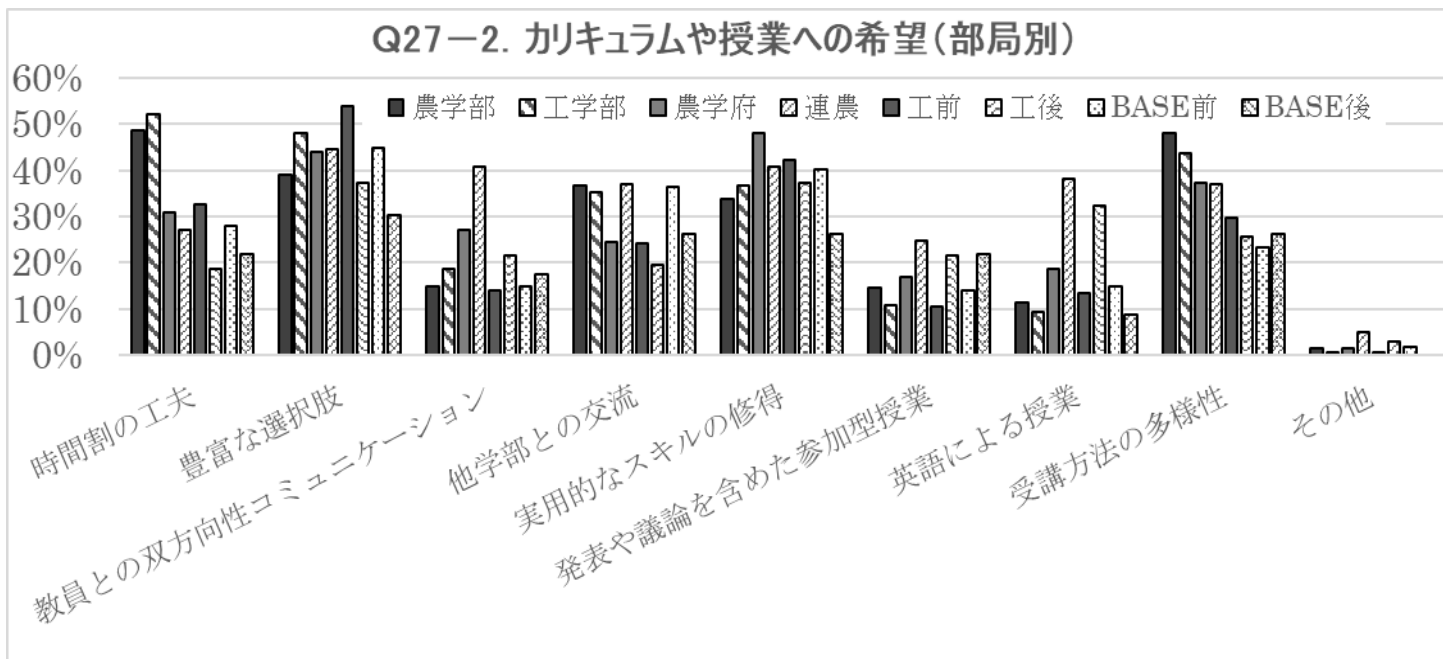
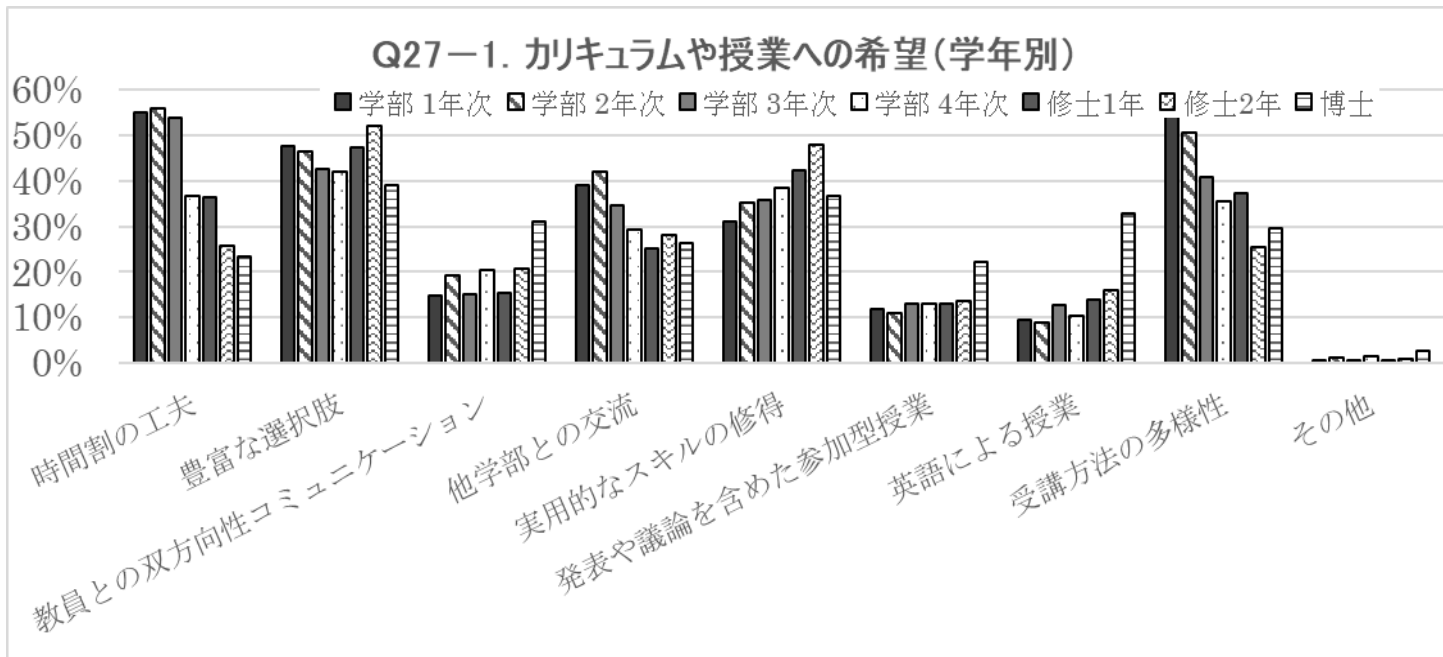
回答の内訳の割合については、博士学生を除くと学年間に大きな差はなく、「満足」は 3 割程度、「やや満足」6 割程度となっている。博士学生では、「満足」は 5 割程度、「やや満足」4 割程度である。また、部局別にみると、BASE 後期の「満足」が 7 割、工学府後期と連農の「満足」が 5 割となっており、高い水準となっている。





## 27. カリキュラムや授業への希望（複数回答可）

学部生からは、「受講方法の多様性」や「時間割の工夫」、「豊富な選択肢」への希望が特に高く、4割から5割の学部1~3年生が希望すると回答した。次いで「他学部との交流」、「実用的なスキルの修得」への希望が高い。大学院生では、4割から5割程度の学生が「豊富な選択肢」と「実用的なスキルの修得」を希望している。一方で、「発表や議論を含めた参加型授業」や「英語による授業」への関心はそれほど高くないが、博士課程の学生からは突出して希望が多くなっている。



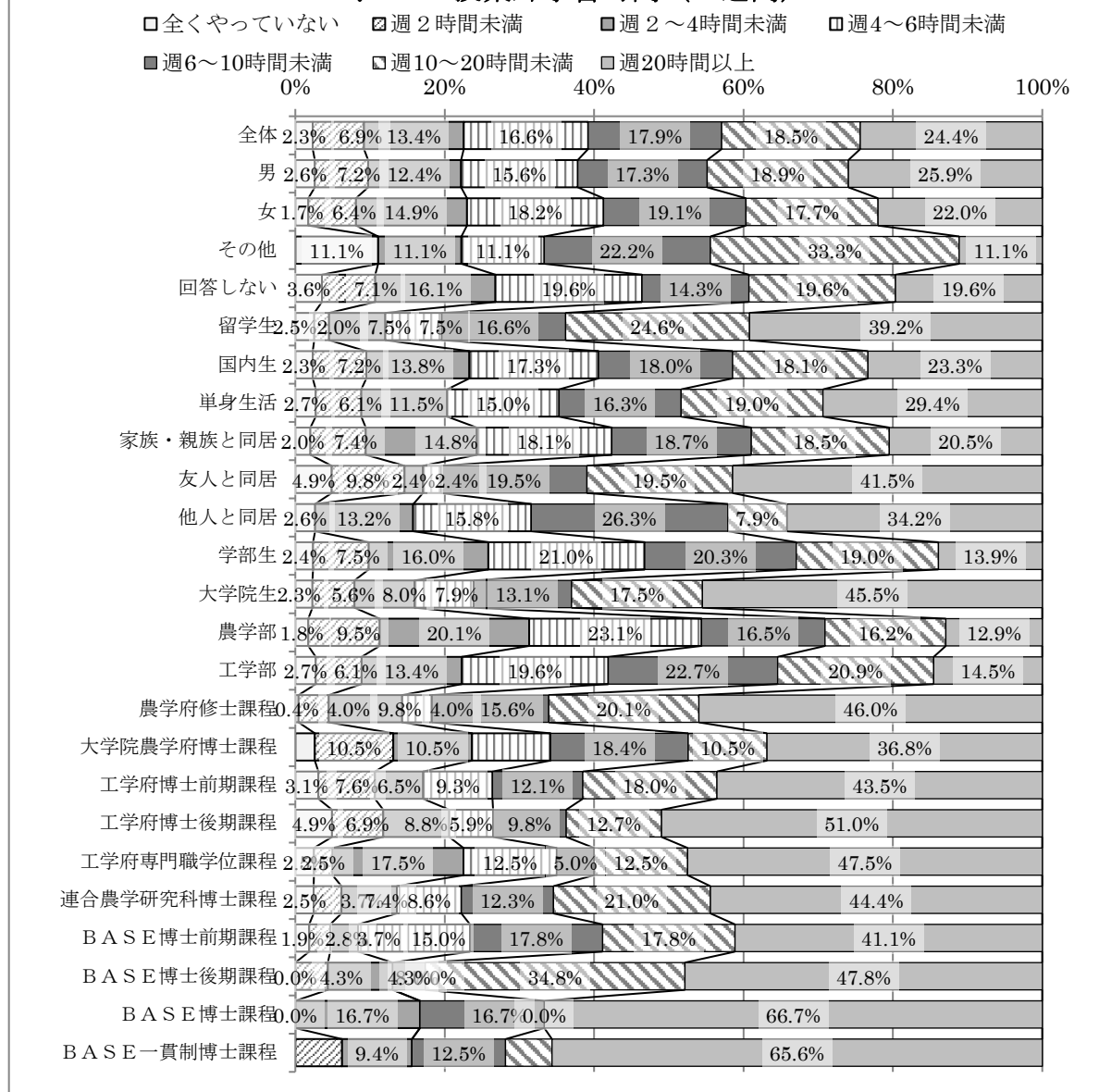
## 28. 一週間の平均授業外学習時間

週6時間以上の割合をみると、第7回調査から第9回調査まで46.7%、51.4%、48.9%と5割前後の良好な状態が維持されていたが、今回は60.8%と授業外学習時間の増加が見られた。令和2年度以降のオンライン授業の導入に伴い、課題や予習・復習の機会が増えたことも一因と考えられる。学部生と大学院生では学習スタイルが大きく異なり、週10時間以上の割合では学部生は33%、大学院生は66%と、大学院生は長時間の授業外学習を行う様子が見られる。大学院では、課程ごとにも授業外学習時間の傾向が異なり、分野の特性による違いと考えられる。

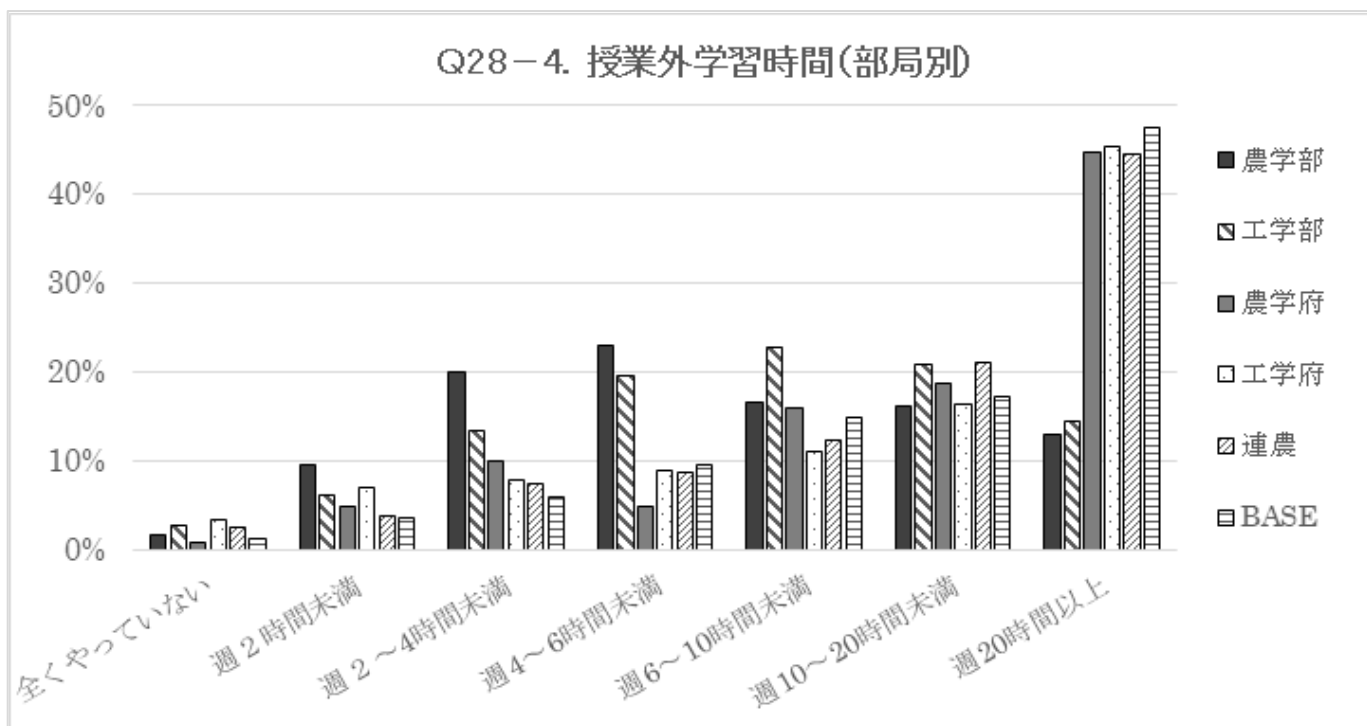
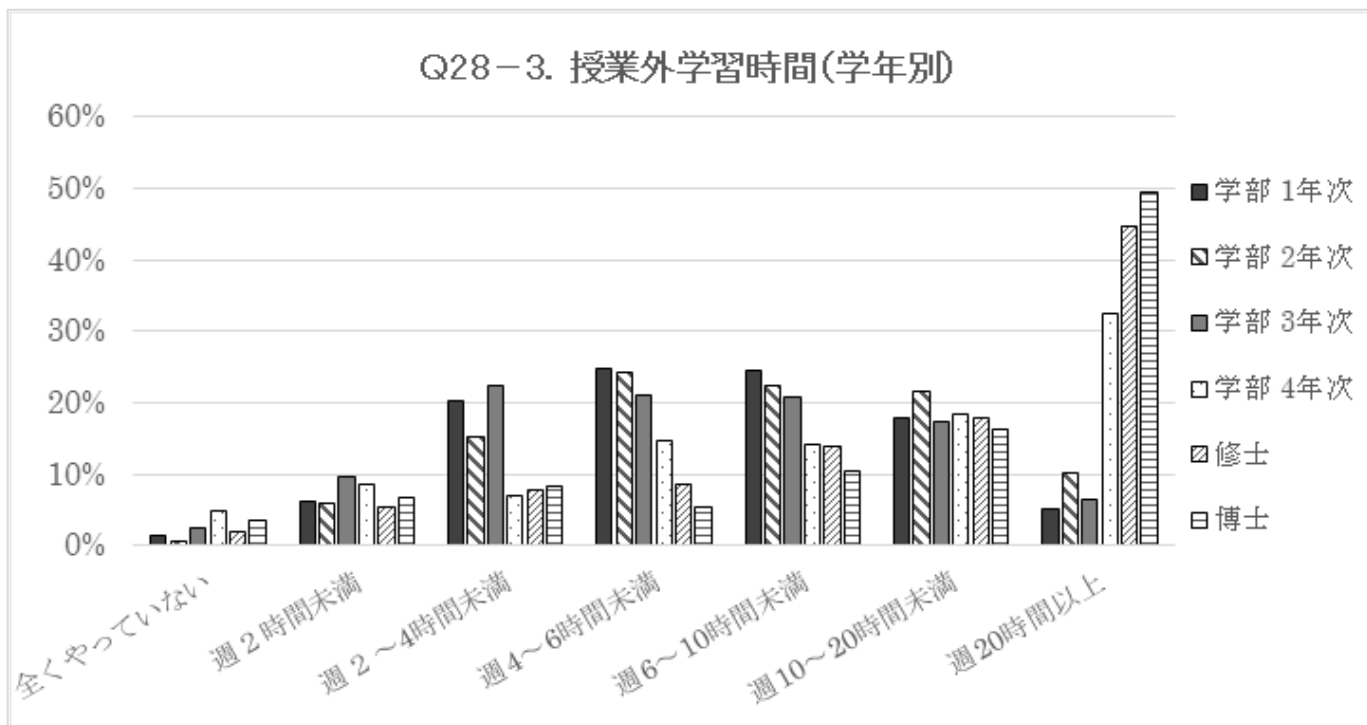
Q28-1. 授業外学習時間（一週間）

	0時間	0-2時間	2-6時間	6-10時間	10-20時間	20時間以上
第5回(H17)	8.2%	16.3%	32.0%	22.2%	11.5%	9.9%
第6回(H21)	8.6%	22.2%	34.3%	19.9%	8.7%	6.3%
第7回(H24)	6.1%	16.0%	31.2%	20.0%	13.4%	13.3%
第8回(H27)	4.8%	11.3%	32.5%	15.2%	13.0%	23.2%
第9回(H30)	5.3%	12.2%	32.8%	13.4%	12.7%	22.8%
第10回(R3)	2.3%	6.9%	30.0%	17.9%	18.5%	24.4%

Q28-2. 授業外学習時間（一週間）



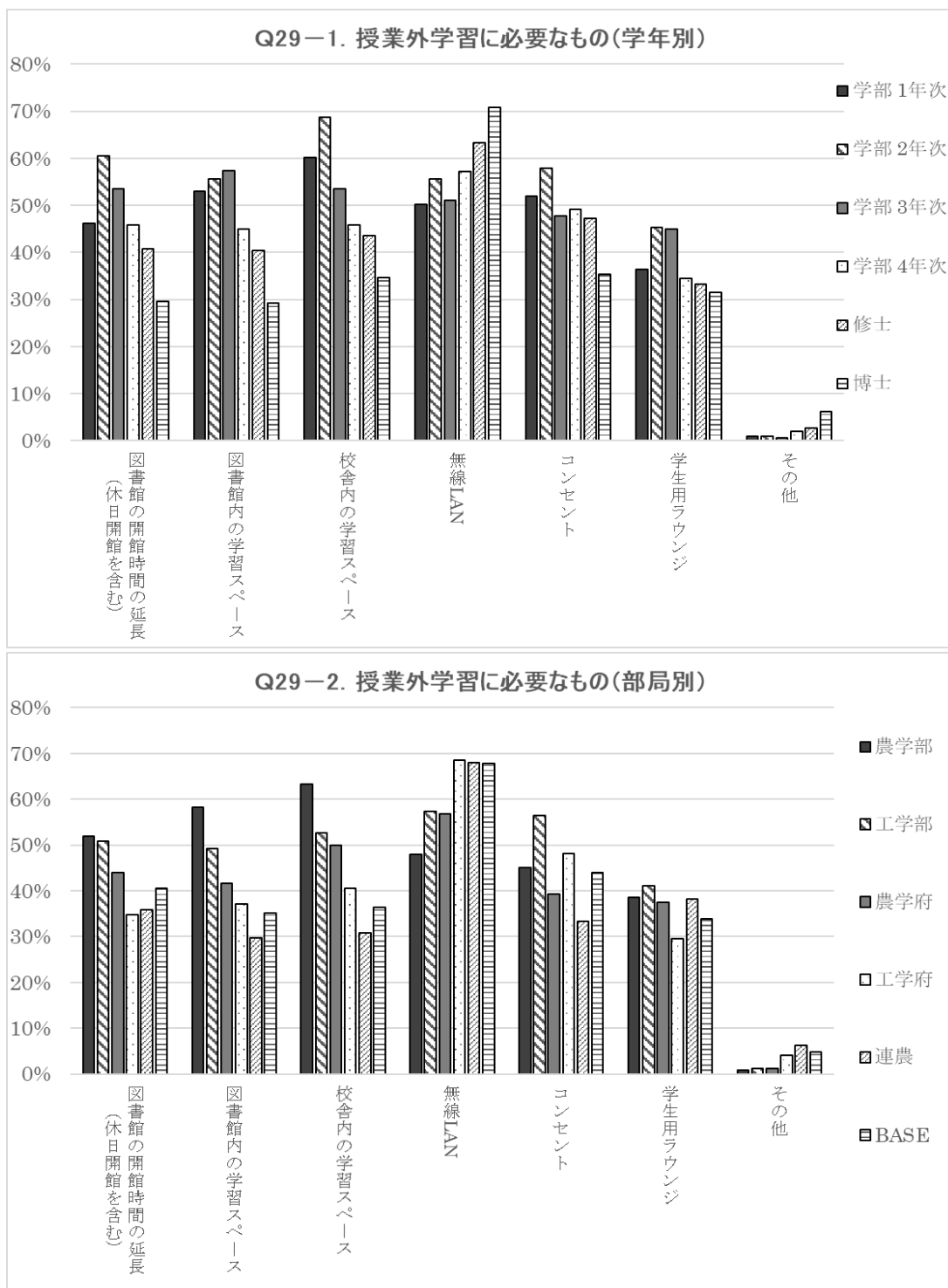
学部4年次、修士、博士では、授業外学習時間を20時間以上とする学生がそれぞれ3割、4割、5割程度となっているが、これは研究時間を含めていると考えられる。学部1～2年次において、週2時間未満とする回答者の割合が前回調査から半減し、6時間以上とする回答者の割合が増えている。部局別に見ると、工学部生の方が、農学部生よりやや多めに授業外学習を行う傾向がある。大学院では、前述のように課程ごとに傾向の違いが見られたが、部局ごとに集計した場合は大きな差は見られない。



## 29. 授業時間外学習を行うのに必要な施設・設備や対策

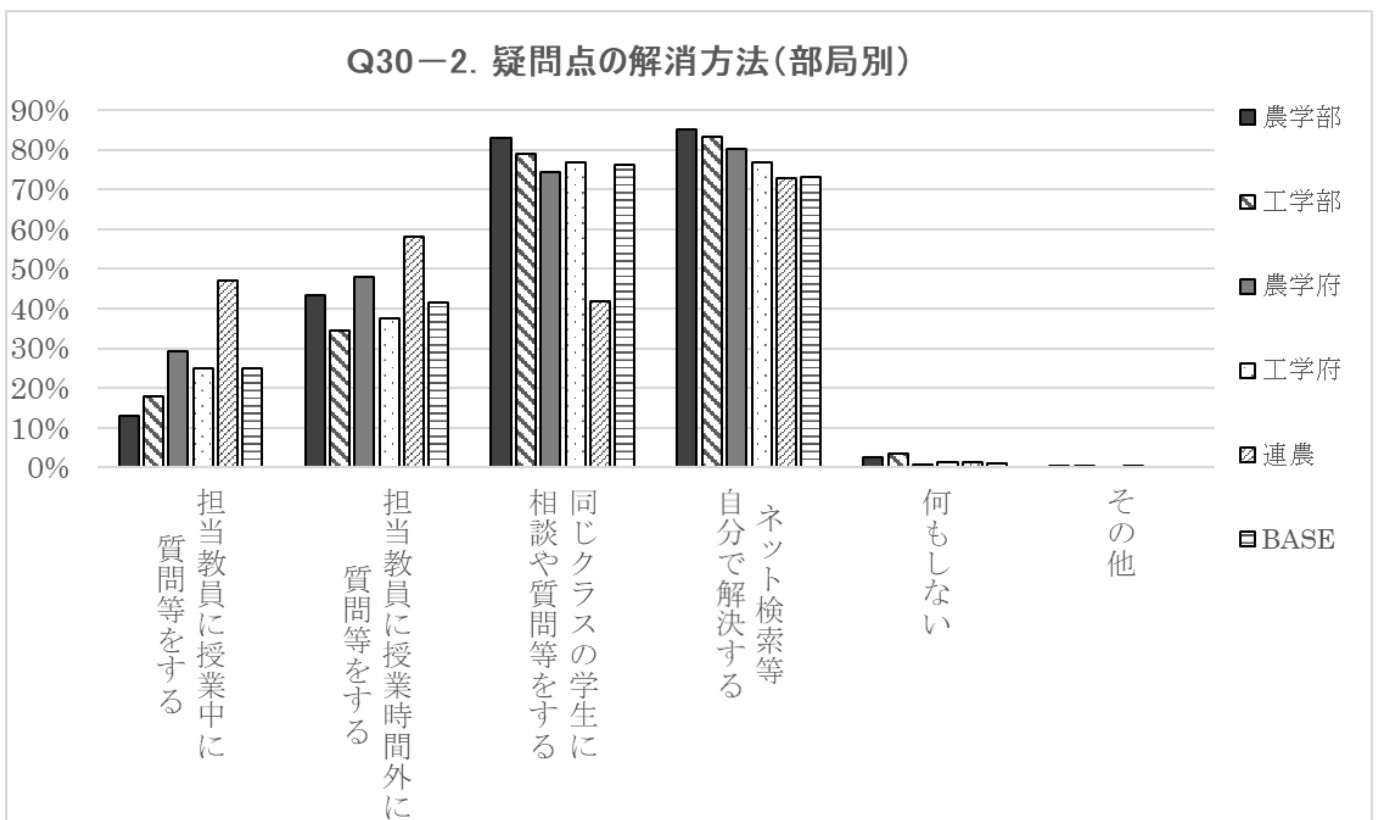
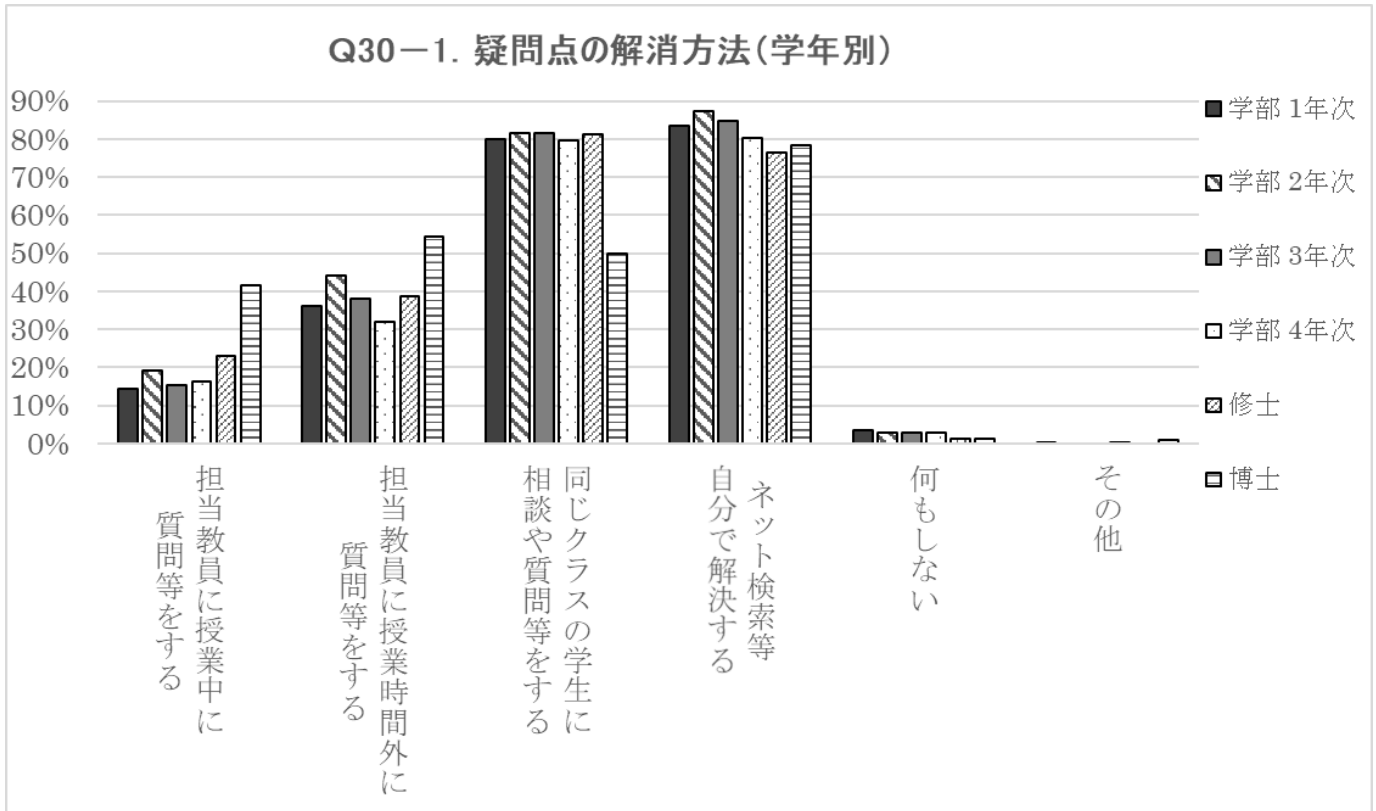
図書館の開館時間の延長、校舎内や図書館内の学習スペースへの希望は以前より高かったが、希望する回答者の割合が全ての学年で1~2割増え、学部1年次~3年次の回答者の5割以上が希望すると回答している。特に、学部2年生の回答者の7割が校舎内の学習スペースへの希望を示した。部局別にみると、工学部よりも農学部の学生が、工学府よりも農学府の学生がより多く学習スペースを希望しており、キャンパス間に多少の差が見られる。無線LANやコンセント設備への希望は今回大幅に増え、無線LANについてはどの学年でも5割から7割の学生が希望している。コンセント設備については、農学部よりも工学部、農学府よりも工学府の学生からの希望が多い。

自由記述を確認すると、周囲を気にせずオンライン授業に参加し発言ができる環境、プレゼンを収録できるスペース、ディスカッションができる環境といった、オンラインによる学術活動に対応するための要望が寄せられている。



### 30. 授業における疑問についての対処方法

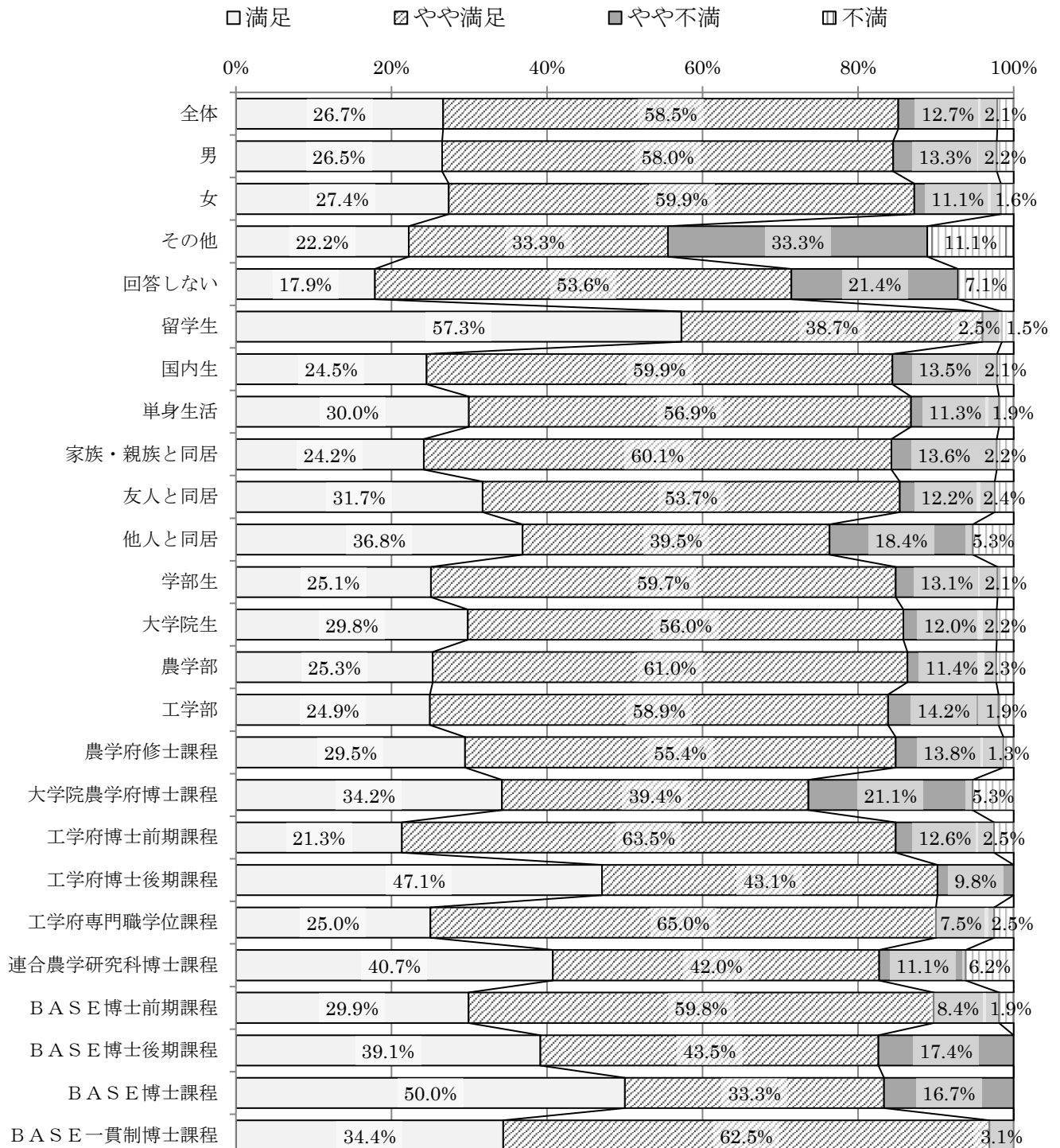
「クラスの学生に相談する」と「自分で解決する」学生がもっとも多い回答傾向は、これまでの調査と同様である。細かく見ると、学部生でも「自分で解決する」と回答した学生が前回の6割前後から8割前後に増え、ネット活用等の学習スタイルの変化が見られる。また、全学年において、「担当教員に質問する」と回答した学生の割合が1割程度増加しており、微増ではあるが、教員と学生の双方向コミュニケーションが増えている傾向が伺える。部局別で比較すると、担当教員に質問する学生の割合が農学部、農学府、連農で高いという、前回と同様の傾向がみられる。



### 3 1. 講義室、実験室への満足度

全体では「満足」、「やや満足」と答えた回答者が 85.2%となり、調査開始以来もっとも高い満足度が示された。学部と大学院、農学部と工学部等の属性による違いは、特に見られない。前回調査まで 10 年ほど減少傾向にあった満足度が、今回改善され良い結果となった一方で、事項で説明されるように講義室や実験室への改善を希望する割合も増加している。オンライン授業導入にも対応した環境整備は、今後も必要となると予想される。

Q3 1-1. 設備への満足度(属性別)



### Q31-2. 設備への満足度の推移 [%]

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
良い	44.2									
満足している		38.9	41.4	63.7	69.6					
満足+やや満足						80.6	75.7	70.1	68.2	85.2

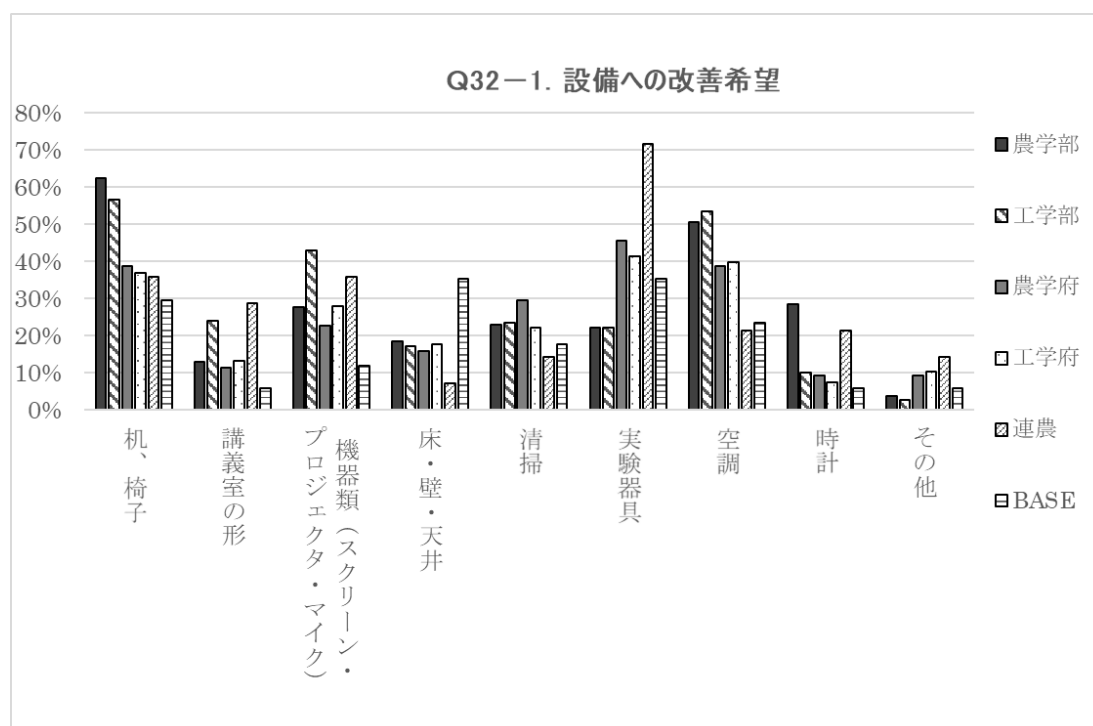
※選択肢は第1回は「良い」「良くない」「早急に改善を要する」の3択、第2～5回は「満足している」「満足していない」の2択、第6～8回は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4択。

### Q31-3. 設備への満足度の推移（部局別）

満足+やや満足	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
	H21	H24	H27	H30	R3
農学部	70.9%	73.7%	73.3%	69.6%	86.3%
工学部	82.6%	75.7%	67.2%	67.2%	83.9%
農学府	73.8%	69.7%	69.0%	69.1%	84.8%
工学府	87.7%	78.0%	72.8%	65.2%	86.3%
BASE	90.3%	86.1%	75.0%	80.8%	89.9%

## 3.2. 講義室、実験室への改善希望

机や椅子、実験器具、空調に改善を希望する回答が多く集まり、この傾向は前回調査と同様であるが、教室設備の改善を希望する回答者の割合が1割程度増えている。特に、机や椅子に関する回答者の割合は、学部1,2年生で前回の4割程度から6割弱まで増えている。自由記述では、椅子の間隔や教室の狭さへのコメントが確認され、新型コロナウイルス拡大防止への対策も一因と考えられる。また、Q29にもあったコンセント増加についても繰り返し指摘されているほか、設備の古さに関する指摘もあった。



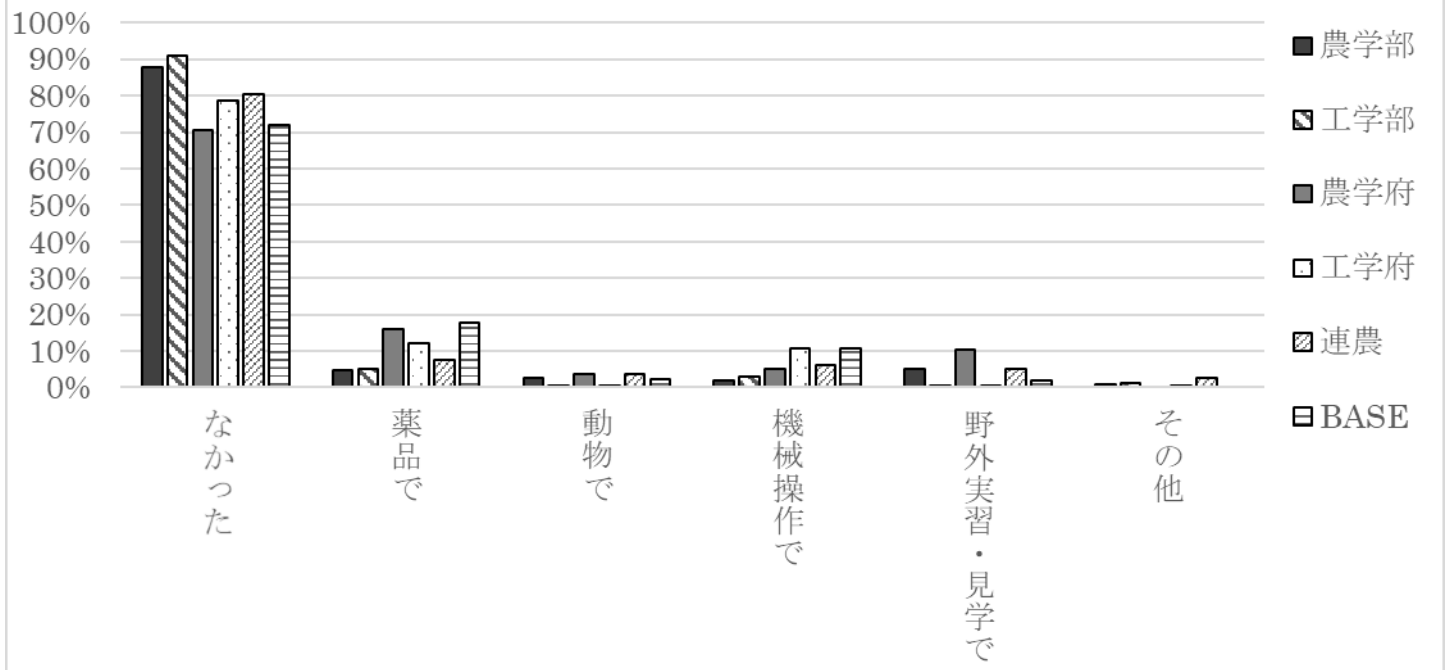
### 3.3. 実験・実習における危険体験

第8回調査で具体的な内容に関する選択肢を増やしたため、危険な体験が「あった」とする回答が2割に増えた経緯があったが、今回は、危険体験があったとする回答割合が第8、9回調査よりわずかに減少した。特に、学部において、危険体験が「なかった」とした学生の割合が前回の8割強から9割前後に向上した。

Q33-1. 危険体験の有無の推移

調査年度	第3回 H12	第4回 H15	第5回 H17	第6回 H21	第7回 H24	第8回 H27	第9回 H30	第10回 R3
あった	20.9%	11.6%	12.5%	9.0%	7.3%	19.6%	19.3%	17.3%
なかった	79.1%	88.4%	87.5%	91.0%	92.7%	80.4%	80.7%	85.1%

Q33-2. 危険体験(部局別)





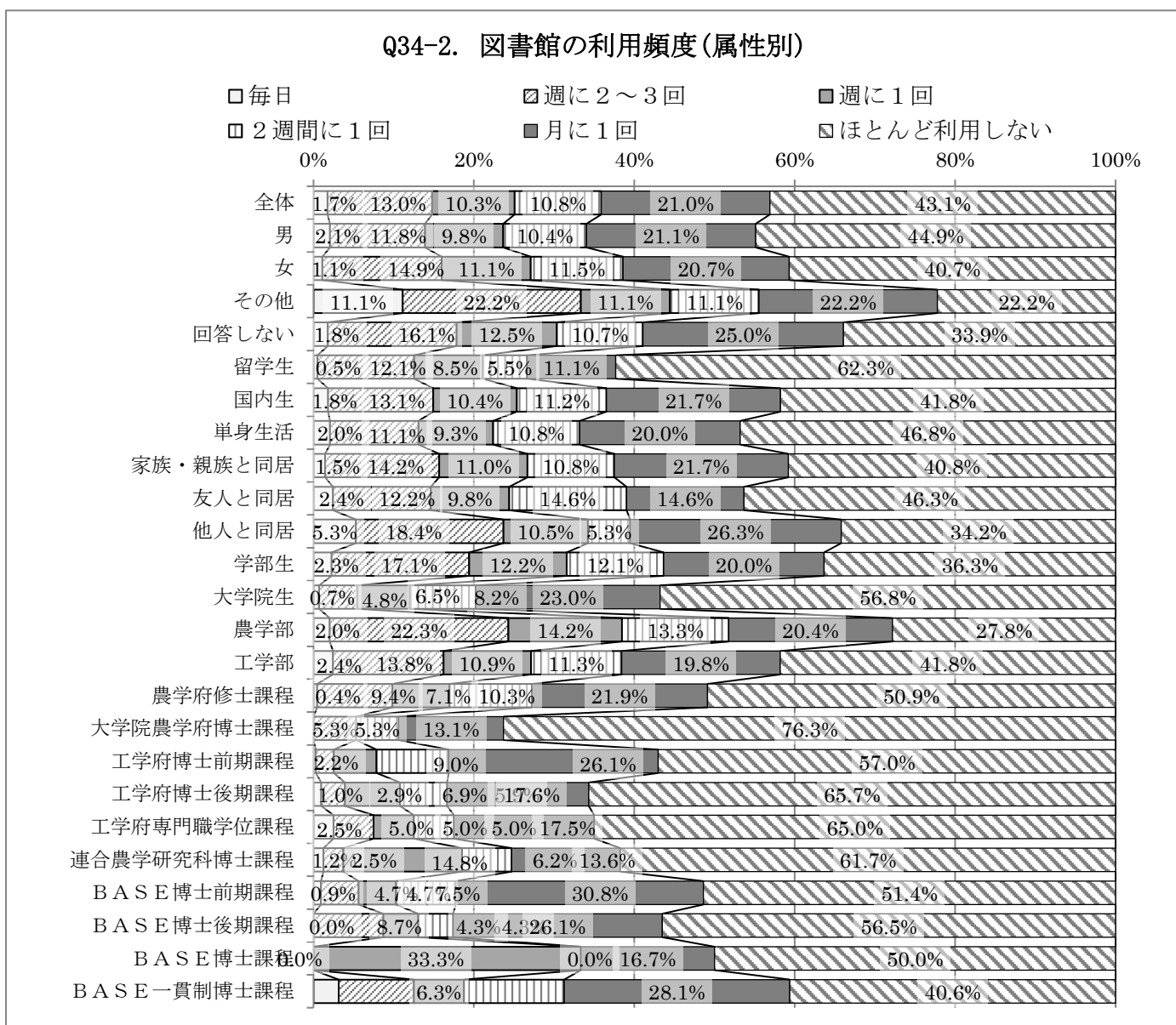
### 3 4. 図書館の利用頻度

図書館の利用頻度は、今回の調査で大幅な低下が見られた。「ほとんど利用しない」学生の割合が、前回調査の26.9%から43.1%と増加し、週1回以上利用する学生は、前回調査の42.3%から25.0%に減少した。属性別に比較すると、これまでと同様、学部生が大学院生よりも利用頻度が高い傾向がある。今回、特に学部生による利用頻度の低下が著しく、「ほとんど利用しない」学生の割合は、学部生では前回の18.7%から36.3%に、大学院生では前回の45.7%から56.8%に増加している。令和2年度に入構規制があった影響か、図書館の活用が学部生に浸透していない可能性も考えられる。

Q 3 4 - 1. 図書館の利用頻度の推移

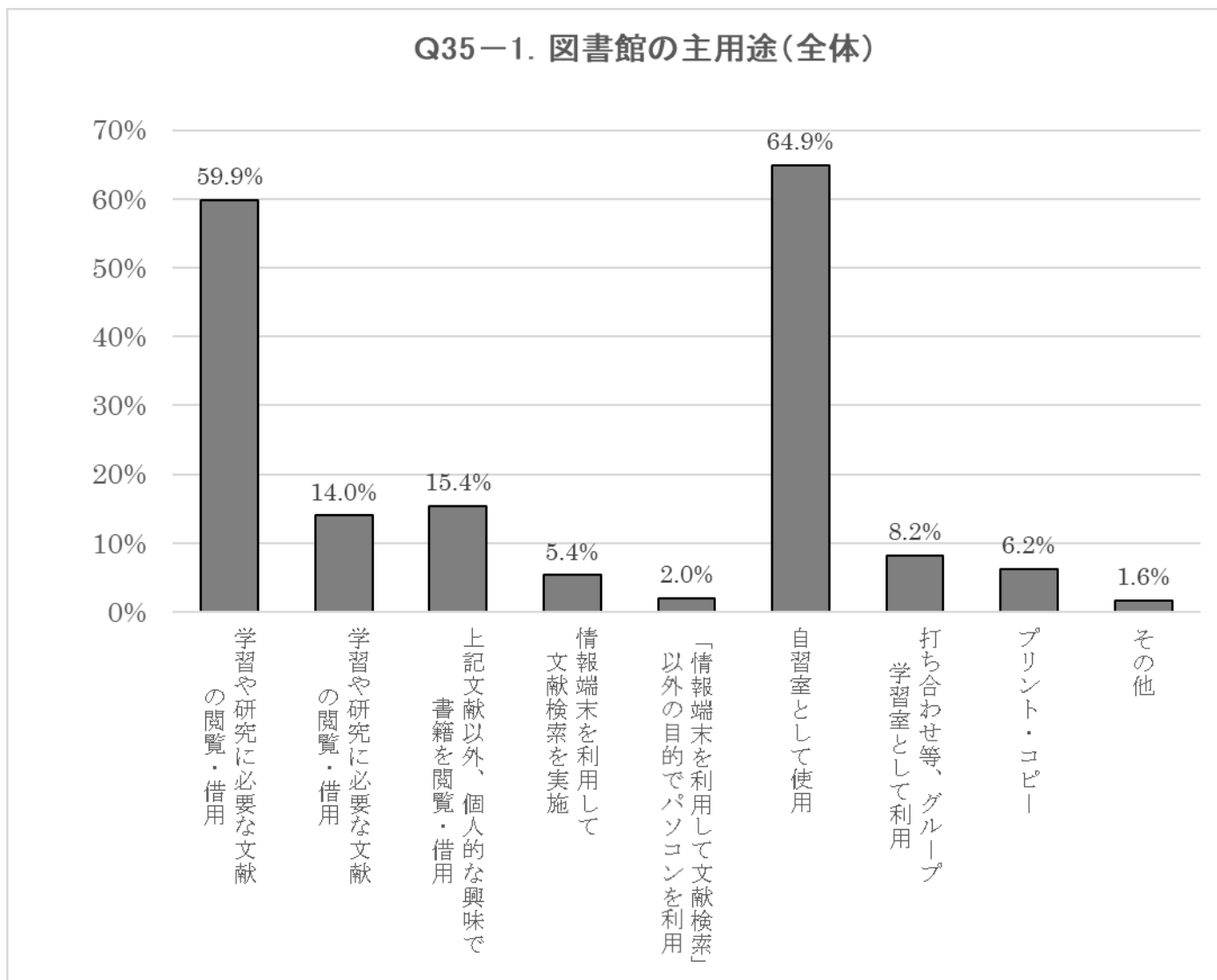
第6回(H21)	よく利用する		ときどき利用する			全く利用しない
	34.5%		61.4%			4.1%
第7回(H24)	毎日	週に2~3回	週に1回	2週間に1回	1月に1回	ほとんど利用しない
	6.5%	29.6%	17.7%	13.1%	19.1%	13.9%
第8回(H27)	毎日	週に2~3回	週に1回	2週間に1回	1月に1回	ほとんど利用しない
	4.0%	22.8%	18.3%	13.2%	17.4%	24.1%
第9回(H30)	毎日	週に2~3回	週に1回	2週間に1回	1月に1回	ほとんど利用しない
	5.5%	21.6%	15.2%	12.8%	17.5%	26.9%
第10回(R3)	毎日	週に2~3回	週に1回	2週間に1回	1月に1回	ほとんど利用しない
	1.7%	13.0%	10.3%	10.8%	21.0%	43.1%

Q34-2. 図書館の利用頻度(属性別)

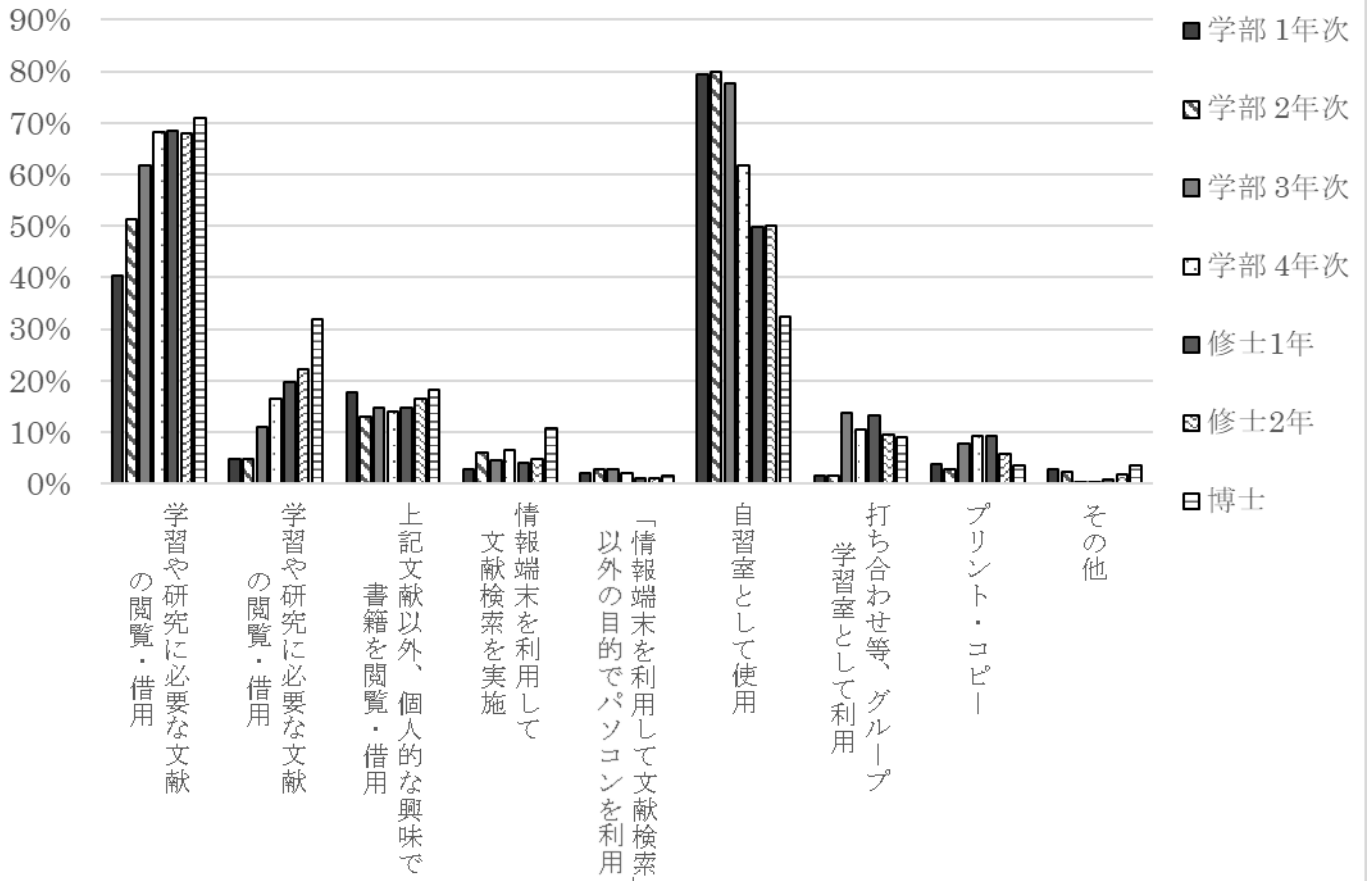


### 35. 図書館の主な用途

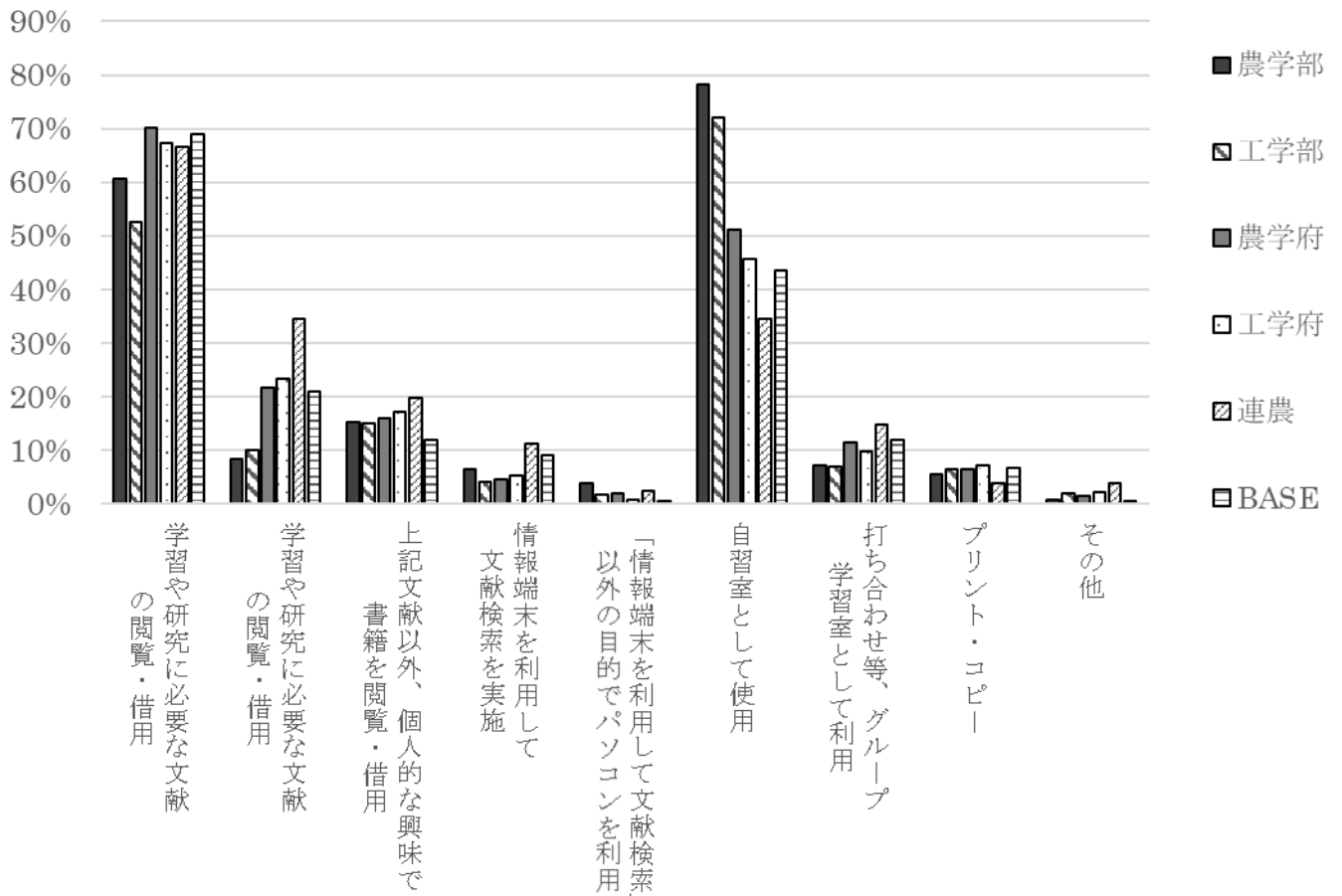
今回の調査では近年の図書館の利用方法が変わってきた様子が窺える。「学習や研究に必要な文献を閲覧・借用」の回答者の割合が前回の68.2%から59.9%に減少し、学年別のグラフを比較すると学部1~3年生で特に減少している。一方で、「自習室として使用」の回答者の割合は前回の51.2%から64.9%に増え、これは全学年で増加している。Q34の調査結果と併せて考えると、文献の閲覧や借用の目的で図書館を利用する学生が減少していることが、図書館の利用頻度の低下の一因となっている可能性も考えられる。



Q35-2. 図書館の主用途(学年別)



Q35-3. 図書館の主用途(部局別)



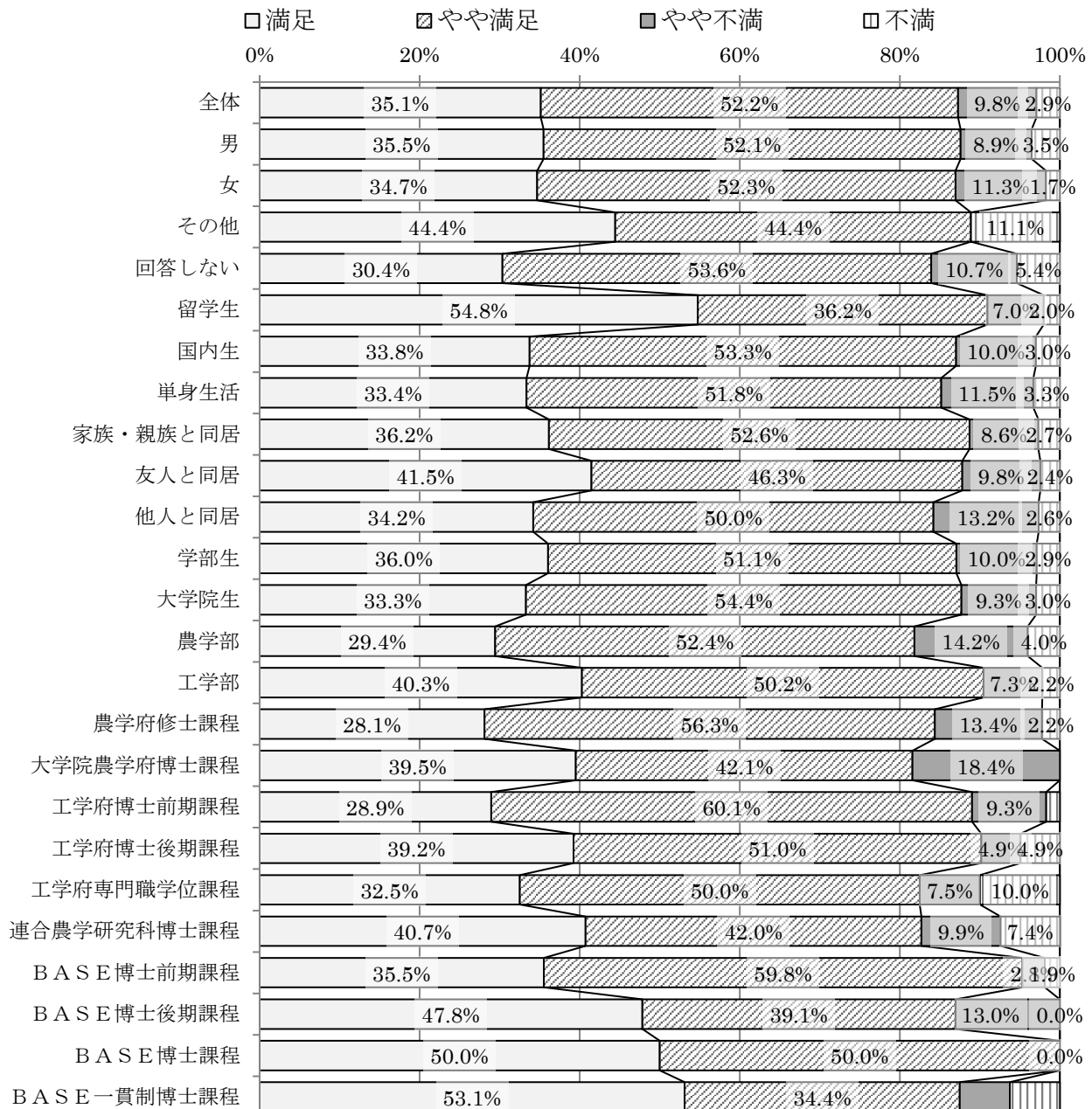
### 36. 図書館への満足度

「満足」と「やや満足」の回答者の割合は、今回 87.3%となり、これまで 69～74%あたりで推移していた満足度から向上した。属性別の満足度を確認しても特に大きな差異はなく全体的に高い満足度となっているが、府中キャンパス（農学部、農学府、連農）の方が、小金井キャンパス（工学部や工学府）よりも「やや不満」と「不満」とする回答者の割合がわずかに多い。

Q36-1. 図書館への満足度の推移 [%]

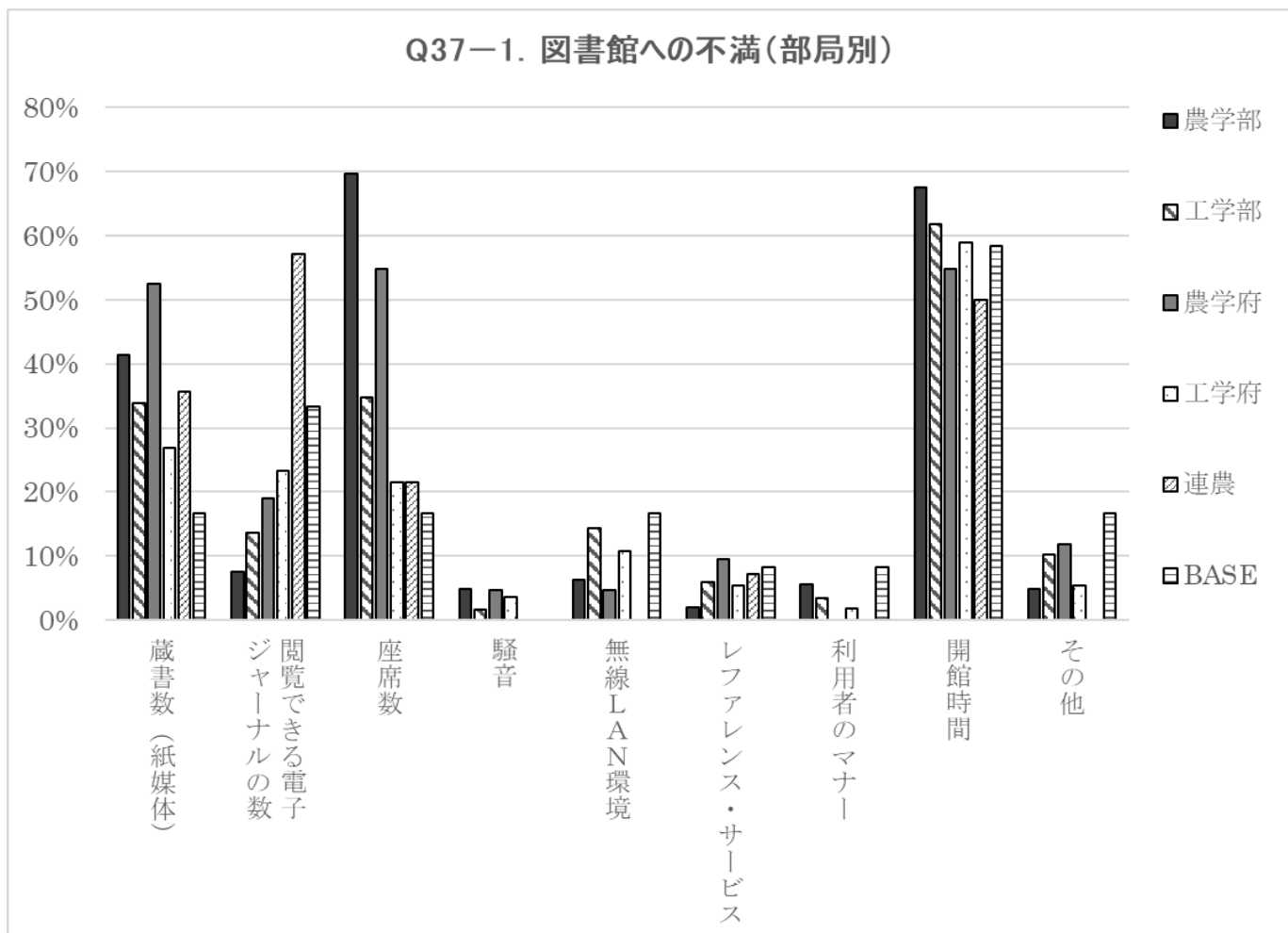
	満足	やや満足	やや不満	不満
第6回 (H21)	21.2	52.9	19.3	6.6
第7回 (H24)	24.3	47.5	20.3	7.8
第8回 (H27)	25.0	44.0	24.3	6.0
第9回 (H30)	27.3	45.6	21.2	5.0
第10回 (R3)	35.1	52.2	9.8	2.9

Q36-2. 図書館への満足度（属性別）



### 37. 図書館への不満

不満の要因として、座席数、開館時間、蔵書数（紙媒体）、電子ジャーナルの数をあげる回答が多かった。座席数については府中キャンパス（農学部、農学府）の学生からの不満が顕著で、不満とする回答者数の割合も今回の調査では農学部7割、農学府で5割強となり、それぞれ前回調査から2割程度増えている。開館時間についての自由記述を確認すると、開館時間の延長、土日の会館を希望する声が見られた。また、自習やグループワークができるスペースの不足への不満も見られる。電子ジャーナルについては大学院生、特に連農の学生からの不満が非常に多い。



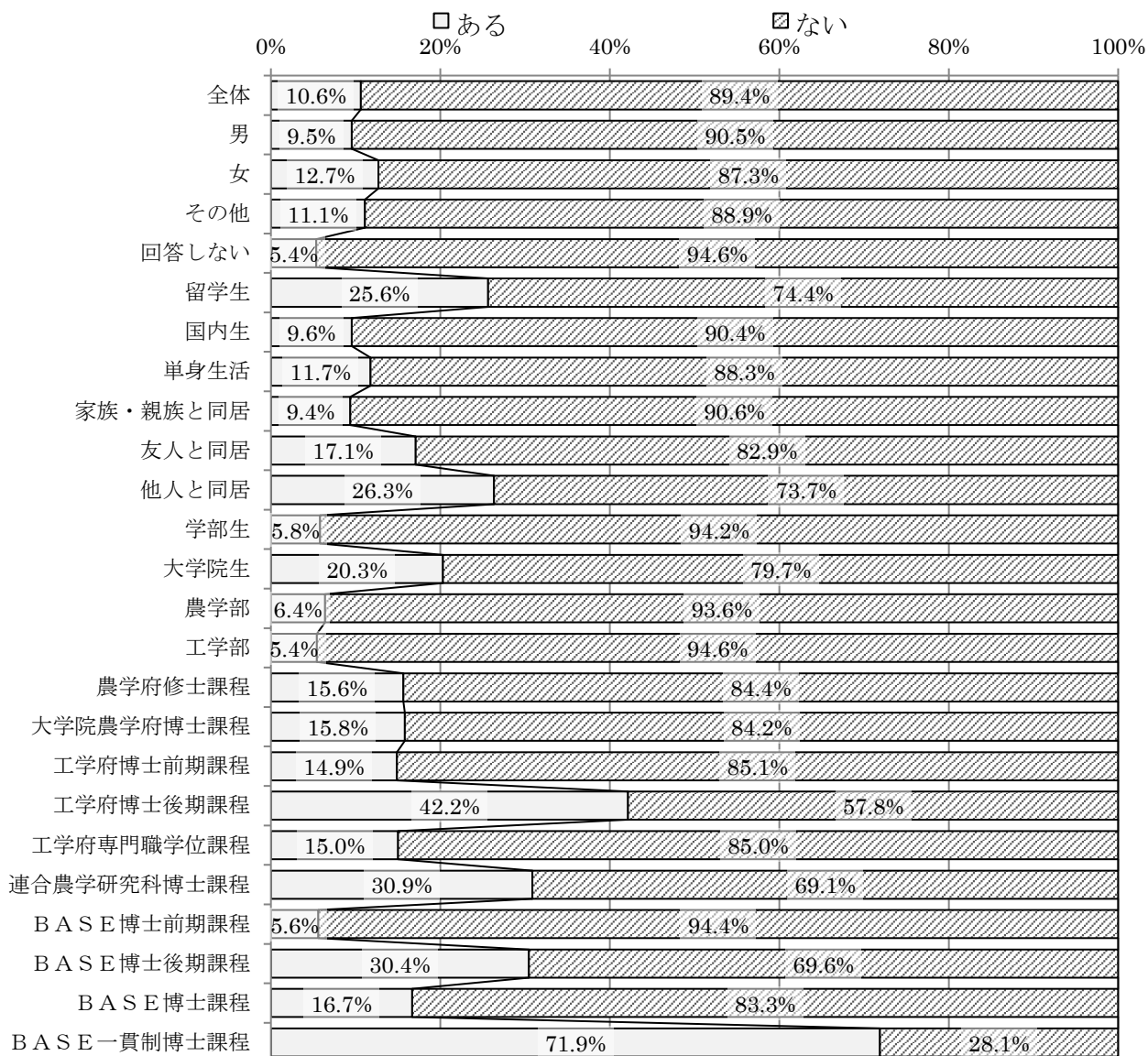
### 38. 在学中の海外活動経験

海外活動経験がある学生の割合は前回まで増加傾向にあったが、今回調査では10年前と同等の水準まで減少し、89.4%の回答者が海外経験がないと回答した。学部4年生以外の全ての学年で減少しており、特に学部2、3年、修士、博士2、3年において著しく減少している。令和2年以降は新型コロナ感染拡大の影響により留学や学会参加、海外の研究室訪問の機会も失われていることも一因と考えられる。

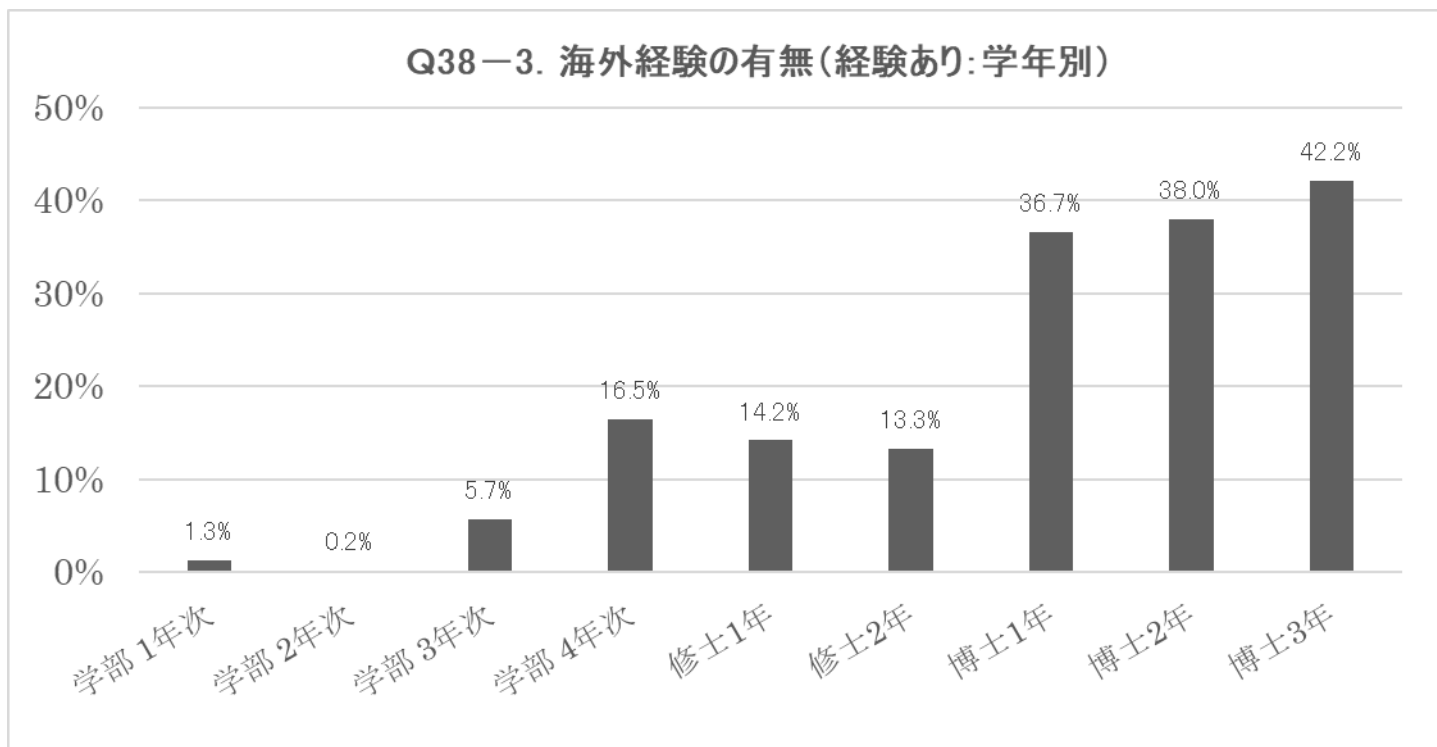
Q38-1. 海外経験の有無の推移 [%]

	ある	ない
第6回 (H21)	8.2	91.8
第7回 (H24)	9.7	90.3
第8回 (H27)	15.0	82.3
第9回 (H30)	17.7	79.5
第10回 (R3)	10.6	89.4

Q38-2. 海外経験の有無(属性別)



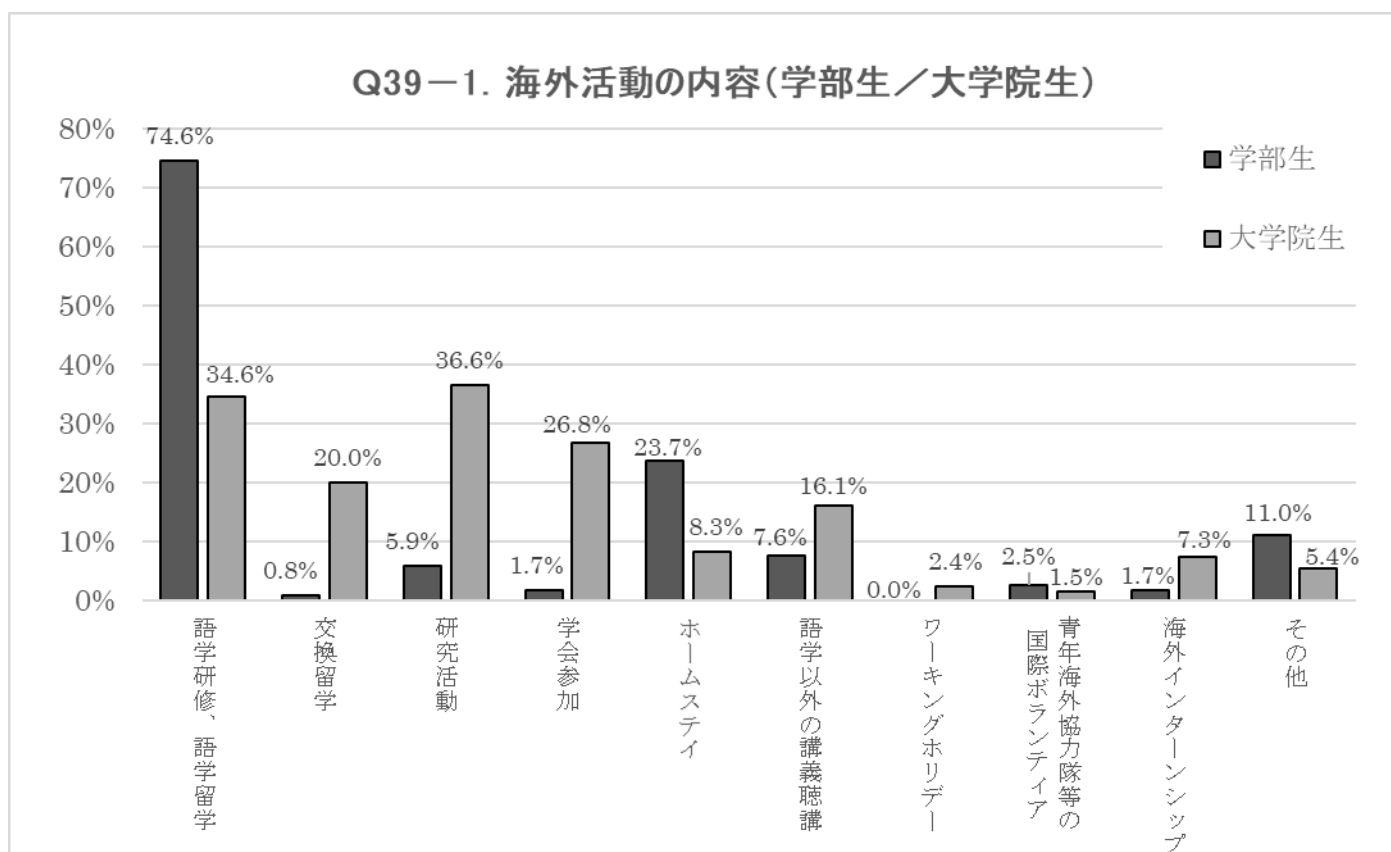
Q38-3. 海外経験の有無(経験あり:学年別)



### 39. 海外活動の内容

海外活動の内容は、前回とほぼ同様に学部学生が語学研修やホームステイであるのに対し、大学院生が研究活動・学会参加となっている。ただし、研究活動や学会参加の割合は減少しており、新型コロナウイルスの影響が見られる。部局別にみると、学部では両学部の活動内容に大きな差はないが、大学院では、部局や課程によって海外活動の内容が異なる傾向が見られた。

Q39-1. 海外活動の内容(学部生/大学院生)



### Q39-2. 海外活動の内容（属性別）

	語学研修、 語学留学	交換留学	研究活動	学会参加	ホームステイ	語学以外の講義聴講	ワーキングホリデー	青年海外協力隊等の 国際ボランティア	インターンシップ 海外	その他
全体	49.2%	13.0%	25.4%	17.6%	13.9%	13.0%	1.5%	1.9%	5.3%	7.4%
男	43.3%	12.2%	26.7%	17.8%	12.8%	12.8%	1.7%	1.7%	6.1%	7.8%
女	57.6%	13.7%	23.0%	17.3%	15.8%	12.9%	1.4%	1.4%	4.3%	6.5%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
回答しない	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
留学生	17.6%	21.6%	35.3%	39.2%	2.0%	17.6%	9.8%	0.0%	11.8%	5.9%
国内生	55.1%	11.4%	23.5%	13.6%	16.2%	12.1%	0.0%	2.2%	4.0%	7.7%
单身生活	41.3%	14.5%	24.6%	26.1%	10.1%	15.2%	0.0%	2.2%	4.3%	8.0%
家族・親族と同居	59.5%	10.1%	23.2%	9.5%	18.5%	10.1%	1.8%	1.8%	6.0%	7.1%
友人と同居	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%
他人と同居	20.0%	40.0%	50.0%	30.0%	0.0%	40.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
学部生	74.6%	0.8%	5.9%	1.7%	23.7%	7.6%	0.0%	2.5%	1.7%	11.0%
大学院生	34.6%	20.0%	36.6%	26.8%	8.3%	16.1%	2.4%	1.5%	7.3%	5.4%
農学部	70.6%	0.0%	2.0%	2.0%	23.5%	3.9%	0.0%	3.9%	2.0%	17.6%
工学部	77.6%	1.5%	9.0%	1.5%	23.9%	10.4%	0.0%	1.5%	1.5%	6.0%
農学府修士課程	57.1%	25.7%	14.3%	8.6%	8.6%	14.3%	2.9%	5.7%	5.7%	2.9%
大学院農学府博士課程	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%
工学府博士前期課程	45.3%	26.4%	32.1%	3.8%	13.2%	24.5%	0.0%	0.0%	7.5%	1.9%
工学府博士後期課程	9.3%	16.3%	48.8%	58.1%	7.0%	4.7%	2.3%	2.3%	7.0%	7.0%
工学府専門職学位課程	100.0%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
連合農学研究科博士課程	20.0%	16.0%	64.0%	52.0%	0.0%	16.0%	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%
BASE 博士前期課程	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%
BASE 博士後期課程	14.3%	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%
BASE 博士課程	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
BASE 一貫制博士課程	26.1%	21.7%	43.5%	26.1%	4.3%	21.7%	0.0%	0.0%	13.0%	8.7%

#### 40. 海外での活動希望の有無

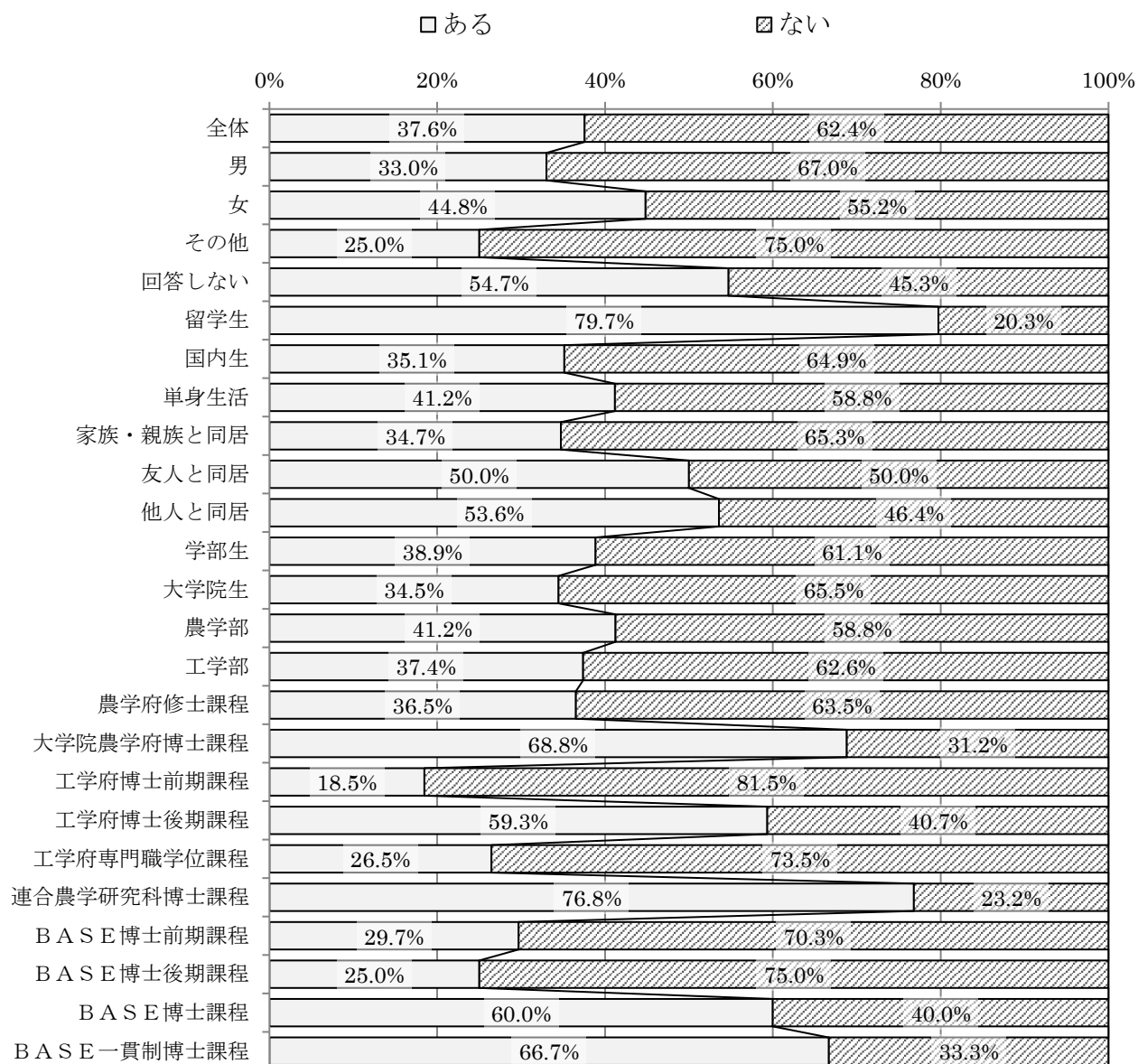
これまでに海外活動の経験がなく、これから希望する者の割合はこれまでの結果と比較すると減少した。属性別に前回調査と比較してみると、学部生の希望者の割合は前回の46.7%から38.9%に減少しており、特に学部1、2年生の減少が著しい。一方で、大学院生は希望者の割合が前回調査からわずかに増加しており、博士課程の多くでは6割を超えている。

#### Q40-1. 海外での活動希望の推移 [%]

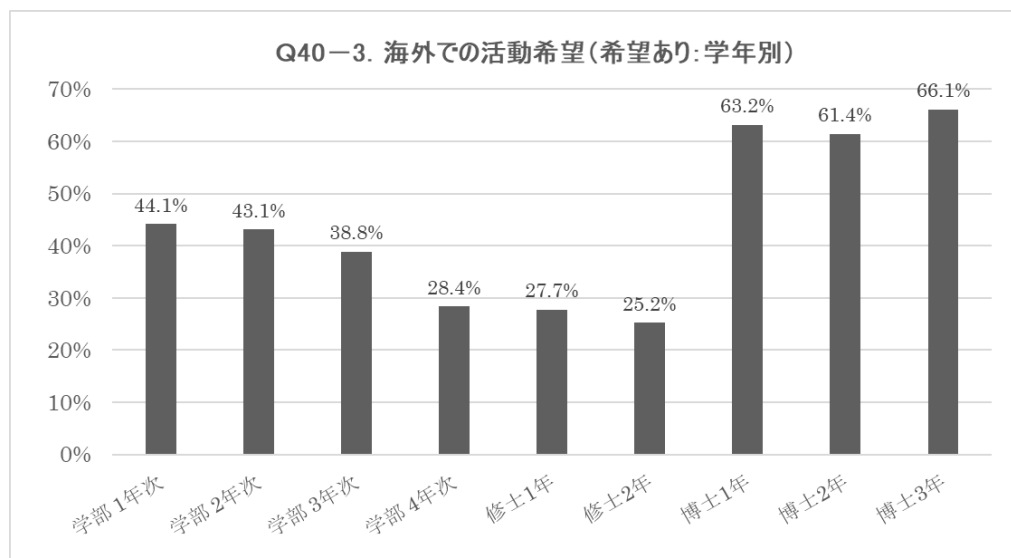
	ある	ない
第6回 (H21)	33.9	66.1
第7回 (H24)	42.7	57.3
第8回 (H27)	41.9	56.8
第9回 (H30)	42.8	55.6
第10回 (R3)	37.6	62.4



### Q40-2. 海外での活動希望(属性別)

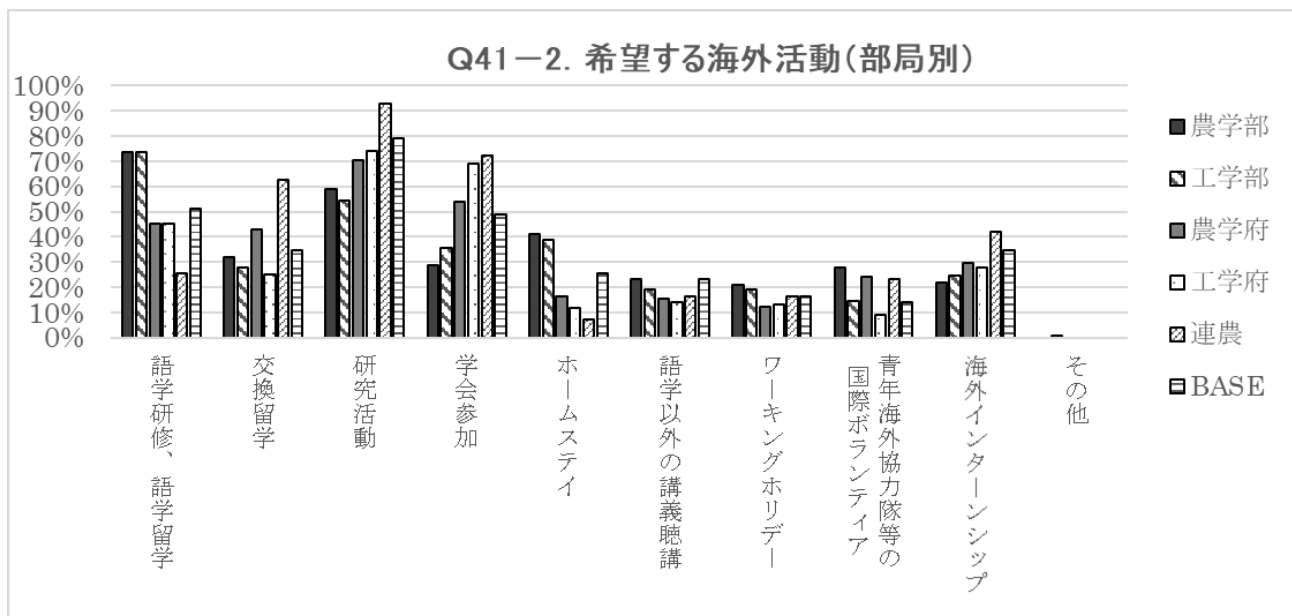
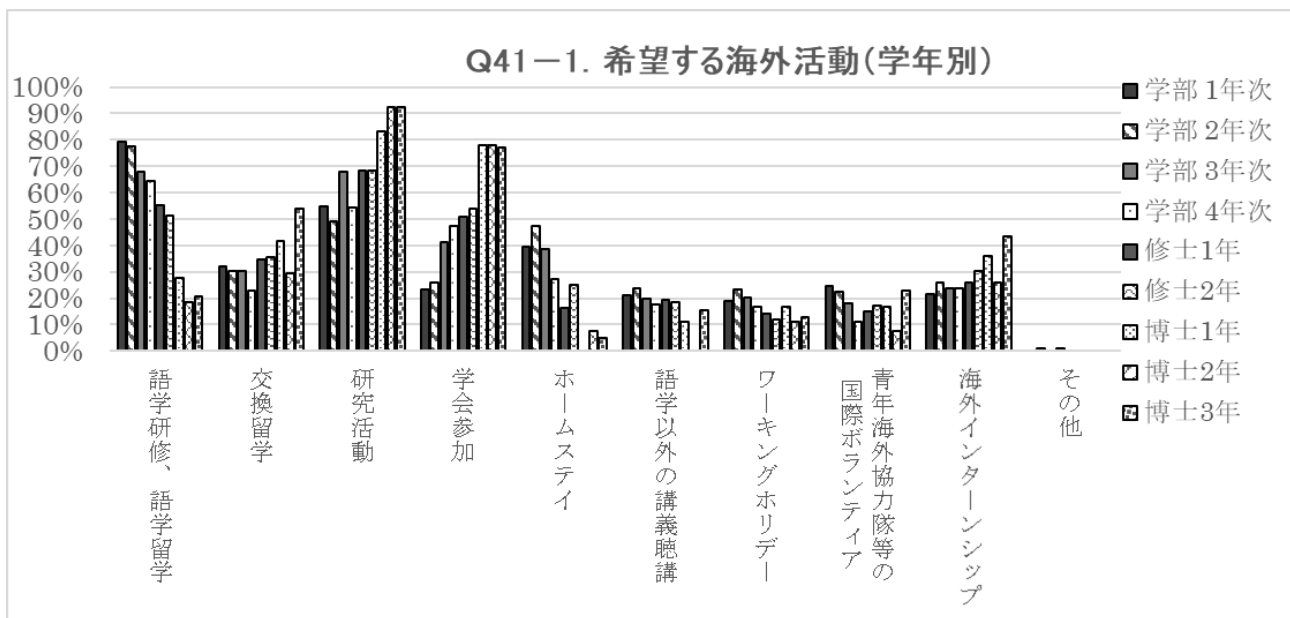


### Q40-3. 海外での活動希望(希望あり:学年別)



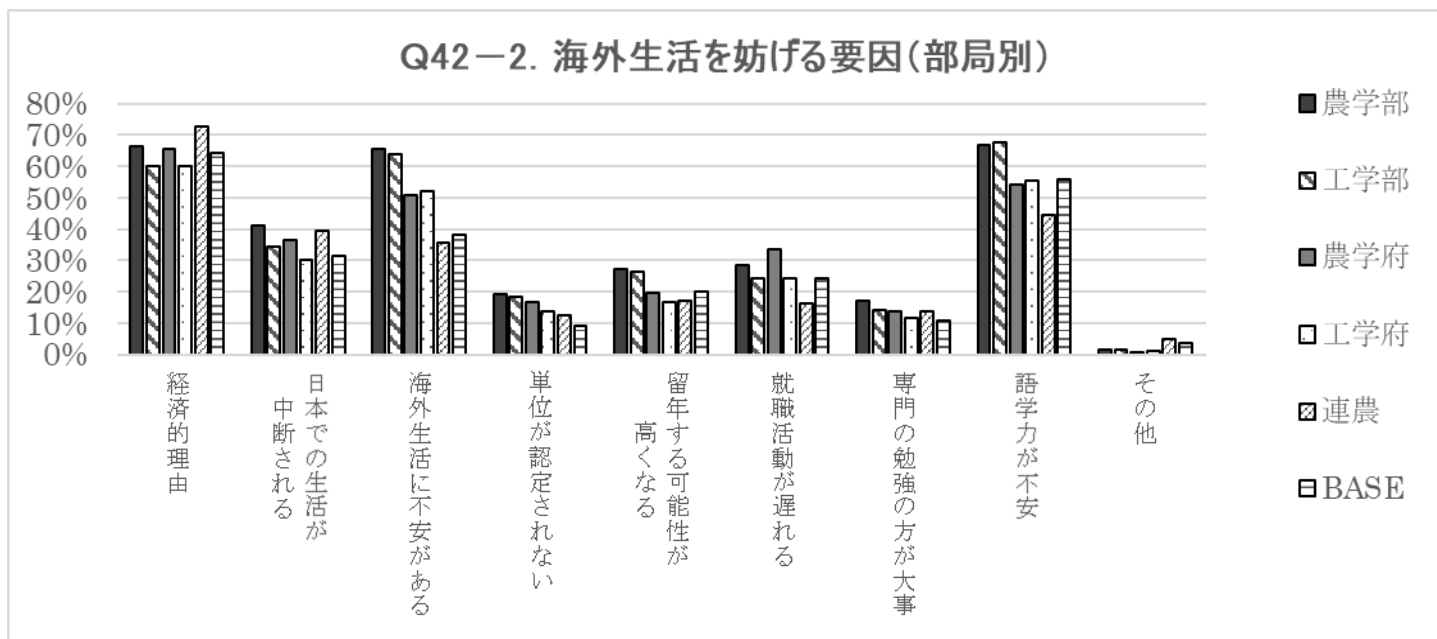
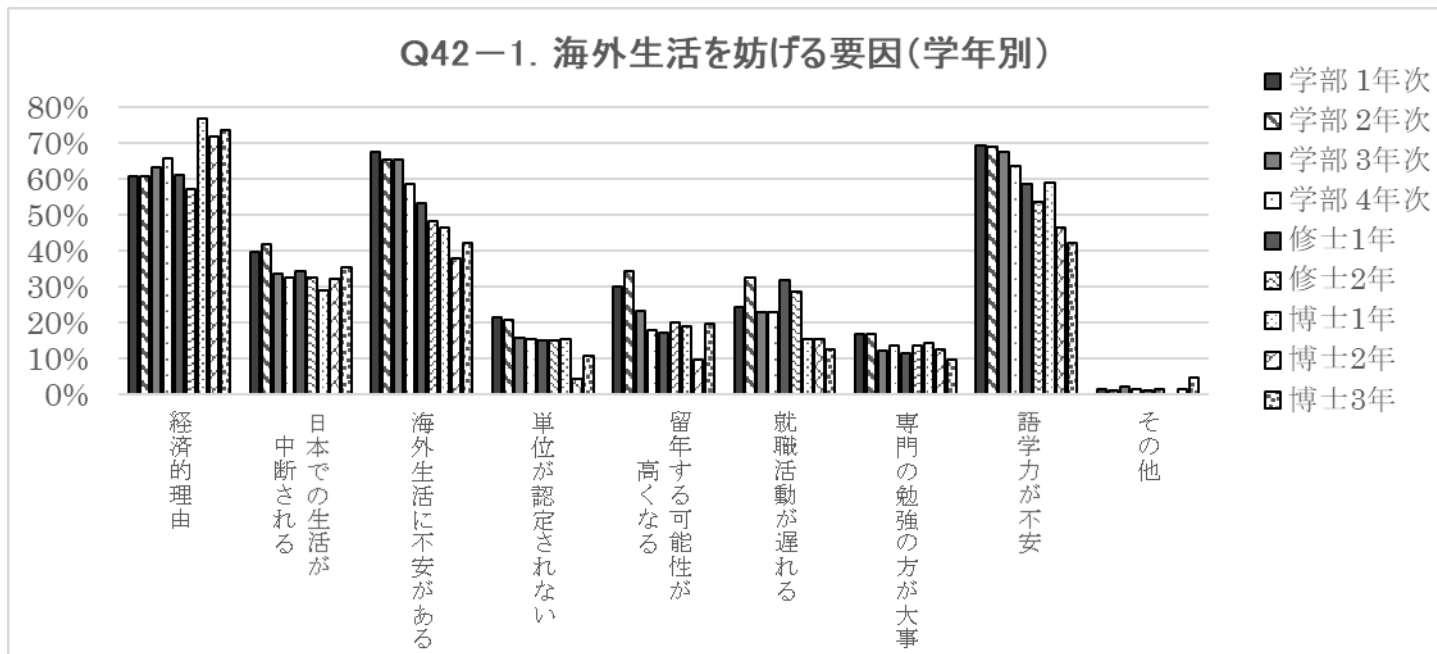
#### 4 1. 希望する海外活動の内容

海外活動については、学部1、2、4年生は「語学研修」を、学部3年生は「語学研修」と「研究活動」を、大学院生は「研究活動」と「学会参加」を希望する学生が多い。前年度と比較すると、「研究活動」を目的とする留学を希望する学部生の割合が、前回の3割程度から、5~7割に増えており、専門に関連する留学に興味を持つ学部生が増えて様子が窺える。



## 4.2. 海外活動を妨げる要因

海外活動を妨げる要因として一番多い回答は「経済的理由」であり、海外活動に対しては経済的支援が依然必要であると考えられる。今回の調査では、学部生を中心に「海外生活に不安」と「語学力が不安」に回答する学生が増加している。自由記述を確認すると、新型コロナウイルス感染症への不安を挙げる回答が多数あり、海外の社会情勢への不安、手続の煩雑さを挙げる記述もあった。

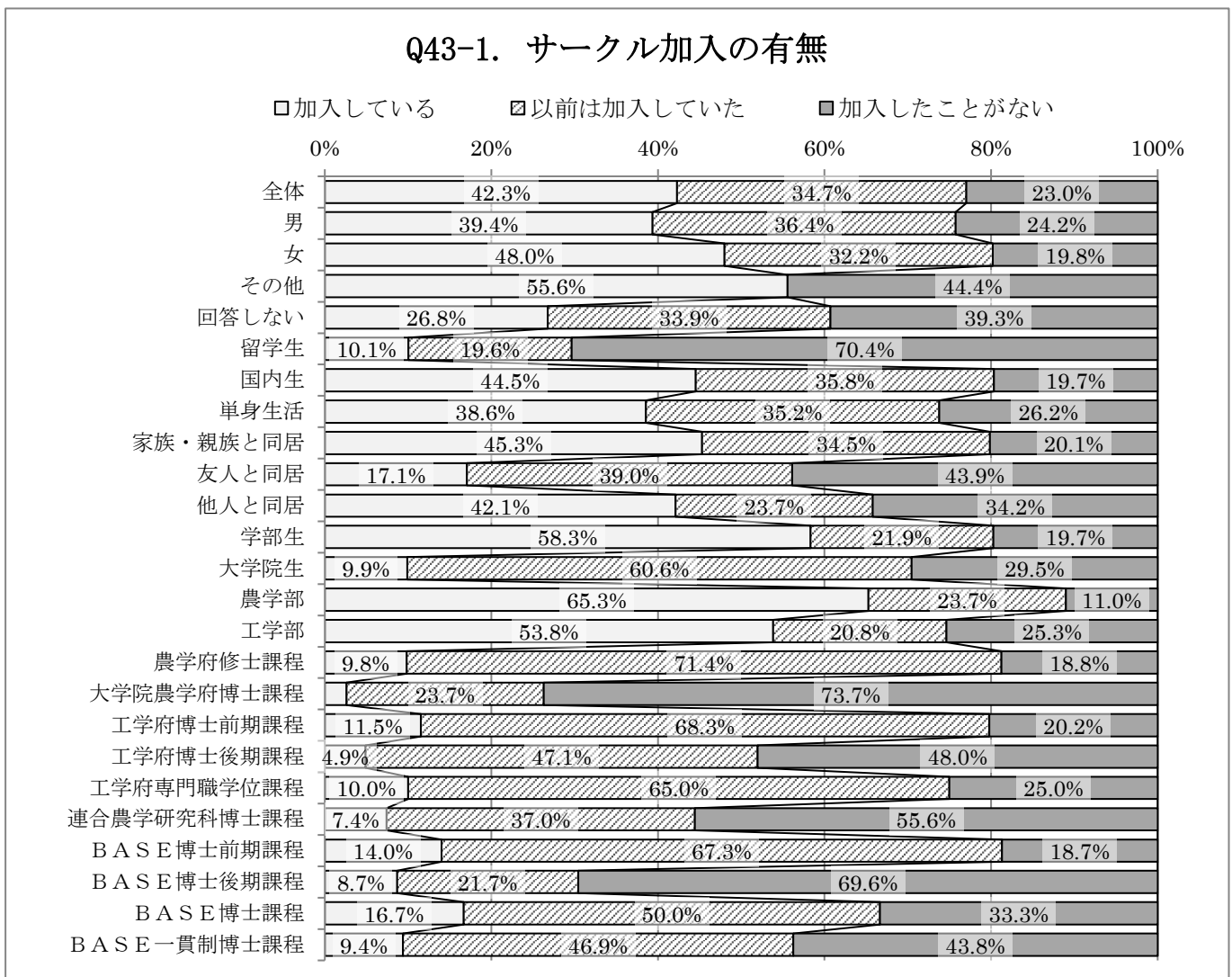


## 第VI章 課外活動

### 4.3. サークル加入の有無

サークルへの加入状況は、全体では、42.3%が「加入している」、34.7%が「以前加入していた」、23.0%が「加入したことがない」と答えている。学部別にみると、「加入している」と答えた割合は農学部が65.3%と工学部の53.8%より高く、逆に「加入したことがない」と答えた割合は工学部が25.3%で農学部の11.0%より高い。また男女別でみると、女子学生の方が「加入している」と答えた割合の48.0%が男子学生の39.4%より高く、課外活動への意欲がうかがえる。

これまでの調査を振り返ると、「加入している」と「以前加入していた」を合わせた数値が、第1回から第5回まではあまり変化が無く71~73%程度で、第6回には約80.0%、第7回には83.4%、第8回は84.9%、第9回では85.6%と年々増加していたが、今回は77.0%と8.6pt減少した。最近5回の調査の中で最低であった。その理由は、推測にはなるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が関係している可能性がある。

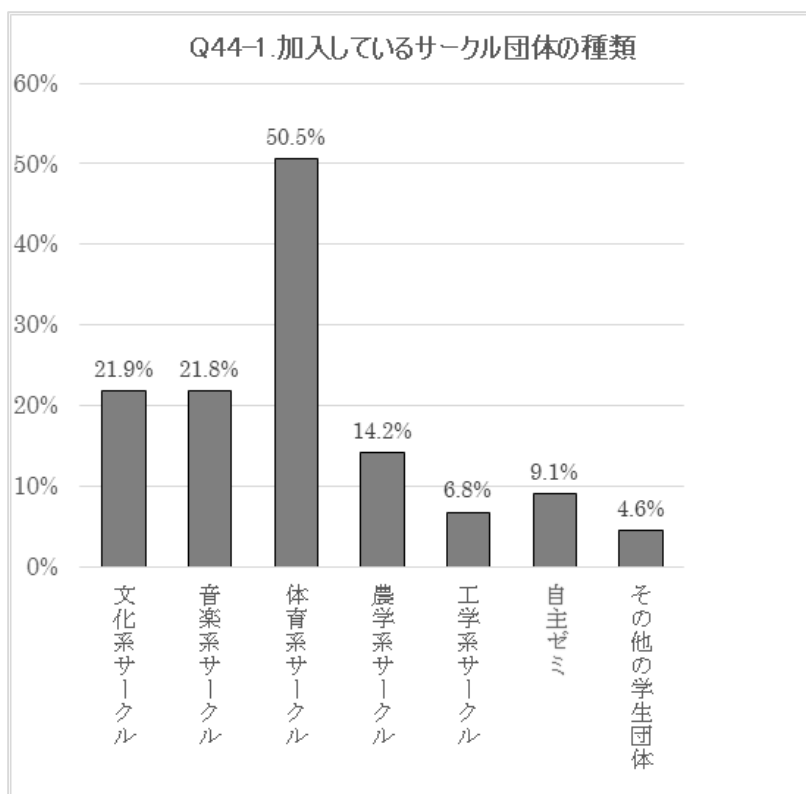


**Q 4 3 - 2 . サークル加入の推移 [%]**

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
加入している	49.0	50.4	48.3	43.1	44.7	51.0	55.9	52.8	49.6	<b>42.3</b>
加入していた	23.5	22.2	27.9	28.4	28.6	28.3	27.5	32.1	36.0	<b>34.7</b>
加入していない	27.4	27.4	23.8	28.5	26.7	20.7	16.6	14.8	13.9	<b>23.0</b>

#### 4.4. 加入しているサークル団体の種類

加入しているサークル団体は、全体では、体育系サークル(50.5%)が約半数以上となり、以下、文科系サークル(21.9%)、音楽系サークル(21.8%)の順である。前回と比較して、体育系サークルが5.9pt減っている一方で、音楽系サークルは1.9ptの微減にとどまり、文科系サークルは1.5pt増えていた。さらに男子学生と女子学生を比較すると、男子学生は体育系が多く(58.4%)、女子学生も体育系が多いものの(53.1%)、音楽系(30.0%)や文科系(22.2%)の割合が高い。この傾向も昨年から変化はない。また、前々回より、文科系、音楽系、体育系、農学系、工学系、自主ゼミ、その他の学生団体の区分で調査を実施しているが、農学系サークルと自主ゼミに加入している学生の割合がそれぞれ14.2%と9.1%であり、前回に比べてそれぞれ3.4ptと4.1pt増えているのが特徴的である。



Q44-2. 加入しているサークル団体の推移 [%]

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
文科系サークル	18.8	22.5	24.3	20.0	23.6	25.1	24.9	19.7	20.4	21.9
音楽系サークル	13.4	14.0	14.3	15.1	17.5	19.1	19.0	24.8	23.7	21.8
体育系サークル	62.7	53.9	51.3	52.8	54.8	51.6	50.7	55.3	56.4	50.5
2つ以上	5.1	9.6	10.1	12.1	---	---	---	---	---	---
その他	---	---	---	---	4.1	4.2	5.4	---	---	---
農学系	---	---	---	---	---	---	---	7.6	10.8	14.2
工学系	---	---	---	---	---	---	---	6.3	7.6	6.8
自主ゼミ	---	---	---	---	---	---	---	5.3	5.0	9.1
その他の学生団体	---	---	---	---	---	---	---	4.5	4.2	4.6

第1回～第4回は、文科系、音楽系、体育系、2つ以上の区分で調査を実施。

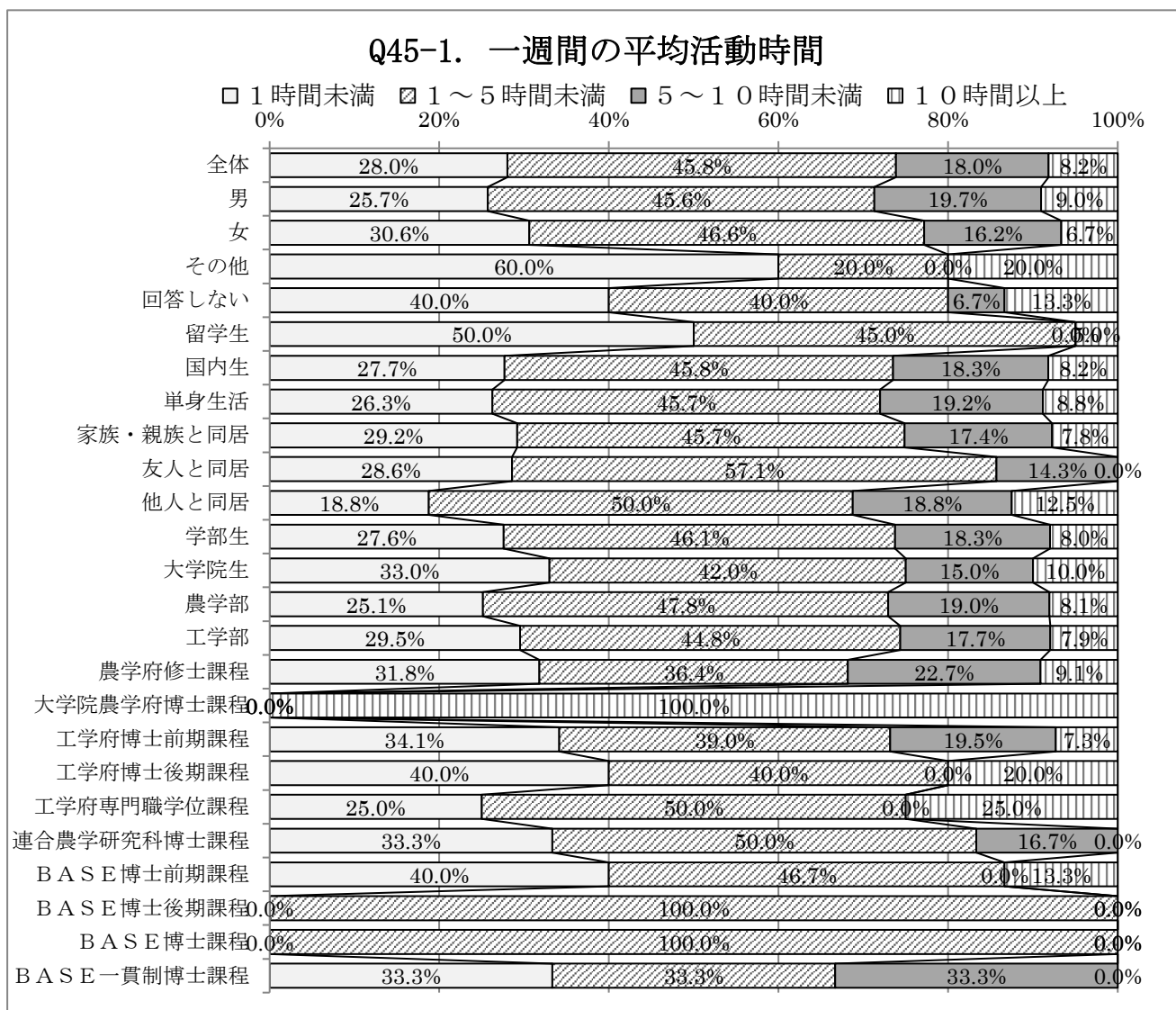
第5回以降は、文科系、音楽系、体育系、その他の区分で調査を実施。

第8回より、文科系、音楽系、体育系、農学系、工学系、自主ゼミ、その他の学生団体の区分で調査を実施。

#### 4 5. 一週間の平均活動時間

全体では、「1時間～5時間未満」(45.8%)が最も多く、ついで「1時間未満」(28.0%)であり、「5時間～10時間未満」(18.0%)の者もかなり存在する。男子学生と女子学生を比較すると、男子学生、女子学生ともに「1時間～5時間未満」(男45.6%、女46.6%)が最も多く、前回と比べてそれぞれ10pt前後の増加となり、全体的に活動時間が短くなっていることがうかがえる。

なお、学部生では、「1時間～5時間未満」(46.1%)、「1時間未満」(27.6%)という順番になっているが、大学院生では、「1時間～5時間未満」(42.0%)、「1時間未満」(33.0%)となっており、課外活動は学部生を中心に活動している傾向は見られるが、学部生の活動時間が前回までに比べて大きく減少していることがうかがえる。



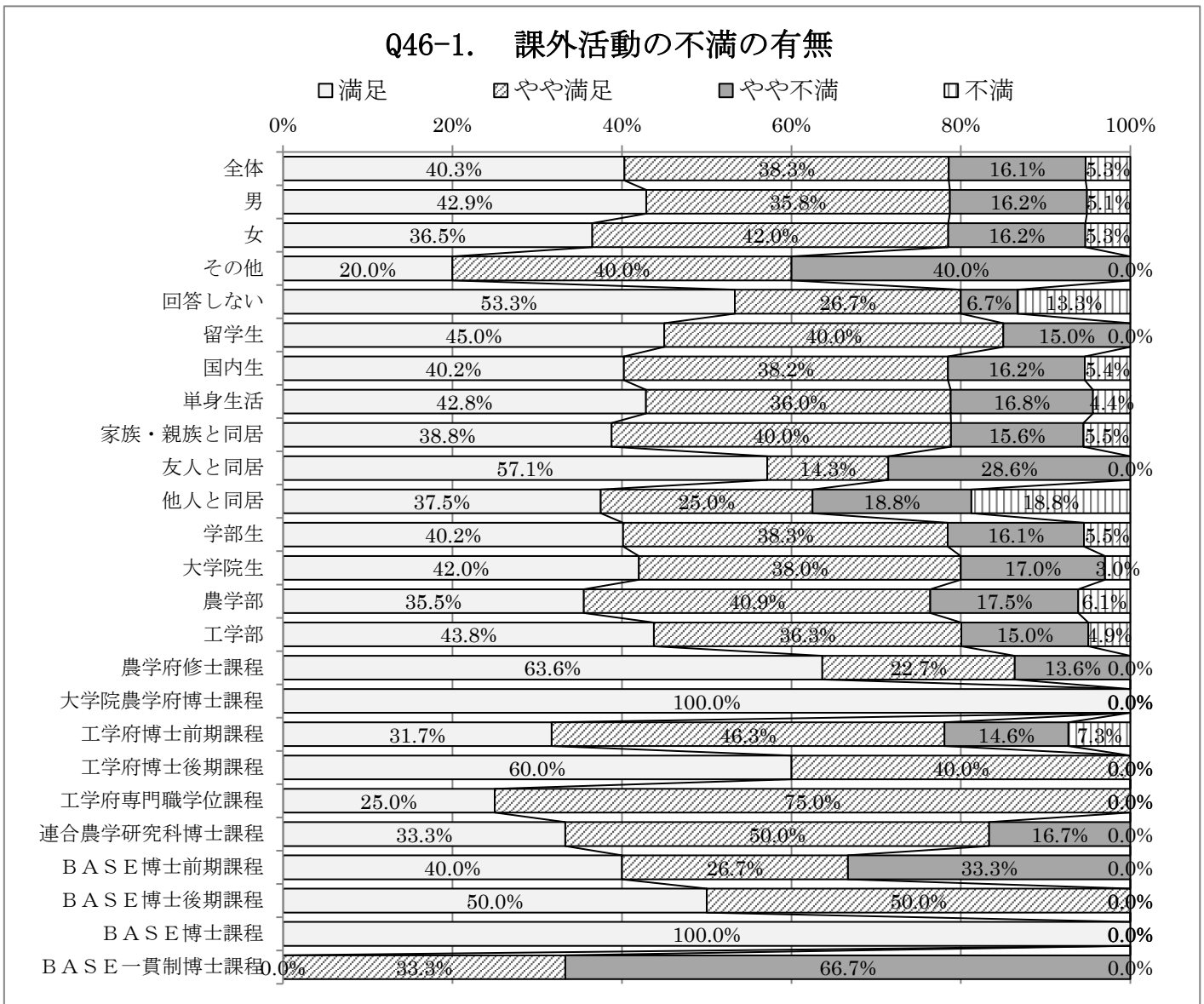
**Q45-2. 一週間の平均活動時間の推移 [%]**

調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
1時間未満	27.2	21.6	16.8	17.5	20.7	16.4	15.8	28.0
1時間～5時間未満	35.8	33.9	37.0	36.1	35.0	33.5	35.3	45.8
5時間～10時間未満	20.1	24.9	26.5	26.0	27.6	27.5	27.9	18.0
10時間以上	16.9	19.7	19.7	20.4	18.5	22.5	21.0	8.2

第1回、第2回については、設問の形式が第3回目以降とは異なっていたため、データ比較を行えなかった。

#### 46. 課外活動の不満の有無

課外活動に関して不満があると回答したのは、全体で21.4%であった。前回調査の数字(34.2%)から大幅に減少した。これは、実際に不満が少なくなったことも考えられるが、それに加えて新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって活動が十分にできていないことも影響を与えている可能性があり、引き続き慎重な調査が必要である。



**Q46-2. 課外活動の不満の有無の推移 [%]**

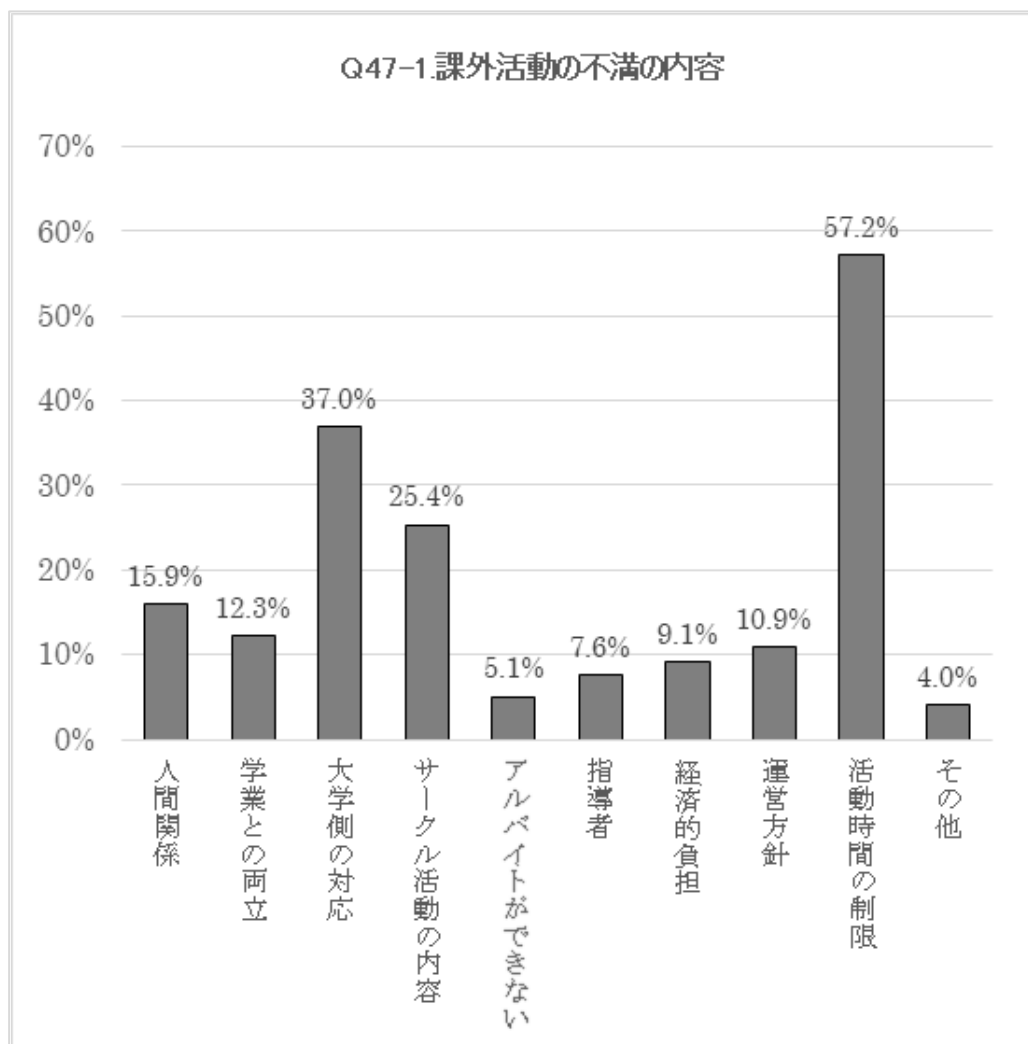
調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
年度	H6	H9	H12	H15	H17
満足している	87.3	53.3	54.0	---	---
満足していない	11.0	46.7	46.0	---	---

調査	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H21	H24	H27	H30	R3
不満がある	30.3	25.7	34.7	34.2	21.4
不満がない	69.7	74.3	65.0	65.0	78.6

#### 4.7. 課外活動の不満の内容

課外活動に関する不満の内容については、「活動時間の制限」に関するものが最も多く、57.2%を占めていた。前回の23.3%と比べると2倍以上の増加であり、ここにも新型コロナウイルス感染症の感染拡大の強い影響がうかがえる。さらに前々回から追加した「大学側の対応」(37.0%)という項目への回答割合にも変化がないことから、課外活動を取り巻く大学側の状況への不満は解消されていないと考えられる。

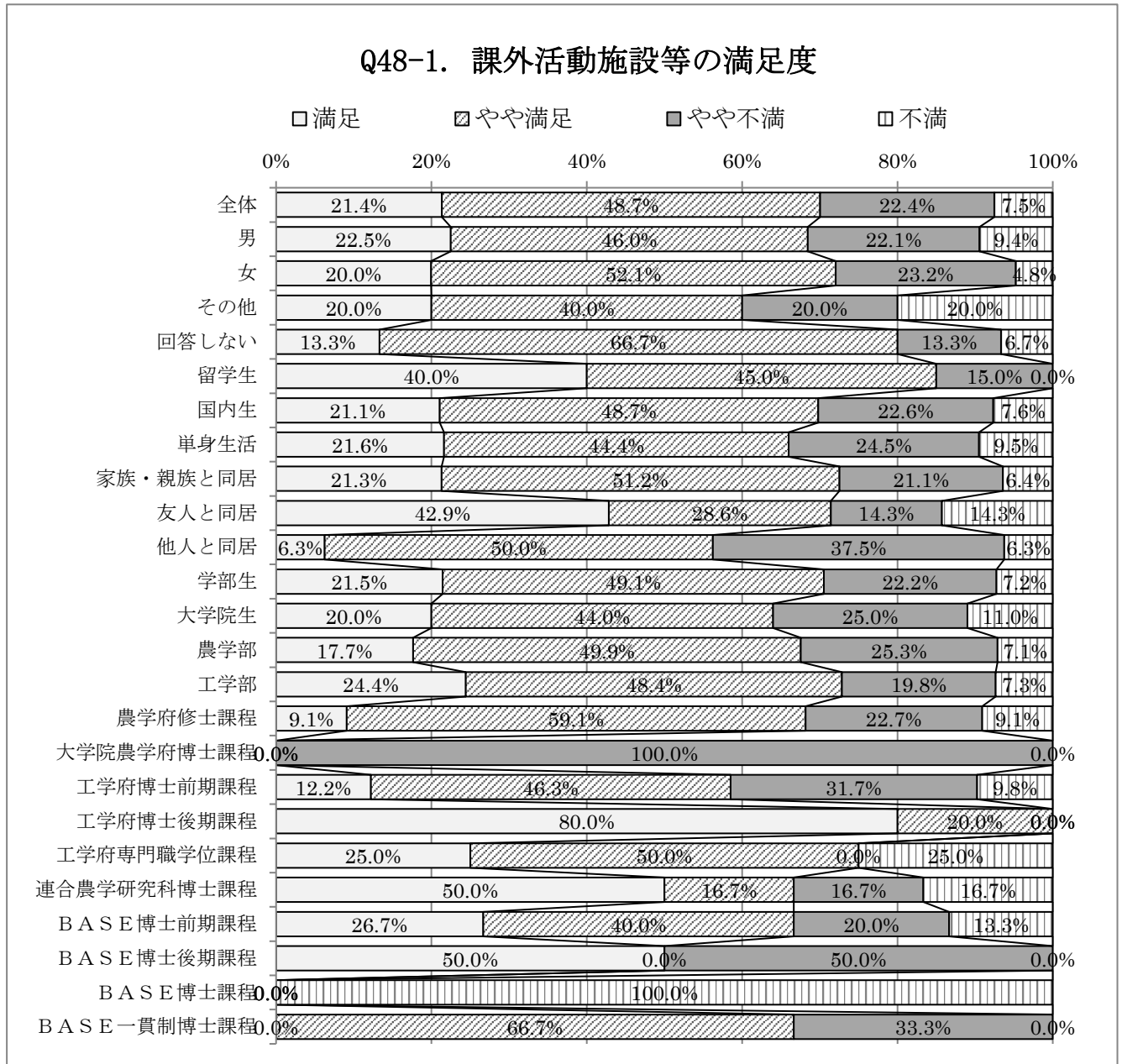
ついで、「サークル活動の内容」(25.4%)、「人間関係」(15.9%)、「学業との両立」(12.3%)と続いている。前回調査と比較すると「サークル活動の内容」が上位になっている点が大きな違いであり、前回上位のサークル活動に伴う「経済的負担」は大きく減少している。





#### 48. 課外活動施設等の満足度

課外活動施設等の満足度については、全体として、「満足」が21.4%、「やや満足」が48.7%であった。前回調査時は「満足」「やや満足」を併せて49.5%であり、20.6ptの大きな改善が見られた。大学の課外活動施設に対する改善の成果だと考えられる。ただし、ポスト新型コロナウイルス感染症における活動再開後に真価が問われると予想されるため、その時点での評価が重要となる。

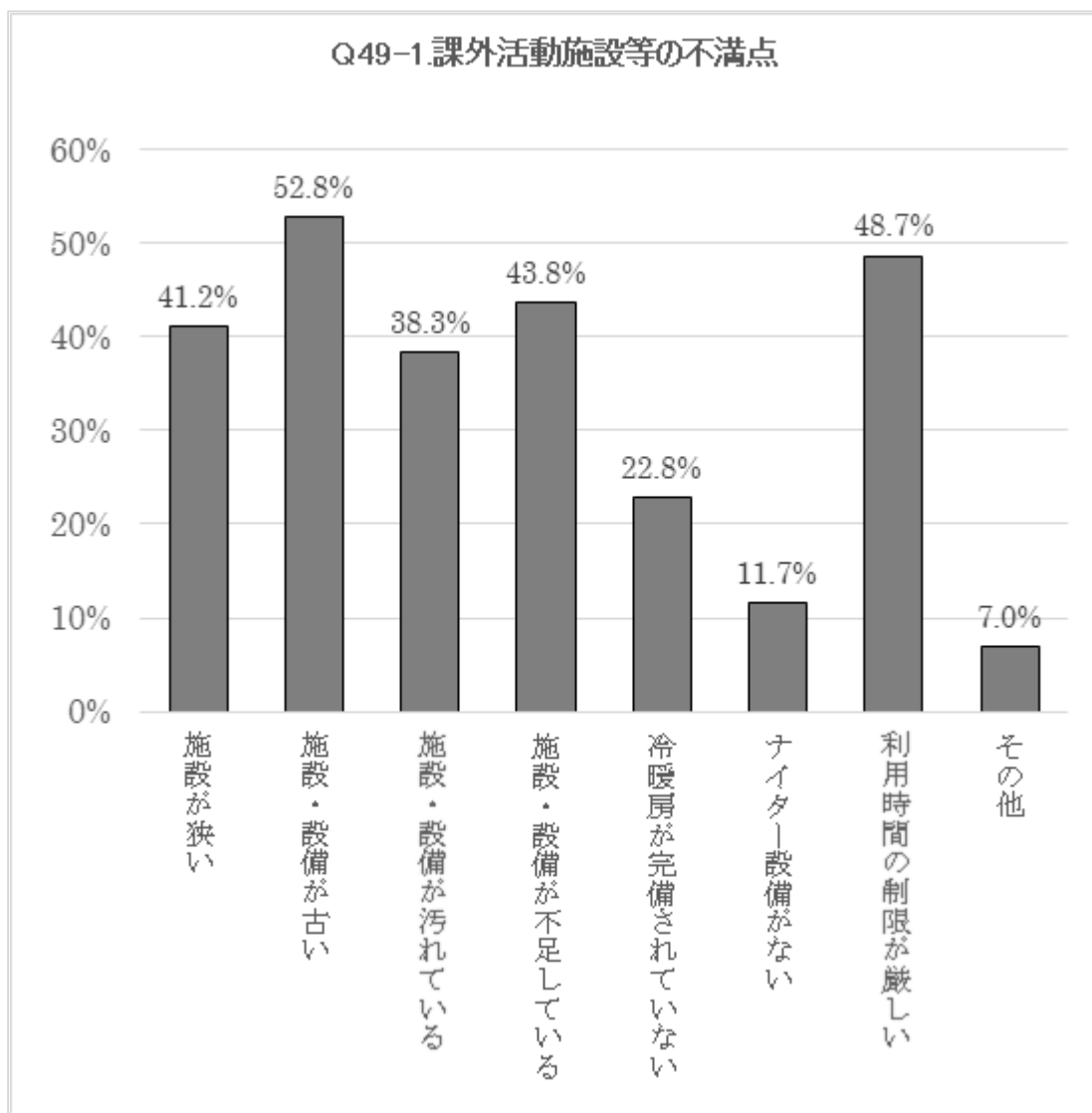


**Q48-2. 課外活動施設等の満足度の推移 [%]**

調査年度	第6回 H21	第7回 H24	第8回 H27	第9回 H30	第10回 R3
満足	21.7	23.8	18.7	18.0	21.4
やや満足	43.0	43.4	28.4	31.5	48.7
やや不満	21.8	18.0	31.9	32.8	22.4
不満	13.5	15.0	19.3	16.2	7.5

#### 49. 課外活動施設等の不満点

前回に引き続き、課外活動施設等に関し、特にどのような点に不満があるかを調査した。その結果、「施設・設備が古い」(52.8%)、「利用時間の制限が厳しい」(48.7%)、「施設・設備が不足している」(43.8%)、「施設が狭い」(41.2%)」となっており、順位の変動はあったものの、施設の使い勝手についての不満が相変わらず大きいことがうかがえる。なお、自由記述でも、新型コロナウイルス感染症による時間制限の緩和、シャワーの改修や女性専用のシャワーの設置、サークル棟や部室棟の建て替えについての要望は強く、施設の使い勝手の悪さ、老朽化等が進んでいることがうかがえる。また、前々回や前回同様に工学部キャンパスへのナイター設備の設置に関する強い希望が見られた。

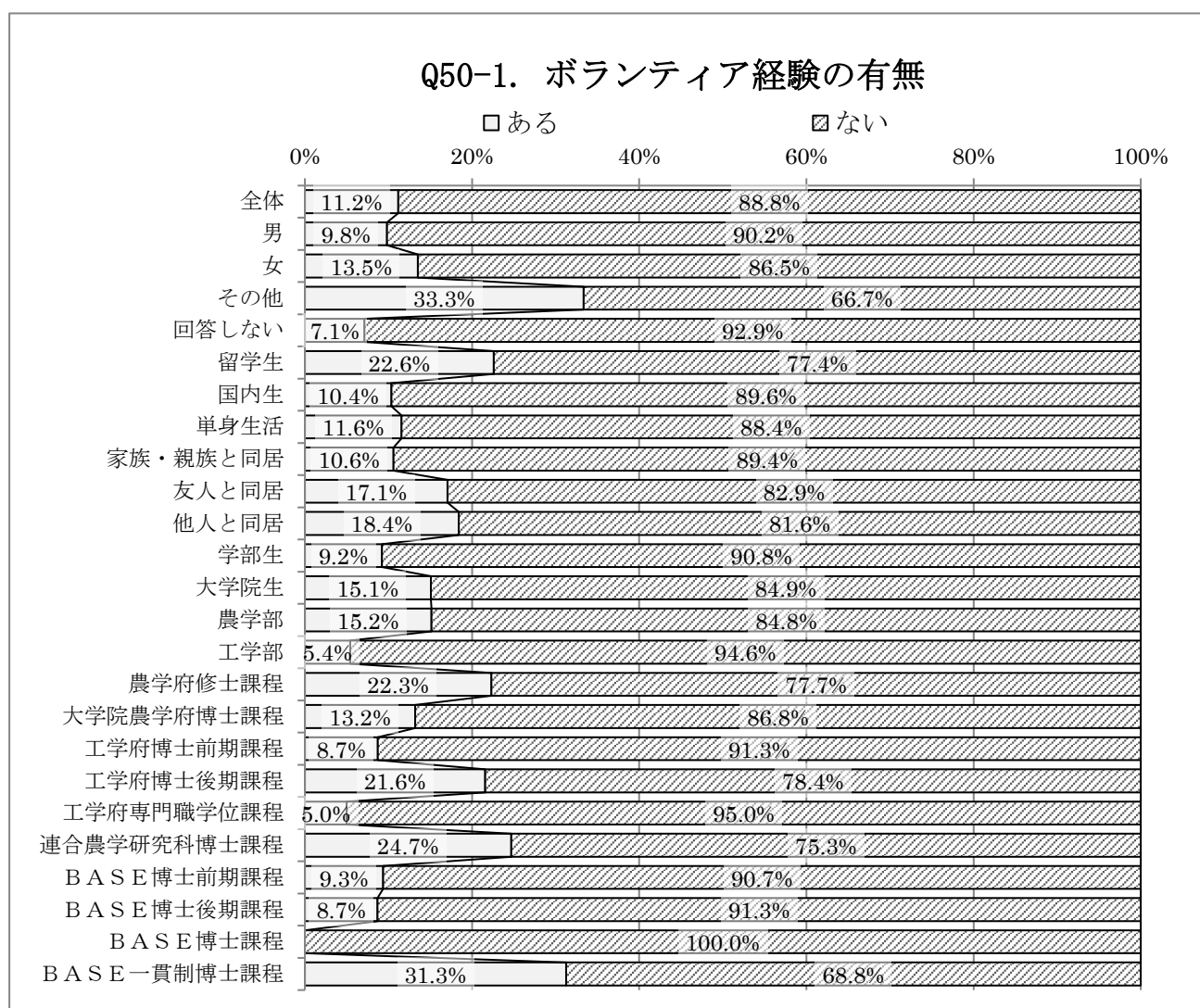


## 第Ⅶ章 ボランティア活動

### 50. ボランティア経験の有無

全体では、「ある」と回答したのは11.2%であり、残りの88.8%は入学後のボランティア活動の経験はない。これまでの調査の中で最も低い割合となった。男子学生と女子学生を比較すると、女子学生(13.5%)の方が、男子学生(9.8%)より割合が高い。さらに、大学院生(15.1%)の方が、学部生(9.2%)よりボランティア活動の経験をした割合が高い。両学部生を比較すると、農学部生(15.2%)の方が、工学部生(5.4%)よりも割合が高い。

これまでの調査を振り返ると、H12年度まで「ある」と回答した割合は約28%であったが、平成15年度には16.0%まで低下し、以後13~14%で推移していたものの、前々回の調査で10.5%まで低下し、前回は10%を下回ったが、今回再び10%を超える結果となった。男女間、学部間、学部生対大学院生の傾向には変化がないが、ボランティア活動そのものに対する関心がやや増えている傾向がみられる。



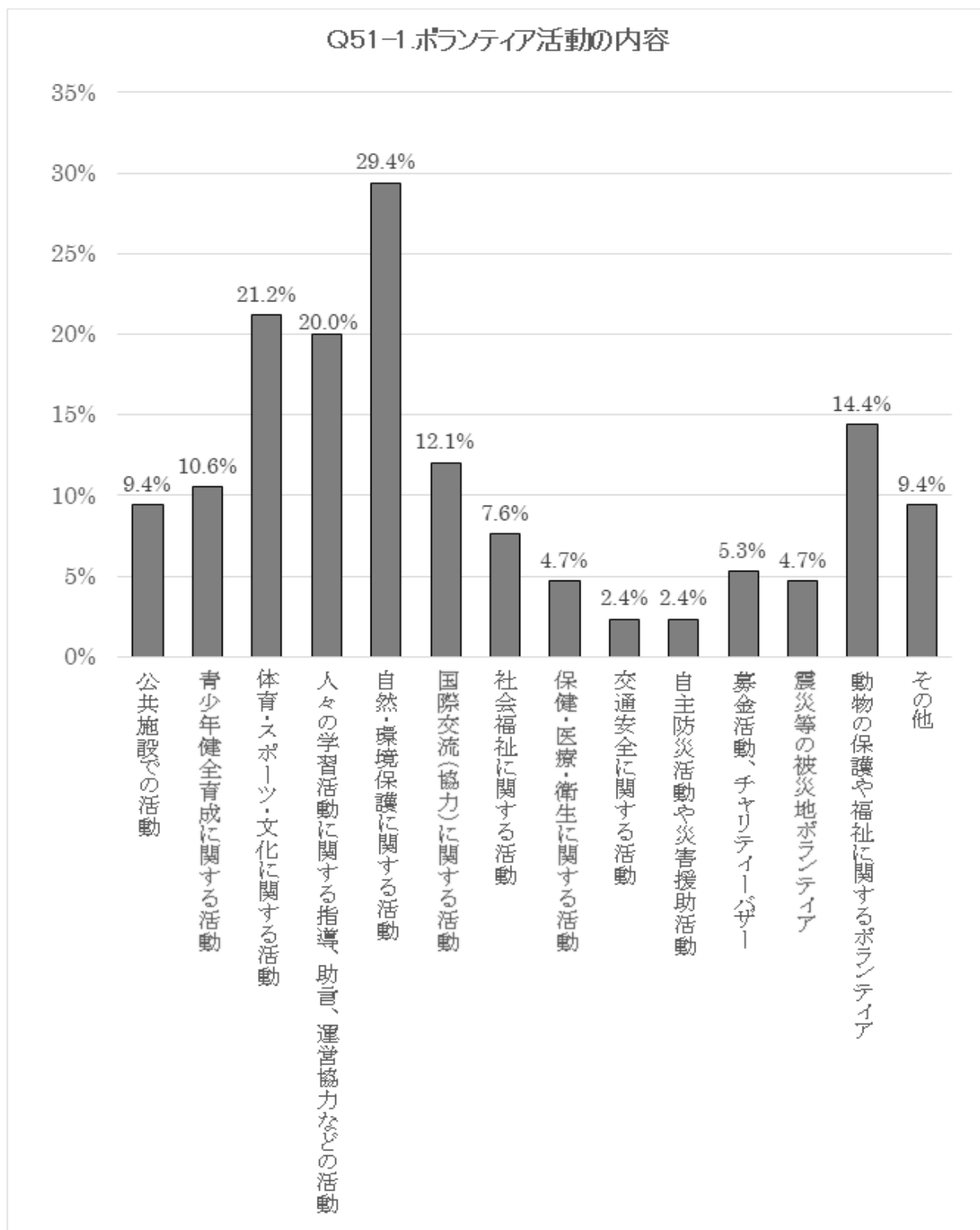
### Q50-2. ボランティア経験の有無の推移 [%]

調査	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
ある	27.6	27.9	16.0	13.6	13.4	13.9	10.5	9.3	11.2
ない	72.4	72.1	84.0	86.4	86.6	86.1	89.0	89.9	88.8

## 5 1. ボランティア活動の内容

全体では、「自然・環境保護に関する活動（環境美化、自然解説、リサイクル活動等）」(29.4%)が最も多く、「体育・スポーツ・文化に関する活動（スポーツ・リクリエーション指導、まつり、学校でのクラブ活動における指導等）」(21.2%)、「人々の学習活動に関する指導、助言、運営」(20.0%)と続き、前回から2位と3位が入れ替わっている。

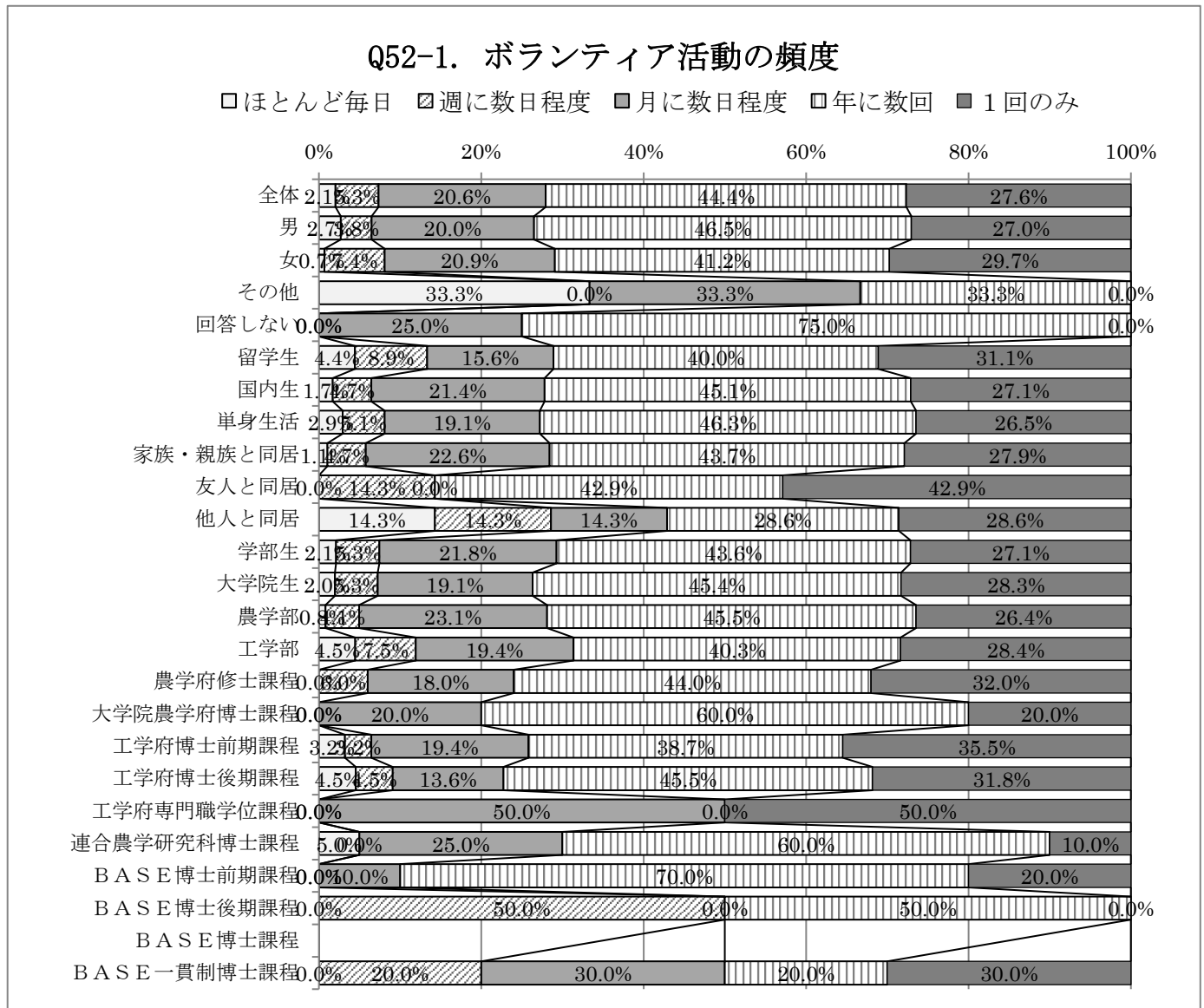
また、男子学生、女子学生を比較すると、男子学生は「自然・環境保護に関する活動（環境美化、自然解説、リサイクル活動等）」(27.4%)が最も多いのに対し、女子学生は「人々の学習活動に関する指導、助言、運営」(27.7%)が最も多く、前回調査と同様に男女間での関心の違いが見られた。



## 5.2. ボランティア活動の頻度

ボランティア活動の頻度については、「年に数回」が最も多く、全体では44.4%を占めていた。全般的傾向として、農学部、工学部間に大きな差はなく、男女の比較についても同様であった。

前回調査と比べると、「月に数日程度」と「1回のみ」が増加していることから、ボランティア活動に参加している学生の活動量はやや減少していることが伺える。



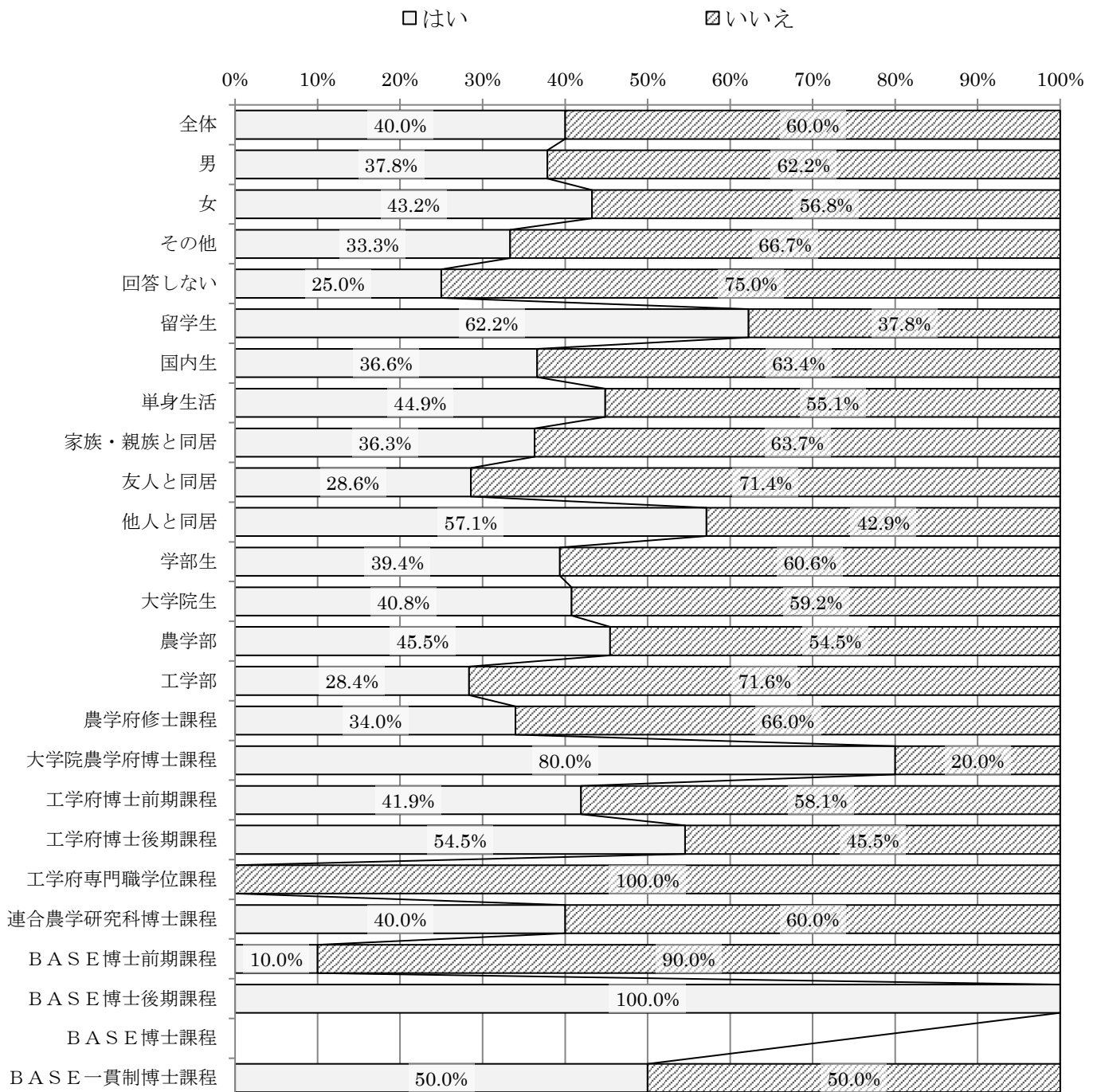
**Q52-2. ボランティア活動の頻度の推移 [%]**

調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
ほとんど毎日	0.4	1.6	2.6	1.8	3.2	1.9	3.9	2.1
週に数日程度	5.0	6.1	8.9	5.9	4.0	4.2	6.6	5.3
月に数日程度	14.2	15.0	15.4	16.9	13.8	16.1	19.0	20.6
年に数回	48.1	65.2	61.6	69.2	68.2	48.5	46.6	44.4
その他	32.3	12.1	11.4	6.2	10.8	—	—	—
1回のみ	—	—	—	—	—	28.7	22.3	27.6

### 5.3. ボランティア活動への支援希望の有無

ボランティア活動への支援希望については、「いいえ」が多く、全体として60.0%を占めていた。一方、支援希望「はい」は前回(43.0%)からやや減少をしているが、依然として大学に支援を希望する声が一定数存在することが確認できる。

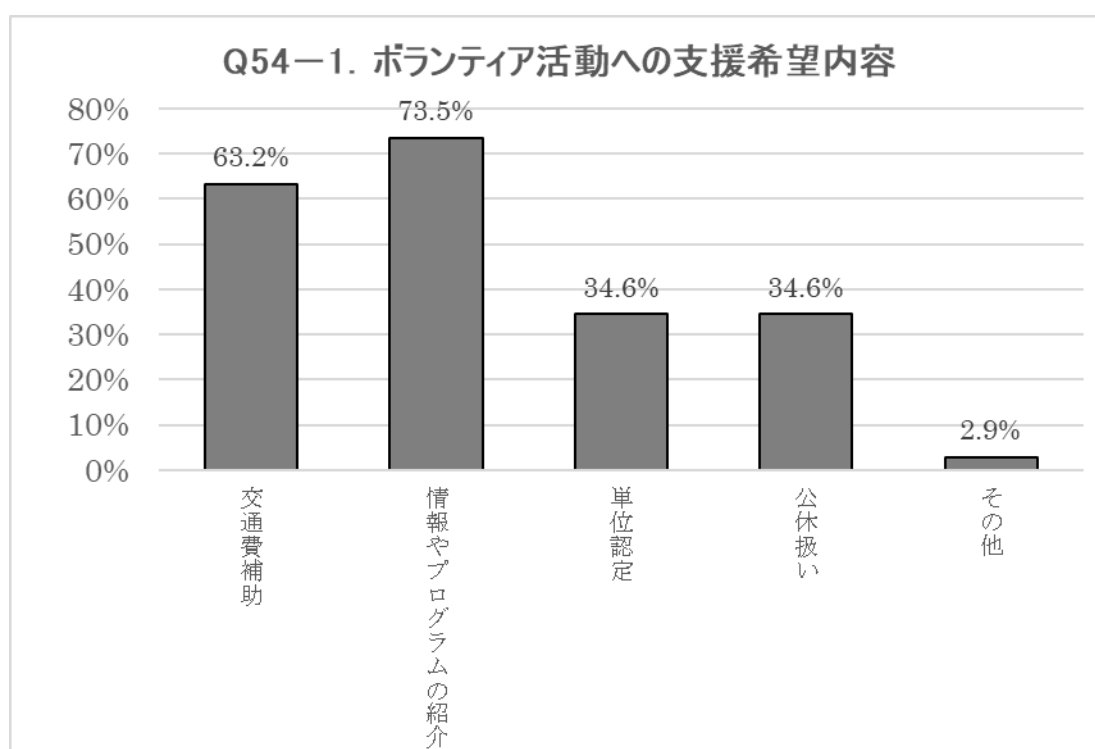
Q53-1. ボランティア活動への支援希望の有無



#### 5 4. ボランティア活動への支援希望内容

ボランティア活動に対し、具体的に大学にどのような支援を希望するかという問いについて、「情報やプログラムの紹介」(73.5%)、「交通費補助」(63.2%)、「公休扱い」(34.6%)、「単位認定」(34.6%)となった。「情報やプログラムの紹介」は前回から29.9pt増加しており、大学に対してボランティア活動の情報提供の役割を求める声が強くなっていることが分かる。

男子学生は「交通費補助」(60.9%)が最も多く、女子学生は「交通費補助」と「情報やプログラムの紹介」がともに56.5%と高い数字となっていた。ボランティア活動における交通費補助への希望が多いことは、ボランティア活動への参加が減少していることの裏返しである可能性も考えられる。



## 5.5. ボランティア参加希望の有無

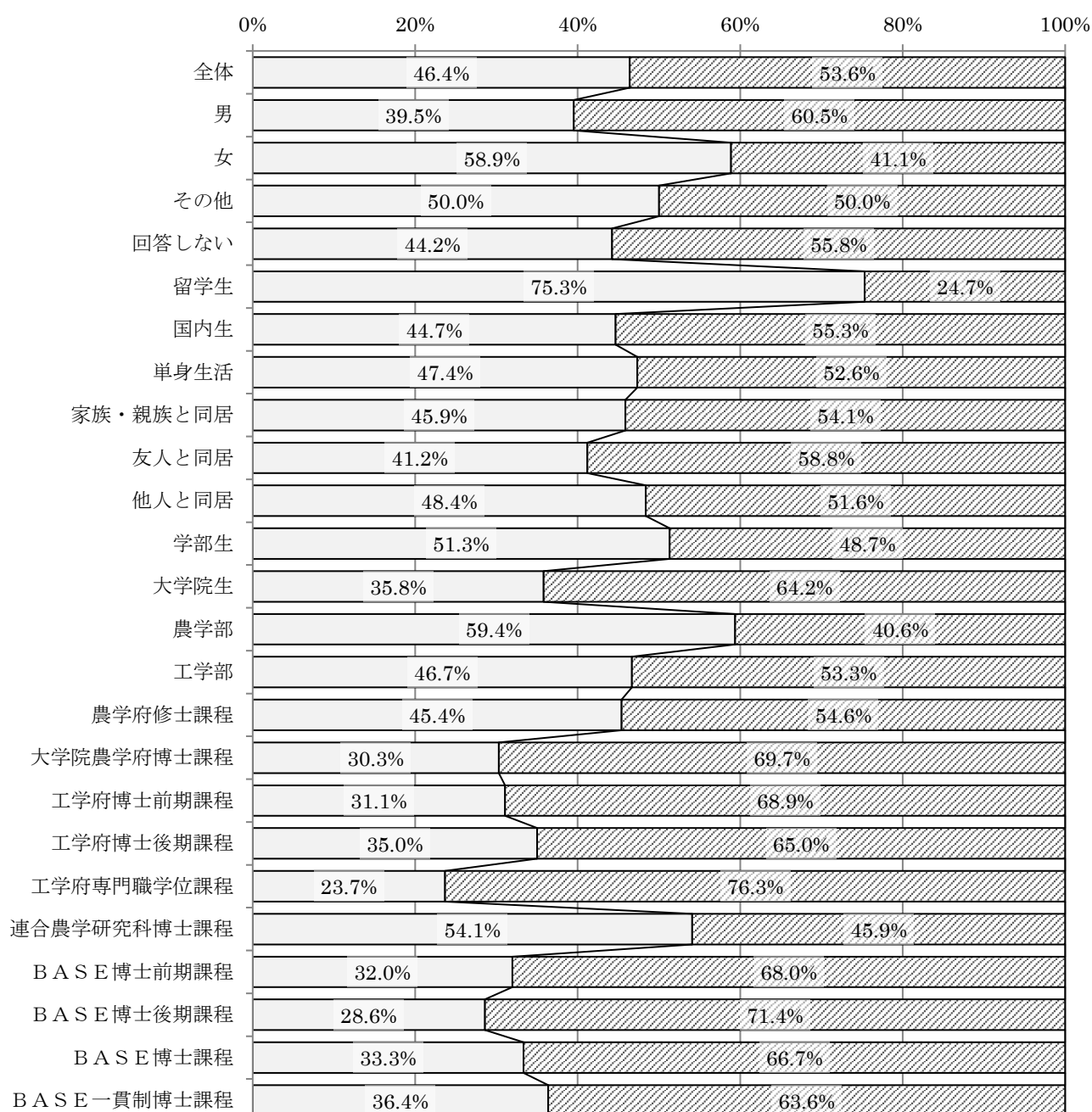
ボランティア参加希望の有無については、参加希望が全体で46.4%であった。

男子学生が39.5%の参加希望であるのに対し、女子学生は58.9%となっており、女子学生の方がボランティアへの参加に積極的であることがうかがえるが、数字的には前回から男女ともに低下している。

なお、ボランティアへの参加希望に関しては前回調査よりで9%増加したが、平成17年度以前は参加希望者が60%以上いたことと比較すると、低い値に留まっているといえる。

Q55-1. ボランティア参加希望の有無

□はい                      ▨いいえ





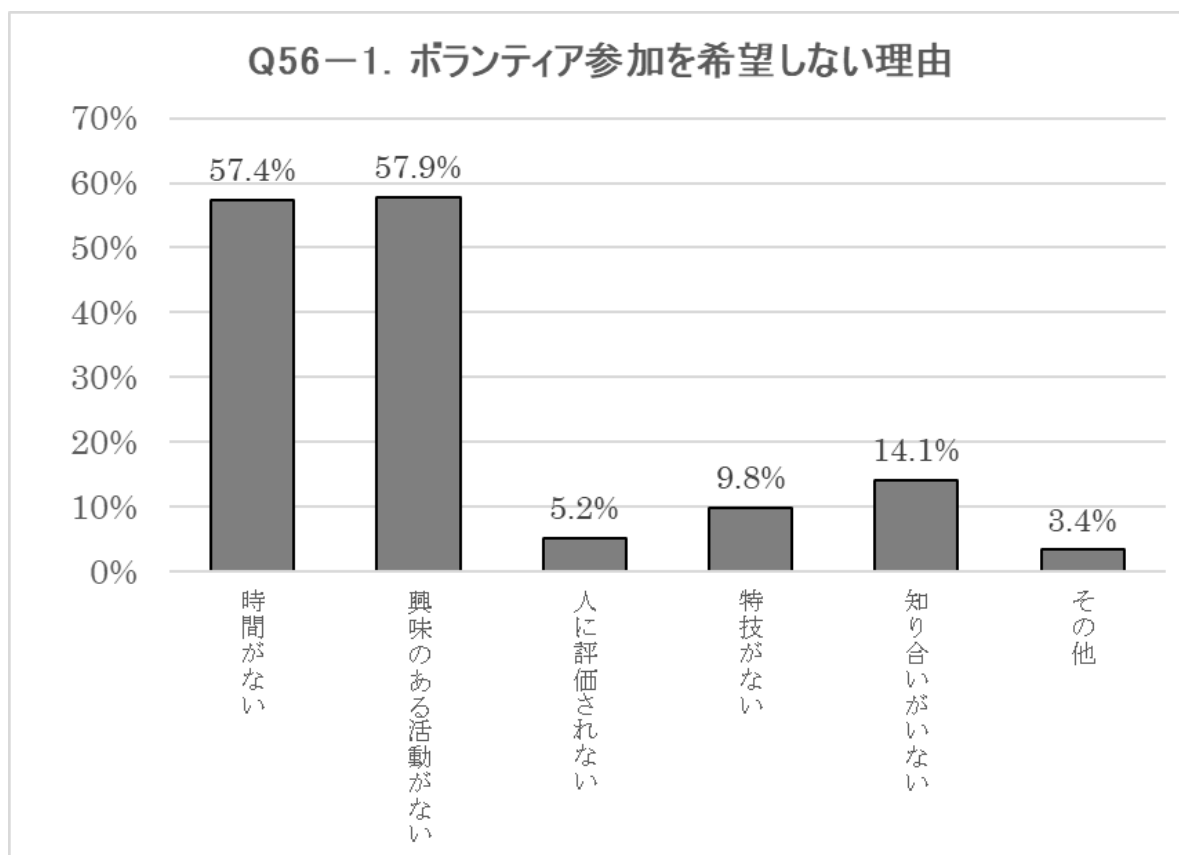
### Q55-2. ボランティア参加希望の有無の推移 [%]

調査	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
はい	60.8	64.7	---	---	26.9	35.0	41.0	37.1	46.4
いいえ	39.2	35.3	---	---	73.1	65.0	42.0	44.7	53.6

第4回、第5回は設問形式が異なるため、今回のまとめには入れなかった。

### 56. ボランティア参加を希望しない理由

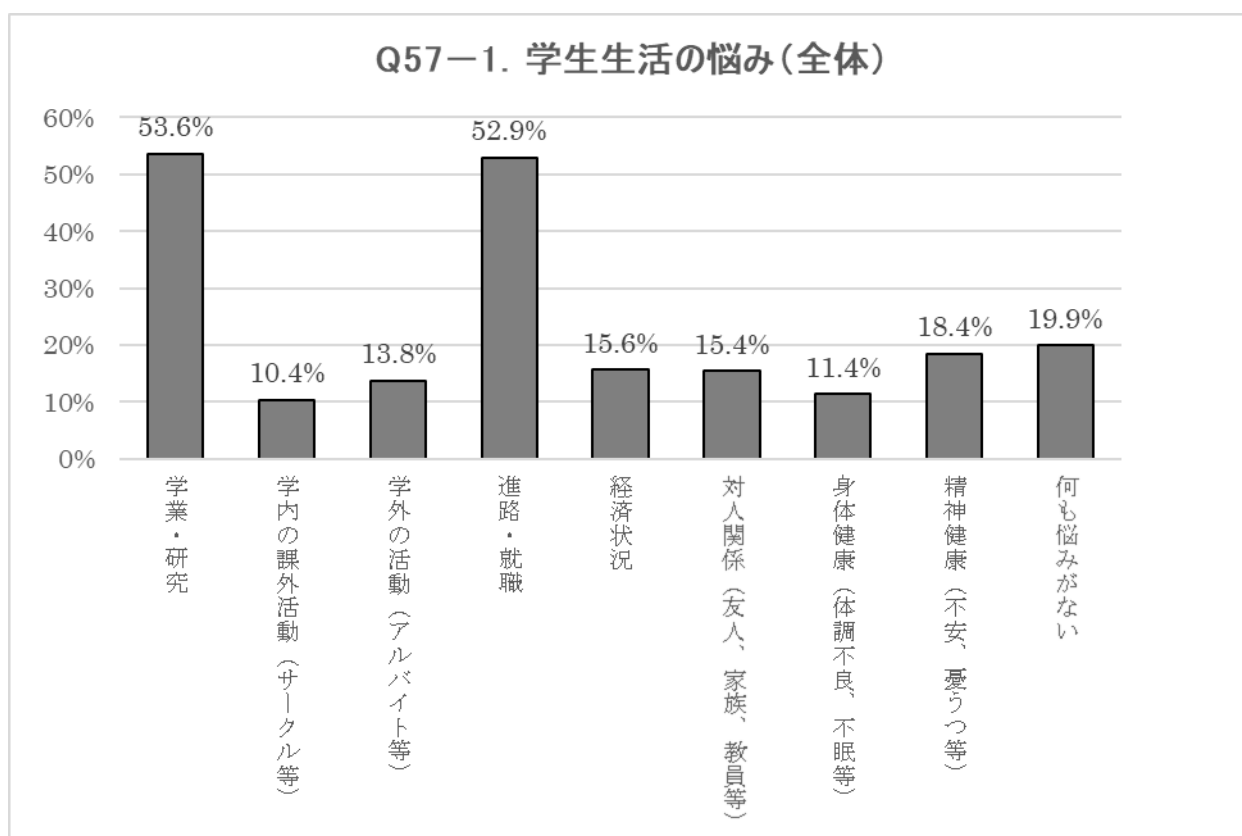
今回の調査でも前回に引き続き、ボランティア活動に参加を希望しない理由を問うている。順位の入替はあるが、上位は前回同様「興味のある活動がない」(57.9%)、「時間がない」(57.4%)という理由が大きい割合を占めていることには変わりがない。「興味のある活動がない」理由としては情報不足の可能性もある。「時間がない」という回答からは、大学やプライベートでの他の時間で目いっぱいであることがうかがえる。なお、女子学生は「時間がない」(56.2%)、「興味のある活動がない」(44.3%)となっているが、男子学生では「興味のある活動がない」(50.2%)、「時間がない」(47.6%)と順位が入替わっている。



## 第Ⅷ章 学生生活

### 57. 学生生活の悩み

学生生活の悩みの二大テーマは、「学業・研究」と「進路・就職」であり、この傾向は第5回調査結果から変わらない。しかし「学業・研究」は前回と同様のパーセンテージであった一方、「進路・就職」の悩みは前回の41.8%から52.9%へ大幅に増加している。新型コロナウイルス感染症による景気悪化の影響で学生の就職への不安が増加している可能性が推察される。学内外の活動や「対人関係」の悩みもやや増加している。また「精神健康」の悩みは前回(12.0%)より大幅な増加がみられる。一方で、「経済状況」については15.6%(前回17.4%)でやや減少している。



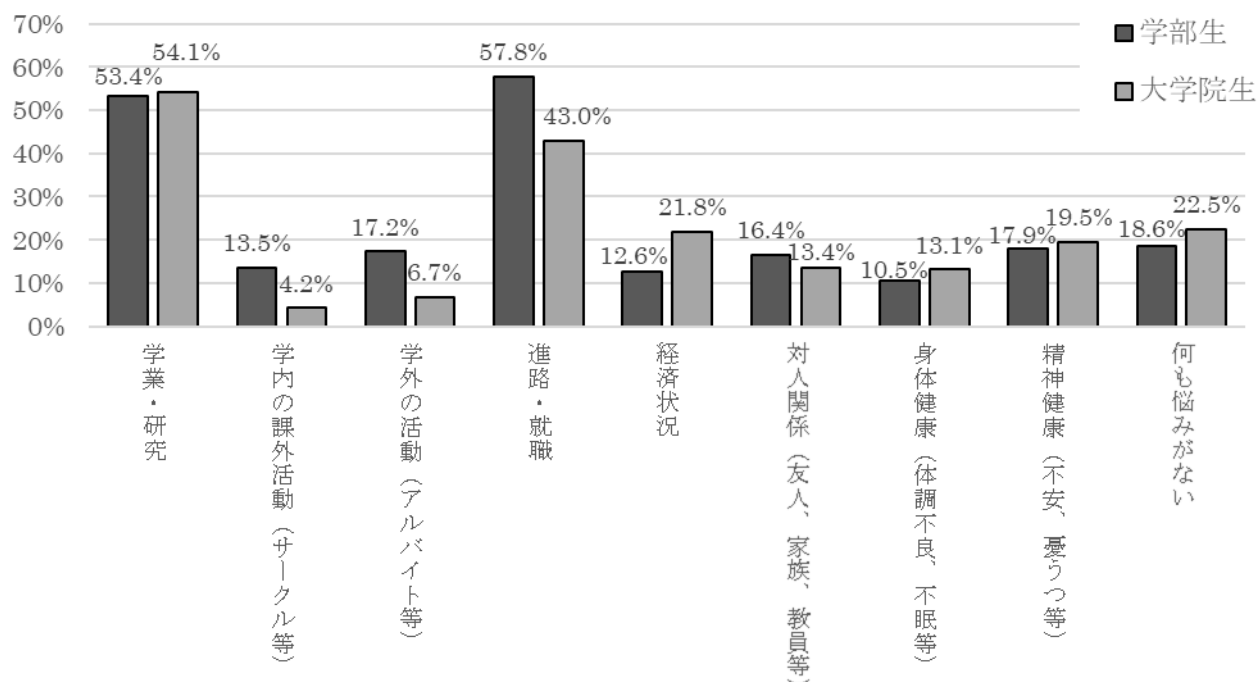
学部生と大学院生(修士)の比較では、悩みの二大テーマは変わらないが、学部生の「進路・就職」の悩みは前回(45.2%)より大幅に増加している。学部生は「学外の活動」や「対人関係」でも前回よりも悩みが増えており、生活の変化の影響がうかがえる。「経済状況」の悩みは、学部生で減少し、大学院生で増加している。「対人関係」の悩みは、大学院生が13.4%と前回(15.3%)から減少している。

学部・学府別では、「学業・研究」の悩みは工学部の学生が農学部より多く、「進路・就職」は農学部の方が多いという前回とほぼ同様の傾向がみられる。博士課程後

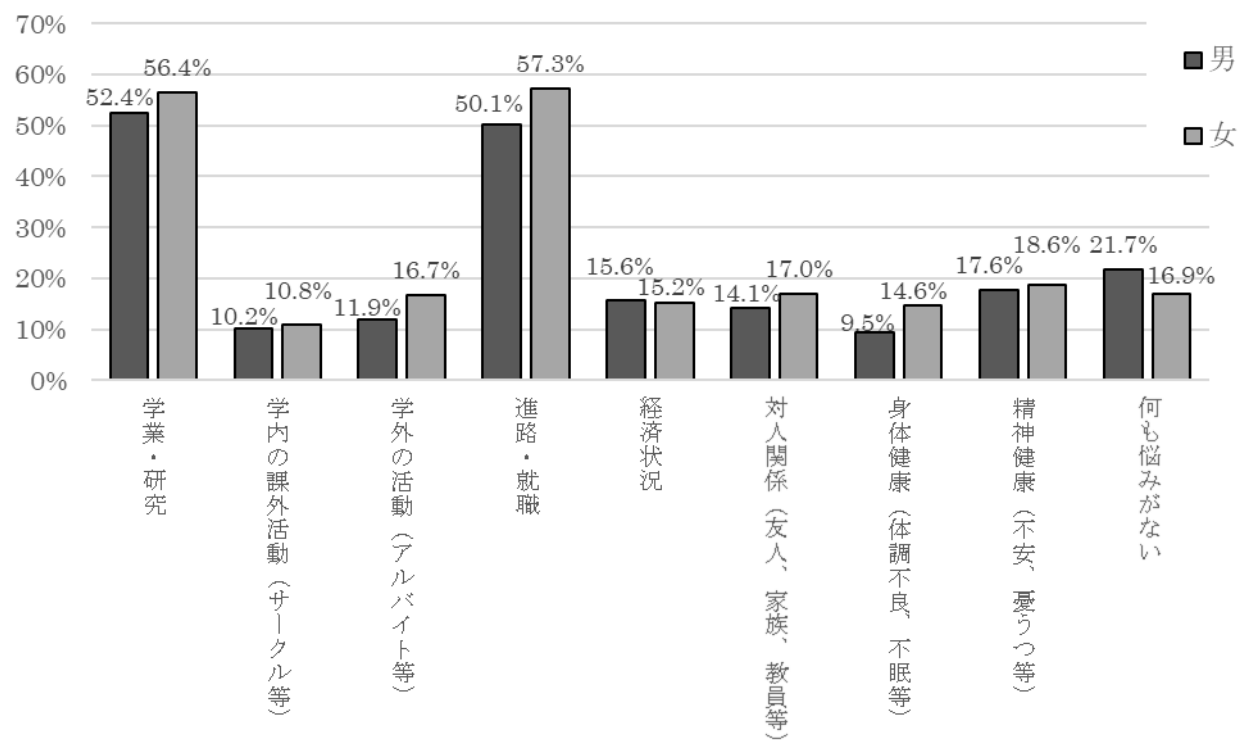
期の学生は農工ともに「学業・研究」および「経済状況」の悩みが高い。

男女別にみると、「進路・就職」を筆頭に多くの項目で女子学生の方が男子学生より「悩み」として選択される割合が高くなっている。「何も悩みがない」と回答した割合は、男子学生の方が若干高くなっている。

### Q57-2. 学生生活の悩み(学部生/大学院生)



### Q57-3. 学生生活の悩み(男/女)



Q57-4. 学生生活の悩み

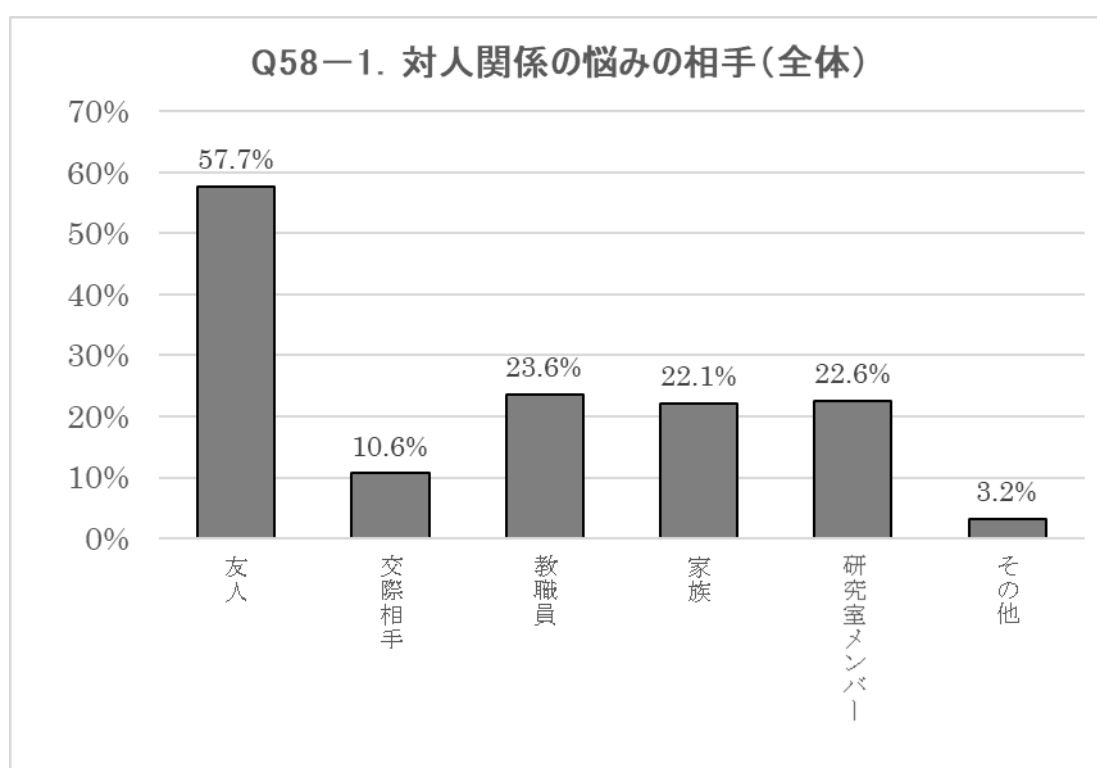
	学業・研究	学内の課外活動 (サークル等)	学外の活動 (アルバイト等)	進路・就職	経済状況	(友人、家族、教員等) 対人関係	(体調不良、不眠等) 身体健康	(不安、憂うつ等) 精神健康	何も悩みがない
全体	53.6%	10.4%	13.8%	52.9%	15.6%	15.4%	11.4%	18.4%	19.9%
男	52.4%	10.2%	11.9%	50.1%	15.6%	14.1%	9.5%	17.6%	21.7%
女	56.4%	10.8%	16.7%	57.3%	15.2%	17.0%	14.6%	18.6%	16.9%
その他	77.8%	11.1%	44.4%	66.7%	22.2%	44.4%	22.2%	55.6%	22.2%
回答しない	35.7%	10.7%	14.3%	58.9%	23.2%	25.0%	8.9%	35.7%	17.9%
留学生	71.9%	15.6%	14.6%	56.8%	48.2%	25.1%	24.6%	36.7%	13.1%
国内生	52.3%	10.0%	13.7%	52.6%	13.3%	14.8%	10.4%	17.1%	20.4%
单身生活	56.3%	9.7%	13.3%	53.5%	21.2%	17.3%	12.3%	21.4%	19.2%
家族・親族と同居	52.0%	10.9%	13.8%	52.2%	11.2%	14.2%	10.3%	16.3%	20.5%
友人と同居	53.7%	4.9%	17.1%	53.7%	43.9%	14.6%	19.5%	24.4%	12.2%
他人と同居	50.0%	15.8%	23.7%	63.2%	21.1%	15.8%	23.7%	18.4%	18.4%
学部生	53.4%	13.5%	17.2%	57.8%	12.6%	16.4%	10.5%	17.9%	18.6%
大学院生	54.1%	4.2%	6.7%	43.0%	21.8%	13.4%	13.1%	19.5%	22.5%
農学部	48.7%	14.2%	18.4%	59.6%	11.8%	15.3%	10.3%	18.7%	18.3%
工学部	56.3%	13.1%	16.5%	56.6%	13.1%	17.2%	10.7%	17.4%	18.8%
農学府修士課程	51.3%	4.0%	8.0%	43.8%	18.8%	14.3%	13.8%	21.4%	23.2%
大学院農学府博士課程	83.3%	13.3%	16.7%	23.3%	30.0%	13.3%	13.3%	16.7%	13.3%
工学府博士前期課程	49.4%	2.2%	5.9%	40.4%	16.0%	11.2%	9.8%	17.1%	26.4%
工学府博士後期課程	55.9%	3.9%	8.8%	43.1%	32.4%	12.7%	17.6%	24.5%	18.6%
工学府専門職学位課程	50.0%	7.5%	5.0%	30.0%	20.0%	10.0%	12.5%	15.0%	22.5%
連合農学研究科博士課程	72.8%	7.4%	6.2%	56.8%	34.6%	24.7%	19.8%	24.7%	17.3%
B A S E	53.0%	4.8%	4.8%	48.2%	24.4%	11.9%	13.1%	18.5%	20.8%

## 58. 対人関係の悩みの相手

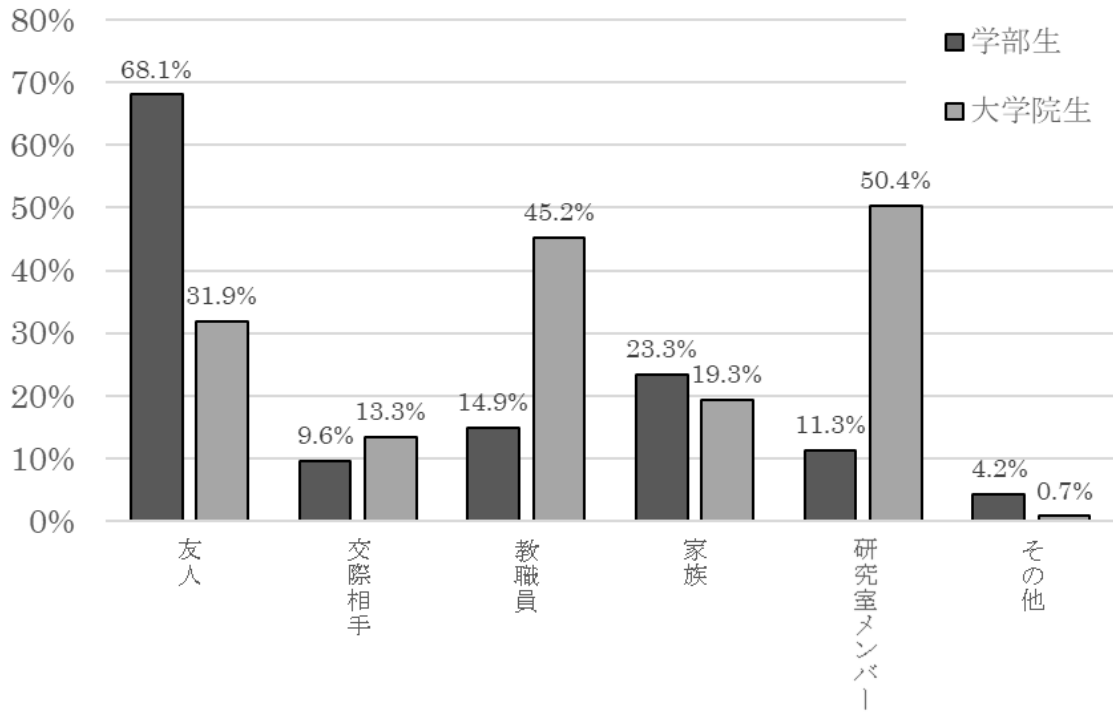
学生生活の悩みで「対人関係」を選択した回答者に、悩みの相手を質問した。悩みの相手については、「友人」が一番多く 57.7%で、前回の 46.8%から大幅に増加している。男女差はほぼないが、学部生が最も高い割合(68.1%)となっている。学部生は「交際相手」「教職員」「研究室メンバー」の悩みが前回より減少しているが、友人との交流がもてないといった悩みが増加しているのかもしれない。

対人関係の悩みの相手として「家族」の割合が、前回(17.9%)より増加し 22.1%となった。特に女子、親と同居、農学部で「家族」が悩みの相手と回答した割合が高い。新型コロナ禍で友人との交流が減り、家族との時間が増えたことが想定され、前回調査と比べると悩みの傾向に変化がみられる。

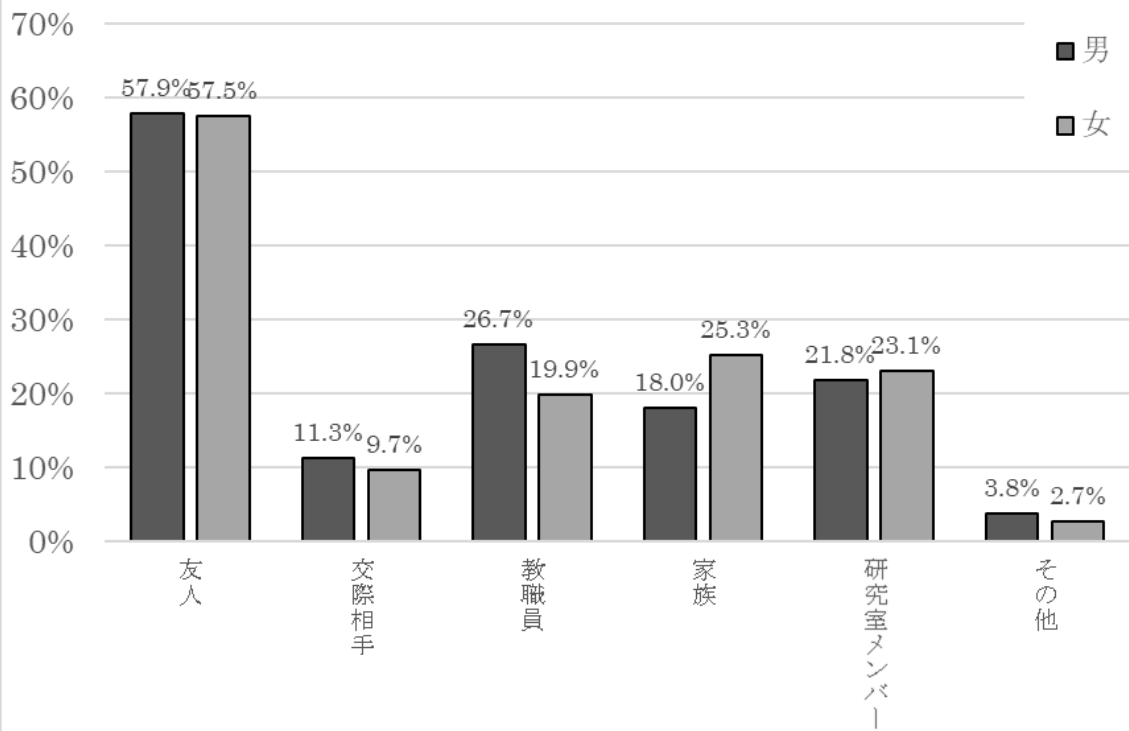
前回調査と同様に、「教職員」や「研究室メンバー」との悩みは研究室に配属される大学院生で学部生より多い。新型コロナ禍でも研究室の対人関係には変化がなかったのか、対人関係の質が変化したことで、新たな悩みが生じているのかはわからない。



### Q58-2. 対人関係の悩みの相手(学部生/大学院生)



### Q58-3. 対人関係の悩みの相手(男/女)



Q58-4. 対人関係の悩みの相手 [人]

	友人	交際相手	教職員	家族	研究室メン バー	その他	無回答
全体	271 (57.7)	50 (10.6)	111 (23.6)	104 (22.1)	106 (22.6)	15 (3.2)	18 (3.8)
男	154 (57.9)	30 (11.3)	71 (26.7)	48 (18.0)	58 (21.8)	10 (3.8)	11 (4.1)
女	107 (57.5)	18 (9.7)	37 (19.9)	47 (25.3)	43 (23.1)	5 (2.7)	5 (2.7)
その他	3 (75.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)
回答しない	7 (50.0)	2 (14.3)	2 (14.3)	8 (57.1)	4 (28.6)	0 (0.0)	1 (7.1)
留学生	28 (56.0)	14 (28.0)	25 (50.0)	14 (28.0)	26 (52.0)	0 (0.0)	3 (6.0)
国内生	243 (57.9)	36 (8.6)	86 (20.5)	90 (21.4)	80 (19.0)	15 (3.6)	15 (3.6)
単身生活	130 (64.0)	29 (14.3)	54 (26.6)	36 (17.7)	50 (24.6)	2 (1.0)	7 (3.4)
家族・親族と同居	136 (53.3)	19 (7.5)	53 (20.8)	64 (25.1)	51 (20.0)	13 (5.1)	10 (3.9)
友人と同居	1 (16.7)	2 (33.3)	2 (33.3)	1 (16.7)	3 (50.0)	0 (0.0)	1 (16.7)
他人と同居	4 (66.7)	0 (0.0)	2 (33.3)	3 (50.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
学部生	228 (68.1)	32 (9.6)	50 (14.9)	78 (23.3)	38 (11.3)	14 (4.2)	13 (3.9)
大学院生	43 (31.9)	18 (13.3)	61 (45.2)	26 (19.3)	68 (50.4)	1 (0.7)	5 (3.7)
農学部	79 (64.8)	14 (11.5)	18 (14.8)	42 (34.4)	15 (12.3)	4 (3.3)	3 (2.5)
工学部	149 (70.0)	18 (8.5)	32 (15.0)	36 (16.9)	23 (10.8)	10 (4.7)	10 (4.7)
農学府	16 (42.1)	6 (15.8)	16 (42.1)	4 (10.5)	19 (50.0)	1 (2.6)	3 (7.9)
工学府	17 (29.8)	5 (8.8)	27 (47.4)	11 (19.3)	25 (43.9)	0 (0.0)	1 (1.8)
連合農学研究科	6 (30.0)	3 (15.0)	11 (55.0)	7 (35.0)	11 (55.0)	0 (0.0)	1 (5.0)
BASE	4 (20.0)	4 (20.0)	7 (35.0)	4 (20.0)	13 (65.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

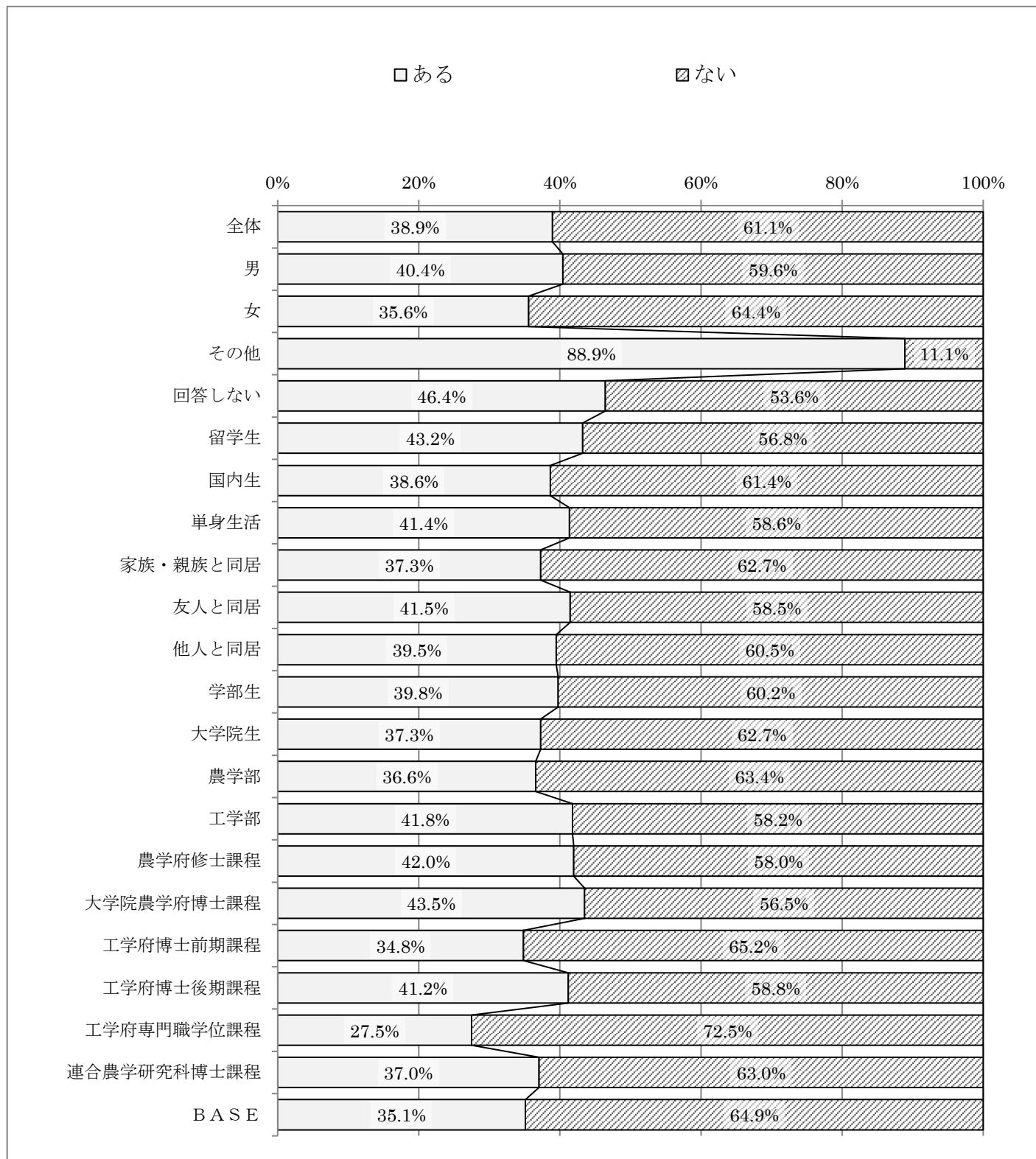
※ ( ) 割合 (%)

## 59. 大学生活で困ったことの有無

全体では、困ったことが「ある」が38.9（前回39.5%）と同様の結果となった。博士課程の学生で「困ったこと」が前回調査よりやや増加している。

今回調査から性別の選択肢に「その他」を加えたが、「困ったこと」がある割合は高くなっている。実数は少ないもののジェンダーマイノリティの学生の生活上の困難がうかがえる。

Q59-1 大学生活で困ったことの有無





## 60. 相談相手

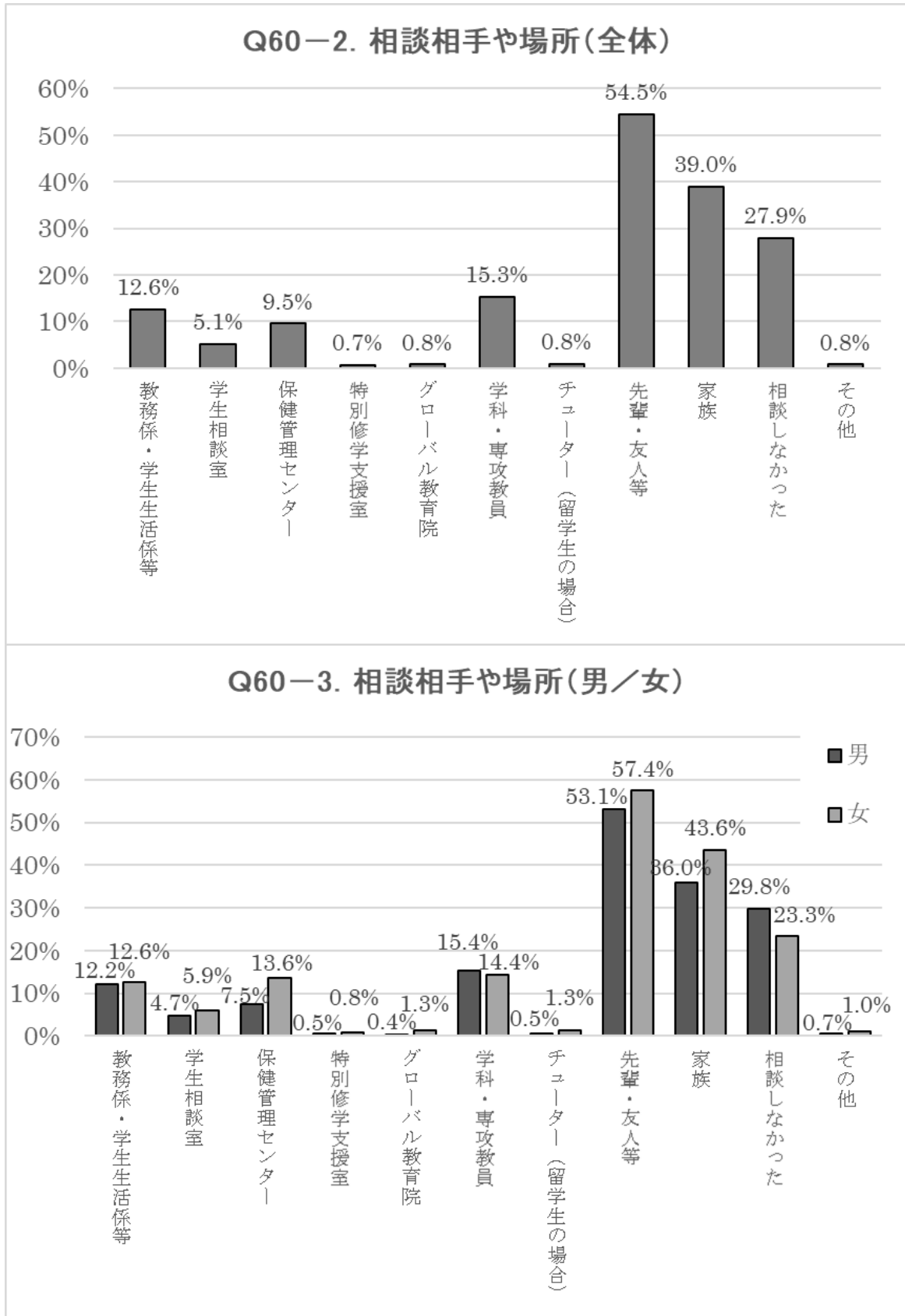
困ったことがあると回答した人に対して、困ったときの相談相手（場所）について複数回答可で回答を求めた。全体的傾向として前回同様「先輩・友人等」が最も高く（54.5%）となっている。次いで「家族」39.0%（前回 32.8%）で調査のたびに増加している。また今回調査では「教務係・学生生活係等」や「学科・専攻教員」の選択割合も増加しており、学内の教職員に相談できるようになってきていることも推察される。

### Q60-1. 相談相手【人】

	教務係・ 学生生活 係等	学生相談 室	保健管理 センター	特別修学 支援室	グローバ ル教育院	学科・専 攻教員	チュー ター（留 学生の場合）	先輩・友 人等	家族	相談しな かった	その他
全体	149 (12.6)	61 (5.1)	113 (9.5)	8 (0.7)	9 (0.8)	182 (15.3)	10 (0.8)	646 (54.5)	462 (39.0)	331 (27.9)	9 (0.8)
男	93 (12.2)	36 (4.7)	57 (7.5)	4 (0.5)	3 (0.4)	117 (15.4)	4 (0.5)	405 (53.1)	274 (36.0)	227 (29.8)	5 (0.7)
女	49 (12.6)	23 (5.9)	53 (13.6)	3 (0.8)	5 (1.3)	56 (14.4)	5 (1.3)	224 (57.4)	170 (43.6)	91 (23.3)	4 (1.0)
その他	2 (25.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	4 (50.0)	5 (62.5)	3 (37.5)	0 (0.0)
回答しない	5 (19.2)	1 (3.8)	2 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (23.1)	0 (0.0)	13 (50.0)	13 (50.0)	10 (38.5)	0 (0.0)
留学生	10 (11.6)	9 (10.5)	6 (7.0)	1 (1.2)	5 (5.8)	23 (26.7)	10 (11.6)	54 (62.8)	38 (44.2)	15 (17.4)	1 (1.2)
国内生	139 (12.6)	52 (4.7)	107 (9.7)	7 (0.6)	4 (0.4)	159 (14.5)	0 (0.0)	592 (53.8)	424 (38.5)	316 (28.7)	8 (0.7)
単身生活	57 (11.7)	25 (5.1)	47 (9.7)	2 (0.4)	4 (0.8)	80 (16.5)	7 (1.4)	285 (58.6)	191 (39.3)	125 (25.7)	5 (1.0)
家族・親族と同居	89 (13.3)	32 (4.8)	63 (9.4)	5 (0.7)	4 (0.6)	96 (14.4)	2 (0.3)	337 (50.4)	253 (37.9)	202 (30.2)	4 (0.6)
友人と同居	2 (11.8)	2 (11.8)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)	0 (0.0)	13 (76.5)	10 (58.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
他人と同居	1 (6.7)	2 (13.3)	2 (13.3)	1 (6.7)	1 (6.7)	3 (20.0)	1 (6.7)	11 (73.3)	8 (53.3)	4 (26.7)	0 (0.0)
学部生	102 (12.6)	35 (4.3)	70 (8.6)	6 (0.7)	4 (0.5)	86 (10.6)	6 (0.7)	430 (53.1)	311 (38.4)	252 (31.1)	3 (0.4)
大学院生	47 (12.5)	26 (6.9)	43 (11.4)	2 (0.5)	5 (1.3)	96 (25.5)	4 (1.1)	216 (57.4)	151 (40.2)	79 (21.0)	6 (1.6)
農学部	32 (11.0)	15 (5.1)	30 (10.3)	2 (0.7)	2 (0.7)	44 (15.1)	1 (0.3)	164 (56.2)	123 (42.1)	89 (30.5)	2 (0.7)
工学部	70 (13.5)	20 (3.9)	40 (7.7)	4 (0.8)	2 (0.4)	42 (8.1)	5 (1.0)	266 (51.4)	188 (36.3)	163 (31.5)	1 (0.2)
農学府修士課程	17 (18.1)	5 (5.3)	9 (9.6)	1 (1.1)	1 (1.1)	25 (26.6)	3 (3.2)	62 (66.0)	41 (43.6)	23 (24.5)	0 (0.0)
工学府博士前期課程	10 (8.1)	5 (4.0)	15 (12.1)	1 (0.8)	2 (1.6)	21 (16.9)	0 (0.0)	68 (54.8)	52 (41.9)	30 (24.2)	2 (1.6)
工学府博士後期課程	6 (14.3)	3 (7.1)	4 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (33.3)	0 (0.0)	25 (59.5)	16 (38.1)	5 (11.9)	2 (4.8)
連合農学研究科博士課程	5 (16.7)	2 (6.7)	5 (16.7)	0 (0.0)	1 (3.3)	13 (43.3)	0 (0.0)	11 (36.7)	10 (33.3)	5 (16.7)	1 (3.3)
B A S E	3 (5.1)	6 (10.2)	7 (11.9)	0 (0.0)	1 (1.7)	12 (20.3)	1 (1.7)	40 (67.8)	25 (42.4)	10 (16.9)	1 (1.7)
大学院農学府博士課程	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)
※ ( ) 割合 (%)											

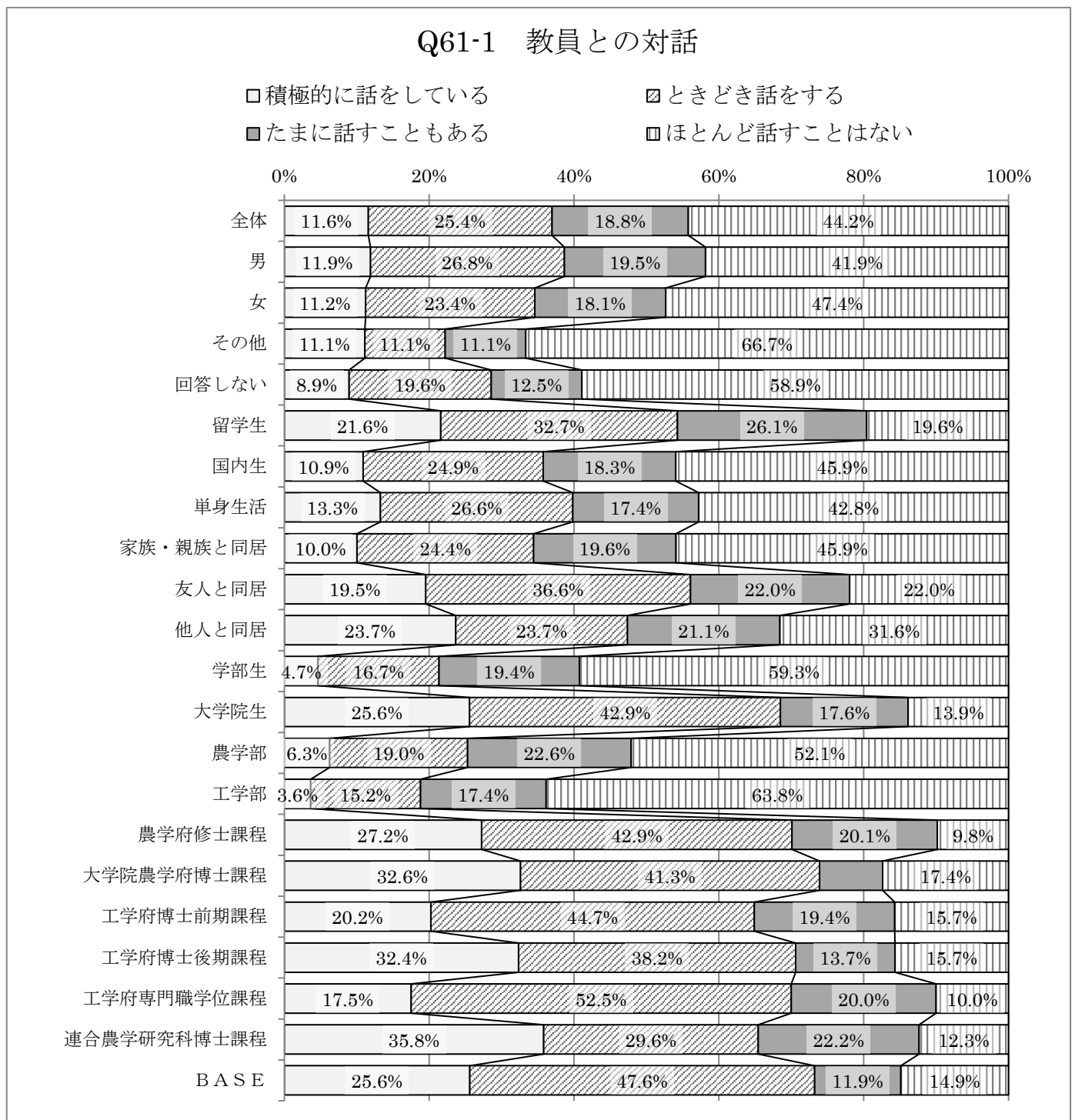
相談先が増えている一方で、誰にも「相談しなかった」と回答した割合が 27.9%と前回 (21.4%) より増えている。特に男子学生、学部生、そして家族と同居している学生で平均よりも高い 30%ほどが学生生活の悩みを「誰にも相談してない」という結果になった。他者に相談できる学生とそうでない学生の二極化が進んでいるのかもしれない。

「学生相談室」や「保健管理センター」など学内の相談窓口の利用は、前回とほぼ同様の割合 (それぞれ 5.1%、9.5%) となった。対人関係の悩みなども学内の相談機関に気軽に相談できるよう、さらなる周知の工夫が求められる。



## 6 1. 教員との対話

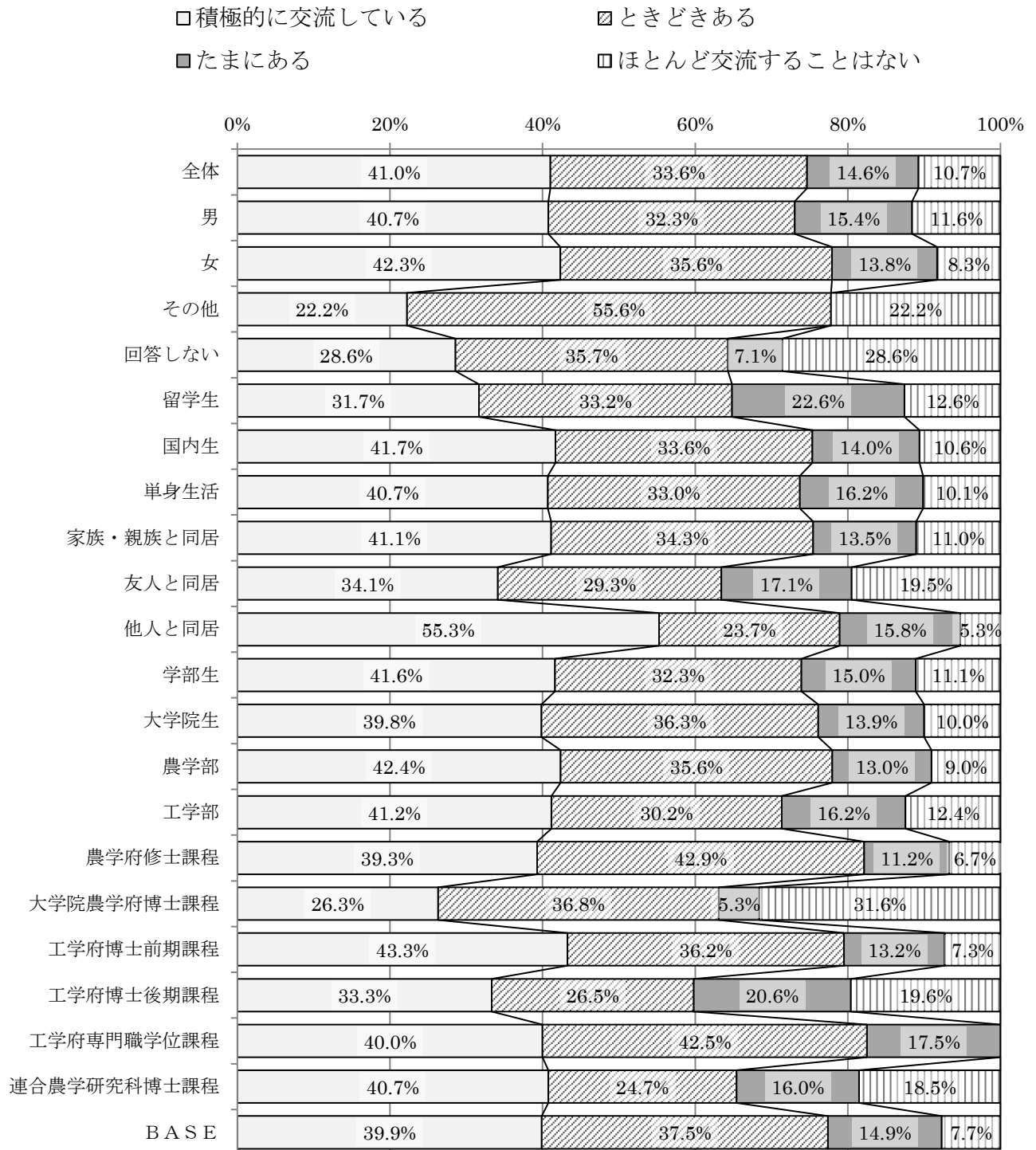
全体では「積極的に話をしている」11.6%（前回10.4%）、「ときどき話をする」25.4%（前回25.4%）とほぼ変わらない一方で、「たまに話すこともある」が18.8%と前回（22.4%）より減少し、「ほとんど話すことはない」が44.2%と増加した（前回40.6%）。これまで「たまに話す」と回答していた学生が、「ほとんど話さない」へ移行した可能性がある。特に学部生で教員との対話がほとんどない学生が増加し、約6割の学生が教員と交流できていない。大学院生では、修士学生より博士学生の方が教員と積極的に対話しており、前回調査よりも交流は増加している印象。しかし一方で、大学院生でも教員と「ほとんど話さない」割合が14～16%ほどおり、前回調査より増加している。教員との対話も積極的な学生とそうでない学生とで二極化している可能性がある。



## 6.2. 学生同士の交流

新型コロナ禍の行動制限の影響か、前回調査から変化がみられた。「積極的に交流している」は41.0%（前回52.9%）と減少し、「ときどきある」が33.6%（前回29.9%）、「たまにある」14.6%（前回11.4%）、「ほとんど交流することはない」10.7%（前回5.0%）と交流が減少している。10人に1人が学生同士の交流がないまま大学生活を送っていることになる。男子、工学部の学生で「ほとんど交流がない」割合が高くなる傾向は前回と同じ。

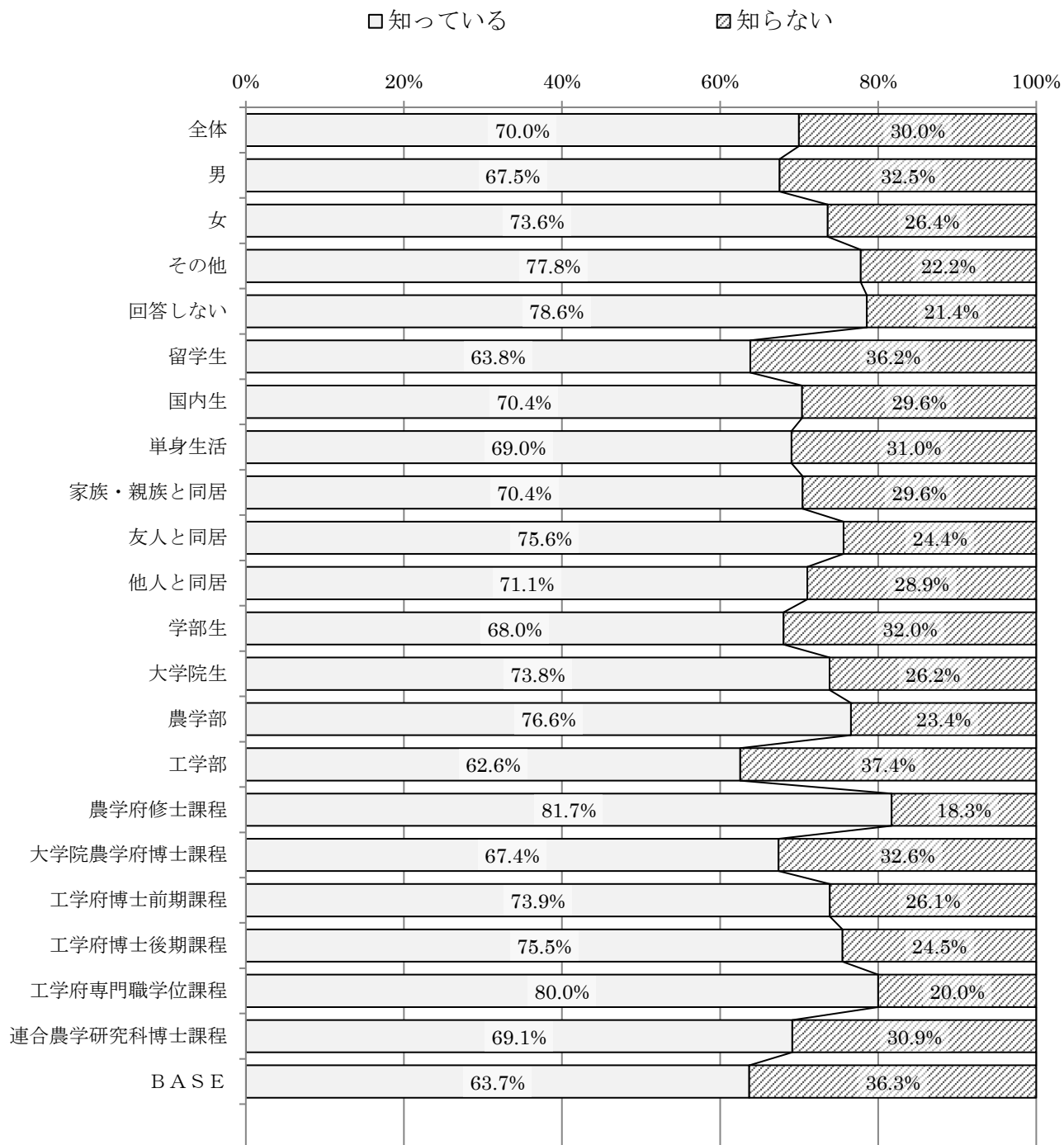
### Q62-1. 学生同士の交流



### 63. 学生相談室の認知度

各キャンパスに学業・進路・就職などの相談に応じる学生相談室が開設されているのを知っているかの問いに、全体の70.0%が「知っている」と回答した。前回調査(64.5%)より認知度がやや増加した。工学部でやや認知度が低い。

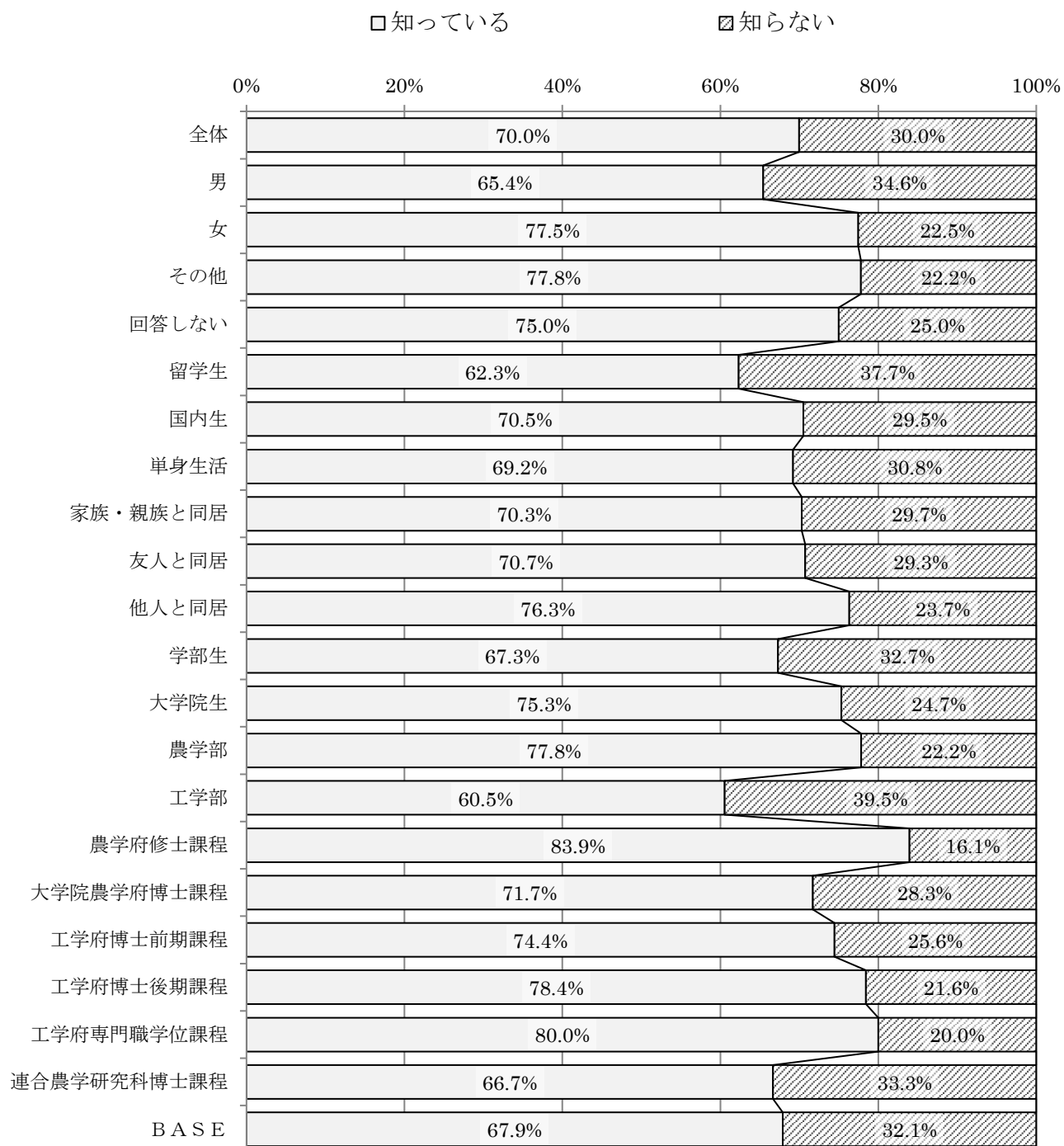
Q63-1. 学生相談室の認知度



#### 6 4. 保健管理センター カウンセラーの認知度

カウンセラーの認知度は全体で 70.0%（前回 70.6%）であり、前回とほぼ同じ値となった。工学部生および留学生での認知度がやや低く、周知方法の工夫が求められる。

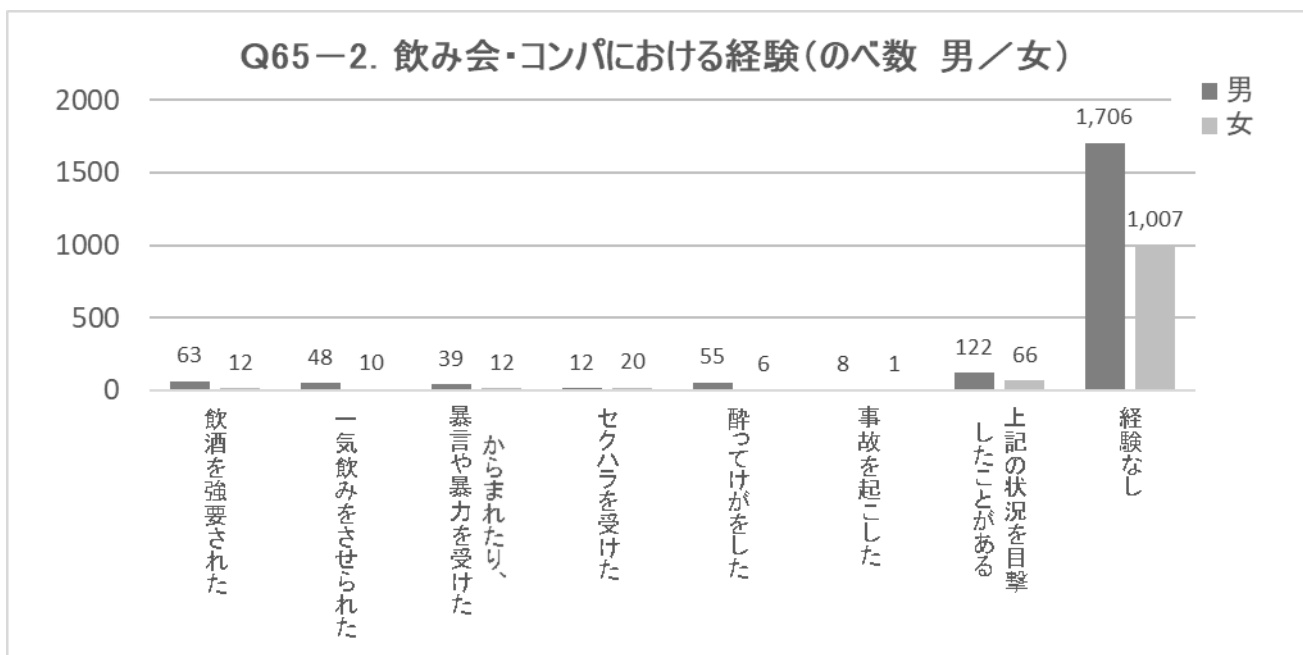
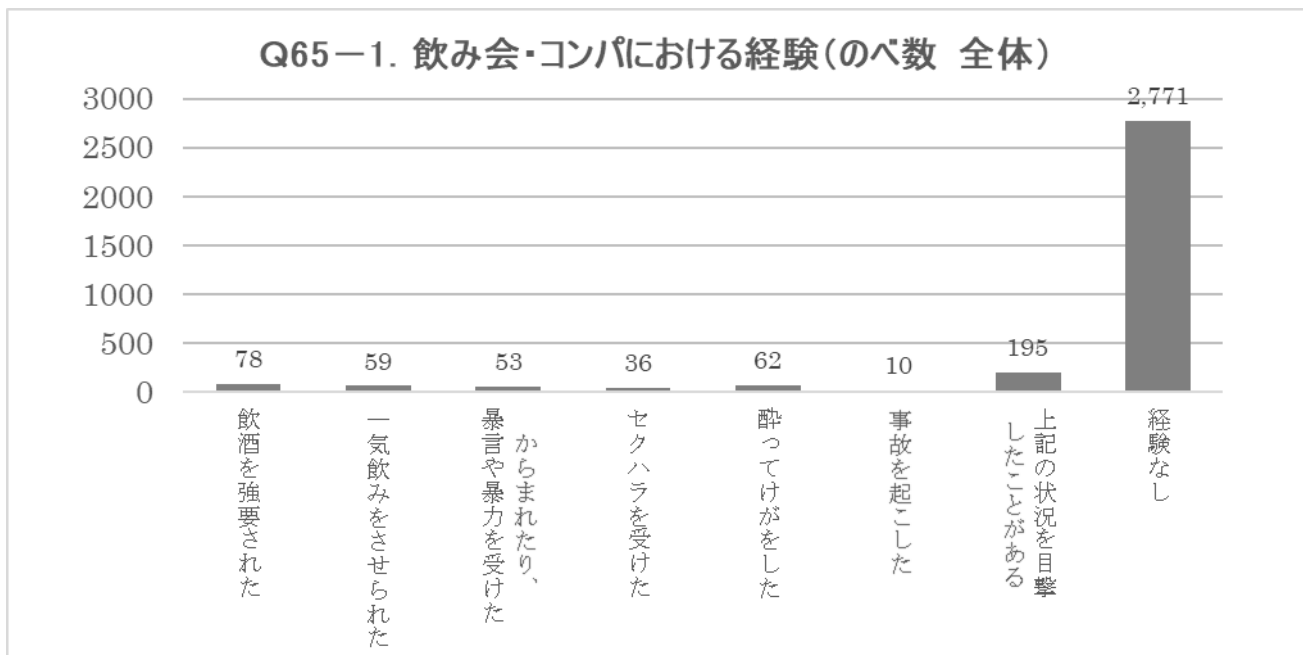
Q64-1. 保健管理センター カウンセラーの認知度



## 6.5. 飲み会・コンパにおける経験

飲み会やコンパでの不快・危険経験について複数回答可として以下の項目についての経験を訊ねた。有効回答のうち全体の91%（前回74.0%）は「経験なし」と回答しており、新型コロナ禍で飲食の機会が減少した影響が認められる。しかし依然として飲酒、一気飲みの強要、セクハラ、ケガや事故は生じており、引き続き飲酒マナーや事故防止のための教育が必要と思われる。

男女別でみると、男子学生の方が「飲酒の強要」や「からまれ」、「怪我」が多く、「一気飲み」も48件生じている。飲み会の場面での「セクハラ」被害は女子に多く、件数としては前回調査（35件）からあまり減っていないともいえる。今後も注意が必要だろう。



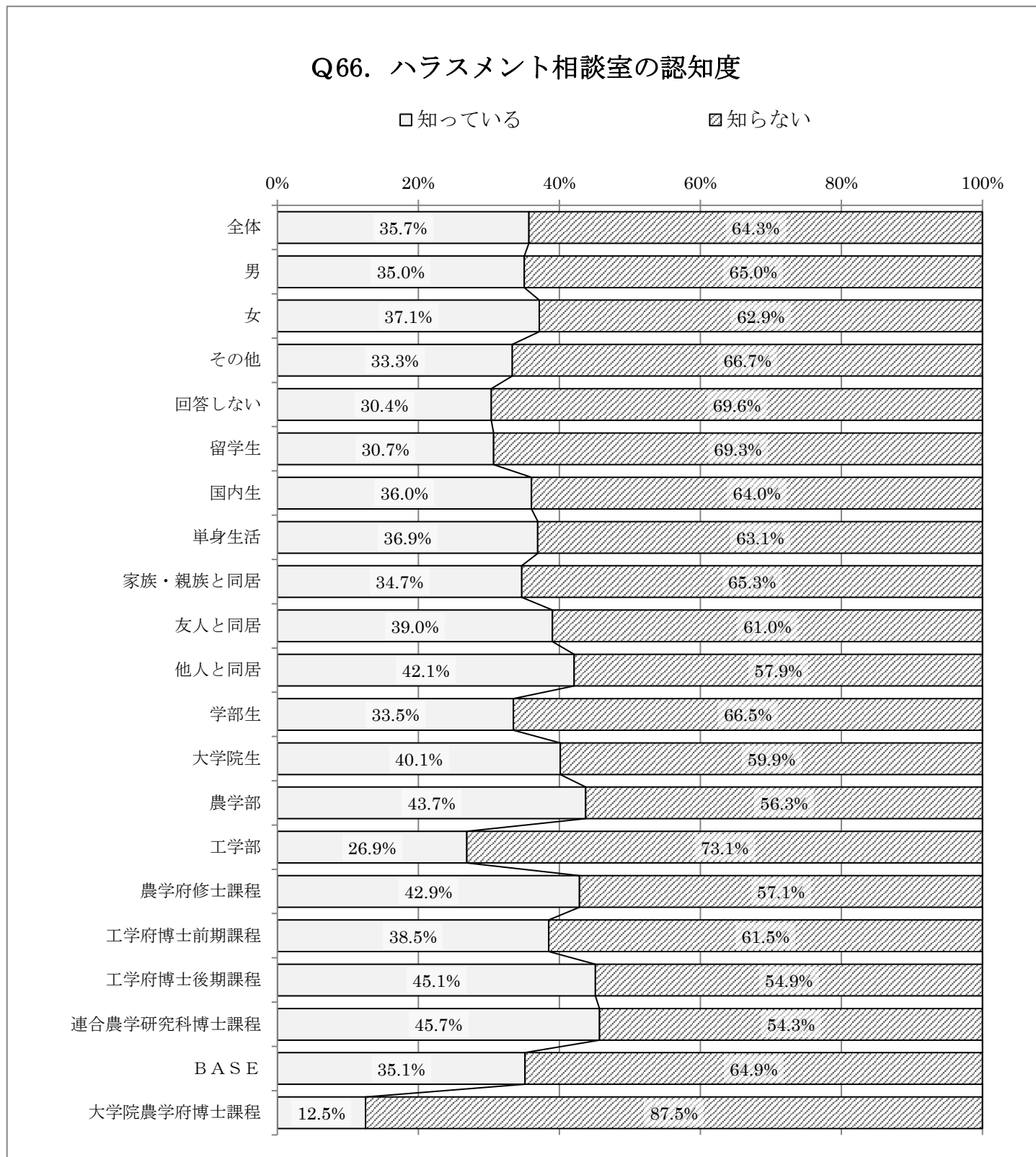
Q65-3. 飲み会・コンパにおける経験

	飲酒を強要された	一気飲みをさせられた	からまれたり、暴言や暴力を受けた	セクハラを受けた	酔ってけがをした	事故を起こした	上記の状況を目撃したことがある	経験なし
全体	2.6%	1.9%	1.7%	1.2%	2.0%	0.3%	6.4%	91.0%
男	3.3%	2.5%	2.1%	0.6%	2.9%	0.4%	6.5%	90.5%
女	1.1%	0.9%	1.1%	1.8%	0.5%	0.1%	6.0%	91.9%
その他	22.2%	11.1%	11.1%	22.2%	11.1%	11.1%	22.2%	88.9%
回答しない	1.8%	0.0%	1.8%	3.6%	0.0%	0.0%	8.9%	89.3%
留学生	1.0%	0.5%	0.5%	1.5%	1.5%	0.5%	4.5%	96.0%
国内生	2.7%	2.0%	1.8%	1.2%	2.1%	0.3%	6.5%	90.6%
单身生活	2.9%	2.2%	1.4%	1.1%	2.7%	0.3%	6.1%	90.1%
家族・親族と同居	2.2%	1.6%	1.8%	1.1%	1.4%	0.2%	6.4%	91.7%
友人と同居	7.3%	4.9%	7.3%	7.3%	4.9%	2.4%	12.2%	85.4%
他人と同居	5.3%	5.3%	2.6%	2.6%	7.9%	2.6%	10.5%	89.5%
学部生	2.1%	1.4%	1.2%	0.6%	1.4%	0.4%	4.9%	93.3%
大学院生	3.6%	3.0%	2.9%	2.3%	3.3%	0.2%	9.5%	86.2%
農学部	1.9%	1.3%	1.1%	0.8%	0.9%	0.3%	5.9%	92.5%
工学部	2.2%	1.5%	1.2%	0.6%	1.8%	0.5%	4.2%	93.9%
農学府修士課程	4.5%	3.1%	3.6%	2.2%	4.0%	0.0%	11.6%	82.6%
工学府博士前期課程	5.1%	4.5%	2.5%	1.7%	3.1%	0.6%	11.0%	86.0%
工学府博士後期課程	3.9%	3.9%	3.9%	3.9%	6.9%	0.0%	11.8%	81.4%
連合農学研究科博士課程	1.2%	1.2%	1.2%	2.5%	3.7%	0.0%	3.7%	92.6%
B A S E	1.2%	0.6%	2.4%	1.8%	1.8%	0.0%	6.0%	89.9%
大学院農学府博士課程	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



## 66. ハラスメント相談室の認知度

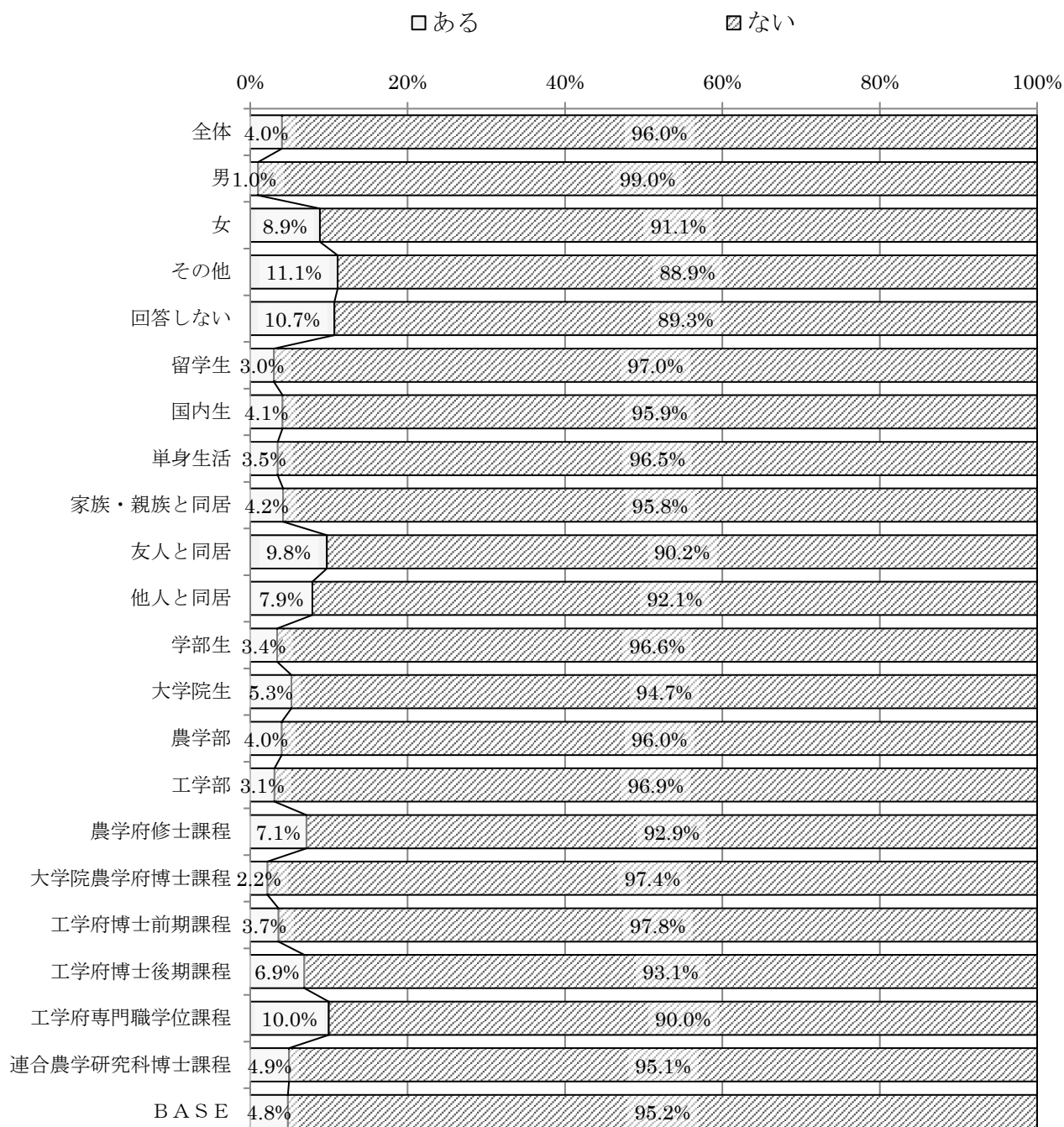
ハラスメント相談室は平成 18 年度より各キャンパスに毎週 1 回開室されている。相談室の認知度は、全体で 35.7% (前回 24.7%) と若干上昇した。工学部学生のハラスメント相談室の認知度は前回より上昇したとはいえ、他の学科等に比べて低い。



## 67. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験について「ある」「ない」の2件法で質問をした。「ある」と答えた割合は、全体では4.0%で前回(4.3%)と同程度となっている。前回同様、女子学生が男子学生よりも高い値となっている。農学府修士、工学府後期課程、専門職学位課程でやや高い値となっている。今後もハラスメント防止の啓発活動を行う必要があるだろう。

Q67-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験



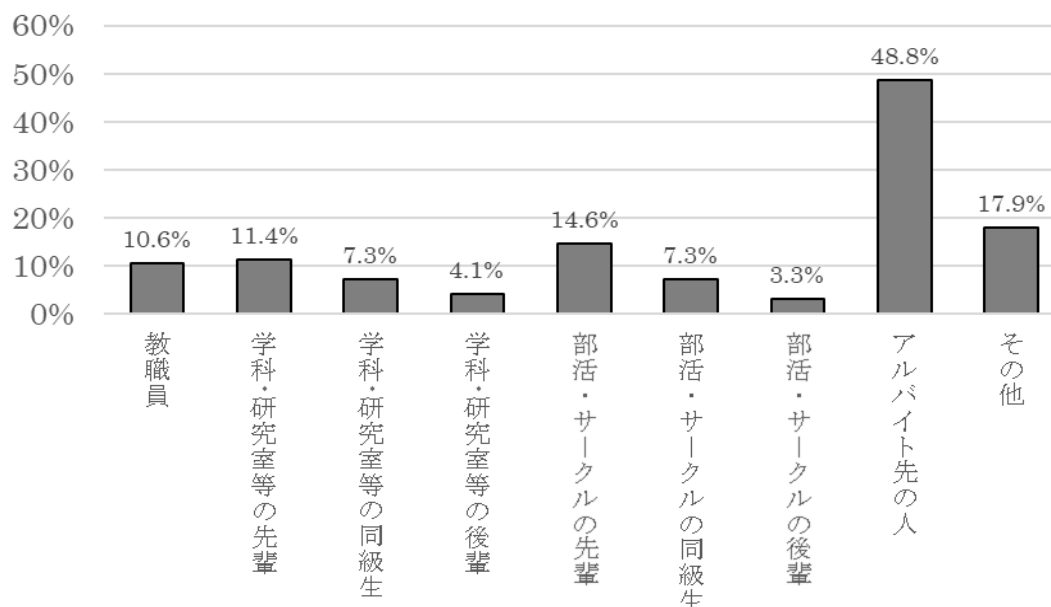
## 68. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手

セクシュアル・ハラスメントを受けたことが「ある」と回答した123件のうち、その「相手」をたずねた（複数回答）。回答者の78.9%は女性で、「アルバイト先」が最も多く54件（全体で60件）となっている。ついで「部活・サークル」内で31件となった。教職員や学科・研究室等は前回調査より少なくなっている。「その他」の自由記述では「知らない人」との回答10件あり、ハラスメントというより性暴力被害の可能性がある。

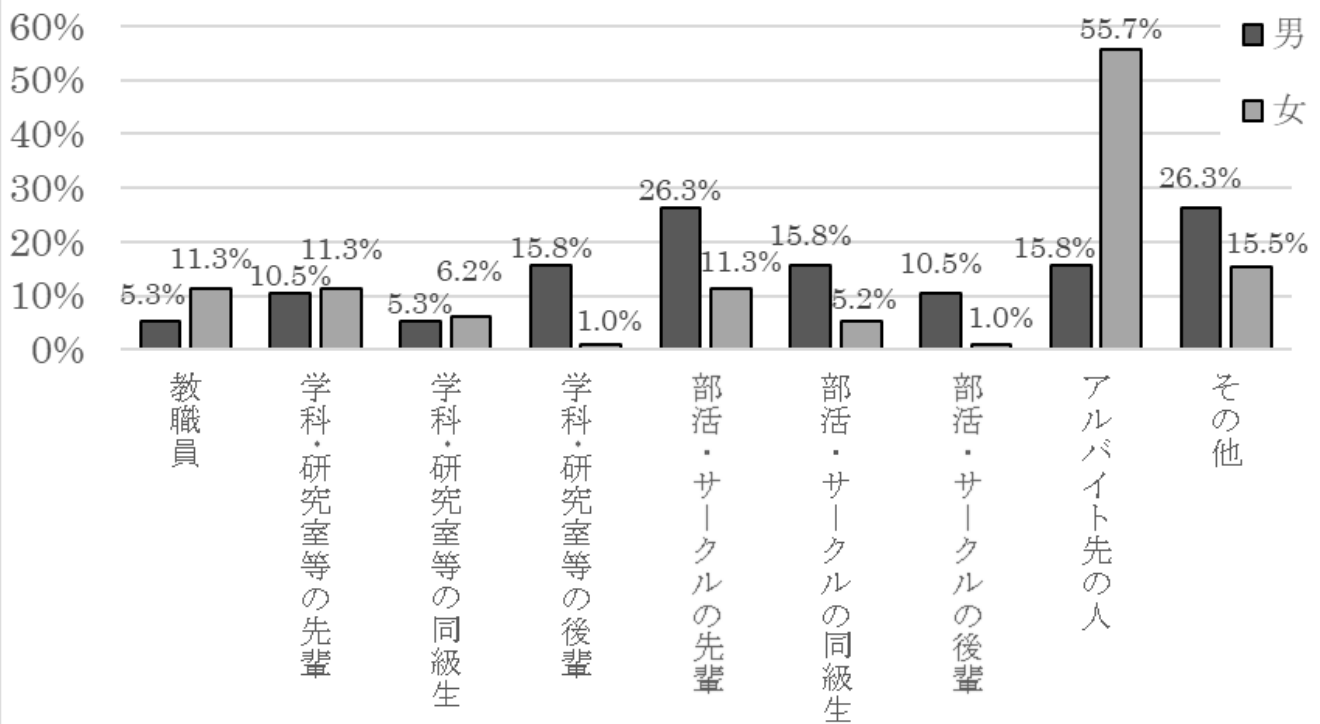
Q68-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手 [件数]

	教職員	学科・研究室等の先輩	学科・研究室等の同級生	学科・研究室等の後輩	部活・サークルの先輩	部活・サークルの同級生	部活・サークルの後輩	アルバイト先の人	その他	回答者数
全体	13	14	9	5	18	9	4	60	22	123
男	1	2	1	3	5	3	2	3	5	19
女	11	11	6	1	11	5	1	54	15	97
その他	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1
回答しない	0	0	1	0	1	0	0	2	2	6
留学生	4	3	2	1	1	1	1	2	1	6
国内生	9	11	7	4	17	8	3	58	21	117
単身生活	3	2	2	2	9	4	2	16	9	41
家族・親族と同居	8	9	6	2	8	2	1	41	12	75
友人と同居	1	2	0	0	0	1	0	1	1	4
他人と同居	1	1	1	1	1	2	1	2	0	3
学部生	4	3	3	2	10	7	1	43	13	70
大学院生	9	11	6	3	8	2	3	17	9	53
農学部	3	2	0	0	4	3	0	20	5	32
工学部	1	1	3	2	6	4	1	23	8	38
農学府修士課程	1	2	2	0	3	1	1	7	2	16
工学府博士前期課程	0	5	3	1	2	0	1	2	4	13
工学府博士後期課程	2	1	0	0	2	0	1	2	1	7
連合農学研究科博士課程	2	0	0	1	1	0	0	0	0	4
BASE	3	3	1	1	0	1	0	3	0	8
大学院農学府博士課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

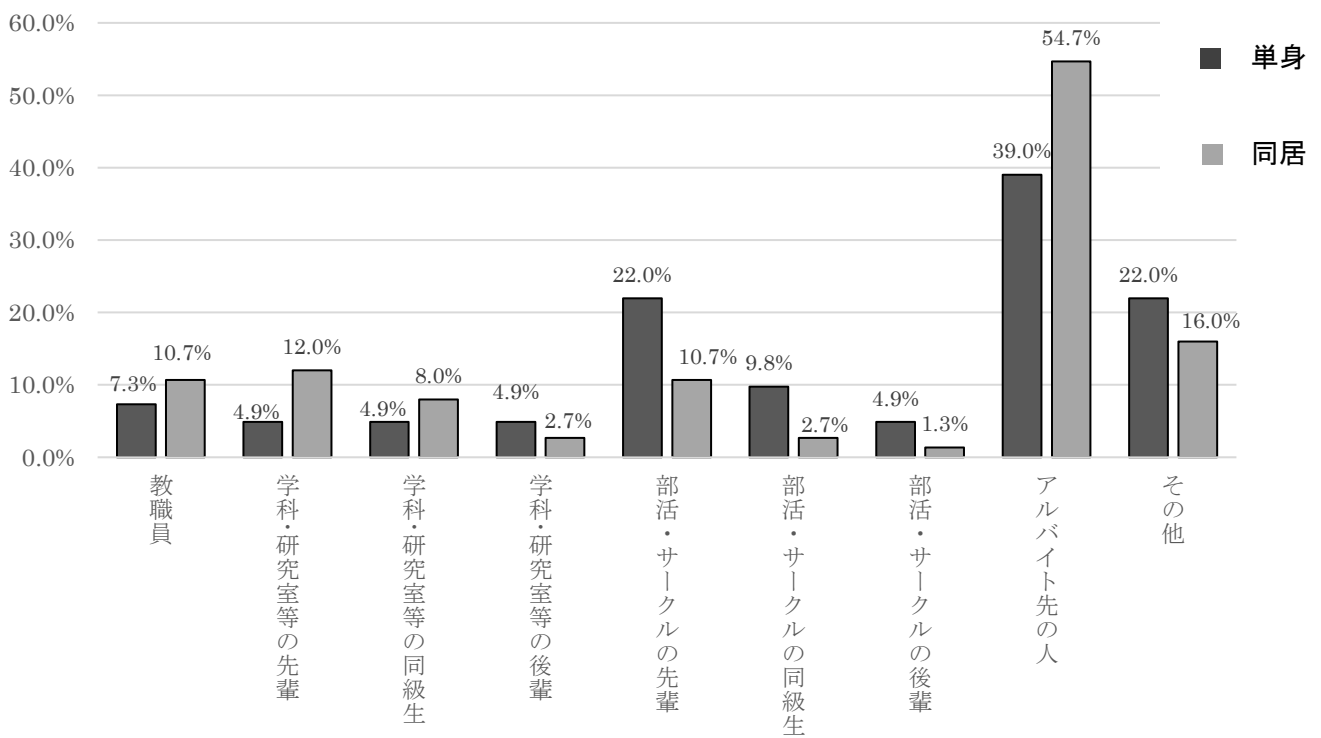
Q68-2. セクシャル・ハラスメントを受けた相手(全体)



### Q68-3. セクシャル・ハラスメントを受けた相手(男/女)



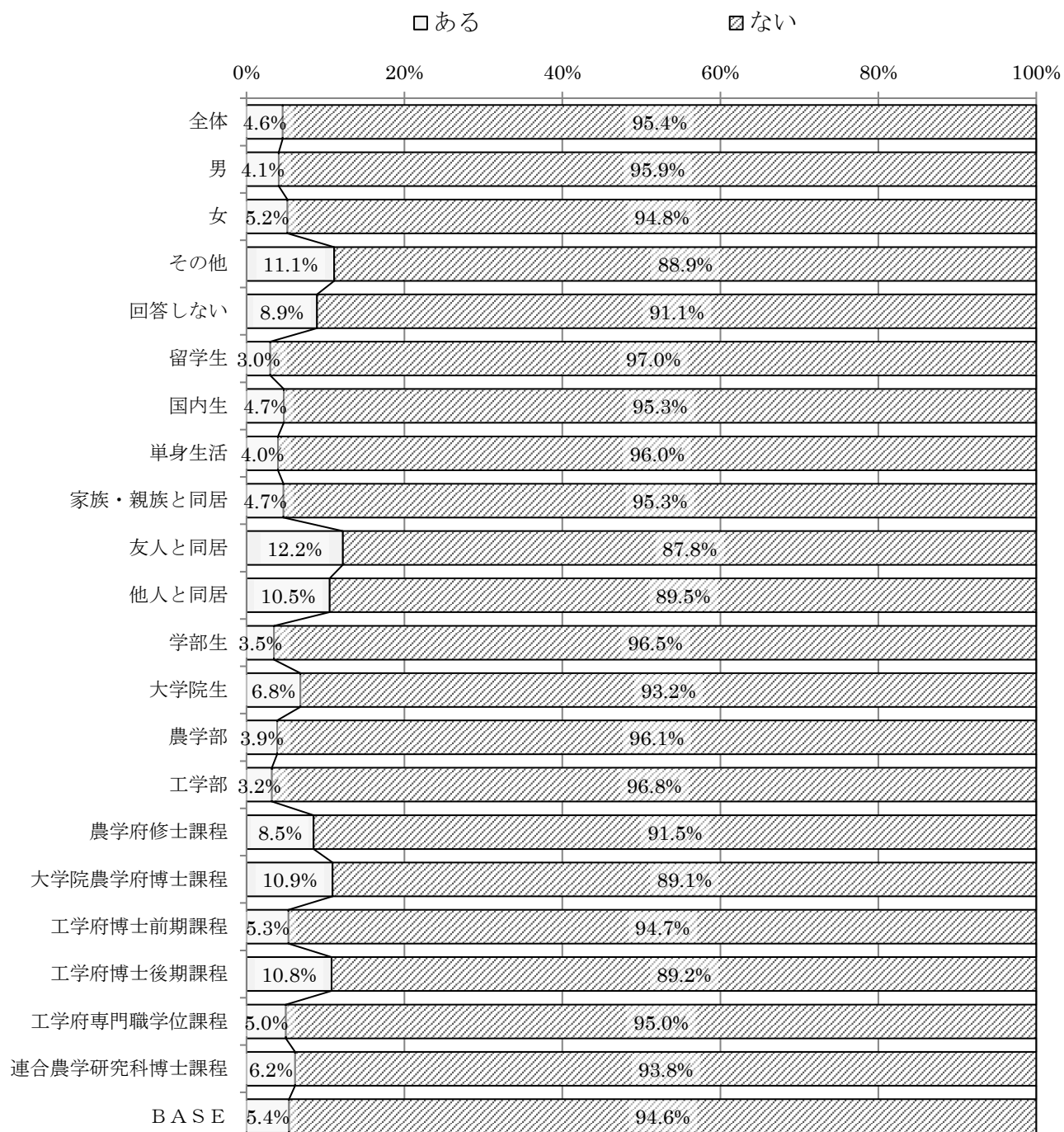
### Q68-4. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手(生活形態)



## 69. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験

全体で4.6%の学生がセクハラ以外のハラスメントを受けた経験があると回答しており、前回の7.2%から減少した。学部、大学院別では、農工両学部および工学府博士前期課程で前回調査より減少しているが、農学府修士課程および連合農学研究科、工学府博士後期課程では増加している。

Q69-1. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験



## 70. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手

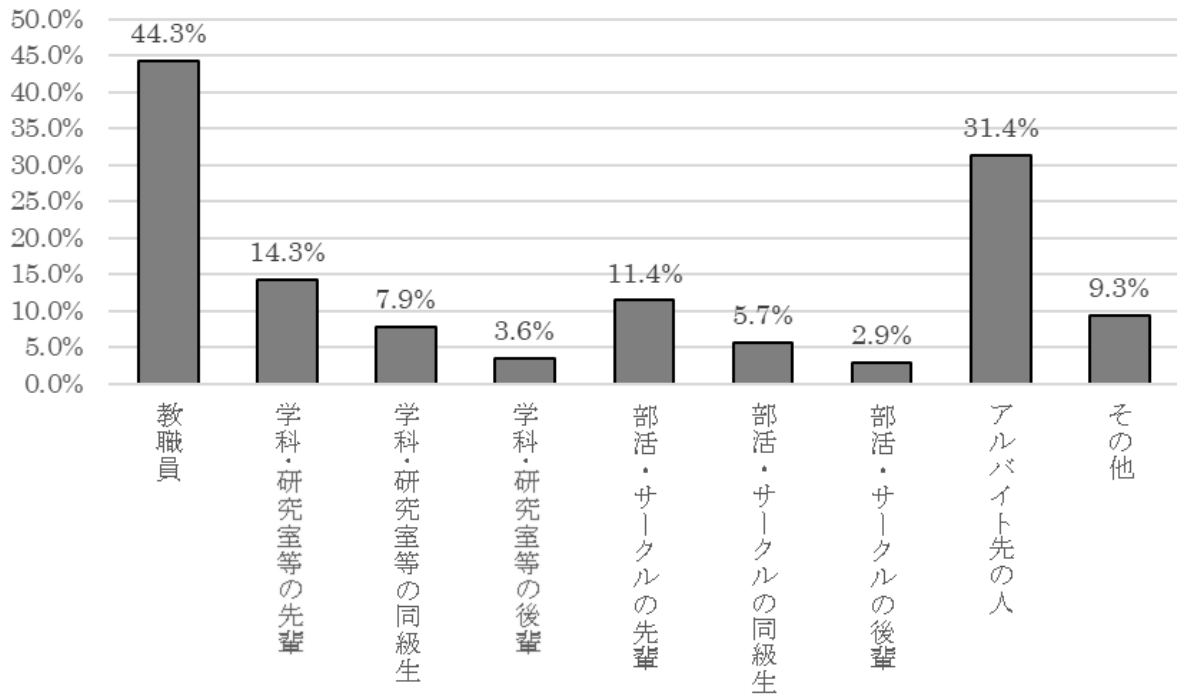
セクハラ以外のハラスメントを受けた相手については、「教職員」が 62 件（44.3%）で前回同様、約半数近くを占めている。「教職員」からのハラスメントは大学院生で割合が高いが、工学部でもやや数が増えている。

学部生は「アルバイト先」でもハラスメントを体験するものが少なくない。Q68 の回答でも、アルバイト先でのセクハラが特に女性で多くなっていたため、今後実態の把握や相談支援が必要だろう。

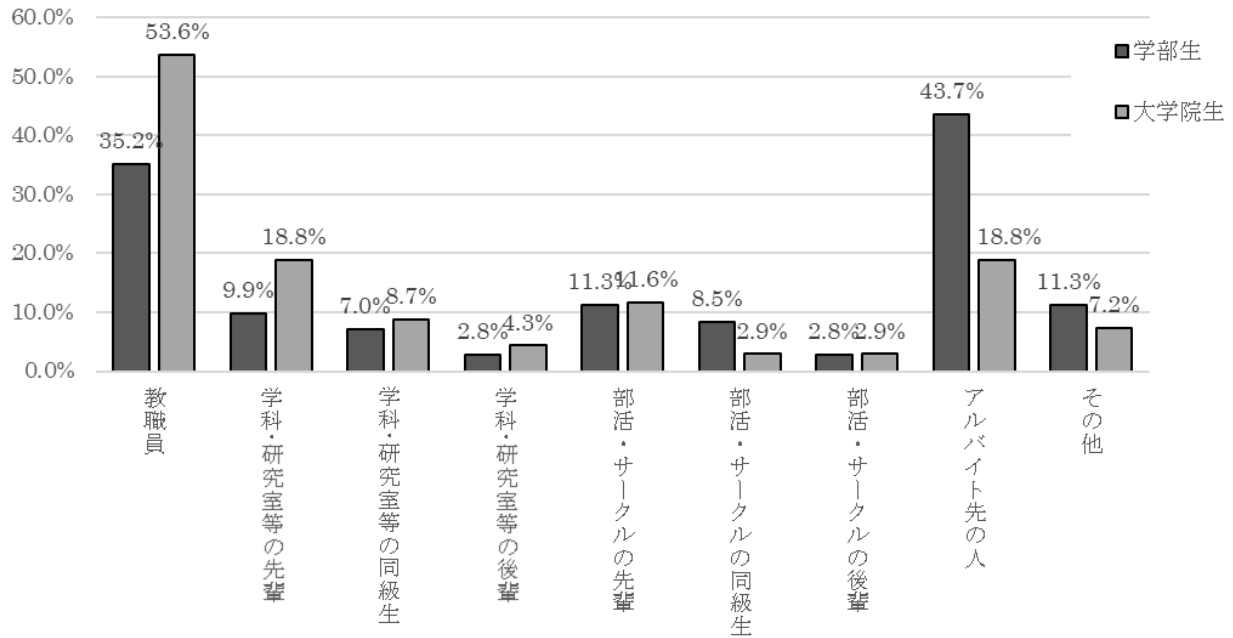
### Q70-1. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手 [件数]

	教職員	学科・研究室等の先輩	学科・研究室等の同級生	学科・研究室等の後輩	部活・サークルの先輩	部活・サークルの同級生	部活・サークルの後輩	アルバイト先の人	その他	回答者数
全体	62	20	11	5	16	8	4	44	13	140
男	38	9	6	4	14	7	3	17	3	77
女	20	9	4	0	1	0	0	26	8	57
その他	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1
回答しない	3	1	0	0	0	0	0	0	2	5
留学生	4	3	2	1	1	1	1	4	0	6
国内生	58	17	9	4	15	7	3	40	13	134
単身生活	23	6	2	2	7	2	1	15	1	47
家族・親族と同居	35	12	8	2	8	4	2	25	10	84
友人と同居	3	1	0	0	0	0	0	2	1	5
他人と同居	1	1	1	1	1	2	1	2	1	4
学部生	25	7	5	2	8	6	2	31	8	71
大学院生	37	13	6	3	8	2	2	13	5	69
農学部	8	3	2	0	3	3	0	14	4	31
工学部	17	4	3	2	5	3	2	17	4	40
農学府修士課程	6	3	2	0	3	1	0	6	2	19
工学府博士前期課程	11	4	3	1	1	0	0	2	0	19
工学府博士後期課程	5	3	1	1	3	0	2	2	1	11
連合農学研究科博士課程	4	0	0	1	1	0	0	0	0	5
B A S E	7	3	0	0	0	1	0	2	1	9
大学院農学府博士課程	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

### Q70-2. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手(全体)

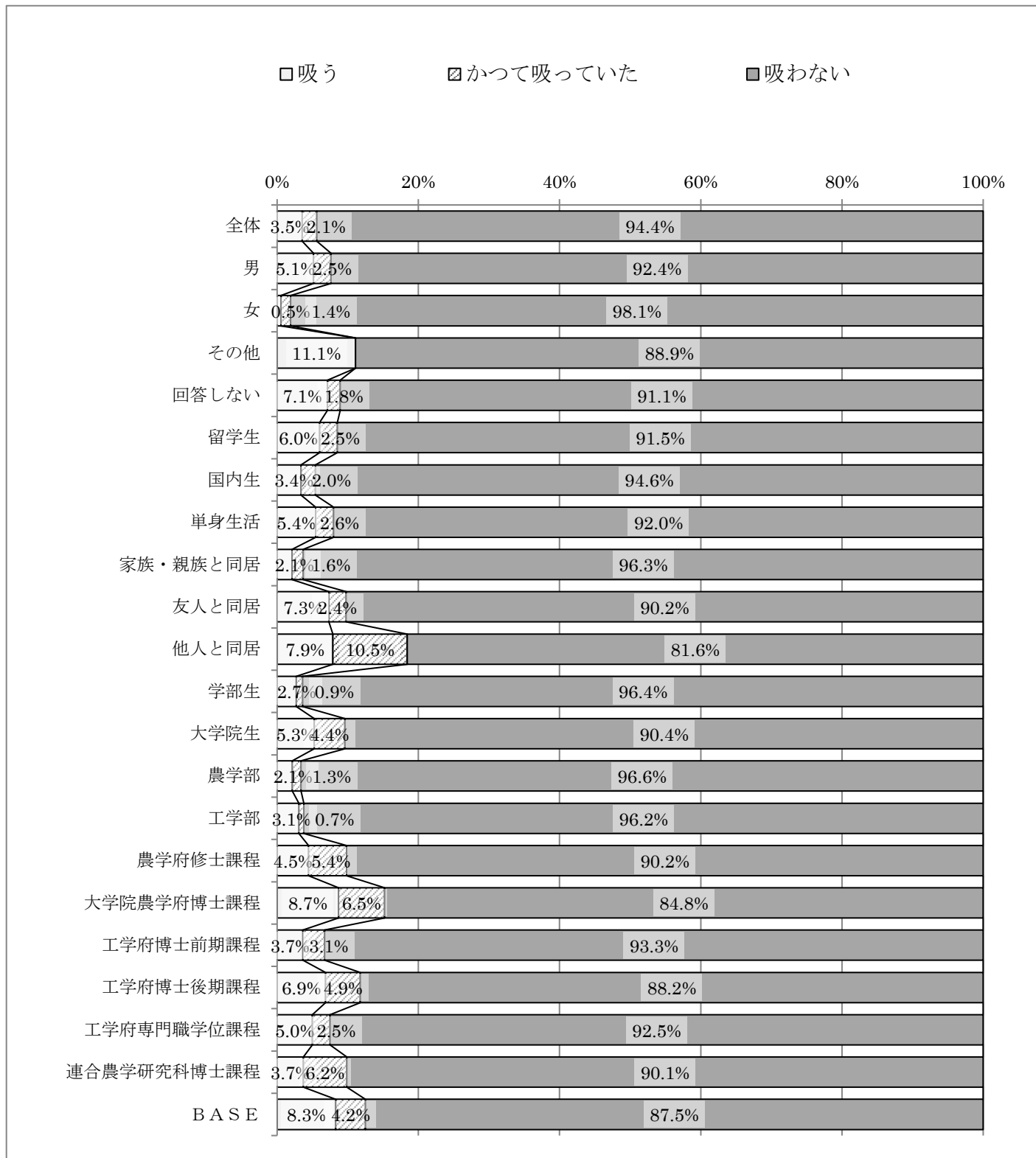


### Q70-3. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手(学部生/大学院生)



## 7 1. 喫煙の有無

「吸う」と回答した割合は3.5%と年々減少している。(第7回 8.0%、第8回 6.4%、第9回 5.5%)  
 喫煙率は男女差がみられ、男子学生が多い。女子学生は喫煙率0.5%と1%を切った。単身生活の学生に喫煙率が高い傾向は変わらず。





## 72. キャンパス内マナーの満足度

「満足」が46.2%（前回29.8%）、「やや満足」43.3%（45.0%）、「やや不満」8.3%（16.4%）、「不満」2.2%（7.5%）となった。「満足」「やや満足」の合計は89.5%で高い値であり、前回の74.8%より増加した。男性よりも女性のほうが満足度は高い傾向にあった。農・工の学部差はあまり見られなかった。留学生で満足度が高い傾向が認められた。

### Q72-1. キャンパス内マナーの満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満
全体	46.2%	43.3%	8.3%	2.2%
男	44.4%	43.2%	9.4%	2.9%
女	49.1%	43.6%	6.4%	0.9%
その他	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%
回答しない	48.2%	41.1%	8.9%	1.8%
留学生	67.8%	26.1%	5.5%	0.5%
国内生	44.7%	44.5%	8.5%	2.3%
单身生活	45.1%	43.7%	8.4%	2.7%
家族・親族と同居	46.4%	43.6%	8.2%	1.8%
友人と同居	53.7%	34.1%	9.8%	2.4%
他人と同居	63.2%	26.3%	7.9%	2.6%
学部生	47.9%	43.2%	7.2%	1.7%
大学院生	42.8%	43.5%	10.6%	3.1%
農学部	46.5%	44.2%	7.6%	1.6%
工学部	48.7%	42.6%	6.9%	1.8%
農学府修士課程	48.2%	43.8%	6.3%	1.8%
工学府博士前期課程	34.3%	48.9%	13.2%	3.7%
工学府博士後期課程	47.1%	36.3%	11.8%	4.9%
連合農学研究科博士課程	53.1%	34.6%	9.9%	2.5%
B A S E	47.0%	39.9%	10.7%	2.4%
大学院農学府博士課程	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%

### 73. キャンパス内マナーで不満に思う点

「やや不満」「不満」と回答した不満内容の内訳（重複回答あり）は、「駐輪場不足」107人が最多で、続いて「自転車の止め方」106人、「タバコの吸い方や喫煙場所」91人、「ゴミの捨て方、処理」88人、「大学内の汚れ」75人、「自転車の危険運転」51人、「自転車や傘の盗難」47人、「タバコの吸い殻の処理」37人であった。

#### Q73-1. キャンパス内マナーで不満に思う点（複数回答可）

	ゴミの捨て方処理	大学内の汚れ	自転車の止め方	駐輪場不足	自転車の危険運転	タバコの吸い方や喫煙場所	タバコの吸殻の処理	自転車や傘の盗難	その他
全体	88	75	106	107	51	91	37	47	20
男	66	51	79	84	38	64	30	33	16
女	22	23	26	22	12	25	6	11	4
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答しない	0	1	1	1	1	2	1	3	0
留学生	4	1	7	4	3	4	2	0	0
国内生	84	74	99	103	48	87	35	47	20
単身生活	37	34	51	54	16	36	16	20	7
家族・親族と同居	47	39	51	51	35	50	19	26	13
友人と同居	3	1	3	2	0	2	0	1	0
他人と同居	1	1	1	0	0	3	2	0	0
学部生	54	46	58	61	26	53	16	30	11
大学院生	34	29	48	46	25	38	21	17	9
農学部	26	19	20	17	17	31	9	11	4
工学部	28	27	38	44	9	22	7	19	7
農学府修士課程	6	3	7	10	6	2	1	4	1
工学府博士前期課程	13	12	19	22	9	17	10	6	5
工学府博士後期課程	6	5	8	7	1	6	4	2	1
連合農学研究科博士課程	3	3	3	1	2	5	3	1	0
B A S E	2	4	7	2	5	6	2	4	2
大学院農学府博士課程	1	0	0	0	0	0	0	0	0

#### 74. 生協食堂の利用状況

#### 75. 140周年記念会館エリプス（小金井）の利用状況

#### 76. 喫茶室オリザ（府中）の利用状況

#### 79. 生協購買部（売店）の利用状況

生協食堂、エリプス、喫茶室オリザ、生協購買部（売店）の利用状況を以下にまとめる。

##### A. 生協食堂の利用度

生協食堂については、「よく利用する」36.3%（前回44.0%）、「ときどき利用する」39.9%（36.6%）、「全く利用しない」23.7%（18.4%）という結果となり、「よく利用する」が減少した。女性のほうが男性より利用しているという傾向がみられた。「よく利用する」割合は、学部生が46.3%で、大学院生16.2%より高かった。学部生では農学部より工学部の方が、利用度が多かった（「よく利用する」43.9%と47.9%）。

##### B. エリプスの利用度

平成23年完成のエリプスの利用度は、全体では「よく利用する」9.0%、「ときどき利用する」32.5%、「全く利用しない」58.5%であった。当然のことながら、小金井キャンパスの学生で利用率は高くなっている。「よく利用する」が占める割合がもっとも高いのはBASE博士後期課程の学生で、続いて工学部学生となった。「よく利用する」割合は、学部生の方が9.9%で、大学院生7.1%より高かった。しかし生協食堂の利用度よりは少ない。

##### C. 喫茶室オリザの利用度

喫茶室については、「よく利用する」1.1%（前回2.5%）、「ときどき利用する」6.6%（11.9%）、「全く利用しない」92.3%（83.4%）と、全体での利用率は低い。当然、小金井キャンパスの学生よりも府中キャンパスの学生で利用度は高くなっているが、それでも「よく利用する」「ときどき利用する」と答えた農学部学生は19.7%、農学府修士課程で12.9%と利用度は低い。

##### D. 生協購買部（売店）の利用度

売店の利用度は、「よく利用する」19.0%（前回38.8%）、「ときどき利用する」68.6%（51.5%）、「全く利用しない」12.4%（8.5%）となった。小金井キャンパスより府中キャンパスの方が「よく利用する」割合がやや高い。

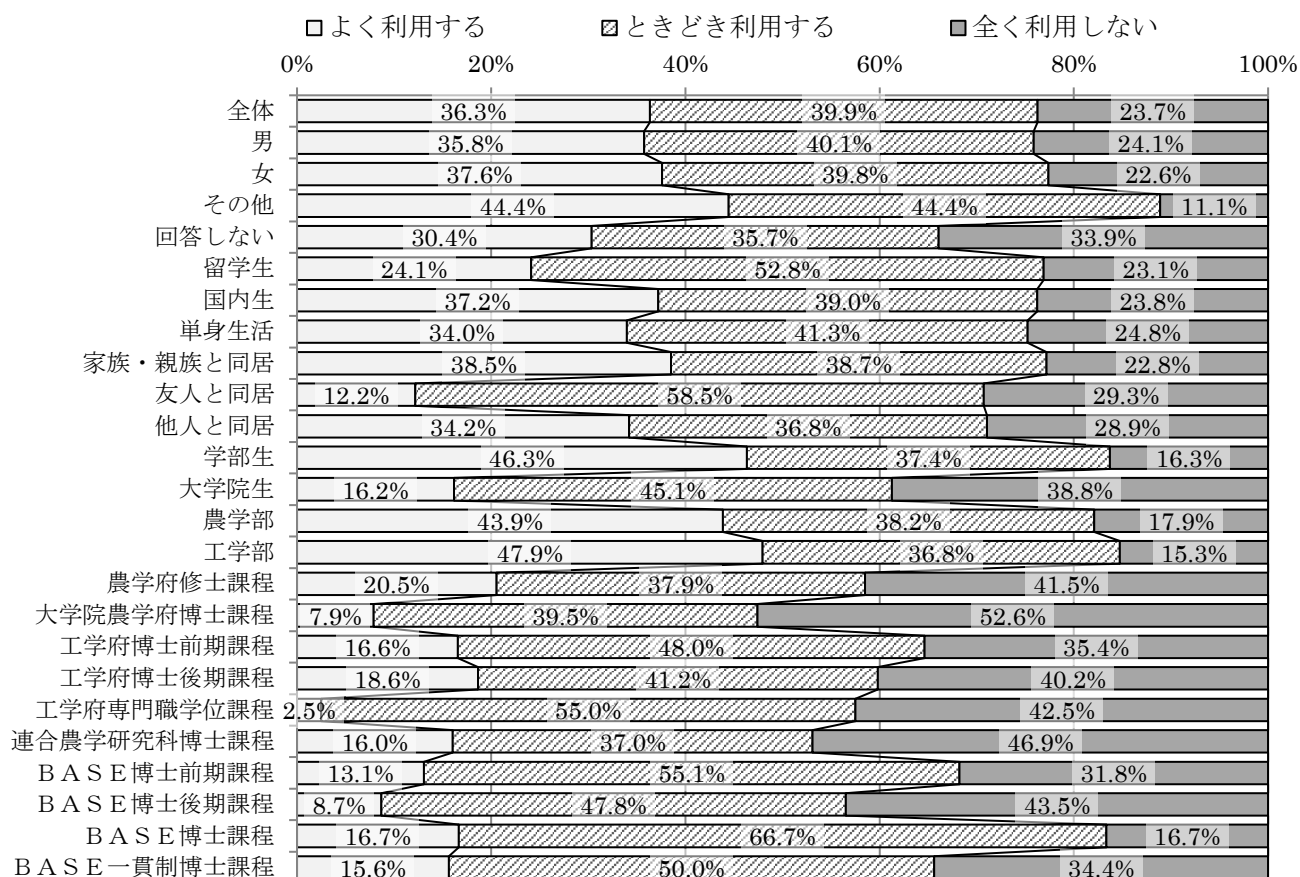
Q74. ～Q76, Q79-1. 生協食堂・エリプス・喫茶室、売店の利用状況 [%]

区 分	よく利用する	ときどき利用する	全く利用しない
A. 生協食堂	36.3	39.9	23.7
府 中	36.1	38.1	25.8
小金井	36.5	41.0	22.5
B. エリプス	9.0	32.5	58.5
府 中	0.4	1.7	97.9
小金井	14.1	51.0	34.9
C. 喫茶室	1.1	6.6	92.3
府 中	2.3	15.4	82.3
小金井	0.4	1.3	98.3
D. 売 店	19.0	68.6	12.4
府 中	19.9	67.7	12.4
小金井	18.4	69.2	12.4

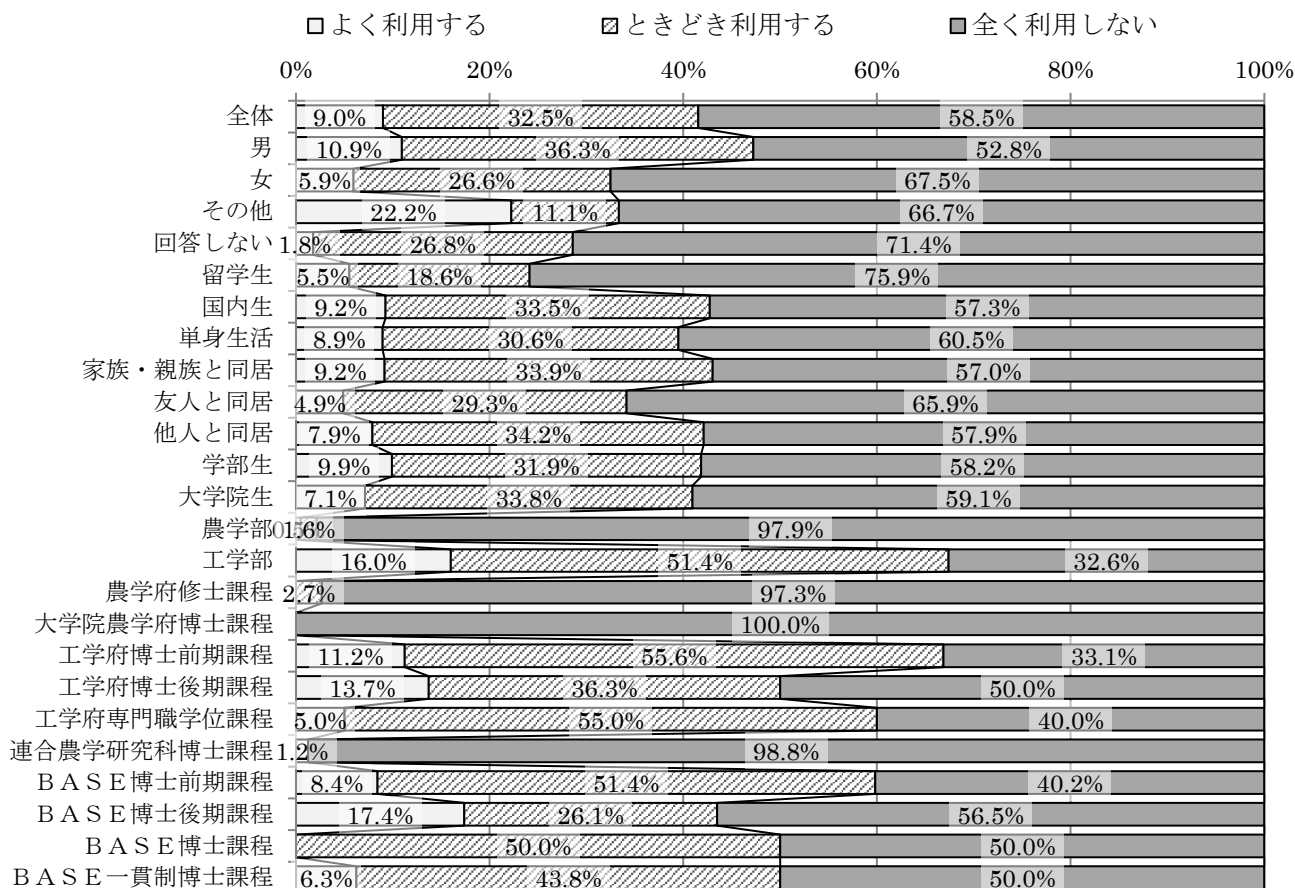
（注）府中地区は農学部、農学府、連合農学研究科、連合獣医学研究科の学生の合計である。

小金井地区は工学部、工学府、BASEの学生の合計である。

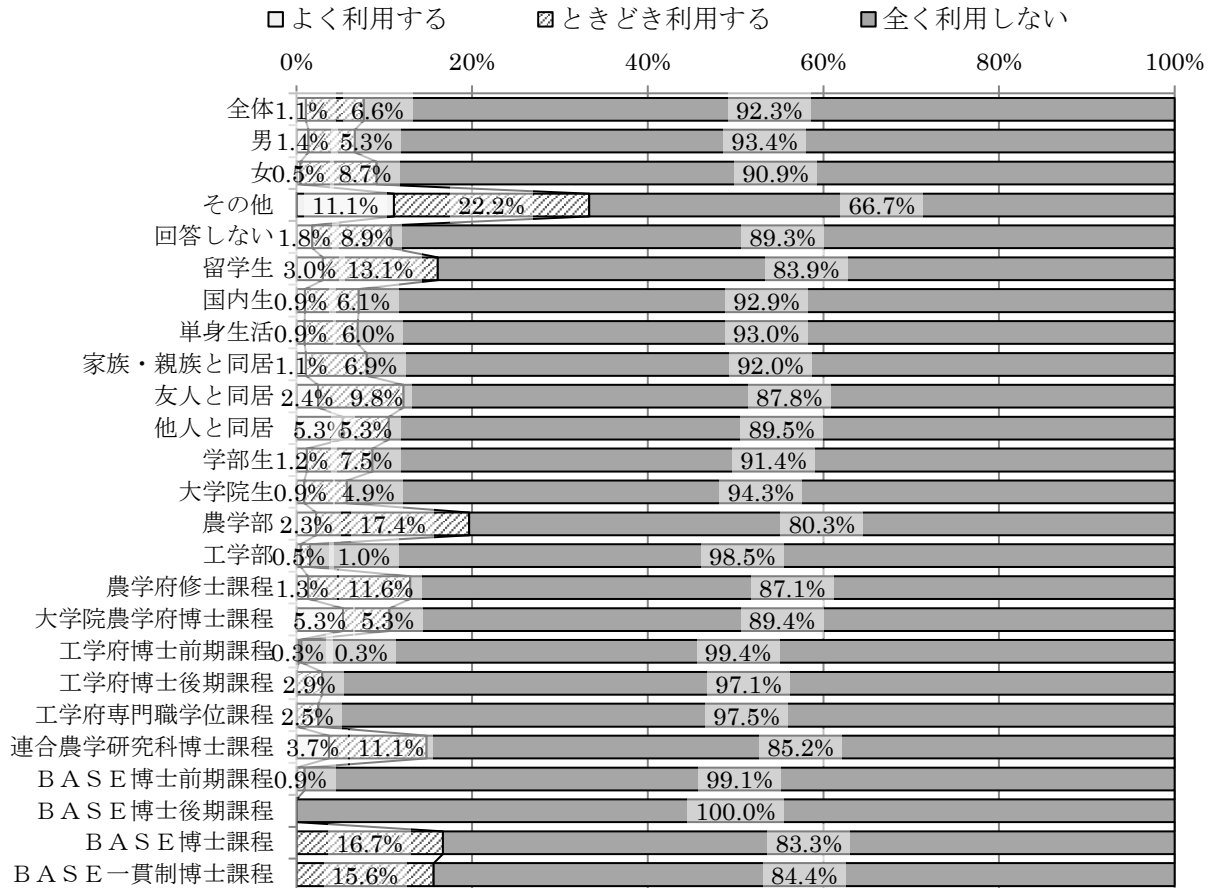
## Q74-2. 生協食堂の利用度



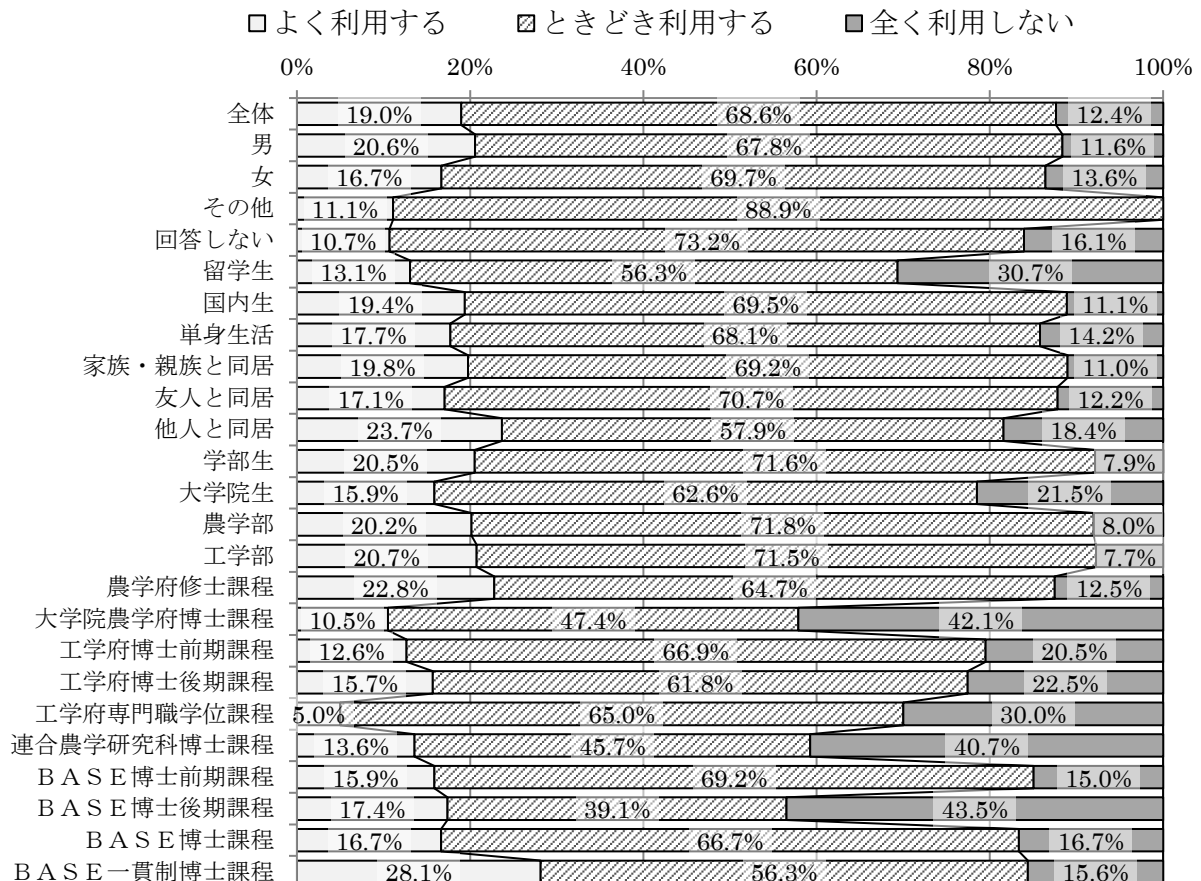
## Q75-2. 140周年記念会館エリプス（小金井）の利用度



## Q76-2. 喫茶室オリザ（府中）の利用度



## Q79-2. 生協購買部（売店）の利用度



## 77. 食堂・エリプス・喫茶室の満足度

## 78. 食堂・エリプス・喫茶室で不満に思う点

## 80. 生協購買部（売店）の満足度

## 81. 生協購買部（売店）で不満に思う点

食堂と喫茶室、売店の満足度を以下にまとめた。

食堂・喫茶室の満足度（Q81）は、「満足」19.4%（前回 20.5%）、「やや満足」50.2%（38.8%）、「やや不満」22.1%（28.3%）、「不満」8.4%（10.7%）であった。前回調査より「満足」「やや満足」の合計がやや高くなった。キャンパス間の差として、小金井の方が府中より満足度が高い傾向がみられた。

「やや不満」「不満」と回答した学生について、不満の理由（重複回答あり）として最も多かったのは「営業時間」572人、「座席数や混雑」で549人、「コストパフォーマンス」480人、「メニュー内容や数」446人、「味」269人、「キャンパス間で施設の差が大きい」226人であった。一方、「清潔さ」は62人、「店員の接客態度」は27人であり割合は少なかった。「キャンパス間で施設の差が大きい」226人の内訳は、府中134人、小金井21人であった。

売店の満足度（Q83）は、「満足」27.1%（前回 27.1%）、「やや満足」54.6%（46.1%）、「やや不満」15.0%（20.2%）「不満」3.4%（5.0%）であり、前回調査より「やや満足」が増加した。キャンパス間の差として、小金井の方が府中より満足度がやや高い傾向がみられた。

「やや不満」「不満」と回答した学生の不満内容の内訳（重複回答あり）で、最も多かった項目は「品揃え」で413人、次いで「営業時間」371人、「コストパフォーマンス」250人、「混雑」100人、「広さ」79人であった。「キャンパス間で施設の差が大きい」56人、「店員の接客態度」16人、「清潔さ」9人で、これらの項目の割合は少なかった。

Q77, 80-1. 食堂・エリプス・喫茶室、売店の満足度 [%]

区 分	満 足	やや満足	やや不満	不 満
1 食堂等	19.4	50.2	22.1	8.4
府 中	13.0	41.8	29.9	15.3
小金井	23.2	55.2	17.4	4.2
2 売 店	27.1	54.6	15.0	3.4
府 中	21.5	52.5	20.5	5.5
小金井	30.4	55.9	11.7	2.1

Q78-1. 食堂・エリプス・喫茶室で不満に思う点（複数回答可）

	コストパフォーマンス	座席数や混雑	営業時間	味	メニュー内容や数	清潔さ	店員の接客態度	キャンパス間での施設の差が大きい	その他
全体	480	549	572	269	446	62	27	226	22
男	328	328	329	176	274	31	23	100	15
女	140	202	227	88	165	31	3	119	5
その他	2	2	2	0	0	0	0	0	1
回答しない	10	17	14	5	7	0	1	7	1
留学生	3	8	17	8	14	2	2	4	0
国内生	477	541	555	261	432	60	25	222	22
単身生活	219	217	243	112	196	30	12	103	8
家族・親族と同居	248	315	306	148	237	31	14	114	14
友人と同居	7	8	11	4	6	0	0	3	0
他人と同居	6	9	12	5	7	1	1	6	0
学部生	289	399	368	160	267	34	13	155	18
大学院生	191	150	204	109	179	28	14	71	4
農学部	159	210	225	101	164	24	10	134	11
工学部	130	189	143	59	103	10	3	21	7
農学府修士課程	72	68	89	38	71	9	4	47	1
工学府博士前期課程	54	46	45	36	44	5	1	4	1
工学府博士後期課程	10	5	10	4	13	2	3	0	0
連合農学研究科博士課程	17	6	17	9	14	2	2	11	1
B A S E	26	15	23	16	24	5	3	7	0
大学院農学府博士課程	0	0	1	0	0	1	0	0	0

Q81-1. 売店で不満に思う点（複数回答可）

	コストパフォーマンス	混雑	営業時間	広さ	品揃え	清潔さ	店員の接客態度	キャンパス間での施設の差が大きい	その他
全体	250	100	371	79	413	9	16	56	3
男	178	62	217	47	249	6	11	29	1
女	69	36	150	31	156	3	5	26	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答しない	3	2	4	1	8	0	0	1	0
留学生	4	1	8	1	8	0	1	1	0
国内生	246	99	363	78	405	9	15	55	3
単身生活	114	43	157	37	188	2	4	26	0
家族・親族と同居	133	55	203	37	216	7	12	27	3
友人と同居	2	1	5	2	4	0	0	2	0
他人と同居	1	1	6	3	5	0	0	1	0
学部生	139	76	229	55	237	6	9	32	2
大学院生	111	24	142	24	176	3	7	24	1
農学部	61	43	146	33	134	3	4	27	0
工学部	78	33	83	22	103	3	5	5	2
農学府修士課程	32	6	61	12	67	1	3	12	0
工学府博士前期課程	42	8	30	6	46	1	2	2	0
工学府博士後期課程	6	2	4	1	9	0	0	0	0
連合農学研究科博士課程	7	2	14	2	16	1	0	5	0
B A S E	16	3	18	2	25	0	2	2	0
大学院農学府博士課程	2	0	3	0	1	0	0	0	0



## 82. キャンパスの施設・設備環境改善希望（講義室・実験室を除く）

複数回答で、もっとも選択されたのは「無線 LAN」で、全回答者の 34.8%（前回 31.5%）が改善を希望している。次いで「自動販売機」32.1%（16.0%）、「リフレッシュ空間」29.1%（26.4%）、「トイレ」25.8%（22.9%）、「コンセント」23.9%（15.8%）、「サークル用の設備（部室他）」19.0%（21.3%）、「キャンパス間移動」18.7%、「ロッカー」17.3%（16.3%）であった。「駐輪場」12.6%（13.2%）、「夜間照明」10.8%、「体育施設」10.6%、「校舎の清掃状況」6.2%、「駐車場」3.4%（4.0%）となった。

### Q82-1. キャンパスの施設・設備環境（講義室・実験室を除く）で改善を希望するところ

（複数回答可） [%]

	トイレ	駐車場	駐輪場	リフレッシュ空間	無線 LAN (WiFi 環境)	コンセント	自動販売機	ロッカー	サークル用の設備 (部室他)	体育施設	校舎の清掃状況	キャンパス間移動	夜間照明	その他
全体	25.8	3.4	12.6	29.1	34.8	23.9	32.1	17.3	19.0	10.6	6.2	18.7	10.8	2.4
男	25.4	4.4	13.1	26.6	36.0	23.1	34.7	14.5	18.5	12.8	5.9	16.6	8.6	2.8
女	26.1	2.0	11.8	33.4	32.4	25.1	28.1	22.4	20.4	6.9	6.9	22.5	14.3	1.9
その他	55.6	11.1	33.3	44.4	44.4	44.4	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0
回答しない	28.6	0.0	8.9	26.8	37.5	25.0	26.8	14.3	8.9	7.1	0.0	19.6	16.1	1.8
留学生	13.1	4.0	17.6	29.6	37.7	14.1	20.1	12.1	14.1	25.6	6.5	25.6	21.6	3.0
国内生	26.7	3.4	12.2	29.0	34.6	24.6	33.0	17.7	19.4	9.5	6.2	18.3	10.1	2.4
单身生活	22.6	2.6	17.1	27.5	35.1	21.5	33.3	12.1	17.1	12.9	4.9	18.1	10.9	2.4
家族・親族と同居	28.1	3.8	9.5	30.0	34.0	25.3	31.2	20.8	20.1	8.5	7.1	18.9	10.7	2.5
友人と同居	22.0	7.3	14.6	29.3	43.9	22.0	29.3	12.2	17.1	17.1	4.9	19.5	9.8	2.4
他人と同居	18.4	7.9	13.2	36.8	47.4	34.2	44.7	21.1	28.9	26.3	2.6	31.6	18.4	0.0
学部生	26.5	2.8	11.4	30.7	32.2	26.9	33.2	21.9	22.1	10.1	6.3	19.2	10.4	2.4
大学院生	24.3	4.7	14.9	25.8	39.9	17.8	29.9	8.0	12.7	11.6	5.9	17.7	11.7	2.5
農学部	27.3	2.8	9.9	35.8	27.7	25.1	29.9	18.7	31.2	10.7	7.3	17.2	15.2	2.1
工学部	26.0	2.9	12.4	27.4	35.1	28.1	35.4	24.1	16.3	9.7	5.7	20.6	7.3	2.6
農学府修士課程	23.7	5.4	17.9	31.3	34.4	16.5	34.8	4.5	17.0	10.7	4.9	14.7	18.8	2.7
工学府博士前期課程	24.4	2.2	13.8	23.3	44.1	21.9	29.8	9.8	12.9	9.6	6.2	17.4	8.1	1.1
工学府博士後期課程	27.5	8.8	13.7	18.6	39.2	17.6	19.6	6.9	6.9	14.7	4.9	19.6	13.7	4.9
連合農学研究科博士課程	25.9	9.9	13.6	28.4	38.3	17.3	17.3	9.9	13.6	13.6	8.6	19.8	13.6	6.2
B A S E	24.4	2.4	14.9	22.6	40.5	11.9	32.1	8.3	10.7	17.3	7.1	22.0	9.5	1.2
大学院農学府博士課程	25.0	25.0	12.5	12.5	50.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5

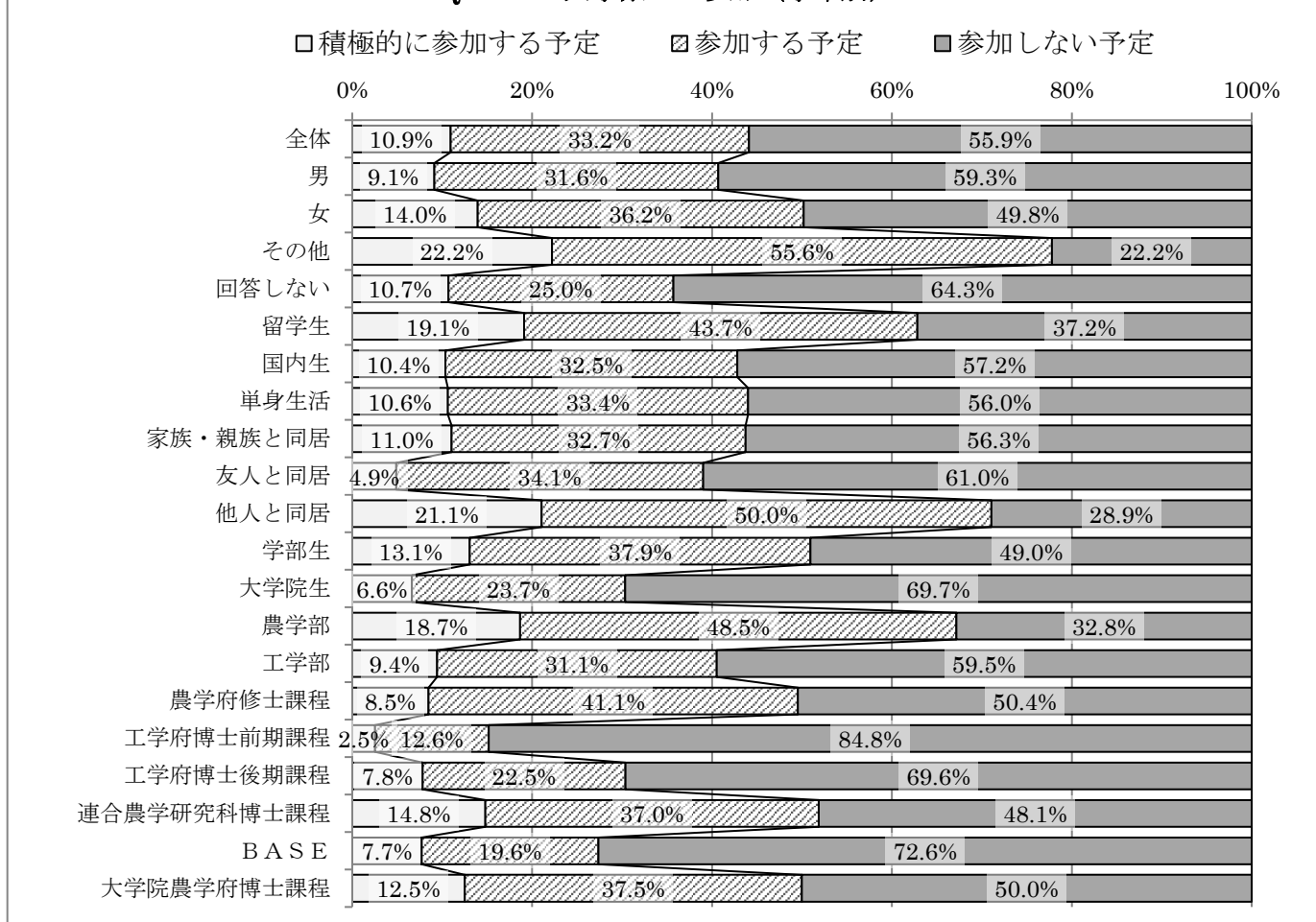
### 83. 本年11月に行われる大学祭への参加

府中キャンパス（R3.11.12～14）で開催される大学祭について、全体で「積極的に参加する予定」10.9%（前回22.0%）、「参加する予定」33.2%（37.1%）、「参加しない予定」55.9%（40.9%）であり、前回より参加者の割合が減少していた。「積極的に参加する予定」と「参加する予定」の合計は、農学部67.2%、工学部40.5%、農学府49.6%、工学府18.6%であり、農学部が高率であった。

Q83-1. 大学祭への参加の予定 [人]

	積極的に参加する予定	参加する予定	参加しない予定	合計
全体	333	1,011	1,702	3,046
男	172	595	1,118	1,885
女	153	397	546	1,096
学部生	266	772	999	2,037
大学院生	67	239	703	1,009
農学部	149	387	262	798
工学部	117	385	737	1,239
農学府	19	92	113	224
工学府	17	68	373	458
連合農学研究科博士課程	12	30	39	81
B A S E	13	33	122	168
大学院農学府博士課程	1	3	4	8

Q83-2. 大学祭への参加（学年別）



#### 8 4. 大学祭で改善を望むこと

改善を望む項目としては、「前後の休講措置」が 999 人と最多で、続いて、「プログラム内容」が 731 人、「出店数を増やしてほしい」598 人、「会場設備」469 人となっていた。

Q 8 4 - 1. 大学祭で改善を望むこと [人]

	開催時期を早くしてほしい	開催時期を遅くしてほしい	プログラム内容	出店数を増やしてほしい	出店数を減らしてほしい	会場設備	前後の休講措置	その他	回答者数
全体	140	60	731	598	33	469	999	647	3,046
男	84	40	480	370	24	310	588	390	1,885
女	52	18	238	218	8	152	388	235	1,096
学部生	88	37	486	375	22	296	693	450	2,037
大学院生	52	23	245	223	11	173	306	197	1,009
農学部	28	11	185	139	11	126	261	191	798
工学部	60	26	301	236	11	170	432	259	1,239
单身生活	54	25	327	247	15	193	369	218	1,175
家族・親族と同居	82	31	383	335	16	260	599	413	1,792
友人と同居	2	2	11	3	1	7	15	8	41
他人と同居	2	2	10	13	1	9	16	8	38
農学府	8	7	60	57	4	42	59	42	224
工学府	26	4	110	91	2	79	154	81	458
連合農学研究科博士課程	6	1	24	24	1	18	20	18	81
B A S E	10	11	45	28	3	23	47	37	168
大学院農学府博士課程	0	0	1	2	0	2	2	1	8

## 85. 生活情報の入手先（外国人留学生）

199人の外国人留学生から、複数回答で回答を得た。「インターネット」からの情報が最も多く113人（回答対象人数の56.8%）、次いで「他の留学生」112人（56.3%）、「担任教員や指導教員」85人（42.7%）、「外国人留学生・研究者のためのガイドブック」72人（36.2%）、「チューター以外の日本人学生」45人（22.6%）、「グローバル教育院の教職員」43人（21.6%）、「チューター」36人（18.1%）となっている。

Q85-1. 生活情報の入手先（外国人留学生）

[人（ ）割合（%）]

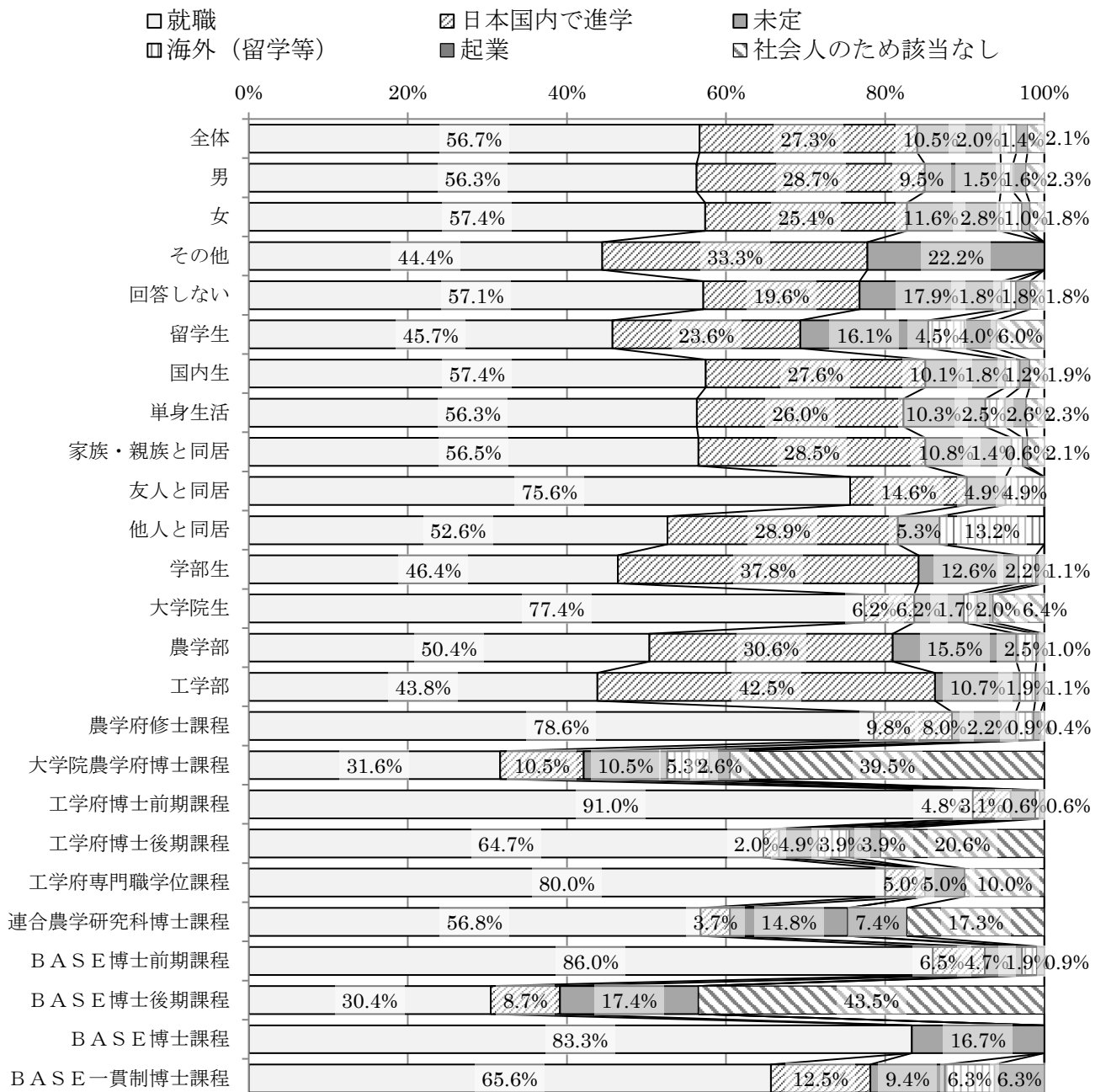
	回答者数	外国人留学生・研究者のためのガイドブック	グローバル教育院の教職員	担任教員や指導教員	他の留学生	チューター	チューター以外の日本人学生	インターネット	情報が得られない	無回答
全体	199	72 (36.2)	43 (21.6)	85 (42.7)	112 (56.3)	36 (18.1)	45 (22.6)	113 (56.8)	13 (6.5)	2 (1.0)
男	105	42 (40.0)	26 (24.8)	46 (43.8)	59 (56.2)	18 (17.1)	22 (21.0)	63 (60.0)	4 (3.8)	2 (1.9)
女	90	29 (32.2)	16 (17.8)	38 (42.2)	50 (55.6)	17 (18.9)	22 (24.4)	46 (51.1)	7 (7.8)	0 (0.0)
その他	2	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)
回答しない	2	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)
留学生	199	72 (36.2)	43 (21.6)	85 (42.7)	112 (56.3)	36 (18.1)	45 (22.6)	113 (56.8)	13 (6.5)	2 (1.0)
国内生	0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
单身生活	151	50 (33.1)	31 (20.5)	62 (41.1)	85 (56.3)	25 (16.6)	32 (21.2)	86 (57.0)	10 (6.6)	1 (0.7)
家族・親族と同居	25	15 (60.0)	7 (28.0)	11 (44.0)	13 (52.0)	5 (20.0)	5 (20.0)	11 (44.0)	1 (4.0)	1 (4.0)
友人と同居	15	4 (26.7)	0 (0.0)	7 (46.7)	9 (60.0)	2 (13.3)	5 (33.3)	12 (80.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
他人と同居	8	3 (37.5)	5 (62.5)	5 (62.5)	5 (62.5)	4 (50.0)	3 (37.5)	4 (50.0)	2 (25.0)	0 (0.0)
学部生	29	7 (24.1)	3 (10.3)	4 (13.8)	16 (55.2)	9 (31.0)	7 (24.1)	25 (86.2)	5 (17.2)	0 (0.0)
大学院生	170	65 (38.2)	40 (23.5)	81 (47.6)	96 (56.5)	27 (15.9)	38 (22.4)	88 (51.8)	8 (4.7)	2 (1.2)
農学部	13	4 (30.8)	0 (0.0)	3 (23.1)	7 (53.8)	1 (7.7)	2 (15.4)	10 (76.9)	2 (15.4)	0 (0.0)
工学部	16	3 (18.8)	3 (18.8)	1 (6.3)	9 (56.3)	8 (50.0)	5 (31.3)	15 (93.8)	3 (18.8)	0 (0.0)
農学府修士課程	36	17 (47.2)	8 (22.2)	14 (38.9)	18 (50.0)	6 (16.7)	9 (25.0)	19 (52.8)	3 (8.3)	1 (2.8)
工学府博士前期課程	22	7 (31.8)	4 (18.2)	10 (45.5)	10 (45.5)	2 (9.1)	3 (13.6)	8 (36.4)	1 (4.5)	0 (0.0)
工学府博士後期課程	33	15 (45.5)	6 (18.2)	17 (51.5)	19 (57.6)	4 (12.1)	6 (18.2)	15 (45.5)	1 (3.0)	0 (0.0)
連合農学研究科博士課程	32	13 (40.6)	12 (37.5)	14 (43.8)	18 (56.3)	8 (25.0)	7 (21.9)	16 (50.0)	1 (3.1)	1 (3.1)
B A S E	33	9 (27.3)	7 (21.2)	16 (48.5)	23 (69.7)	3 (9.1)	7 (21.2)	23 (69.7)	1 (3.0)	0 (0.0)
大学院農学府博士課程	2	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

# 第 I X 章 進路（就職・進学）

## 86. 将来の希望進路

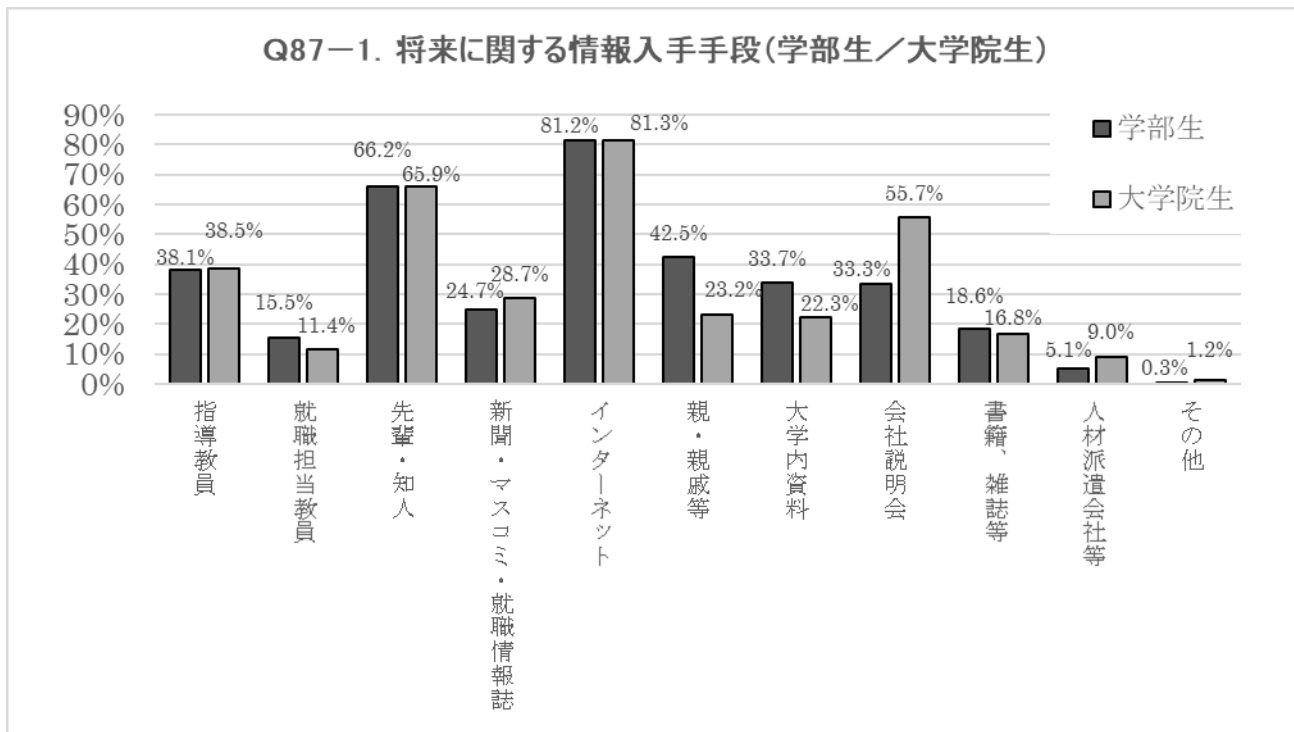
学部から修士課程への進学希望者の割合は、第7回から第8回の調査では半減していたものの、今回の調査では前回からほぼ横ばい状態で、工学部では29%、農学部では24%であった。学部生の就職希望者の割合は、農学部では前回の約60%から55%、工学部の前回55%から52%と微減した。農学府修士課程学生の博士（後期）課程への進学希望者は、6%の前回から今回は9%となり、工学府博士前期（修士）から後期（博士）への進学希望は、約3%から4%と、それぞれ微増した。

Q86-1. 将来の希望



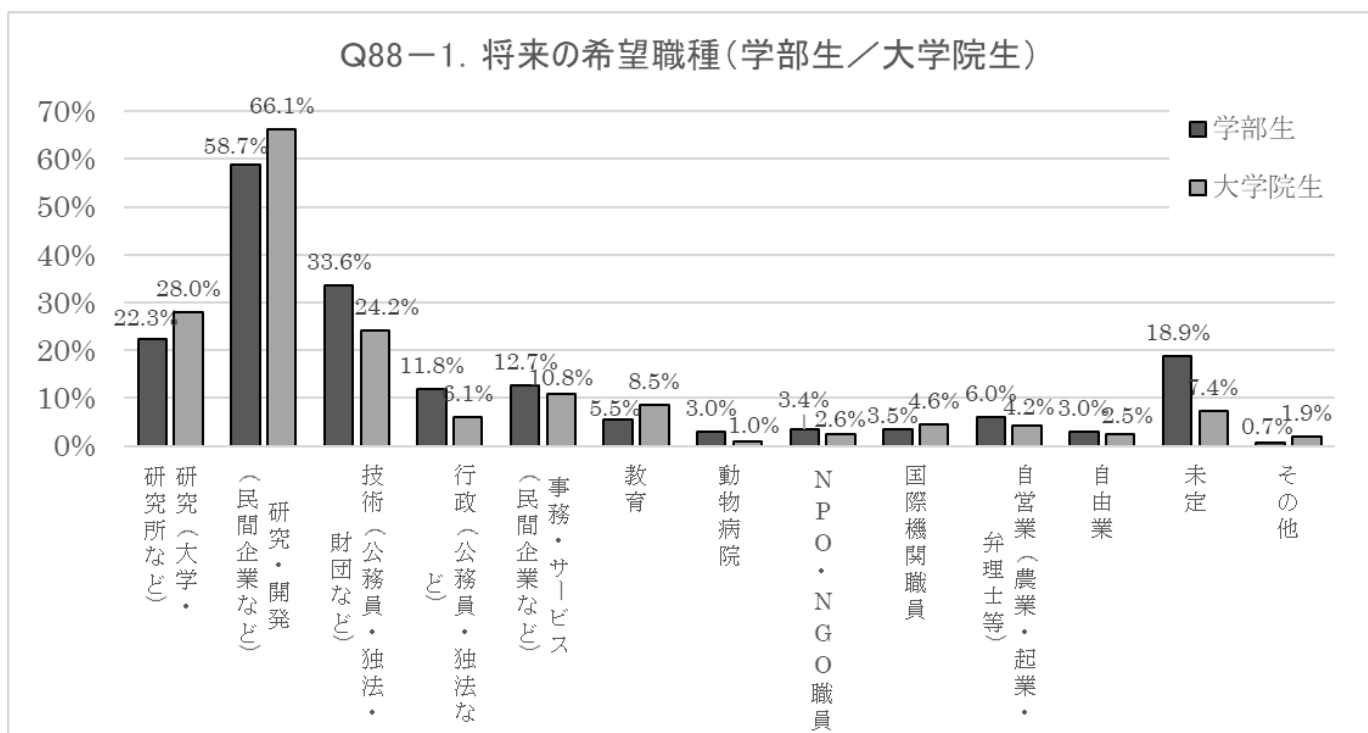
## 87. 進路に関する情報入手手段

学部、大学院、いずれも過半数の学生が情報をインターネットならびに先輩・知人から入手している。会社説明会による情報入手は、学部生では前回の22%から24%と微増し、大学院生は、52%から45%に減少した。指導教員からの情報入手は、今回は学部生と大学院生ともに30%であったが、今回の調査では26%程度となった。就職担当教員からの情報収集も前回から微減している。情報入手手法が、インターネットに集中する傾向が見られる。



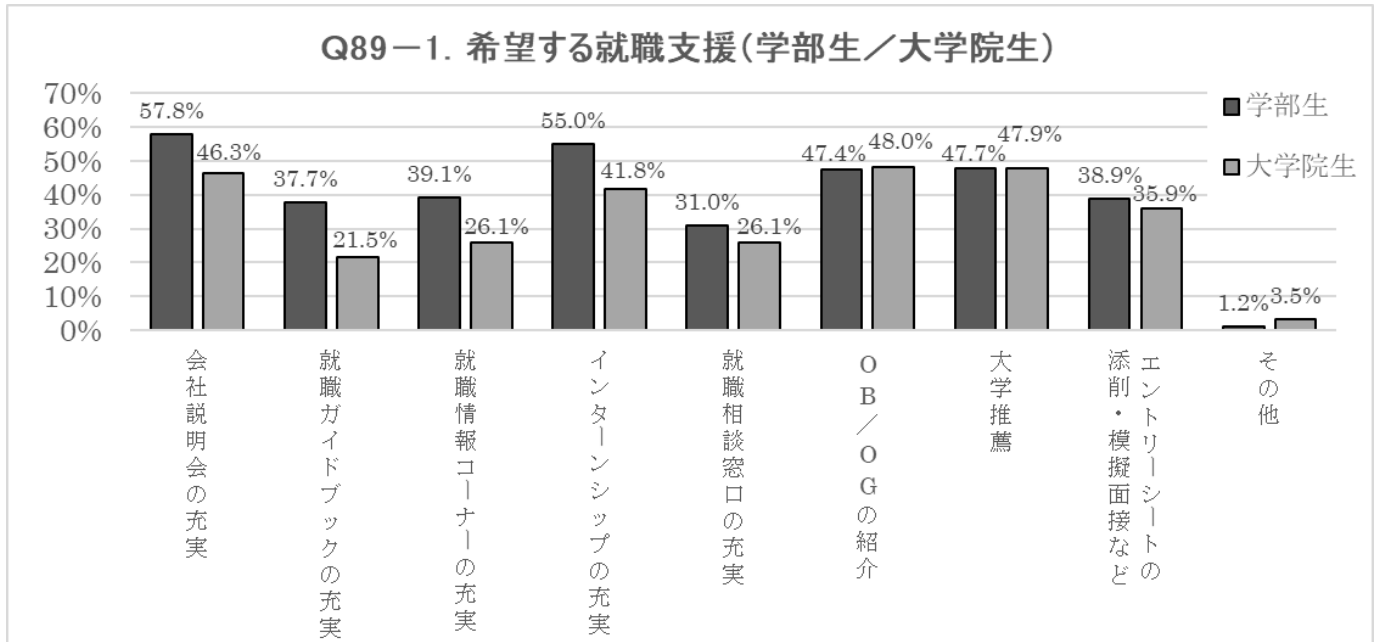
## 88. 将来の希望職種

全体的な傾向は、前回から大きな変化は見られない。各学部、学府とも、前回の調査と同様に研究・開発（民間企業など）および技術（公務員など）が最も多い。一方、学部生と大学院生の研究（大学・研究所）の希望は、それぞれ前回21%から今回18%、前回19%から今回18%と微減した。



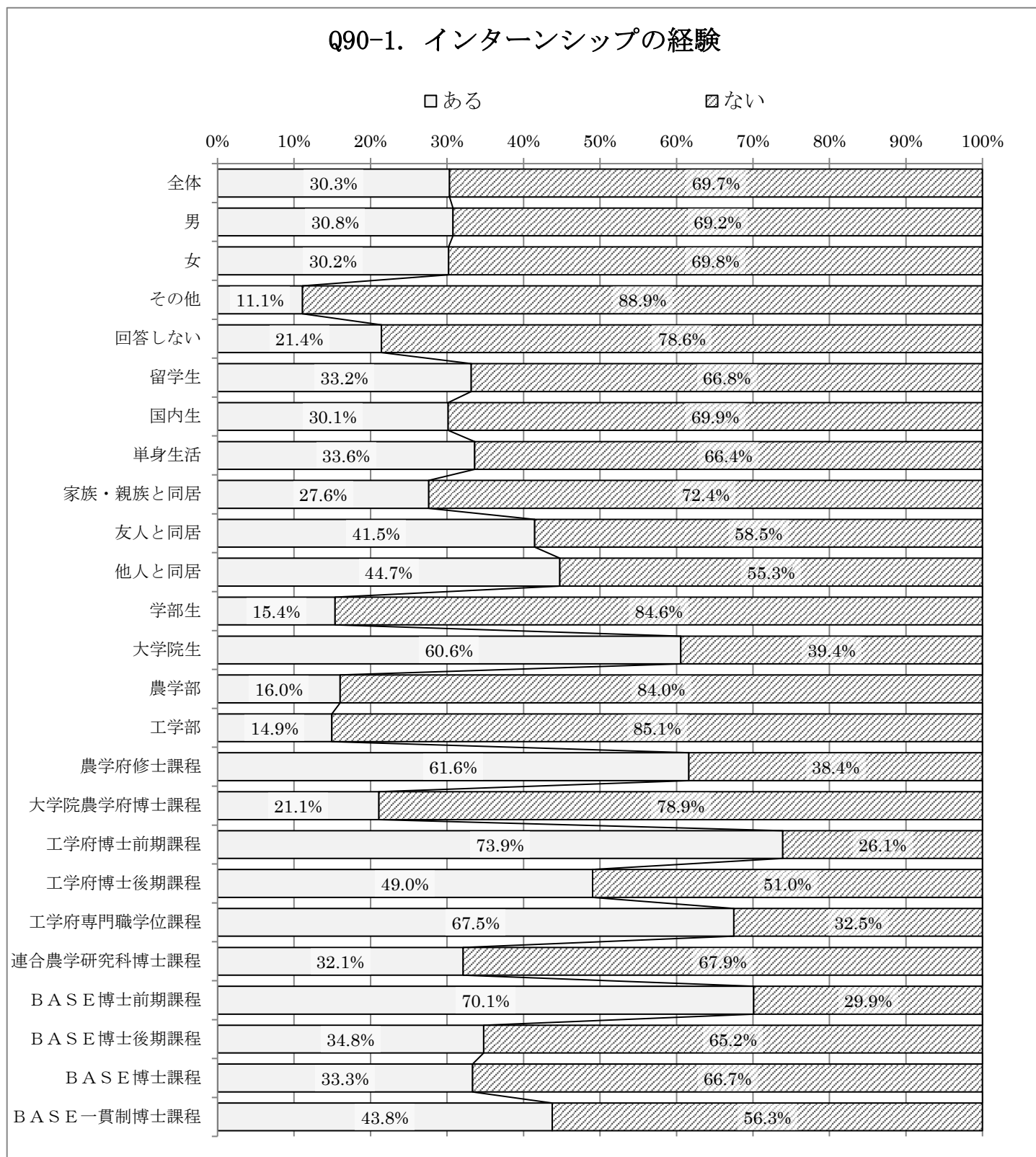
## 89. 希望する就職支援

前回同様、会社説明会の充実や大学推薦の希望が多い。インターンシップの充実については、大学院生では前回と同傾向だが、学部生では前回 31%から今回 34%と微増した。また、今回新たに加わった「エントリーシートの添削や模擬面接」については、学部生と大学院生ともに 20%程度の希望があることがわかった。全体として多様な取り組みが求められており、効果的な方策を考える必要がある。



## 90. インターンシップの経験

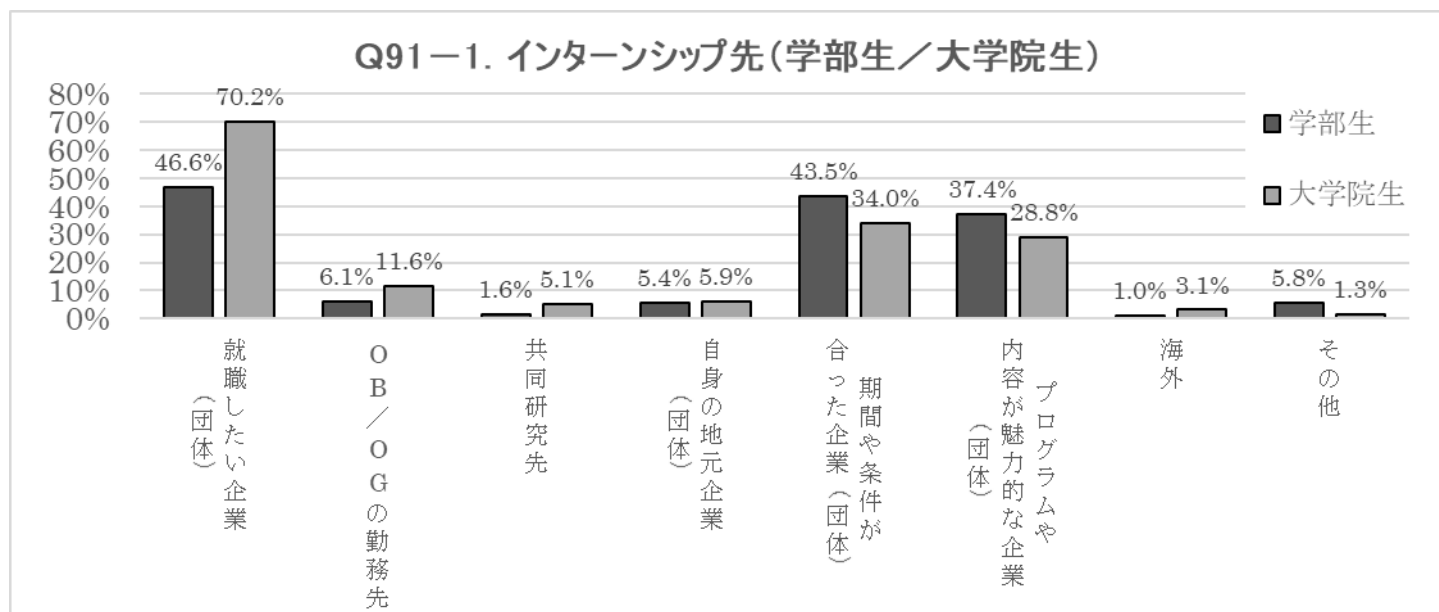
インターンシップの経験者は、全体では前々回 10%、前回 18%、今回 28%と増加傾向にある。学部生は前回 11%から 16%、大学院生は 35%から 55%に増加し、大学院生の半数がインターンを経験している。農学府では前回の 45%から今回 58%、工学府博士前期では 37%から 60%に増加した。インターンシップは多様化するとともに大学院などに拡大しており、内容に合わせた経験の把握などを行うことで、キャリア支援等との連携を検討する必要があると思われる。





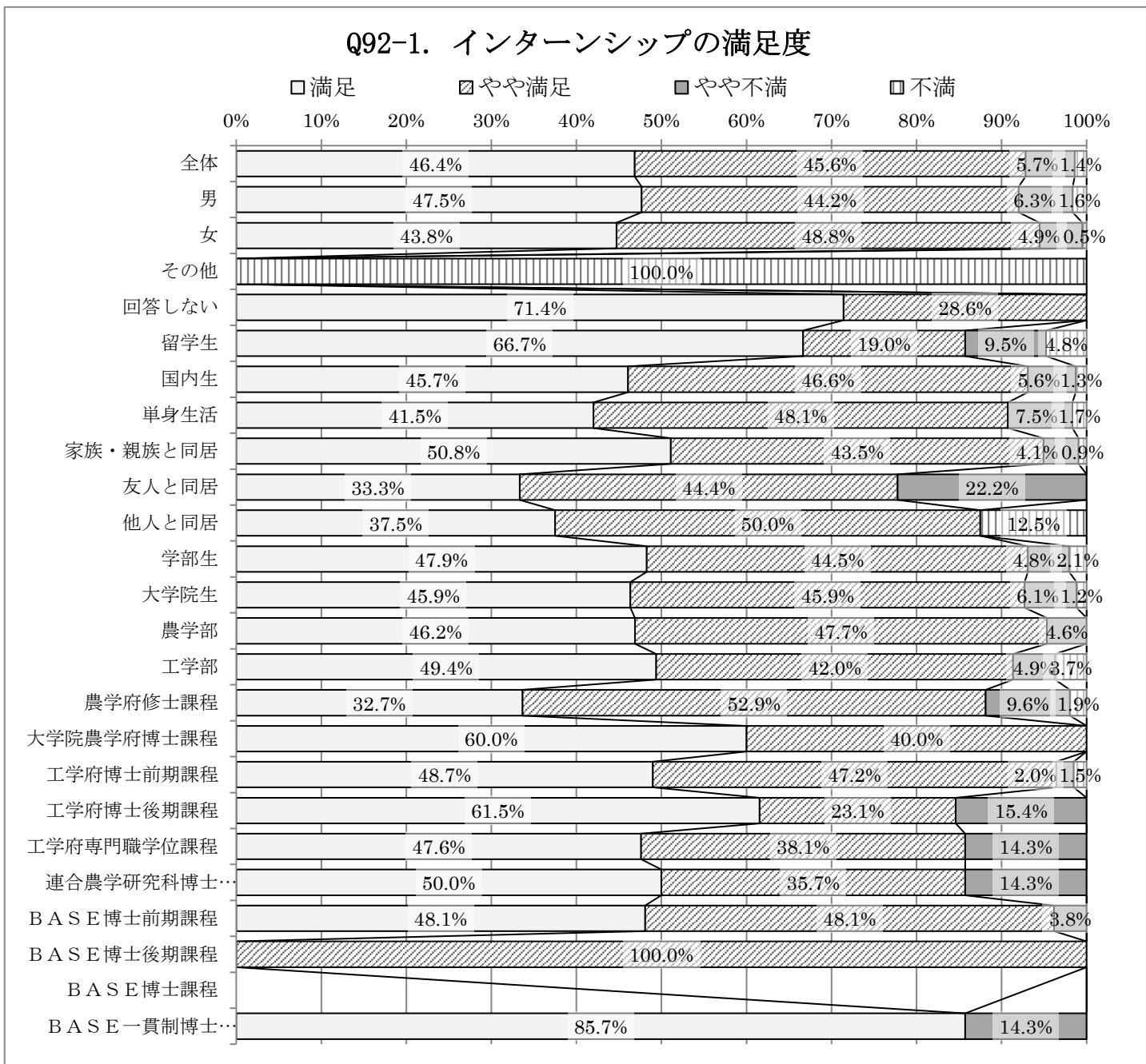
## 9 1. インターンシップ先

学部生と院生ともに、就職したい企業でのインターンシップの実施が、それぞれ前回 34%から今回 42%、前回 50%から 62%に増加していた。インターンシップを就職活動の一環としてとらえる傾向がより強くなっている。また、学部生は各学部とも、「就職したい企業」、「プログラムが魅力的な企業」あるいは「条件が合った企業」へ行っている。



## 92. インターンシップ満足度

前回の調査結果と同様に、「満足」と「やや満足」の割合が9割以上となり、インターンシップ経験者の満足度は高い。一方、内訳では、「満足」は前回61%から今回55%、「やや満足」は前回31%から今回35%となり、インターンシップへの期待が変化している傾向も見受けられる。学部生、大学院生別では、学部生に大きな変化は見られないが、大学院生の「満足」の回答は前回59%から51%に減少した。高度な研究や技術を習得する大学院生レベルでのインターンシップへの期待が高くなっているためと思われる。さらに、留学生については、「満足」との回答が前回の56%から44%に減少しており、留学生向けインターンシップの取り組みへの検討が必要であると考えられる。



## 第X章 意見・要望

各章最後の「自由記述」の記述内容を分類・整理し、キャンパスごとの件数とともに代表的な個別の要望・意見等を示した。なお、特に大学院生から多く得られた回答については括弧内に件数を示した。

区分			
意見、要望事項	回答数(括弧内はうち 大学院学生)		要望・意見 ※末尾( )内の数字は同内容の件数 ※内容に応じて適当な区分に集約したため、回答数と一致しません
	府中	小金井	

II章「経済的状況」			
アルバイト	11(6)	12(7)	・学内で行えるアルバイトを増やしてほしい。(12) ・研究とアルバイトの両立が厳しい。(6)
学食値下げ	1(1)	3	・生協の食堂をもっと安くしてほしい(3)
学費値下げ	3	13(5)	・学費を安くしてほしい。給付、返還を多くしてほしい(15)
コロナ	4(2)	9(3)	・コロナによって収入が減った、解雇された、支出が増えた、援助してほしい(6)
寮費		1	・寮の基準(通学時間や収入)を緩和してほしい。
経済援助	4(4)	8(5)	・学費、生活費などを援助してほしい(5) ・博士課程学生に経済援助していただきたい(5)
授業料援助	17(12)	20(13)	・授業料免除の制度の見直し、対象の拡充の希望(33) ・授業料免除や奨学金のようなサポートは大変ありがたい。(5)
奨学金	10(4)	16(5)	・奨学金制度の見直し、対象の拡充の希望(17) ・奨学金制度の情報提供、申請支援の充実(3) ・奨学金制度、運用に対する意見、不満(5)
その他	14(6)	23(11)	・留学費用をもう少し抑えられるようにしてほしい。 ・教科書・参考書が高額であることが多いので、使わなくなったものを譲ってもらえるような場があるといいなと思います。 ・国際誌の査読論文執筆をした博士課程進学希望者の授業料は免除してもらえるシステムが欲しいです。 ・幸い、現在のところ問題は生じていないが、博士課程に進んだことで将来の経済的自立に不安がある。 ・農工大は、コロナでアルバイトができなくなった学生に支援制度を設けるなど、対応が迅速かつ的確だと思います。

III章「住居状況」			
寮	26(7)	56(25)	・wi-fi回線の改善(14) ・寮の規則、利用方法など(16) ・寮の部屋数の増設(13) ・寮の設備、環境の改善(29) ・寮費の値下げ(9)
その他	20(6)	12(6)	・賃貸物件の情報提供(6) ・国際学生への住宅支援 ・自動二輪車を駐車できるところを教えてください。

#### IV章「通学状況」

コロナ対応	11(4)	19(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染予防、通学時間の短縮などによるオンライン、ハイブリッド授業の希望(21)</li> <li>・コロナ感染予防による自家用車通学の希望(9)</li> </ul>
駐輪場	4(2)	14(7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐輪場の環境整備、増設(10)</li> <li>・駐輪場料金の無料化(6)</li> <li>・駐輪場を増やしてほしい(3)</li> <li>・バイク駐輪場を広くしてほしい</li> </ul>
その他	36(11)	39(12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の駅が不便(14)</li> <li>・公共交通機関遅延時の授業実施判断、情報連絡等の対応の改善(11)</li> <li>・キャンパス内の通行、門の運用の改善(11)</li> <li>・授業開始時間の調整、オンライン授業の導入などの希望(11)</li> <li>・通学時間が長い(2)</li> <li>・工学部と農学部をつなぐ移動手段が欲しい</li> </ul>

#### V章「学業・学習環境状況」

図書館	12(5)	13(7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館開館日の拡大、利用時間の延長(15)</li> <li>・自習スペースの拡張、設備、環境の改善(7)</li> <li>・閲覧専門誌、ジャーナルの拡充(6)</li> <li>・図書館全般の改善の希望(2)</li> </ul>
施設、設備	20(3)	17(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的利用スペースの設置の希望(15)</li> <li>・自習室設置の希望(11)</li> <li>・学内通信環境の改善(11)</li> <li>・冷暖房設備、運用の改善(9)</li> </ul>
留学	11(2)	8(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学制度、コース、留学先の増設の希望(6)</li> <li>・留学情報告知、相談体制の改善(7)</li> <li>・できるだけ早くセメスター留学が再会できるようにしてください。</li> <li>・留学をもっとしやすいように、費用を抑えて欲しい。</li> </ul>
コロナ	6(1)	7(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業の継続、ハイブリッド形式等の希望(4)</li> <li>・対面授業等における感染の不安(3)</li> <li>・コロナ禍における対面授業、研究活動等の実施希望(3)</li> <li>・オンライン授業の弊害等の懸念</li> <li>・コロナウイルス流行によって研究活動が著しく阻害され、そのため研究進捗も遅れてしまっています。そのための支援や補填などを検討していただけたら幸いです。</li> </ul>
その他	25(8)	37(13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義室の設備の整備、改善(19)</li> <li>・語学教育の機会、支援の拡充(3)</li> <li>・府中キャンパスでのみ開講する授業が存在するので、小金井キャンパスから府中キャンパスへの移動がしやすいように自転車の貸し出しを行ってほしい。</li> <li>・MATLAB と Adobe CC の包括契約をしてほしい。</li> <li>・小金井キャンパス生と府中キャンパス生の双方が参加する授業では、今後もオンラインツールを利用していただけると移動の負担が減るために助かります。</li> <li>・農学部と工学部をつなぐバスが運行されると便利だと思います。</li> </ul>

## VI章「課外活動状況」

施設、設備、制度など	82(17)	102(29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の修理、改善、備品の購入希望など(75)</li> <li>・活動の時間制限の改訂、設備の使用規則の改訂など(42)</li> <li>・活動時間制限の緩和、延長など(30)</li> <li>・新型コロナウイルスの感染予防による対応について(29)</li> <li>・教職員の対応の改善(6)</li> <li>・活動予算の増額(4)</li> </ul>
その他	14(3)	33(8)	・その他(47)

## VII章「ボランティア活動状況」

情報提供	26(3)	25(7)	・ボランティアに関する情報を大学が提供してほしい(51)
その他	9(3)	11(5)	・その他(20)

## VIII章「学生生活状況」

施設、設備等	36(10)	45(13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスの施設、設備、備品等の改善(35)</li> <li>・生協、学食の営業時間延長、施設、価格、サービスの改善など(25)</li> <li>・自動販売機の改善(ペットボトルに関すること、水の販売など)(13)</li> <li>・給水スポットの増設(5)</li> </ul>
教職員	7(4)	11(5)	・教職員の対応、英語対応など(18)
コロナ	5	11(4)	・感染対応について(16)
その他	25(7)	39(18)	・その他(64)

## IX章「進路(就職・進学)状況」

就職関連情報	12(3)	11(4)	・情報提供の拡充、方法の改善(23)
就活相談室	8(4)	7(4)	・教員に対する要望(15)
その他	16(4)	43(24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援の充実、施策の強化(29)</li> <li>・その他(30)</li> </ul>

## X章「その他」

学生生活実態調査	2(1)	4(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの内容をもっと簡潔化してほしい(3)</li> <li>・今回の学生生活実態調査について。施設を利用したことがない場合でも、満足から不満までの四択で答えなくてはいけなく、解答に困った。</li> <li>・この調査はキャンパスごとに分けるべきだと思う(宇都宮大学所属)</li> </ul>
その他	19(7)	33(14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京農工大学での学生生活、コロナ禍という事もあり悩みも尽きませんが、若さ故の特権だと思って貴重な時間を楽しく過ごしていきたいと思います。</li> <li>・知名度をアップさせてほしい</li> <li>・農工大に入れてよかったと思います。農工大生であれば受けられるサービスが一覧化されているものがあれば見たいです</li> <li>・農工大は先生方も職員の方も学生思いであることが伝わってきて、自分の環境が恵まれていると思う</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談できる窓口などの紹介をもっと積極的にしてほしい。農工大としてさらに美術館・博物館のメンバーシップに入ってほしい。</li> <li>・学内の樹木が切られていくのが、残念である。</li> <li>・研究室配属の時期を早めて欲しい。</li> <li>・社会人学生(MOT)ですが、2校目の大学院生活を思いっきり楽しんでいます。農工大は多摩地区の社会人にとって、学び直しの場としてとても良い環境にあります。入学してここで学ぶことができ、本当に良かったと思っています。</li> <li>・自然が豊かで心が洗われる。桜とイチヨウは毎年楽しみにしている。</li> <li>・東京にある国立理系大学として貴重なのでその存在価値をもっと発揮してほしい。</li> <li>・他大学との協定・交流を強化して欲しい。</li> <li>・全体的に保守的な印象を受ける。教員・職員には、積極的に学生目線で改善して行くような意識改革をして欲しい。</li> </ul>
--	--	--

## 巻末資料

### 1. 委員会の構成メンバー

#### 学生生活実態調査ワーキンググループ 委員

主査	千年 篤	農学府・農学部	教授	評議員
	斎藤 広隆	農学府・農学部	教授	令和3年度農学府・農学部学生生活委員長
	北野 克和	農学府・農学部	教授	令和3年度農学府・農学部学生生活副委員長
	長澤 和夫	工学府・工学部	教授	令和3年度工学府・工学部学生生活委員長
	生嶋 健司	工学府・工学部	教授	令和3年度工学府・工学部学生生活副委員長
	清水 昭伸	工学府・工学部	教授	令和3年度工学府・工学部学生生活委員
	藤井 恒人	グローバル教育院	教授	
	本郷 智子	グローバル教育院	教授	
	田崎 敦子	グローバル教育院	准教授	
	安村 友紀	グローバル教育院	講師	
	片桐 浩司	グローバル教育院	講師	
	馬淵 麻由子	保健管理センター	准教授	
	江上 奈美子	保健管理センター	講師	

#### 事務

学務部長	小笠原 千寿
学務課長	中山 孝一
教育支援室長	南 直樹

## 第10回 学生生活実態調査

### 2021年度 調査票

この調査は、本学の学生の生活実態を把握し、今後のキャンパス環境の改善に役立てることを目的に、全学生を対象として実施するものです。1994年度に初回を実施し、今回で10回目になります。これまでの調査結果を基に、様々な改善が行われてきました。

主な改善については、前回2018年度の調査時からWiFiのアクセスポイントが約30%増加、自習が可能な教室は3倍に増加しました。

つきましては、趣旨をご理解の上、本年10月1日現在の状況について回答くださるようお願いいたします。

この調査により知り得た個人情報を他に提供することは一切ありません。調査については、分析結果・改善計画を公表する予定です。

**各設問について、10月15日（金）までに回答して下さい。**

令和3年10月1日

東京農工大学 教育・学生生活委員会

## 入力上の注意

1. 令和3年10月1日現在で記入してください。
2. 設問には、可能な範囲でできるだけ正確に回答をしてください。  
なお、設問中の〈 〉内の見出し表示はその設問の調査対象者を示します。
3. 要望、意見等がある場合はマークシートの裏面に自由記述欄がありまして、そちらに入力して下さい。
4. 複数回答が出来る設問を除いて、一問一答です。



## I 基本的事項

質問事項	選択肢
1. 所属学科・専攻等	<p><b>【農学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20. 生物生産科学専攻</li> <li>21. 生物生産科学専攻</li> <li>22. 応用生物科学専攻</li> <li>23. 環境資源科学専攻</li> <li>24. 地域生命システム学科</li> <li>25. 共同獣医学科</li> </ul> <p><b>【工学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>06. 生命工学専攻</li> <li>07. 応用化学工学専攻</li> <li>08. 有機材料化学専攻</li> <li>09. 化学システム工学専攻</li> <li>10. 機械システム工学専攻</li> <li>11. 物理システム工学専攻</li> <li>12. 電気電子工学専攻</li> <li>13. 情報工学専攻</li> <li>14. 1から19. は2019年度出願の入学希望者</li> <li>15. 生命工学専攻</li> <li>16. 応用化学専攻</li> <li>17. 化学情報工学専攻</li> <li>18. 機械システム工学専攻</li> <li>19. 知能情報システム工学専攻</li> </ul> <p><b>【農学部専攻】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>39. 生物生産科学専攻</li> <li>40. 応用生物科学専攻</li> <li>41. 環境資源科学専攻</li> <li>42. 農業環境工学専攻</li> <li>43. 農林共生社会科学専攻</li> </ul> <p><b>【工学部専攻】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>44. 生命工学専攻</li> <li>45. 応用化学専攻</li> <li>46. 機械システム工学専攻</li> <li>47. 電子情報工学専攻</li> <li>48. 共同システムイノベーション研究専攻</li> </ul> <p><b>【適合農学研究科博士課程】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>39. 生物生産科学専攻</li> <li>40. 応用生物科学専攻</li> <li>41. 環境資源科学専攻</li> <li>42. 農業環境工学専攻</li> <li>43. 農林共生社会科学専攻</li> </ul> <p><b>【工学部博士後期課程・博士課程】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>44. 生命工学専攻</li> <li>45. 応用化学専攻</li> <li>46. 機械システム工学専攻</li> <li>47. 電子情報工学専攻</li> <li>48. 共同システムイノベーション研究専攻</li> </ul> <p><b>【大学院農学府】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>50. 共同獣医学専攻</li> </ul> <p><b>【BASE博士前期課程】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>51. 生物機能システム科学専攻</li> </ul> <p><b>【BASE博士後期課程】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>52. 生物機能システム科学専攻</li> </ul> <p><b>【BASE博士課程】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>53. 共同先進健康科学専攻</li> </ul> <p><b>【BASE一貫制博士課程】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>54. 食料エネルギーシステム科学専攻</li> </ul>
2. 在籍年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 学部 1年次</li> <li>02. 学部 2年次</li> <li>03. 学部 3年次</li> <li>04. 学部 4年次以上</li> <li>05. 学部 共同獣医学科5年次</li> <li>06. 学部 共同獣医学科6年次以上</li> </ul>
3. 性別	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 男</li> <li>02. 女</li> <li>03. その他</li> </ul>
4. 住居等について、現在の生活形態は、どれですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 単身生活</li> <li>02. 家族・親族と同居</li> <li>03. 友人等と同居</li> <li>04. 他人と同居(ルームシェア・シェアハウス等)</li> </ul>
5. あめは外国人留学生ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. はい</li> <li>02. いいえ</li> </ul>
6. 5で「01」と答えた方にのみ、留学生の区分はなですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 日本政府国際留学生</li> <li>02. 日本政府国際留学生</li> <li>03. 外国派遣留学生</li> </ul>

## II 経済的状况

質問事項	選択肢
7. あめは1か月の平均収入額は、およそいくらですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 0~2万円</li> <li>02. 2~4万円</li> <li>03. 4~6万円</li> <li>04. 6~8万円</li> <li>05. 8~10万円</li> <li>06. 10~12万円</li> <li>07. 12~14万円</li> <li>08. 14~16万円</li> <li>09. 16~18万円</li> <li>10. 18~20万円</li> <li>11. 20万円以上</li> </ul>
8. 収入源として該当するものを選んでください(複数選択可)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 家庭(家族・専業主婦等)から</li> <li>02. 奨学金(遠征奨励金)</li> <li>03. 奨学金(ローン・貸与)</li> <li>04. 学外でのアルバイト</li> <li>05. 学内でのアルバイト(A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q・R・S・T・U・V・W・X・Y・Z)</li> <li>06. その他</li> </ul>
9. あめは1か月の平均支出額は、およそいくらですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 0~2万円</li> <li>02. 2~4万円</li> <li>03. 4~6万円</li> <li>04. 6~8万円</li> <li>05. 8~10万円</li> <li>06. 10~12万円</li> <li>07. 12~14万円</li> <li>08. 14~16万円</li> <li>09. 16~18万円</li> <li>10. 18~20万円</li> <li>11. 20万円以上</li> </ul>
10. 支出項目として該当するものを選んでください(複数選択可)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 住居費(賃貸単体を含む)</li> <li>02. 食費(自宅外食費)</li> <li>03. 光熱水費(通信費を含む)</li> <li>04. 通運費(携帯電話、電話代、ネット回線料など)</li> <li>05. 研究・勉強(教材費、印刷費、書籍費、新聞購読料を含む)</li> <li>06. 課外活動費(サークル活動にかかる費用など)</li> <li>07. 交通費(通学費(定期券代、駐車代、ガソリン代)を含む)</li> <li>08. その他</li> </ul>
11. 授業料の主たる支払い者は、どれですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 父または母</li> <li>02. 配偶者</li> <li>03. 本人</li> <li>04. 兄弟姉妹</li> <li>05. 祖父</li> <li>06. 知人(借入を含む)</li> <li>07. 授業料免除、奨学金の適用</li> <li>08. その他</li> </ul>
12. 現在、学外でアルバイトをしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. している</li> <li>02. していない</li> </ul>
13. 12で「1」しているに答えた方にのみ、アルバイトに就いている期間(アルバイトを含む)1週間の総時間(単位は、どれですか)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 5時間未満</li> <li>02. 5時間~10時間未満</li> <li>03. 10時間~15時間未満</li> <li>04. 15時間~20時間未満</li> <li>05. 20時間以上</li> </ul>
14. 経済的理由から学業の継続に困難を感じたことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. ある</li> <li>02. ない</li> </ul>
15. 14で「1」あるに答えた方にのみ、経済的理由をどのようにお答えしますか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 授業料免除</li> <li>02. 入学料免除</li> <li>03. 学内におけるアルバイト</li> <li>04. 学外におけるアルバイト</li> <li>05. 奨学金</li> <li>06. 親戚などからの援助</li> <li>07. ロー</li> <li>08. 節約</li> <li>09. その他</li> </ul>

●経済的状况に関して、何かが見当たらず自由に入力してください。(自由記述)

## III 住居

質問事項	選択肢
16. 住居等について、現在の生活形態は、どれですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 自宅</li> <li>02. 親戚宅等</li> <li>03. 単身アパート・マンション</li> <li>04. 下宿(借入)</li> <li>05. シェアハウス</li> <li>06. 本学 学生寮</li> <li>07. その他</li> </ul>
17. <本学学生寮>に入居している方、ご同僚の学生寮にどの程度満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 満足</li> <li>02. やや満足</li> <li>03. やや不満</li> <li>04. 不満</li> </ul>
18. <本学学生寮に入居していない方>に伺います。本学学生寮への入居を希望しますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 希望する</li> <li>02. 希望しない</li> </ul>
19. 18で「2」希望しないに答えた方に伺います。その理由はどの様ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 自宅だから</li> <li>02. 現状の住居(アパート等)に満足している</li> <li>03. 集団生活が苦手</li> <li>04. その他</li> </ul>
20. <外国人留学生の方>に伺います。本学の国際交流センターへの入居を希望しますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 希望する</li> <li>02. 希望しない</li> <li>03. 既に入居、または入居していた</li> <li>04. 外国人留学生ではない</li> </ul>
21. <本学の国際交流センターに入居している方>に伺います。国際交流センターの住居にどの程度満足していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 満足</li> <li>02. やや満足</li> <li>03. やや不満</li> <li>04. 不満</li> </ul>
22. 20で「2」希望しないに答えた方に伺います。なぜ希望しないのでしょうか(複数回答可)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>01. 入居費が高い</li> <li>02. 設備が充実していない</li> <li>03. 清潔でない</li> <li>04. 部屋が狭い</li> <li>05. 共有部分が少ない</li> <li>06. 周りが悪い</li> <li>07. その他</li> </ul>

●住居に関して、何かが見当たらず自由に入力してください。(自由記述)

#### IV 通学

夏間事項		選択肢補	
23. 主な通学手段/方法は、何ですか。	: 01. 徒歩 : 02. 自転車	: 03. オートバイ : 04. 自動車	: 05. 公共交通機関 (電車、バスなど、自転車併用含む。)
24. 通学の片道の所要時間は、どのくらいですか。	: 01. 30分未満 : 02. 30～60分未満	: 03. 60～90分未満 : 04. 90～120分未満	: 05. 120～150分未満 : 06. 150分以上

●「通学」に関して意欲・要領等、何がありまじら自由に入力してください。(自由記述)

#### V 学業・学習環境

夏間事項		選択肢補	
25. 本学に入学してどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足 : 03. やや不満 : 04. 不満	: 03. やや不満 : 04. 不満	
26. カリキュラム・科目の履修・選択/必修の指定/内容/学習/指導/時間割/などの満足度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	
27. カリキュラムや授業に對して更なる改善を望むことを教えてください(複数回答可)。	: 01. 時間割の工夫 : 02. 豊富な選択肢 : 03. 教員との双方向性コミュニケーション	: 04. 他学部との交流 : 05. 実用的なスキル獲得 : 06. 発表や議論を促した参加型授業	: 07. 表題による授業 : 08. 受講方法の多様性(オンデマンド型等) : 09. その他( )
28. 講義・授業・実習/履修し終った後、宿題/試験/レポート/卒業研究などをすべて合計すると、一週間以内に済ませることができていますか。	: 01. 全くできていない : 02. 週2時間未満 : 03. 週2時間から4時間未満	: 04. 週4時間から6時間未満 : 05. 週6時間から10時間未満 : 06. 週10時間から20時間未満	: 07. 週2時間以上
29. 授業前外の学習を行うのに必要な教材/資料などはありますか(複数回答可)。	: 01. 図書館の閉館時間の延長 (休日閉館含む) : 02. 図書館内の学習スペース	: 03. 秋学期の学習スペース : 04. 無線LAN : 05. コンセント	: 06. 学生用ラウンジ : 07. その他( )
30. 授業外にも履修が終わったときや授業に遅れて遅刻を招いたときなどは、どのように対処しましたか(複数回答可)。	: 01. 担当教員に授業中に質問等をする : 02. 担当教員に授業時間外に質問等をする	: 03. 同じクラスの学生に相談や質問等をする : 04. ネット検索等自分で解決する	: 05. 何もしない : 06. その他( )
31. 講義室、実験室等の教育設備にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	
32. 31で「やや不満」または「不満」と回答した方は、講義室、実験室のどのような改善を望みますか(複数回答可)。	: 01. 机、椅子 : 02. 講義室の形 : 03. 機器類(スクリーン、プロジェクタ、マイク)	: 04. 床・壁・天井 : 05. 清掃 : 06. 実験器具	: 07. 空調 : 08. 時計 : 09. その他( )
33. 実験・実習の際に危険を感じたことがありましたか(複数回答可)。	: 01. なかった : 02. 薬品で : 03. 動物で : 04. 機械操作で	: 05. 動物実習・見学で : 06. その他( )	
34. 図書館の利用頻度は、どのくらいですか。	: 01. 毎日 : 02. 週2～3回 : 03. 週1回 : 04. 週1回未満	: 05. 月に1回 : 06. ほとんど利用しない	
35. 図書館の主な利用用途は何ですか(複数回答可)。	: 01. 学習や研究に必要な文献(専門書、資料、学術雑誌等、紙媒体のもの)の閲覧・借出 : 02. 学習や研究に必要な文献(電子ジャーナル等、電子媒体のもの)の閲覧	: 03. ToI/To2以外、個人的な興味で、(新聞や一般雑誌などを含む)書籍を閲覧・借出 : 04. 情報検索を利用して文献検索	: 05. ToI以外の目的でパソコンを利用 : 06. 自習室として使用 : 07. 打ち合わせ、グループ学習室として利用 : 08. プリントコピー : 09. その他( )
36. 図書館にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	

37. 36で「やや不満」または「不満」を選択した人は、どのような点が不満ですか(複数回答可)。	: 01. 蔵書数(紙媒体) : 02. 閲覧できる電子ジャーナルの数 : 03. 座席数	: 04. 騒音 : 05. 無線LAN環境 : 06. レファレンス・サービス	: 07. 利用者のマナー : 08. 開館時間 : 09. その他( )
38. 在学中に海外で活動したことがありますか(「留学」を含む)。	: 01. ある	: 02. ない	
39. 38で「ある」と答えた方に伺います。その目的/内容は何ですか(複数回答可)。	: 01. 語学研修、語学留学 : 02. 交換留学 : 03. 研究活動 : 04. 学会参加	: 05. ホームステイ : 06. 語学以外の職業就労 : 07. ワーキングホリデー : 08. 青年海外協力隊等の国際ボランティア	: 09. 海外インターンシップ : 10. その他( )
40. 38で「ない」と答えた方に伺います。在学中に海外で活動する希望がありますか(「留学」を含む)。	: 01. ある	: 02. ない	
41. 40で「希望がある」と答えた方に伺います。どのような海外研修を希望しますか(複数回答可)。	: 01. 語学研修、語学留学 : 02. 交換留学 : 03. 研究活動 : 04. 学会参加	: 05. ホームステイ : 06. 語学以外の職業就労 : 07. ワーキングホリデー : 08. 青年海外協力隊等の国際ボランティア	: 09. 海外インターンシップ : 10. その他( )
42. 学生が海外での活動をめぐる理由は、何だと思います(複数回答可)。	: 01. 経済的理由 : 02. 日本での生活が中断される : 03. 海外生活に不安がある	: 04. 単位が認定されない。 : 05. 留学する可能性が高くなる : 06. 就職活動が運れる。	: 07. 専門の勉強の方が大事 : 08. 語学力が不安 : 09. その他( )

●「学業・学習環境」に関して意欲・要領等、何がありまじら自由に入力してください。(自由記述)

#### VI 課外活動

夏間事項		選択肢補	
43. 課外活動団体(サークル)に加入していますか。	: 01. 加入している	: 02. 以前は加入していた	: 03. 加入していません
44. 43で「加入している」と答えた方に伺います。加入している課外活動は、どれですか(複数回答可)。	: 01. 文化系サークル : 02. 音楽系サークル : 03. 体育系サークル	: 04. 農学系サークル : 05. 工学系サークル : 06. 自主ゼミ	: 07. その他の学生団体
45. 43で「加入している」と答えた方に伺います。1週間の平均活動時間は、どれくらいですか。	: 01. 1時間未満 : 02. 1時間～5時間未満	: 03. 6時間～10時間未満 : 04. 10時間以上	
46. 43で「加入している」と答えた方に伺います。課外活動にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	
47. 46で「やや不満」または「不満」と答えた方は、具体的にどのような改善を望みますか(複数回答可)。	: 01. 人間関係 : 02. 先輩との面立 : 03. 大学側の対応	: 05. アルバイトができない : 06. 指導者 : 07. 経済的負担 : 08. 運営方針	: 09. 活動時間の制限 : 10. その他( )
48. 43で「加入している」と答えた方に伺います。課外活動にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足	: 03. やや不満 : 04. 不満	
49. 48で「やや不満」または「不満」と答えた方に伺います。具体的にどのような点に不満がありますか(複数回答可)。	: 01. 施設が狭い : 02. 施設・設備が悪い : 03. 施設・設備が汚れている	: 04. 施設・設備が不足している : 05. 冷暖房が完備されていない : 06. ナイター設備がない	: 07. 利用時間の制限が厳しい : 08. その他( )

●「課外活動」に関して意欲・要領等、何がありまじら自由に入力してください。(自由記述)

Ⅷ ボランティア活動

質問事項	選択肢欄
50. 本校に入学後、ボランティア活動の経験はありますか。	: 01. ある : 02. ない
51. 50で「ある」と答えた方に伺います。内容は何ですか(複数回答可)。	: 01. 公民館・公共施設での活動(公民館・博物館での説明員等) : 02. 青少年健全育成に関する活動(ボーイ・ガールスカウト活動・子供会等) : 03. 体育・スポーツ・文化に関する活動(スポーツ・リクリエーション指導、まつり、学校でのクラブ活動における指導等) : 04. 人々の学習活動に関する指導、助言、進路指導などの活動(幼少・小中学生を対象に自然・環境学習に関する活動(自然観察、リサイクル活動等)) : 05. 国際交流(協力)に関する活動(通訳・種別補助・技術援助、留学生見送り等) : 06. 国際交流(協力)に関する活動(通訳・種別補助・技術援助、留学生見送り等) : 07. 社会福祉に関する活動(老人介護奉仕等)に対する献金、身のまわりの世話、給食、保育等) : 08. 健康・医療・衛生に関する活動(病院ボランティア等) : 09. 交通安全に関する活動(子供の登下校時の安全監視等) : 10. 自主防犯活動や災害援助活動 : 11. 募金活動、チャリティーイベント : 12. 震災等の被災地ボランティア : 13. 動物の保護や福祉に関するボランティア : 14. その他( )
52. 50で「ある」と答えた方に伺います。従事している頻度は、どれくらいですか。	: 01. ほとんど毎日 : 02. 週に数日程度 : 03. 月に数日程度 : 04. 年に数回 : 05. 1回のみ
53. 50で「はい」と答えた方に伺います。大卒からボランティア活動への関りか、支援を希望しますか。	: 01. はい : 02. いいえ
54. 53で「はい」と答えた方に伺います。興味のあるボランティア活動はありますか(複数回答可)。	: 01. 交通費補助 : 02. 情報やプログラムの紹介 : 03. 単位認定 : 04. 公休扱い : 05. その他( )
55. 50で「いいえ」と答えた方に伺います。ボランティア活動をしてみたいですか。	: 01. はい : 02. いいえ
56. 55で「いいえ」と答えた方は、その理由は何ですか(複数回答可)。	: 01. 時間がない : 02. 興味のある活動がない : 03. 人に評価されない : 04. 特長がない : 05. 知り合いが少ない : 06. その他( )
●ボランティア活動に関する意見・要望等、伺がありましたら自由に入力してください。(自由記述)	

Ⅷ 学生生活

質問事項	選択肢欄
57. 次の各項目に関して悩まがあります(複数回答可)。	: 01. 学業・研究 : 02. 学内の課外活動(サークル等) : 03. 学外の活動(アルバイト等) : 04. 通学・就職 : 05. 経済状況 : 06. 対人関係(友人、家族、教員等) : 07. 身体健康(体調不良、やめ等) : 08. 精神健康(不安、憂うつ等)
58. 57で16. 対人関係と答えた方に伺います。その相手は誰ですか(複数回答可)。	: 01. 友人 : 02. 交際相手 : 03. 教職員 : 04. 家族 : 05. 研究室メンバー : 06. その他( )
59. 大卒生活の中で困ったことがありますか。	: 01. ある : 02. ない
60. 59で「ある」と答えた方に伺います。どのような困りごとの原因を教えてください(複数回答可)。	: 01. 教務係・学生生活係等 : 02. 学生相談室 : 03. 保健管理センター : 04. 特別進学支援室 : 05. グローバル教育院 : 06. 学料・専攻教員 : 07. チューター(留学生の場合) : 08. 先輩・友人等 : 09. 家族 : 10. 相談しなかった : 11. その他( )
61. 授業以外で教員と話をしますか。(オンラインでの対話を含む)。	: 01. 積極的に話している : 02. ときどき話をする : 03. たまに話すこともある : 04. ほとんど話さない : 05. 積極的に交流している : 06. ときどきある : 07. たまに話さない : 08. ほとんど交流することはない
62. 授業以外で学生同士の交流はありますか。(オンラインでの交流を含む)。	: 01. 積極的に交流している : 02. ときどきある : 03. たまに話さない : 04. ほとんど話さない
63. 各キャンパスに教員が常駐・出張・訪問などの相談に応じる「学生相談室」が開設されているのを知っていますか。	: 01. 知っている : 02. 知らない
64. 各キャンパスの保健管理センターでカウンセラーが学生生活やメンタルヘルスの相談に応じられているのを知っていますか。	: 01. 知っている : 02. 知らない
65. 飲み会・コンパなどで次のような経験はありますか(複数回答可)。	: 01. 飲酒を必要とされた : 02. 一気飲みをさせられた : 03. からまれたり、罵詔雑言を受けた : 04. セクハラを受けた : 05. 酔って行かされた : 06. 事故を起こした : 07. 1～6を目撃したことがある : 08. 経験なし
66. 毎週1回、各キャンパスのハラスメント相談室で、ハラスメント相談員がハラスメントについての相談や申立て受付を行っているのを知っていますか。	: 01. 知っている : 02. 知らない
67. セクハラ・ハラスメントを受けたことがありますか。	: 01. ある : 02. ない
68. 67で「ある」と回答した方に伺います。誰から受けましたか(複数回答可)。	: 01. 教職員 : 02. 学料・研究室等の先輩 : 03. 学料・研究室等の同級生 : 04. 学料・研究室等の後輩 : 05. 部活・サークルの先輩 : 06. 部活・サークルの同級生 : 07. 部活・サークルの後輩 : 08. アルバイト先の人 : 09. その他( )
69. セクハラ・ハラスメント以外のハラスメントを受けたことがありますか。	: 01. ある : 02. ない
70. 69で「ある」と回答した方に伺います。誰から受けましたか(複数回答可)。	: 01. 教職員 : 02. 学料・研究室等の先輩 : 03. 学料・研究室等の同級生 : 04. 学料・研究室等の後輩 : 05. 部活・サークルの先輩 : 06. 部活・サークルの同級生 : 07. 部活・サークルの後輩 : 08. アルバイト先の人 : 09. その他( )
71. タハコを覗きますか。	: 01. 覗く : 02. かつて覗いていた : 03. 覗かない
72. キャンパス内のマナー(自転車駐輪、タバコ、ゴミ)についての程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足 : 03. やや不満 : 04. 不満
73. 72で「やや不満」または「不満」と回答した方に伺います。不満に感じている理由は何ですか(複数回答可)。	: 01. コミの捨て方、処理 : 02. 大学の内止め : 03. 自転車の止め方 : 04. 駐輪場不足 : 05. 自転車の危険運転 : 06. 自転車の乗車位置 : 07. タハコの吸殻の処理 : 08. 自転車の乗車位置 : 09. その他( )

74. 生協食堂をどれくらい頻度で利用していますか。(主に活動しているキャンパスの施設について答えてください。)	: 01. よく利用する : 02. とまどき利用する : 03. 全く利用しない
75. 14の専修科をどれくらい頻度で利用していますか。	: 01. よく利用する : 02. とまどき利用する : 03. 全く利用しない
76. 喫茶室オリーブ(府中)をどれくらい頻度で利用していますか。	: 01. よく利用する : 02. とまどき利用する : 03. やや不満 : 04. 不満
77. 森童・エリブス・喫茶室オリーブなどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足 : 03. やや不満 : 04. 不満
78. 77でやや不満または「不満」と回答した方に伺います。不満ご理由は何でしょうか。(主に活動しているキャンパスの施設について答えてください。)	: 01. コストパフォーマンス : 02. 座席数や設備 : 03. 営業時間 : 04. 味 : 05. メニュー内容や数 : 06. 清潔さ : 07. 店員の接客態度 : 08. キャンパス間での施設の差が大きい : 09. その他( )
79. 生協購買部(売店)をどれくらい頻度で利用していますか。(主に活動しているキャンパスの施設について答えてください。)	: 01. よく利用する : 02. とまどき利用する : 03. 全く利用しない
80. 生協購買部(売店)にどの程度満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足 : 03. やや不満 : 04. 不満
81. 80でやや不満または「不満」と回答した方に伺います。不満ご理由は何でしょうか。(主に活動しているキャンパスの施設について答えてください。)	: 01. コストパフォーマンス : 02. 品揃え : 03. 営業時間 : 04. 広さ : 05. 品揃え : 06. 清潔さ : 07. 店員の接客態度 : 08. キャンパス間での施設の差が大きい : 09. その他( )
82. キャンパスの施設・設備(講義棟・講義室・図書・学生センター)をどれくらい頻度で利用していますか。(主に活動しているキャンパスの施設について答えてください。)	: 01. トイレ : 02. 駐車場 : 03. 駐輪場 : 04. リフレクシュ空間 : 05. 無線LAN(WiFi環境) : 06. コンセント : 07. 自動販売機 : 08. ロッカー : 09. サークル用の設備(部室他) : 10. 体育施設 : 11. 秋季の清掃状況 : 12. キャンパス内移動 : 13. 夜間照明 : 14. その他( )
83. 本年11月に行われる専修部・府中キャンパスの大学祭に参加しますか。	: 01. 積極的に参加する予定 : 02. 参加する予定 : 03. 参加しない予定
84. 大学祭で改善を望むことは何ですか。(複数回答可)。	: 01. 開催時期を早くしてほしい : 02. 開催時期を遅くしてほしい : 03. プログラム内容 : 04. 出店数を増やしてほしい : 05. 出店数を減らしてほしい : 06. 会場設備 : 07. 前後の休講措置 : 08. その他( )
85. <外国人留学生>の方にお伺いします。留学生活に必要な情報はどこから得ていますか。(複数回答可)。	: 01. 外国人留学生・専攻科のためのガイドブック : 02. グローバル教育院の教職員 : 03. 担任教員や指導教員 : 04. 他の留学生 : 05. チューター : 06. チューター以外の日本人学生 : 07. インターネット : 08. 情報が得られない : 09. その他( )

●「学生生活」に関して意見・要望等、何かありましたら自由に記入してください。(自由記述)

<b>区 進路(就職・進学)</b>	
<b>質問事項</b>	<b>選択肢</b>
86. 将来の希望進路を教えてください。	: 01. 就職 : 02. 日本国内で進学 : 03. 未定 : 04. 海外(留学等) : 05. 起業 : 06. 社会人のため該当なし
87. 進路を考える上での情報入手方法は、何ですか。(複数回答可)。	: 01. 指導教員 : 02. 就職担当教員 : 03. 先輩・知人 : 04. 新聞・マスコミ・就職情報誌 : 05. インターネット : 06. 親・親戚等 : 07. 大学内資料 : 08. 会社説明会 : 09. 書籍、雑誌等 : 10. 人材派遣会社等 : 11. その他( )
88. 将来の希望職種は何ですか。(複数回答可)。	: 01. 研究(大学・研究所など) : 02. 研究・開発(民間企業など) : 03. 技術(公務員・補佐・財団など) : 04. 行政(公務員・地裁など) : 05. 事務・サービス(民間企業など) : 06. 教育 : 07. 勤労佛設 : 08. NPO・NGOの職員 : 09. 国際機関職員 : 10. 自営業(農業・起業・弁護士等) : 11. 自営業 : 12. 未定 : 13. その他( )
89. どのような就職支援を希望しますか。(複数回答可)。	: 01. 会社説明会の充実 : 02. 就職ガイディングの充実 : 03. 就職情報コーナーの充実 : 04. インターネットの充実 : 05. 就職相談窓口の充実 : 06. OB/OGの紹介 : 07. 大学推薦 : 08. エントリーの差別・機微面談など : 09. その他( )
90. インターネットの履修はありますか。	: 01. ある : 02. ない
91. 90で「ある」と答えた方に伺います。どのようなインターネットサービス(検索サイト)を利用していますか。(複数回答可)。	: 01. 就職したい企業(団体) : 02. OB/OGの勤務先 : 03. 共同研究先 : 04. 自身の地元企業(団体) : 05. 期間や条件が含まれた企業(団体) : 06. プログラムや内容が魅力的な企業(団体) : 07. 海外 : 08. その他( )
92. 91で「就職したい企業(団体)」と回答した方に伺います。インターネットに満足していますか。	: 01. 満足 : 02. やや満足 : 03. やや不満 : 04. 不満

●「進路(就職・進学)」に関して意見・要望等、何かありましたら自由に記入してください。(自由記述)

### 自由記述

その他、学生生活全般で何かありましたら記入して下さい

ご協力ありがとうございました。